

静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告 第64集

# 下原遺跡 I

平成5・6年度東駿河湾環状道路工事に伴う  
埋蔵文化財調査報告書

1995

財団法人 静岡県埋蔵文化財調査研究所

静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告 第64集  
下原遺跡 I  
正誤表

本文中 O i l. で示した石材は、油質頁岩ではなく、頁岩の誤りです。  
略号 S h. と訂正して下さい。

誤	正
O i l.	S h.

静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告 第64集

# 下原遺跡 I

平成5・6年度東駿河湾環状道路工事に伴う  
埋蔵文化財調査報告書

1995

財団法人 静岡県埋蔵文化財調査研究所



遺跡全景



休場層出土石器

# 序

静岡県の東部、沼津・三島地区は古くからの東西交通の要所として栄えると同時に、富士・箱根・伊豆といった観光地への入り口として賑わってきた。しかし本地域における道路の歴史は慢性的であり、これを緩和するために計画されたのが東駿河湾環状道路である。本遺跡は、この東駿河湾環状道路工事に伴う一連の埋蔵文化財調査のなかの一つである。

遺跡は、箱根西麓のなかでも比較的幅広の尾根の頂上部に位置する。ここは畠地として利用されていいたために、縄文時代の遺物包含層までは耕作によって擾乱をうけていたが、休場層上部において、縄文時代草創期の逆茂木の施設を有する土坑が5基検出された。これは東日本においては最古の例であり、旧石器時代から縄文時代への移り変わりのなかでの狩猟技術と動物相を考えるうえでの重要な資料となる。また旧石器時代の遺物は数の上で本遺跡の主体をなすものであるが、なかでも休場層中部からは大きく分けて4箇所の石器集中地点が確認された。分析の結果、出土した黒煙石の原産地は、霧ヶ峯・和田岬・伊豆・箱根など6箇所が明らかになり、これらの「石器」含有率の高さや、個体別資料の分布からは、遺跡周辺で採取できる石材である頁岩の石器出土状況とあわせて、石材の消費地遺跡としての良好な資料が提示できるものと思う。また約27000年前のものと考えられる土坑が、尾根を横断するよう7基検出された。この土坑は同一尾根上の初音ヶ原遺跡、同じく東駿河湾環状道路関係の焼場遺跡・加茂ノ洞B遺跡からも次々と検出されており、用途とともに、これだけの遺構を残した集団に関する興味がそそられるところである。

最後になったが、調査ならびに本書の作成にあたっては建設省をはじめとした関係機関各位に多大なる援助・協力を受けた。厚くお礼を申し上げる。またこの場をお借りして、現地調査・資料整理に参加した調査員・作業員の労をねぎらいたい。

平成7年3月

財團法人 静岡県埋蔵文化財調査研究所

所長 斎藤忠

## 例　　言

- 1 本書は三島市下原に所在する下原遺跡の発掘調査報告書の第1分冊である。
- 2 調査は、平成3年度におこなった試掘調査（第1次調査）の結果を受け、平成5年度東駿河湾環状道路建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査業務として建設省中部建設局沼津工事事務所の委託を受け、静岡県教育委員会文化課の指導のもとに、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所が平成5年8月から平成6年10月まで現地調査を実施した。
- 3 下原遺跡の資料整理は平成6年度から実施し、平成8年3月まで続く予定である。
- 4 調査体制は以下のとおりである。

平成3年度（試掘調査）

所長 斎藤 忠、常務理事 鈴木 眞、調査研究部長 山下 見、調査研究三課長 佐藤達雄、  
調査研究員 笹原芳郎

平成5年度

所長 斎藤 忠、常務理事 鈴木 真、調査研究部長 植松章八、調査研究二課長 佐野五十三、  
調査研究員 伊林修一・横山秀昭・小野千賀子

平成6年度

所長 斎藤 忠、常務理事 鈴木 真、調査研究部長 小崎章男、調査研究四課長 橋本敬之、  
主任調査研究員 杉浦幸男（至10月）、調査研究員 伊林修一・小川正夫・小野千賀子

- 5 本書の執筆は静岡県埋蔵文化財調査研究所の職員が分担しておこなった。執筆分担は以下のとおり。

第I章 第1節…伊林修一

第II章 第1節…杉浦幸男

第I章 第2節、第II章 第2節、第3節、第4節、第5節、第III章、第IV章、第V章…小野千賀子

- 6 石器の実測・トレースは、小野千賀子、鈴木里江、高橋裕子、水上綾子がおこなった。

- 7 本書の遺物写真は楠華堂（楠本真紀子）・渋嘉秀が、石器石材・石器の個体別分類は森嶋富士夫がおこなった。

- 8 黒耀石の原産地分析は沼津工業専門学校 望月明彦による。

- 9 調査では次の方々、団体に御指導、御助言を賜った。厚くお礼申し上げる（敬称略）。

池畠耕一 池谷信之 角張淳一 鈴木忠司 渕川裕市郎 高尾好之 館野 孝 辻本崇夫  
望月明彦 橋口尚武 山下秀樹 二島市教育委員会

- 10 発掘調査資料は、すべて静岡県埋蔵文化財調査研究所が保管している。

- 11 本書の編集は静岡県埋蔵文化財調査研究所が当たった。

## 凡　　例

本書の記載については、以下の基準に従い統一をはかった。

- 1 グリットは建設予定道路のセンターラインを中心軸として、任意に設定した。
- 2 出土遺物は、10m方眼のグリット毎に通し番号を付して取り上げた。
- 3 石器の実測は原則として第三角投影図法に拠った。
- 4 出土遺物実測図の縮尺は、基本的には石器4/5、土器1/2としたが、礫石器は1/3で掲載した。
- 5 遺物の出土位置については、一覧表内に座標で明記した。座標はA 0 グリットを (X, Y)=(0, 0) とし、南北方向をX軸に、東西方向をY軸にとった。
- 6 土層の色調は、新版『標準土色帖』(農林水産技術会議事務局監修1992)を使用した。
- 7 本文中・挿図中の表記は次のとおりである。

層　　名				石材名		黒耀石原産地	
Y L U	休場層上層	B B II	第Ⅱ黒色帯	O b.	黒耀石	H S T	星ヶ塔
Y L M	休場層中層	S C II	第Ⅱスコリア層	C h.	チャート	M U G	麦草峠
Y L L	休場層下層	B B III	第Ⅲ黒色帯	A n d.	安山岩	W A D	和田岬
B B O	休場層直下黒色帯	S C III s 1	第Ⅲスコリア層 スコリア1	B. An.	黒色緻密安山岩	H A T	煙宿
S C I	第Ⅰスコリア層	S C III b 1	第Ⅲスコリア層 黒色帯1	G r.	凝灰岩	K A S	柏崎
B B I	第Ⅰ黒色帯	S C III s 4	第Ⅲスコリア層 スコリア4	O i l.	頁岩	O N B	神津島
N L	ニセローム			S a d.	砂岩		

# 目 次

卷頭写真	
序	
例言	
凡例	
第Ⅰ章 調査の概要	
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の経過	2
1 現地調査の方法	2
2 資料整理の方法	2
3 現地調査の経過	3
第Ⅱ章 遺跡の概要	
第1節 遺跡の位置と歴史的環境	6
第2節 基本上層	10
第3節 遺跡の土層堆積状況	14
第4節 遺構の概要	14
第Ⅲ章 繩文時代の遺構と遺物	
第1節 富士黒色土層の遺構と遺物	17
第2節 休場層上層の遺構と遺物	28
第Ⅳ章 旧石器時代の遺構と遺物	
第1節 休場層中層内の遺構と遺物	36
第2節 休場層直下黒色帶の遺構と遺物	152
第3節 第Ⅰ黒色帶の遺構と遺物	154
第4節 ニセローム層の遺構と遺物	158
第5節 第Ⅱ黒色帶の遺構と遺物	160
第6節 第Ⅲ黒色帶の遺構と遺物	163
第7節 第Ⅲスコリア層の遺構と遺物	177
第Ⅴ章 調査の成果と課題	
出土石器一覧表	180

## 挿図目次

第1図 調査区とグリット配置図	5	第41図 YL層石核調整剝片2	63
第2図 下原遺跡と周辺の遺跡	9	第42図 YL層石核1	64
第3図 基本土壙柱状図	11	第43図 YL層石核2	65
第4図 下原遺跡と周辺の地形	13	第44図 YL層石核3	66
第5図 土層堆積図	15	第45図 YL層石核4	67
第6図 FB層遺構全体図	18	第46図 YL層石核5	68
第7図 第1号住居跡掘り方面	19	第47図 YL層石核6	69
第8図 第1号住居跡遺物出土状況図	19	第48図 YL層石核7	70
第9図 第1号住居跡出土石器	20	第49図 YL層石核8	71
第10図 FB層土坑図1	21	第50図 YL層石核9	72
第11図 FB層土坑図2	22	第51図 YL層石核・原石	73
第12図 FB層土坑図3	23	第52図 YL層敲石・磨石他1	75
第13図 繩文土器拓影図	24	第53図 YL層敲石・磨石他2	76
第14図 遺構外出土の石器1	26	第54図 YL層石材別遺物出土状況図	82
第15図 遺構外出土の石器2	27	第55図 YL層礫出土状況図	84
第16図 YLU層土坑配置図	29	第56図 個体別資料分布図1、畠宿	86
第17図 YLU層土坑図1	30	第57図 個体別資料分布図2、柏峠・恩駒 (神津島)	88
第18図 YLU層土坑図2	31	第58図 個体別資料分布図3、麦草峠	90
第19図 YLU層土坑図3	32	第59図 個体別資料分布図4、星ヶ塔	92
第20図 YLU層土坑図4	33	第60図 個体別資料分布図5、和田峠	94
第21図 YLU層土坑図5	34	第61図 個体別資料分布図6、チャート	96
第22図 YLU層有舌尖頭器・石槍	35	第62図 Aブロック個体別資料分布図	99
第23図 YL層尖頭器	39	第63図 Aブロック石器器種別分布図	99
第24図 YL層ナイフ形石器1	40	第64図 Bブロック個体別資料分布図	100
第25図 YL層ナイフ形石器2	41	第65図 Bブロック石器器種別分布図	101
第26図 YL層ナイフ形石器3	42	第66図 Cブロック個体別資料分布図	103
第27図 YL層ナイフ形石器4	43	第67図 Cブロック石器器種別分布図1	103
第28図 YL層ナイフ形石器5	44	第68図 Cブロック石器器種別分布図2	105
第29図 YL層台形様石器	45	第69図 Cブロック礫群平面・垂直分布図	106
第30図 YL層搔器	47	第70図 Dブロック個体別資料分布図	107
第31図 YL層搔器・削器	49	第71図 Dブロック石器器種別分布図1	108
第32図 YL層削器・抉入削器	50	第72図 Dブロック石器器種別分布図2	109
第33図 YL層抉入削器・彫器	51	第73図 Dブロック礫群平面・垂直分布図	110
第34図 YL層楔形石器	52	第74図 Eブロック個体別資料分布図	112
第35図 YL層石刃状剝片1	54	第75図 Eブロック石器器種別分布図	112
第36図 YL層石刃状剝片2	55	第76図 Eブロック礫群平面・垂直分布図	113
第37図 YL層石刃状剝片3	56	第77図 Fブロック個体別資料・石器器種別 分布図	113
第38図 YL層石刃状剝片4	57	第78図 Gブロック個体別資料分布図	114
第39図 YL層小型石刃状剝片	58		
第40図 YL層石核調整剝片1	62		

第79図	Gブロック石器器種別分布図	115
第80図	Hブロック個体別資料分布図	117
第81図	Hブロック石器器種別分布図	118
第82図	Hブロック礫群平面・垂直分布図	119
第83図	Iブロック個体別資料分布図	120
第84図	Iブロック石器器種別分布図1	120
第85図	Iブロック石器器種別分布図2	121
第86図	Iブロック礫群平面・垂直分布図	122
第87図	Iブロック石器接合資料	123
第88図	Jブロック個体別資料・石器器種別分布図	125
第89図	Kブロック礫群平面・垂直分布図	126
第90図	Kブロック個体別資料分布図	127
第91図	Kブロック石器器種別分布図	129
第92図	Lブロック石器器種別分布図	132
第93図	Lブロック個体別資料分布図	133
第94図	Mブロック個体別資料分布図	135
第95図	Mブロック石器器種別分布図	135
第96図	Mブロック礫群平面・垂直分布図	136
第97図	Mブロック石器接合資料	137
第98図	Nブロック個体別資料分布図	139
第99図	Nブロック石器器種別分布図1	140
第100図	Nブロック石器器種別分布図2	141
第101図	Nブロック礫群平面・垂直分布図	142
第102図	Oブロック個体別資料分布図	144
第103図	Oブロック石器器種別分布図	145
第104図	Oブロック石器接合資料1	146
第105図	Oブロック石器接合資料2	147
第106図	Pブロック個体別資料分布図	148
第107図	Pブロック石器器種別分布図1	148
第108図	Pブロック石器器種別分布図2	149
第109図	ブロック別石材組成図	149
第110図	BB0層全体図	152
第111図	BB0層石器ブロック平面・垂直分布図	153
第112図	BB0層石器実測図1	153
第113図	BB0層石器実測図2	154
第114図	BB1層全体図	155
第115図	BB1層Aブロック平面・垂直分布図	156
第116図	BB1層Bブロック平面・垂直分布図	156
第117図	BB1層Cブロック平面・垂直分布図	157
第118図	BB1層石器実測図	157
第119図	NL層全体図	158
第120図	NL層石器実測図	159
第121図	BBII層全体図	160
第122図	BBII層石器実測図	161
第123図	BBIII層石器実測図	163
第124図	BBIII層全体図	164
第125図	BBIII層石器ブロック平面・垂直分布図	165
第126図	BBIII層石器接合資料	166
第127図	BBIII層1号土坑図	167
第128図	BBIII層2号土坑図	169
第129図	BBIII層3号土坑図	171
第130図	BBIII層4号土坑図	171
第131図	BBIII層5号土坑図	175
第132図	BBIII層6号土坑図	175
第133図	BBIII層7号土坑図	176
第134図	SCIII層石器ブロック平面・垂直分布図	177
第135図	SCIII層全体図	178
第136図	SCIII層石器実測図	179

## 插表目次

表1	作業工程表	4
表2	遺構・遺物一覧表	4
表3	周辺の遺跡	8
表4	土器観察表	25
表5	縄文時代石器計測表	27
表6	YLU層有舌尖頭器・石槍計測表	35
表7	YL層石材別器種組成表	36
表8	YL層尖頭器計測表	37
表9	YL層ナイフ形石器計測表	45
表10	YL層搔器・削器他計測表	53
表11	YL層石刃状剝片計測表	59
表12	YL層小型石刃状剝片計測表	59

表13	YL層石核計測刻片計測表	74	表28	Kブロック石器組成表	124
表14	YL層石核計測表	74	表29	Lブロック石器組成表	131
表15	YL層敲石・他計測表	76	表30	Mブロック石器組成表	131
表16	個体別資料分類表	77	表31	Nブロック石器組成表	138
表17	個体別資料別石器器種組成表	80	表32	Oブロック石器組成表	143
表18	Aブロック石器組成表	98	表33	Pブロック石器組成表	143
表19	Bブロック石器組成表	100	表34	ブロック別個体別資料一覧表	150
表20	Cブロック石器組成表	102	表35	BB 0 層石器計測表	162
表21	Dブロック石器組成表	110	表36	BB I 層石器計測表	162
表22	Eブロック石器組成表	111	表37	NL層石器計測表	162
表23	Fブロック石器組成表	111	表38	BB II 層石器計測表	162
表24	Gブロック石器組成表	111	表39	BB III層石器計測表	165
表25	Hブロック石器組成表	116	表40	BB III層土坑計測表	176
表26	Iブロック石器組成表	116	表41	SC III層石器計測表	179
表27	Jブロック石器組成表	124			

## 図版目次

- |      |  |      |   |
|------|--|------|---|
| 図版 1 | (1)基本土層<br>(2)1号区東側完掘状況  | 図版12 | (1)YL層石槍                                      |
| 図版 2 | (1)1号住居跡<br>(2)1号住居跡セクション                                      | 図版13 | (1)YL層小型石刃状剝片<br>(2)YL層ナイフ形石器 1               |
| 図版 3 | (1)YL層Pブロック<br>(2)YL層Eブロック                                     | 図版14 | (1)YL層ナイフ形石器 2                                |
| 図版 4 | (1)YL層Dブロック<br>(2)BB I 層Bブロック                                  | 図版15 | (1)YL層ナイフ形石器 3                                |
| 図版 5 | (1)BB III層石器ブロック<br>(2)YL層1号上坑上層断面                             | 図版16 | (1)YL層搔器・彫器                                   |
| 図版 6 | (1)YL層2号土坑<br>(2)YL層4号土坑                                       | 図版17 | (1)YL層削器                                      |
| 図版 7 | (1)BB III層2号上坑検出状況<br>(2)BB III層2号土坑上層断面<br>(3)BB III層4号上坑完掘状況 | 図版18 | (1)YL層抉入削器・楔形石器                               |
| 図版 8 | (1)BB III層1号土坑上層断面<br>(2)BB III層土坑遠景                           | 図版19 | (1)YL層石核 1                                    |
| 図版 9 | (1)縄文式土器   | 図版20 | (1)YL層石核 2                                    |
| 図版10 | (1)敲石・磨石・叩石<br>(2)石皿   | 図版21 | (1)YL層石核 3                                    |
| 図版11 | (1)縄文時代の石器<br>(2)槍・有舌尖頭器                                       | 図版22 | (1)YL層石刃状剝片(オモテ)                              |
|      |  | 図版23 | (1)YL層石刃状剝片(ウラ)                               |
|      |  | 図版24 | (1)BB 0・BB I・NL・BB IIの石器<br>(オモテ)             |
|      |  | 図版25 | (1)BB 0・BB I・NL・BB IIの石器<br>(ウラ)              |
|      |  | 図版26 | (1)YL層接合資料<br>(2)BB III層接合資料<br>(3)SC III層の石器 |
|      |  | 図版27 | (1)BB I・NL・BB II敲石・磨石                         |
|      |  | 図版28 | (1)作業風景                                       |

# 第Ⅰ章 調査の概要

## 第1節 調査に至る経緯

静岡県東部は愛鷹・箱根山の裾野に広がる中核都市として愛鷹山南麓に沼津市、箱根山西麓に三島市を抱える。沼津は駿河湾を南にひかえ、漁業・工業を中心とする。一方、三島市は伊豆地方への観光の窓口として、新幹線駅を持つ。人口もそれぞれ20万人、10万人を超えている。

近代になり、東海道本線の開通は物流の流れを大きく変え、丹那トンネルの開通は伊豆観光の隆盛に契機となった。現代、モータリゼーションの発達は地域を大きく変えた。東名高速道路の開通は古代より流刑の地であった伊豆地方を関東の奥座敷として文人や観光客の流入に一層の拍車をかけた。三島・沼津を通過する車両は年々増加していく。

当地域には1号・136号・414号・246号の各国道、東名高速道路沼津インターチェンジに直結する県道と関東・中部高地（長野・山梨）・伊豆を結ぶ幹線道路が集結している。国道が狭い地域に集結している結果、慢性的な渋滞を引き起こし、交通情報の渋滞地域の定番となっている。こうした物流、人の流れを滞らせる状態を解消する方策は数々とられてきた。国道1号線の拡幅、136号線のバイパス開通など観光、物流両面で一定の効果をあげているといえよう。

静岡県東部の交通施策の一貫として、当地域を環状的に迂回し、通過交通の排除、地域内外交通の整理、環状道路周辺地域の開発を図ると同時に、地震発生時等非常時における緊急輸送路等の役割も期待する東駿河湾環状道路は昭和62年に企画化された。路線としては沼津市岡宮から愛鷹山麓、長泉町から沼津市へ南流する黄瀬川を越え、箱根西麓の三島市に入り、南南町平井の熱海道路に到達し、国道136号線バイパスの伊豆中央道に合流する総延長15.0kmの片側2車線の広規格道路である。用地買収は平成元年度から開始された。

一方、予定されている路線は前述のとおり、愛鷹山、箱根山山麓を通過する。戦後の考古学的発掘調査の成果からこの一帯には旧石器・縄文時代の遺跡が数多く存在することがわかっている。当然の如く多くの埋蔵文化財調査が必要になり、具体的に用地買収が完了した地点より、各市町村の教育委員会に照会し、遺跡の有無を把握した。三島市教育委員会には平成2年8月に埋蔵文化財包蔵地の路線内の調査依頼が行われ、30箇所の周知の遺跡および遺跡の可能性がある地点がリストアップされた。このうち長泉町と三島市の境から国道1号線までの計17地点の現地踏査を静岡県教育委員会文化課・三島市教育委員会・当研究所の3者で行ったのは、平成3年の夏であった。その後3者による協議の上、発掘調査実施機関に当研究所、指導機関に静岡県教育委員会・三島市教育委員会社会教育課にも協力を仰いだ。

下原遺跡に最初に調査が入ったのは、平成3年12月である。調査員1名、発掘補助員10名による3ヶ月の試掘調査（第一次調査）の結果、旧石器時代の遺物の検出をみたため、本調査の必要を委託者である建設省中部建設局沼津工事事務所、指導機関である静岡県教育委員会に回答し、1年を経過した平成5年春に本調査の準備に入った。

## 第2節 調査の経過

### 1 現地調査の方法

当遺跡は、東駿河湾環状道路建設に伴う発掘調査であるため、調査範囲は北西－南東方向に約180m、南西－北東方向に約100mと建設予定道路の道路幅に沿った細長いものとなった。

調査は、調査区内に残る3本の道路を境にして、便宜的に全体を3区に分割して行い、調査区内に残る未買収地を除くかたちで実施した。平成4年度には試掘調査を行い、その結果をうけて1区と2区の一部を平成5年度に、残る2区と3区を平成6年度に本調査を行った。また建設予定道路のセンターラインを中心軸（Fライン）として調査区全体に10×10mのグリッドを設定し、各グリッドは南北優位で南→北へ1・2・3……、西→東へABC……とし、組み合わせて呼称した。

先行して行なわれた試掘調査によって、富士黒色土層までが畑作によって搅乱を受けていることが確認されていたため、調査は表土を重機によって除去したのち、一部に残された富士黒色土層と休場層の精査から開始した。調査方法は、地形確認のために、調査区を東西・南北に横切る20mごとの土層帯を設けた後、遺物の集中が予想される休場層については、調査区の全面を手掘による精査をおこなった。調査区全域において、標準堆積が確認されていた休場層下黒色帶（以下BB0）は、上面において1m方眼で標高を記録し、地形測量を行った。BB0以下においては、1グリッドに3×3mのテストピットを4箇所設定し、第Ⅲスコリア帶（以下SCⅢ）までを掘削し、遺物が出土した場合はテストピットを拡張する方法をとった。

当初、これで調査は終了する予定だったが、BB0以下で遺物の出土が少なかったことと、テストピット内において、同一尾根上に立地する初音ヶ原遺跡と同じものと考えられる土坑が検出されたことから、調査区全域において土坑検出を目的とした調査を行う必要が生じてきた。そこで、この土坑は掘り込み面がニセローム以下にあることが確認されていたため、尾根の縁辺部に関しては土坑に伴う石器群の出土を期待して、ニセロームまでを重機によって掘削し、以下を手掘によって精査した。また尾根の中央部に関しては期間の制約もあるため、第Ⅲスコリア帶内黒色帶1までを重機によって掘削し、土坑の検出作業を目的とした調査をおこなった。

遺構の写真撮影は中型カメラ（6×7判、白黒）、小型カメラ（35ミリ白黒、カラーネガ、カラースライド）を使用した。また遺物の取り上げにはトータルステーションを使用し、遺構・遺物の出土状況、セクションは基本的には1/20の図面で記録し、必要に応じて1/10の図面を作成した。

### 2 資料整理の方法

遺物の整理作業については、平成6年度に1区・2区の調査成果をまとめた「下原遺跡I」を刊行し、平成7年度に3区の調査結果と自然科学分析結果を盛り込んだ「下原遺跡II」を刊行する予定である。

本書については、平成6年4月～平成7年3月まで整理作業をおこなった成果をまとめたものである。調査継続中の整理作業ということもあって、出土した石器の一部（約25点）の実測を（有）アルカに委託して作業の迅速化を図った。また、出土した遺物全てを図化し、掲載することが理想的ではあるが、時間その他の制約があるので、担当調査員によって器種による選択作業がおこなわれている。本書に掲載された石器は、礫器以外は全て、大きさを比較する意味を含めて実寸の4/5の大きさで掲載している。

また出土層・位置が確定している黒耀石の遺物約700点の産地同定分析を国立沼津工業専門学校、望月明彦先生に依頼した。本書では、この分析結果をもとにして、肉眼による個体別資料分類をおこなっており、各個体の分布については本文中に挿図として掲載している。また旧石器時代の遺物については巻末の石器一覧表のなかに、出土位置の座標とレベルを明記した。

実測・計測が終了した遺物についてはB4判の遺物カードを作成する。この遺物カードは1遺物1枚を原則としており、実測図・写真を貼付し、出土位置・図面番号・写真番号・登録番号・収納番号等を記入して保管する予定である。将来的には、研究所内のコンピュータにそのデータを入力し、遺物の検索システムを確立していく予定である。

### 3 現地調査の経過

下原遺跡は平成3年度に試掘調査を実施し、旧石器時代の遺跡が存在することが明らかになったため、平成5年7月16日より平成6年11月20日にかけて本格的発掘調査を実施した。調査区は現行の道路を境として便宜的に1~3区に分け、1区を平成5年に、2・3区を平成6年に調査した。

また、工事予定地内の未調査区域については、用地買収の手続きが完了し次第、引き続きおこなう予定である。

#### (1) 試掘調査 平成3年12月9日~平成4年3月31日

工事予定地内に国家座標にそって、グリッド設定をおこなったのち、 $2 \times 2$ mの試掘坑を30箇所設定した。このうち13箇所、層にしてFB層~SCⅢ層までの6層で、遺物・遺構の検出をみた。また遺跡の範囲は、台地上の道路建設予定地全域にわたるという結果を得、その旨を静岡県教育委員会に報告した。

#### (2) 本格的調査

##### 1区 平成5年7月16日~平成6年3月31日 6400m<sup>2</sup>

7月16日より表土除去を開始した。調査中の排土を場外処理する都合上、調査区東側に搬出路を設け北側には排土置場を設定した。また調査区の中央（Kライン）には配水管が付設されているため、土層帶として約2mを残し、8月5日調査を開始した。

休場層は約20mごとに設定した土層帯を残して、全面を休場層下層黒色帯まで精査した。その過程で、休場層直下黒色帯に休場層上層が落ち込む土坑を検出した。この上坑は、底部に逆茂木の痕跡が観察され、陥り穴ではないかと考えられている。この後、休場層直下黒色帯の上面において地形測量をおこなった。休場層以下では、試掘調査によって遺物の出土数が少なかったため、10月よりピット調査に切り替え、1グリッドに対して $3 \times 3$ mのテストピットを4箇所設定し、調査を継続した。このテストピット掘削によって遺物の出土はほとんどなかったが、第Ⅲスコリア帯において十坑が検出された。このため、平成6年1月より上坑検出を目的として、重機による第Ⅲスコリア帯までの掘削を開始した。この結果、4基の土坑を検出している。また、土坑の覆土の土壤分析の対比資料とするために、1区内の中央土層帶よりYL層~ペアスコリアまでの土壤のサンプリングをおこなっている。

2月に入って、調査区西半の調査が完了したため、排土の仮置場と搬出路・2区の表土除去を開始し、3月末日に1区の全調査を終了した。

##### 2区 平成6年4月1日~7月20日 2200m<sup>2</sup>

1区において、休場層で石器のブロックを検出していたため、4月より6月中旬まで休場層の精査をおこなった。この結果、貞岩を中心とした石器ブロックが6基検出されている。

地形測定終了後、6月中旬よりBB0層以下のテストピット調査を開始した。BB1層において2基の石器ブロックが検出されたほか、SCⅢ層においてもBBⅢ層に掘り込み面があると考えられる土坑が検出された。このため、7月上旬より重機によってSCⅢ層までを土坑検出のために掘削する作業に入った。検出された土坑は3基で、1区のものと合計すると7基となり、ほぼ尾根を横断するように配置してい

ることが確認された。

### 3区 平成6年7月20日～11月20日 3100m<sup>2</sup>

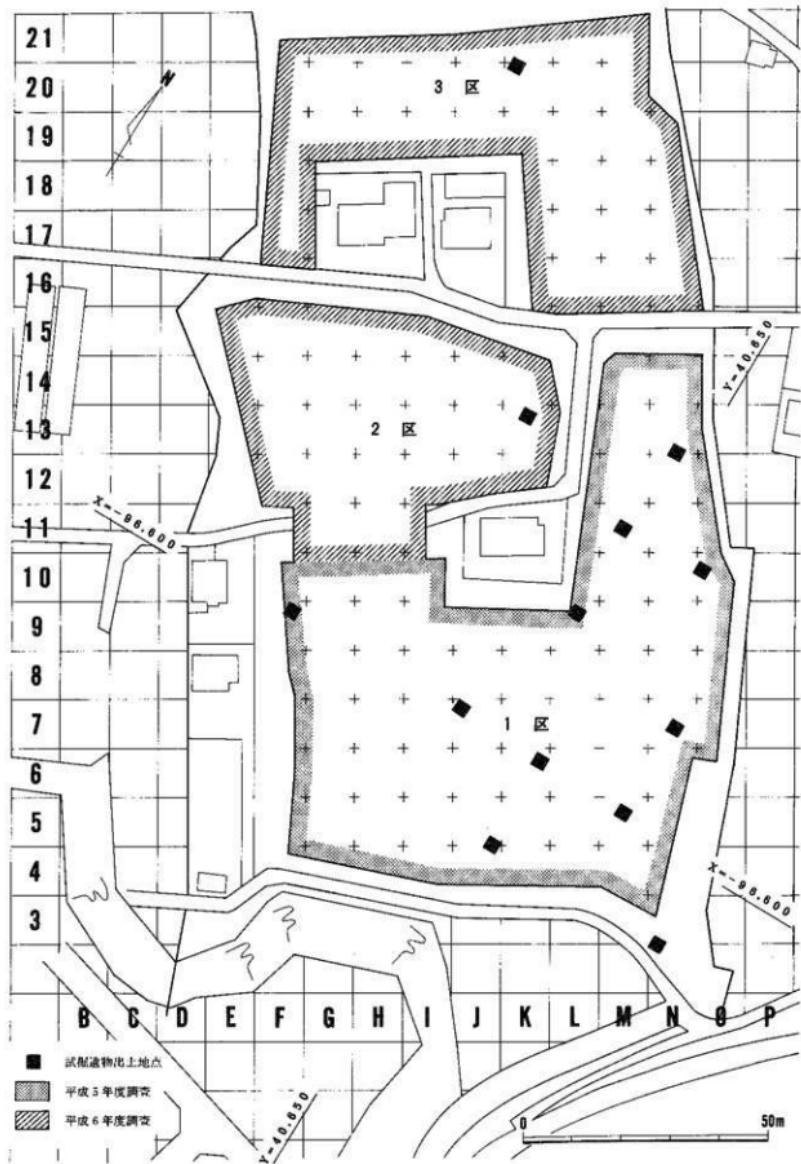
3区は表土除去をおこなったところ、休場層が尾根の縁辺部において崩落していることが確認されたため、休場層の残る尾根の中央部において精査をおこなった。各グリットに4箇所設定したテストピット調査のあと、重機によってSCⅢ層まで掘削したが、土坑の検出はなかった。このあと、航空写真を撮影し、11月20日に調査の全工程を終了した。

表1 作業工程表

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平成3年度										●————試掘調査————●		
平成4年度												
平成5年度				●————						1区現地調査————●		
平成6年度	●————2区現地調査————●			●————	3区現地調査————●							●————資料整理————●

表2 遺構・遺物一覧表

時代	遺構	遺物
縄文	住居跡 1	石器・・・1 石皿・・・2 石鏃・・・11
	土坑 14	打製石斧・・・1 局部磨製石器・・・1 土器
縄文（草創期）	土坑 4	有舌尖頭器・・・6 石槍・・・1
旧石器	石器ブロック 16 礫群	尖頭器・・・8 石槍・・・1 ナイフ形石器・・・80 搔器・・・8 刮器・抉入削器・・・15 楔形石器・・・11 石刃・・・25 石核・・・34
	土坑 7	



第1図 調査区とグリッド配置図 (1 : 1000)

## 第Ⅱ章 遺跡の概要

### 第1節 遺跡の位置と歴史的環境

三島市の地勢は、地形や地質的な特質から3つの地域に大きく分けることができる。一つは、三島市の東半分にあたる箱根山西麓地域で、天下の險とうわれた箱根山は、今から約400,000年前に誕生した古い火山である。二つ目は、三島市街地及びその北側の裾谷谷の部分であり、富士山を起源とし今から14,000年ほど前に流下した三島溶岩流による溶岩台地にあたる。そして、三つ目は市街地の南域から田方平野にかけて広がる広大な冲積平野である。

さて、今回調査を行った本遺跡は、箱根山西麓地域に位置している。この西麓地域は、先土器時代から縄文時代の遺跡が数多く確認されており、磐田原台地、愛鷹山東南麓と共に県内における該期遺跡の代表的なものである。近年、山麓地域における大規模なゴルフ場や宅地造成などの開発によって、発掘調査も多くなり、調査の進展が期待される。

箱根山西麓地域の様子を縄文時代にさかのばって概観すると、まだ狩猟や漁撈をする自然採集経済の段階であった。今から50,000年前頃、箱根山西麓地域は火碎流の流下や火山灰の堆積によって、東麓や他の山麓と比べて緩やかな斜面が形成されており、この為、この地域は縄文時代の人々の日常の生活にとって極めて好適な場所であったにちがいない。これらの遺跡は概ね渓谷に向かって突き出た小舌状台地の端部に見出されている。それは彼等の住居が水と日当りと見晴らしとを立地条件としたからで、そのような場所に堅穴住居や敷石住居からなる集落を形成していた。壱町田の千枚原遺跡や錦田の北山（奥山）遺跡は、その当時の最も代表的な遺跡である。やがて、縄文時代も終り頃になると、人々の生活様式は小集落から大集落へ、集落位置も標高が下降し平野部及び丘陵縁辺部に移行していった。これは、大陸から水稻栽培の文化が伝わり、狩猟採集生活経済活動から水稻農耕経済活動への変遷という生活基盤にあることは言うまでもない。次に本遺跡周辺に位置する先土器時代の遺跡の調査例について概述する。

#### 焼場遺跡A地点（47）

本遺跡と同様東駿河湾環状道路建設に伴う調査で、当研究所が平成3年～4年にかけて試掘、本調査を行った。下原遺跡とは谷を挟んで北側の尾根上にあり、先土器時代から縄文時代の遺跡である。先土器時代の遺構としては、2基の土坑のほか、BBⅡ層とYL層よりブロックを、遺物としては、ナイフ形石器、槍先形尖頭器等を検出した。縄文時代の遺構としては、堅穴状遺構2基、土坑29基、集団遺構2基を検出した。また、「平安、鎌倉古道」と考えられる道路状遺構も検出した。

#### 十石洞遺跡（20）

焼場遺跡の西側に隣接し、平成4年度に開校した山田中学校建設に伴い平成元年から平成2年度にかけて発掘調査が行われた。その結果、市内では、最も古い時期の敷石住居跡が検出した。この第1号住居跡は、縄文時代中期末晩利EV式期に比定され、炉を中心的に10枚の敷石が配されていた。炉は中央東寄りに位置し、溶岩を利用した非常に堅固な方形の石圍炉である。

#### 初音ヶ原遺跡群（36・37・38）

本遺跡は三島市川原ヶ谷に位置する先土器時代を中心とした遺跡で、下原遺跡の西側に隣接している。便宜上、国道1号線の北側を初音ヶ原A遺跡、南側を初音ヶ原B遺跡と呼称して区別している。箱根山西麓の末端丘陵上にあり、その面積は30,000m<sup>2</sup>を上回る広範な範囲に及んでいる。同丘陵は箱根山西麓で最も幅の広い緩傾斜な丘陵で、そこには複数の時期にまたがる多くの遺跡が確認されており、これら

丘陵上の遺跡全体を包括して初音ヶ原遺跡群と呼称している。三恵台の宅地造成、創価学会三島礼拝所等の建設工事に伴うこれまでの一連の発掘調査によって、休場層を初めとし第IV～VII黒色帶にかけて8枚の文化層が検出した。△遺跡第1地点最下層の文化層は、これまでのところ箱根山西麓最古の段階に位置づけられている。また、同第2地点では、第III黒色帶より、約27,000年前と考えられる土坑9基と、3点の石器を検出し注目された。

#### 北山遺跡（49）

本遺跡は、標高約220mの谷田字台崎に位置し、千枚原遺跡と並んで古くから知られ県東部における縄文時代の代表的な遺跡である。昭和62年の4回目の調査は、農地改良工事に伴う記録保存調査として広範囲に行われ、敷石住居跡を含む住居跡、土坑、配石等を検出した。

#### 加茂・向山遺跡（19）

市が計画する葬祭会館建設事業に伴う記録保存調査として、平成3年に実施した。調査の結果、遺構としては、先土器時代（2.1～1.8万年前）の遺物集中地域（ブロック、礫群）が各1ヶ所と縄文時代早期（6千年前）の炉穴や縄文時代中期の住居跡が確認された。

#### 千枚原A遺跡（50）

本遺跡は、三島市志賀町田字千枚原にあり、県東部を代表する縄文時代の遺跡として、早くから注目されていた遺跡である。4度目の調査では、敷石住居跡6軒、炉跡多数を発見し、特にB1・2号敷石住居跡は保存することが決まり、設計を変更して敷石住居跡の緑地公園として永久に保存されている。また、B5号住居跡の敷石の間から、十数の顔面が出土した。

#### 小平C遺跡（34）

本遺跡は、平成3年、「(仮)県民総合健康センター」建設土地造成工事に伴う記録保存調査として実施された。箱根山西麓地帯でも市街地に近く、標高120mの尾根上に位置している。調査の結果、先土器時代については、YLJ層～BB0層中に5ヶ所のブロック（遺物集中域）を検出した。また、縄文時代については、多量の押型土器が検出された。

#### 中村分遺跡（31）

本遺跡は、箱根山西麓の芦原地区で計画された畠地帯総合整備事業に伴う記録保存調査として、平成3年～4年にかけて発掘調査が行われた。標高340mに位置し、今から約21,000年前の先土器時代～約5,000年前の縄文時代前期末にかけての複合遺跡である。先土器時代についてはBBⅡ・BBⅢ層まで調査を行った結果、YLJ層～BBI層中に10ヶ所のブロック（遺物集中域）を検出した。縄文時代については、早期前半～前期末の土器、石槍、石鎌、土坑16基を検出した。尚、同予定地内には天台B遺跡があり平成4年～5年にかけて発掘調査が行われ、有舌尖頭器等多数の石器類が検出された。

#### 片平山遺跡群（15・16・17・18）

本遺跡は、箱根山西麓の中腹部（標高210～310m）に位置し、9遺跡（徳倉片平山L（16）・徳倉片平山K（15）・ソノエンサレB（14）・片平山（13）・徳倉片平山H（51）・徳倉片平山I（11）・中村C（12）・徳倉片平山B（10）・徳倉片平山J（52））の総称である。ゴルフ場造成に伴う発掘調査で、昭和60年～61年にかけて実施された。

大部分が、先土器時代～縄文時代の遺跡で主に休場層より、ナイフ形石器・細石刃石核・細石刃等が検出した。縄文時代の住居跡も、6軒検出された。

#### 観音洞遺跡群（22～30・54）

ゴルフ場造成に伴う発掘調査で、発掘作業員120名を投入した市、始まって以来の大規模なものであった。本遺跡は、10遺跡（五輪（53）、観音洞G第1（22）・2（23）地点、元山中C（24）、陰洞A（27）、陰洞B（25）、陰洞C（26）、陰洞E（29）、観音洞B（28）、観音洞II（30））の総称で、元山中集落北東

に位置し、昭和62年～平成元年にかけて実施した。10遺跡は、先上器時代～縄文時代の遺跡であるが、一部、弥生時代（観音洞G）、弥生～平安時代（陰洞E）も含む複合遺跡である。

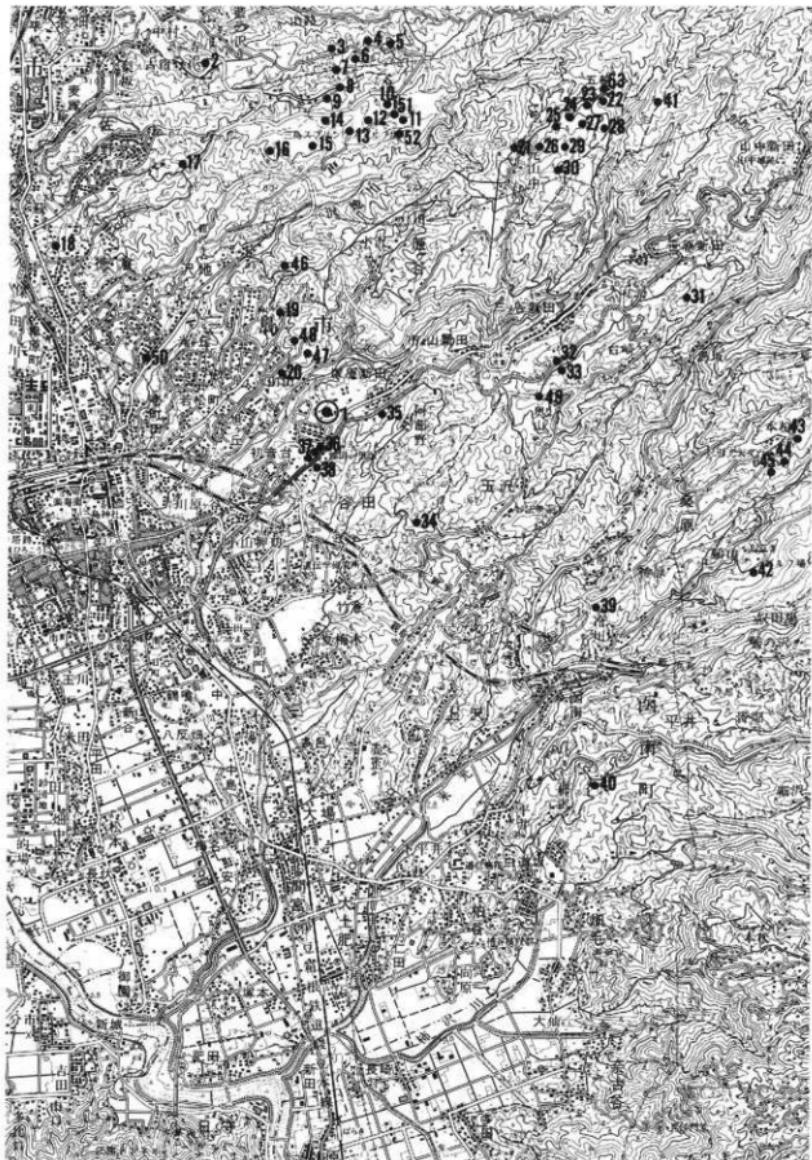
観音洞B遺跡からは吊手土器とデボ（埋納遺構）が検出された。5軒からなる環状集落の第2号住居跡から出土した吊手土器は、縄文時代の精神活動を示す特徴的な土器であり、県内出土は3例と極めて少ない。完全な形で出土し、平成3年に市の指定文化財に指定された。また、休場層から検出されたデボ（埋納遺構）は掘り込みの中に拳大の黒耀石原石と石核が合計10個埋納されており、黒耀石の消費地での発見はこれが初めてである。

#### 北原菅遺跡（41）

本遺跡は、二島市立箱根の里建設工事に伴う記録保存調査として昭和59年～60年にわたって実施し、先土器時代～縄文時代の遺跡であることが判明した。旧石器時代のナイフ形石器・槍先形尖頭器、縄文時代の土器片が集石・陥穴状土坑と共に検出された。

表3 周辺の遺跡

番号	遺跡名	番号	遺跡名	番号	遺跡名
1	下原	19	加茂・向山	37	初音ヶ原A 第2地点
2	乾草跡	20	十石洞	38	初音ヶ原B 第1地点
3	陣笠山A	21	元山中	39	中原
4	佐野片平山G	22	観音洞G 第1地点	40	休場
5	佐野片平山F	23	観音洞G 第2地点	41	北原菅 A地点
6	佐野片平山H	24	元山中C	42	上黒岩
7	陣笠山II	25	陰洞B	43	柳沢B
8	佐野片平山S	26	陰洞C	44	柳沢C
9	佐野片平山T	27	陰洞A	45	柳沢D
10	徳倉片平山B	28	観音洞B	46	加茂ノ洞B
11	徳倉片平山I	29	陰洞E	47	焼場A
12	中村C	30	観音洞H	48	焼場B
13	片平山	31	中村分	49	北山
14	ソノエンサレB	32	奥山	50	千枚原A
15	徳倉片平山K	33	笠原F	51	徳倉片平山H
16	徳倉片平山L	34	小平C	52	徳倉片平山J
17	徳倉片平山E	35	塚原南原	53	五輪
18	徳倉片平山D	36	初音ヶ原A 第1地点		



第2図 下原遺跡と周辺の遺跡 (1 : 25000)

## 第2節 基本土層

箱根山西麓に堆積するローム層は、「箱根西麓ローム層」と呼称され、上から順に上位・中位・下位ローム層に分けられている。そして上位ローム層をさらに2分して、それぞれ上からU1・U2・M・Lロームと略称している。現在遺物・遺構が検出されているのはU1ローム層からであり、この層は愛鷹ローム層の上部ローム・関東ローム層の立川ロームに対比されている。

このU1ローム層は古期富士火山が主たる供給源と考えられており、黒色帯とスコリア層の互層となっている。愛鷹山麓とほぼ同様の堆積状況が確認できるが、黒色帯の確認枚数が異なり、黒色の発色が弱いのも特徴である。

本遺跡は畑作による耕作のために、休場層上層まで搅乱がおよんでおり、富士黒土層は部分的に残るのみであり、安定した堆積をみせるのは休場層下層からとなる。以下に各層ごと解説を加えるが、層名は愛鷹山南麓に準じた。また第3図に遺跡の土層柱状図と土壤の鉱物分析の結果を並載した。

第1層 表土 耕作土

第2層 富士黒土層a (FBa) やや褐色をおびる黒色土で、カワゴ半バミスと考えられる $\phi 0.1\sim 0.2$ cmの白色バミスを少量含んでいるが、これは上部の層からの混入と考えられる。

第3層 富士黒土層b (FBb) 暗褐色上で $\phi 0.1\sim 0.2$ cmの橙色スコリアを少量含む。漸移的に休場層に変化し、不安定な堆積状況を示す。

第4層 休場層上層 (YLU) 明黄褐色ローム層で、粘性がありパウダー状を呈する。スコリアの含有量は少ない。また黄色の発色は3層に分層したなかで最も鮮やかで、斑紋状に明暗色が混ざりあっているように見えるのが特徴である。また下部からは立川ローム層最上部ガラス質火山灰 (UG) に対比される可能性のあるテフラの降灰層準が推定されることから、堆積年代は約1.2万年前頃と考えられる。

第5層 休場層中層 (YLM) 黄褐色ローム層で $\phi 0.1\sim 0.3$ cmの橙色スコリア、茶褐色スコリアを少量含む。全体的に上層に比べ硬くなる。また重鉱物分析より、カンラン石の極小とその他の最大が対比指標となって愛鷹山南麓のYLMの中位とはほぼ確実に対比できるという結果が報告されている。

第6層 休場層下層 (YLL) 暗黄褐色ローム層で $\phi 0.2\sim 1.0$ cmの橙色スコリア、黒色スコリアを多量に含む。

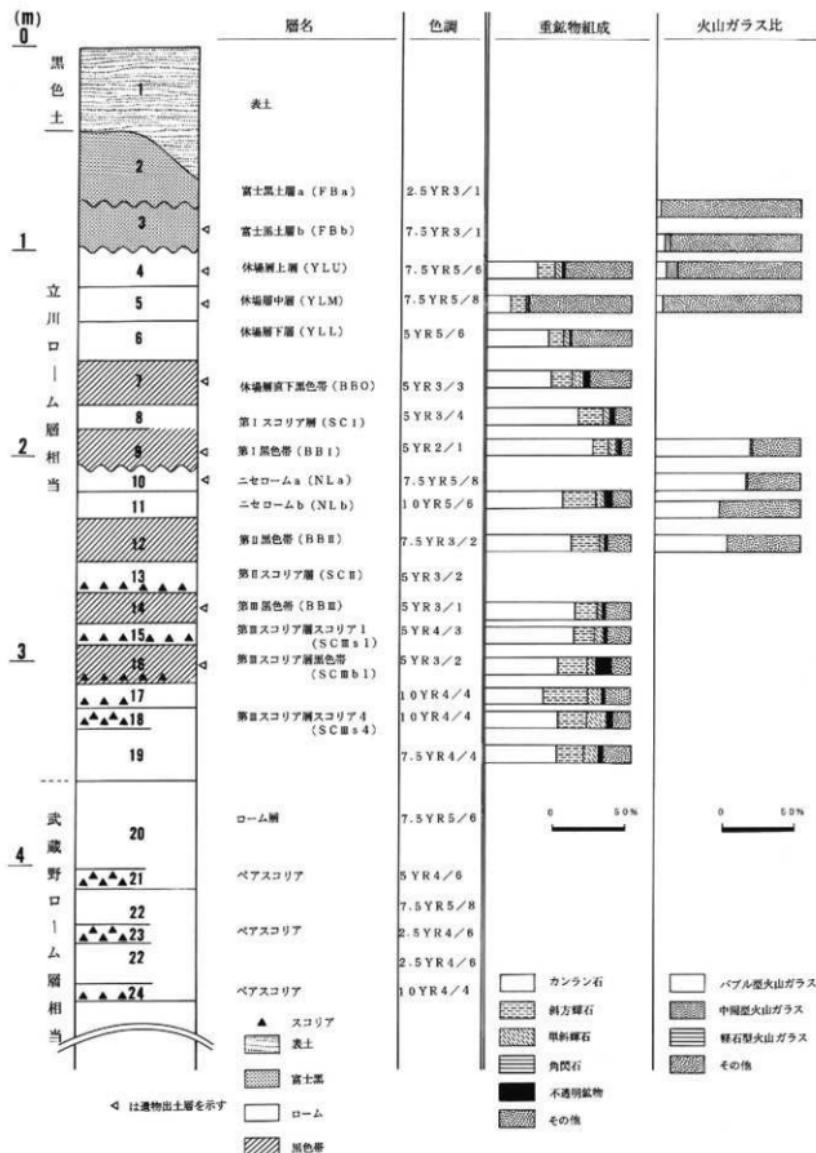
第7層 休場層直下黒色帶 (BB0) 暗赤褐色硬質ローム層で、 $\phi 0.2\sim 1.0$ cmの黒色、黄色、赤色のスコリアを多量に含む。乾燥するとクラックを生じ、しまりは弱い。部分的に第1スコリア層のスコリアが混入する。草創期の土坑の検査面である。

第8層 第1スコリア層 (SCI) 赤褐色スコリア層で、本遺跡では層状に確認することはなく、ブロック状に認められる。

第9層 第1黒色帶 (BBI) 黒褐色硬質スコリア質層で、 $\phi 0.2\sim 0.5$ cmの橙色スコリア、黄色スコリア、黒色スコリアを多量に含む。乾燥するとブロック状に崩壊する性質がある。放射性炭素年代測定により $18,030 \pm 450$ 年BPの年代が与えられており、重鉱物分析によると、カンラン石の極大が対比指標となり、愛鷹山南麓のBB Iと対比できる。

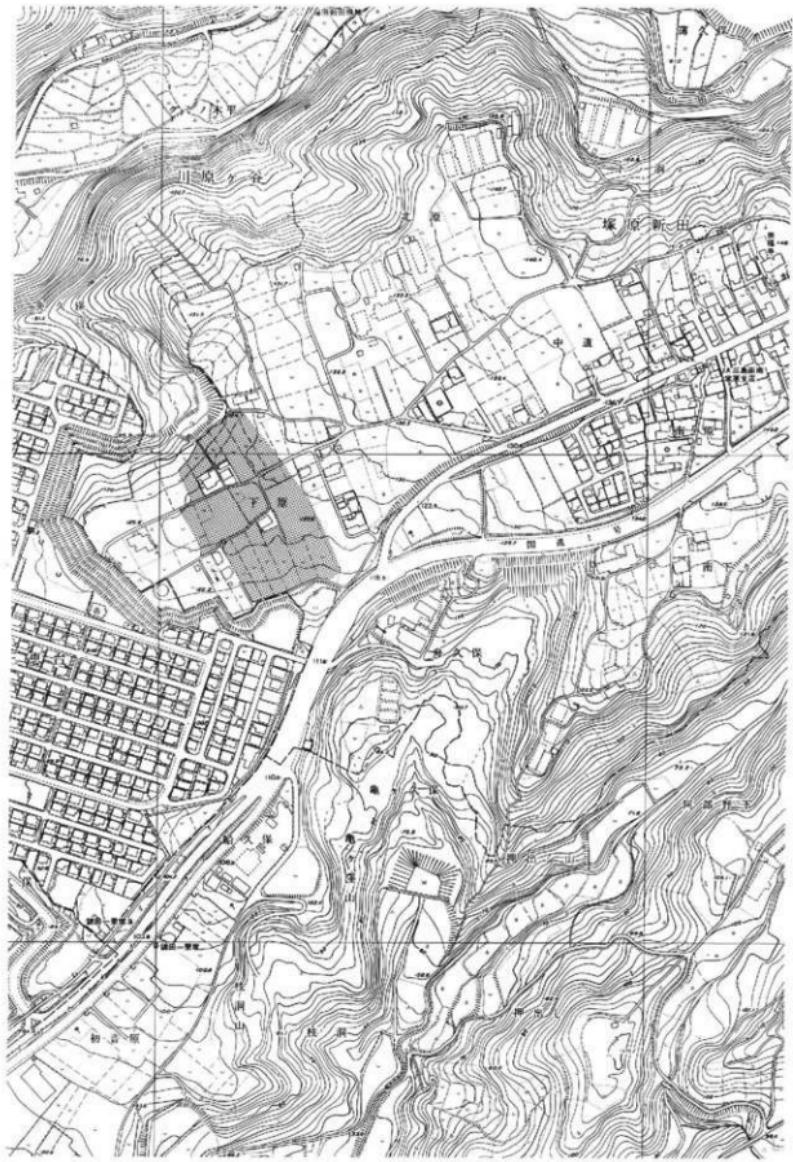
第10層 ニセロームa (NLa) 明黄褐色スコリア層で、 $\phi 0.2\sim 0.5$ cmの橙、黒、赤色スコリアから成る。

第11層 ニセロームb (NLb) 黄褐色スコリア質層で、NLaと同様に $\phi 0.2\sim 0.5$ cmの橙、黒、赤色ス



第3図 基本土層柱状図

- コリアから成るが、スコリアの粒径が小さくなり、密度が薄くなる。a層とb層の層境下部に始良・丹沢広域火山灰(AT)のブロック(Φ1~4cm)が複数確認できる。
- 第12層 第II黒色帶(BBII) 黒褐色スコリア質層で、Φ0.1~0.5cmの橙色スコリアを含み、Φ0.1~0.2cmの黒色・黄色スコリアも少量認められる。
- 第13層 第IIスコリア層(SCII) 暗赤褐色スコリア層Φ0.2~0.8cmの橙色スコリアからなる。BBII、BBIIIとの層界は不明瞭でブロック状に現われる地点もある。
- 第14層 第III黒色帶(BBIII) 黒褐色スコリア質層で、SCIIと類似するΦ0.2~0.8cmの橙・黄色スコリアを含む。SCIIとの層界はスコリアの頻度をもって分層する。上坑の掘り込み面と考えている層であり、石器ブロックが1基検出されている。
- 第15層 第IIIスコリア帯スコリア1(SCIIIa1) にぶい赤褐色スコリア層で、Φ0.2~0.3cmの橙色スコリアを多く含む。部分的にブロック状に出現することもある。また重鉱物分析の結果より、カンラン石の量比の変化が対比指標となって、愛鷹山南麓のSCIIIa1とほぼ対比できるようである。
- 第16層 第IIIスコリア帯黒色帶1(SCIIIb1) 暗黒褐色スコリア質層で、Φ0.2~0.3cmの橙色スコリアを含み、SCIII層に特徴的なΦ0.5~0.8cmの黒色スコリアが観察できる。
- 以上第16層までは、ほぼ愛鷹山南麓の上層と対比できるが、愛鷹山南麓のSCIIIの下部において発達する黒色帶は、下原遺跡では観察できない。また同一尾根上に立地する初音ヶ原遺跡とも若干の異なった堆積状況を示す。以下に現地での所見を記す。
- 第17層 暗黄褐色スコリア質層 Φ0.2~1.3cmの黒色スコリアを主体として、Φ0.1~0.2cmの橙・赤色スコリアを含む。
- 第18層 暗黄褐色スコリア層 17層に含まれるスコリアの純層である。ロームをほとんど含まず、非常に硬質である。ブロック状に確認され、層厚は一定しない。愛鷹山南麓においてもSCIIIa4と呼ばれる第IIIスコリア帯中でもっとも硬質な層があり、本層に対応すると考えているが、重鉱物分析においてはむしろ第17層に対応するという報告結果を得ている。今後この対比については検討の余地がある。
- 第19層 褐色スコリア質層 Φ0.1~0.5cmの赤色スコリア、Φ0.2~0.7cmの黒色スコリアを含み、スコリアの含有量は漸移的に下層に向かって少なくなる。カンラン石の量比変化と両輝石の少なさおよび単斜輝石の斜方輝石に対する量比の多さなどの傾向は愛鷹山南麓のBBVIIと中部ロームの層界付近に認められるという報告結果を受けている。よって第19層は、U1ローム層の最下部に対比される可能性が高い。
- 第20層 明褐色ローム質層 Φ0.1~0.2cmの発泡した赤色スコリアを含み、第21層の赤色スコリアブロックが部分的に含まれる。第19層との層界は不明瞭で、SCIII層に特徴的な黒色スコリアの有無で分層した。
- 第21層 ベースコリア 赤褐色スコリア層で、ブロック状に検出される。
- 第22層 明褐色ローム質層 Φ0.1~0.3cmの赤色スコリアを含むローム層。
- 第23層 第24層 ベースコリア 赤褐色スコリア層で、ブロック状に検出される。ベースコリアは本遺跡ではブロック状に3層が確認されているが、遺跡の立地によっては純層に近いかたちや、2~4層に分かれて確認されている。また最下部では含雲母グリース状火山灰(Gr)に山來自るものと考えられる褐色黒雲母が検出されており、以下が武藏野ローム層と対比されるという報告も受けている(「下原遺跡II」に掲載予定)。



第4図 下原遺跡と周辺の地形 (1:5000)

### 第3節 遺跡の土層堆積状況

箱根山は約40万年前に誕生した火山で、箱根山第3期の火山活動（約5万年前）の箱根新湖噴石流によって現在の西麓の比較的緩やかな傾斜の地形が形成された。その上には古富士火山起源のローム層が厚く堆積している。またこの地域は狩野川の支流になる河川によって開拓され、箱根山から樹根状に延びる尾根地形を作り出している。

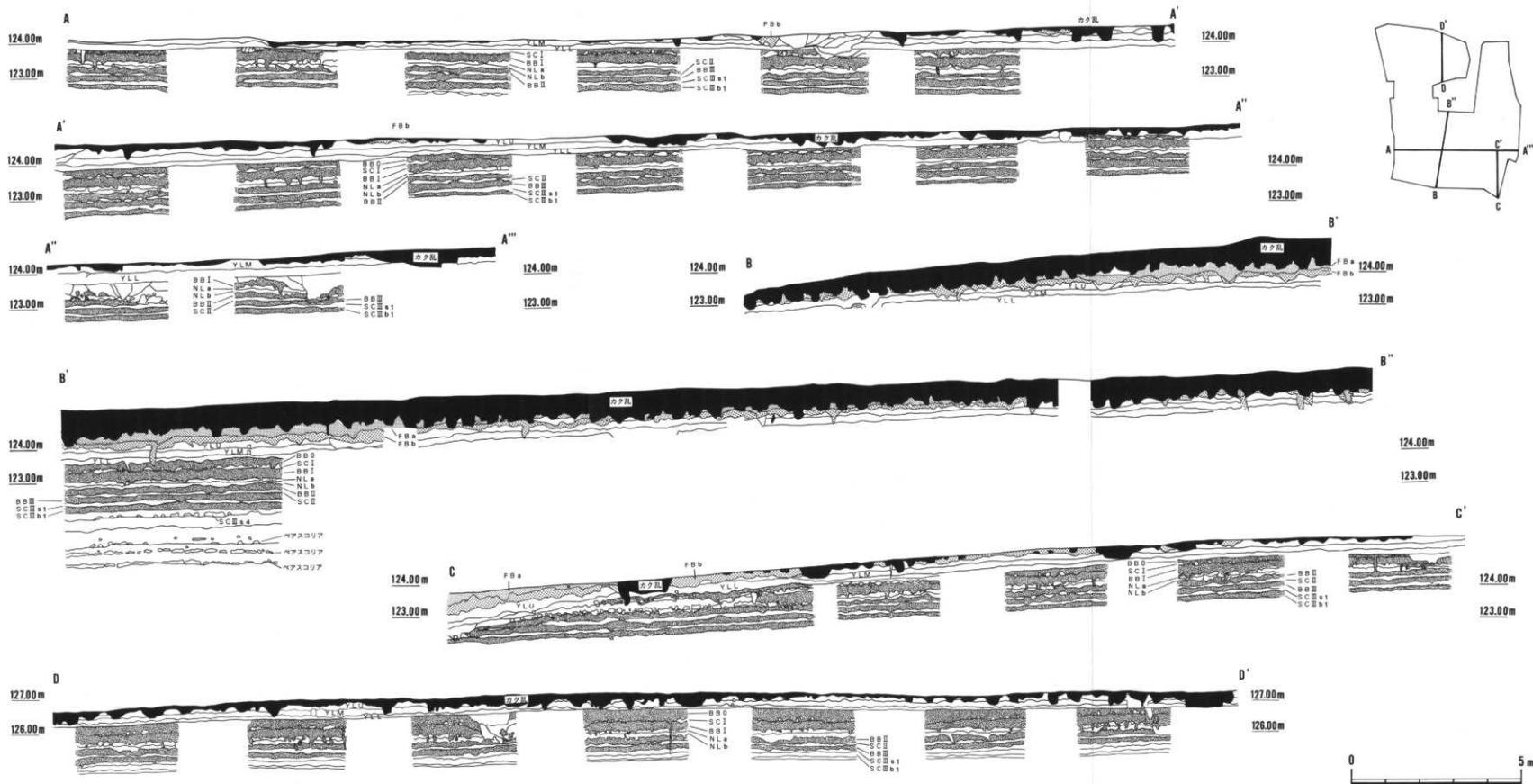
下原遺跡はこれらの尾根の中腹、標高約122～127mの平坦地に位置する。発掘の結果FB層までは耕作によって搅乱を受けていたが、休場層以降からは良好な堆積状況を示すことが明らかになった。また1区・M4グリット付近と、3区の21ライン上において斜交地形が観察された。これらは休場層直下黒色帯から浸食が始まっているもので、休場層は通常の堆積状況が確認された。このことから、現在の地形は休場層堆積以前に形成されたものと考えることができる。平坦地の上層堆積状況は第1節の基本上層に準じており、休場層堆積以前、以降とも北から南方向へ約2度36分緩やかに傾斜して堆積する。

### 第4節 遺構の概要

縄文・旧石器時代の遺構・遺物が検出されている。縄文時代の包含層である富士黒十層が、耕作等の擾乱のためそのほとんどが失われていたために、遺物の原位置は保存されていなかったが、尾根の縁辺部に住居跡を1基確認した。また休場層直下黒色帯において休場層の落ち込みとして、逆茂木の施設を持つ七坑を4基検出した。この七坑と共に有尖頭器が出土したために、草創期の陥穴であると考えている。

旧石器時代の遺物は、休場層から第Ⅲスコリア層まで各層で出土している。特に休場層から出土した遺物は数において本遺跡の半数をなすものである。遺物は、YLM中位からYLM上位にかけて、遺跡の休場層が残る部分のほぼ全域において出土した。石器の出土は全体的に散漫であるが、大きく4箇所の遺物集中地点からなり、さらに細分すると16箇所のブロックに分割できる。石材については全体の55%を黒耀石、30%を真岩が占め、黒色緻密安山岩、チャートがつづく。黒耀石の原産地分析を測定可能な資料約700点においておこなったところ、伊豆・箱根・長野など6箇所の原産地が判明した。この原産地分析の結果をもとに個体別分類をおこなったところ、黒耀石だけでも29種類、この他に分類可能なチャートを入れると実に45の個体別資料に分類することができた。これらは、遺跡周辺で採取できる真岩製の石器とは対照的に、黒耀石については遺跡内において石器製作の痕跡をほとんど残さない消費地遺跡の特徴を示した。また、礫群は散漫であり、石器ブロックの分布と重なる。

第Ⅲ黒色帯においては七坑が7基検出されている。これらは、同一尾根上に立地する初音ヶ原遺跡で検出された列状に弧を描いて並ぶ七坑群と、同様の性格を持つと考えられている。当遺跡においても、個々の間隔はまちまちだが尾根を横断するように配列して検出された。これらの土坑は、平成4年度に調査された焼場遺跡、現在調査中の加茂ノ洞B遺跡においても確認されており、後期旧石器時代初めの箱根西麓の文化様相を知る上でも注目される遺構である。



第5図 土層堆積図 (1/100)

## 第Ⅲ章 繩文時代の遺構と遺物

### 第1節 富士黒色上層の遺構と遺物

繩文時代の遺構は住居跡1軒、土坑14基が確認され、住居跡周辺からは七器が出上した。しかし、これらは弥生時代以降現代までの搅乱を受けており、遺存状態は良好ではない。以下に遺構別に概要を述べる。

#### 1号住居跡（第7図）

尾根の縁辺部、M4グリットに位置している。休場層に富士黒土層が落ち込むかたちで検出されたが、谷への傾斜部のために南東部の壁、壁溝は確認されなかった。

〈規模・形状〉 南北2.9m、東西3.1m 四角形を呈する。

〈床〉 地床。床面レベル約123.4m。面的には確認できなかったので十層断面によって確認した。壁溝は床面より約20cmの深さに掘りこまれており、底部には小ピットも観察できる。

〈柱穴・炉〉 柱穴は、主柱穴4基の他に壁溝にともなって小ピットが検出された。かくは住居跡のほぼ中央にあり、床面より約15cm掘り込まれている。焼上が堆積しており、底面は受熱によって褐色に変色している。

〈遺物〉 石器としては縦型の石匕1点、黒耀石の残核1点、石皿1点、敲石2点、磨石1点、凹石1点（第8・9図）の他に黒耀石のチップが多数出土した。3の敲石は折損しており、円盤の縁辺部を敲石に利用し、平坦部を磨石として使用している。4も凹石と敲石の複合石器である。7の石皿は、折損しているが付近において出土した。土器は破片が9点出土した（第13図12・13）。内8点は接合し、同一個体であると考えられる。いざれも諸磯式である。

#### 土坑（第10～12図）

14基が検出された。いざれも休場層に富士黒土層が落ち込むかたちで検出された。逆茂木等の下部施設の痕跡は観察されない。

#### 遺構外出土の遺物

〈土器〉 破片が12点出土している（第13図）。

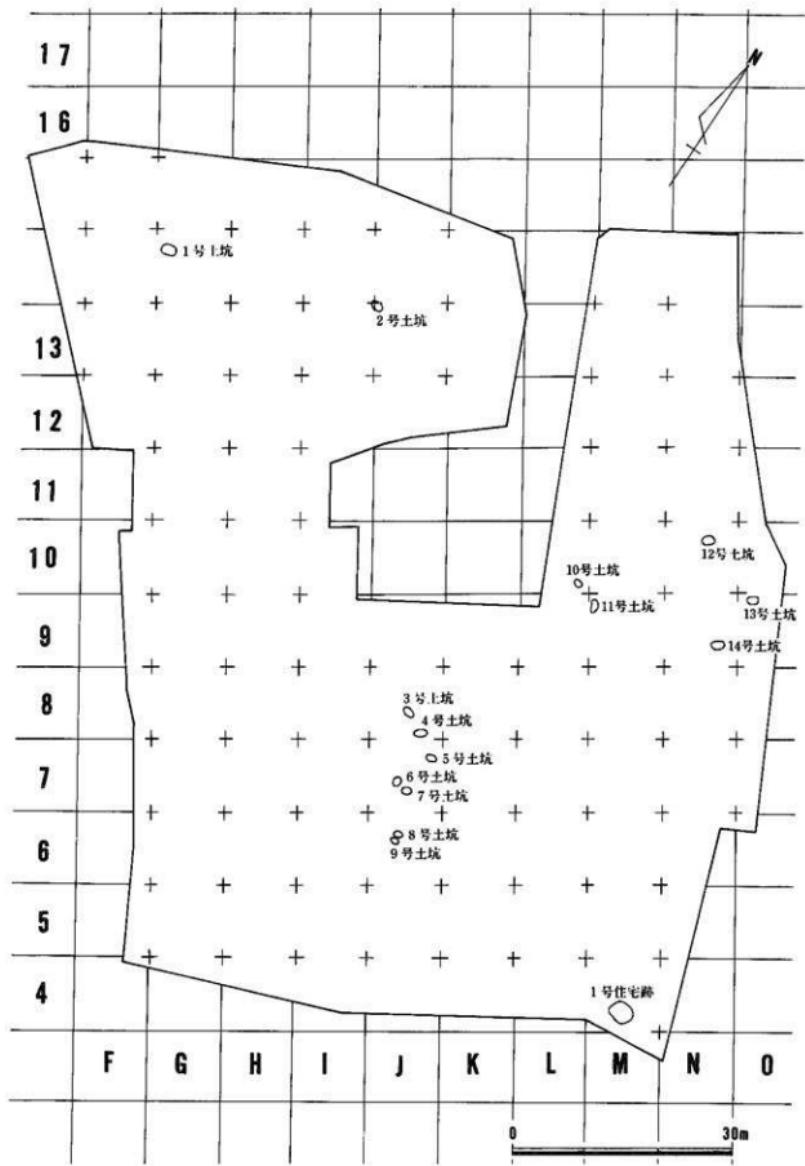
1～12は諸磯式と考えられる。いざれも1号住居跡周辺から出土している。14は表採資料である。五頭ヶ台式と考えられる。

〈石器〉 石鎚11点、打製石斧1点、局部磨製石器1点が出土している（第14図）。

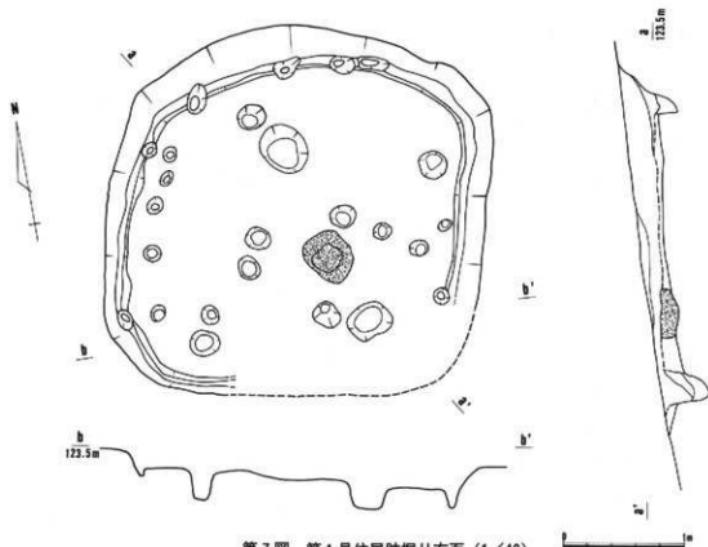
石鎚は1が基部が丸みをおびる（円基鎚）の他は、全て基部に抉入のある凹基無基石鎚である。

13の石斧は安山岩製の打製石斧で、側縁部には着柄痕と考えられる潰れが観察できる。刃部が欠損している。

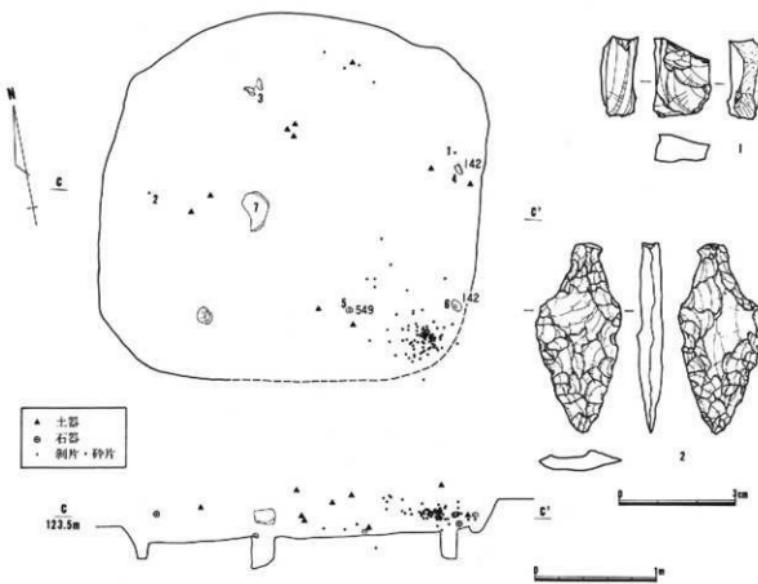
12は局部磨製石器、即ちトロトロ石器である。チャート製で、両面を石器縁辺部から丁寧な調整を施す。左脚部が欠損する。体部中央と側縁部には器種名の由来でもある崩き（あるいは使用痕か）が観察され（図中綱かけ部）、特に体部は、剥離面の稜線が見えにくくなっている部分もある。従来より注意してきた、押型火土器との共伴は本遺跡では見られない。



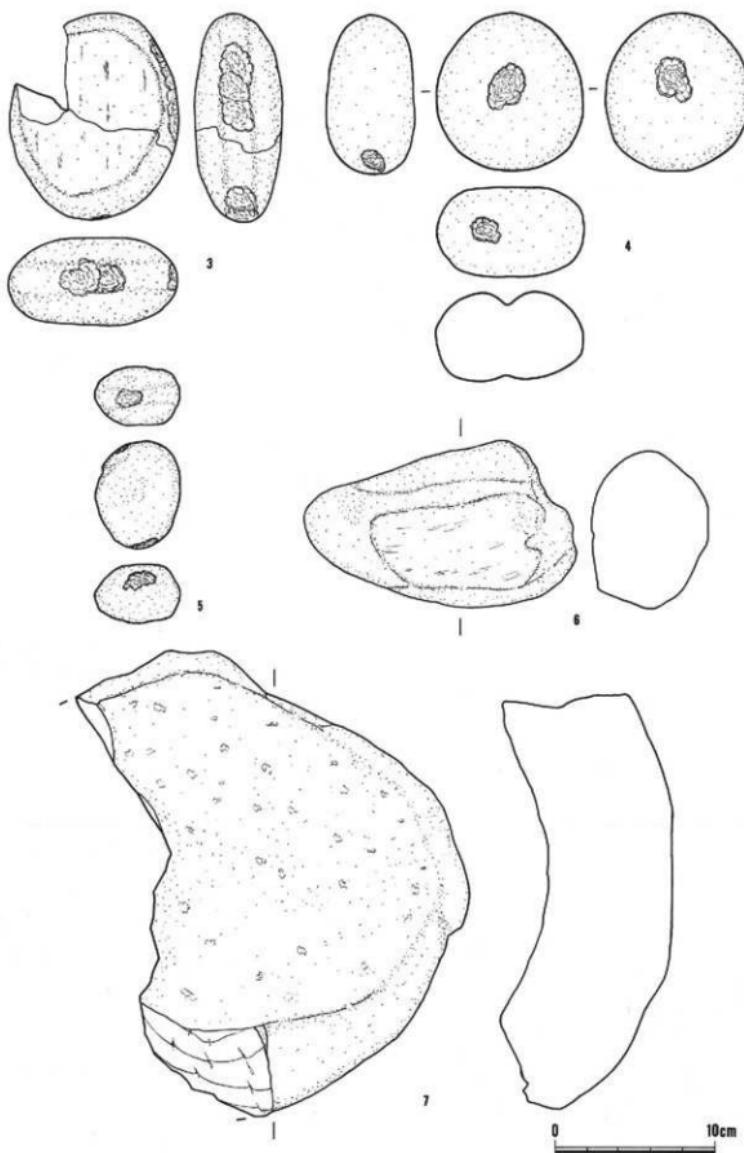
第6図 FB層遺構全体図



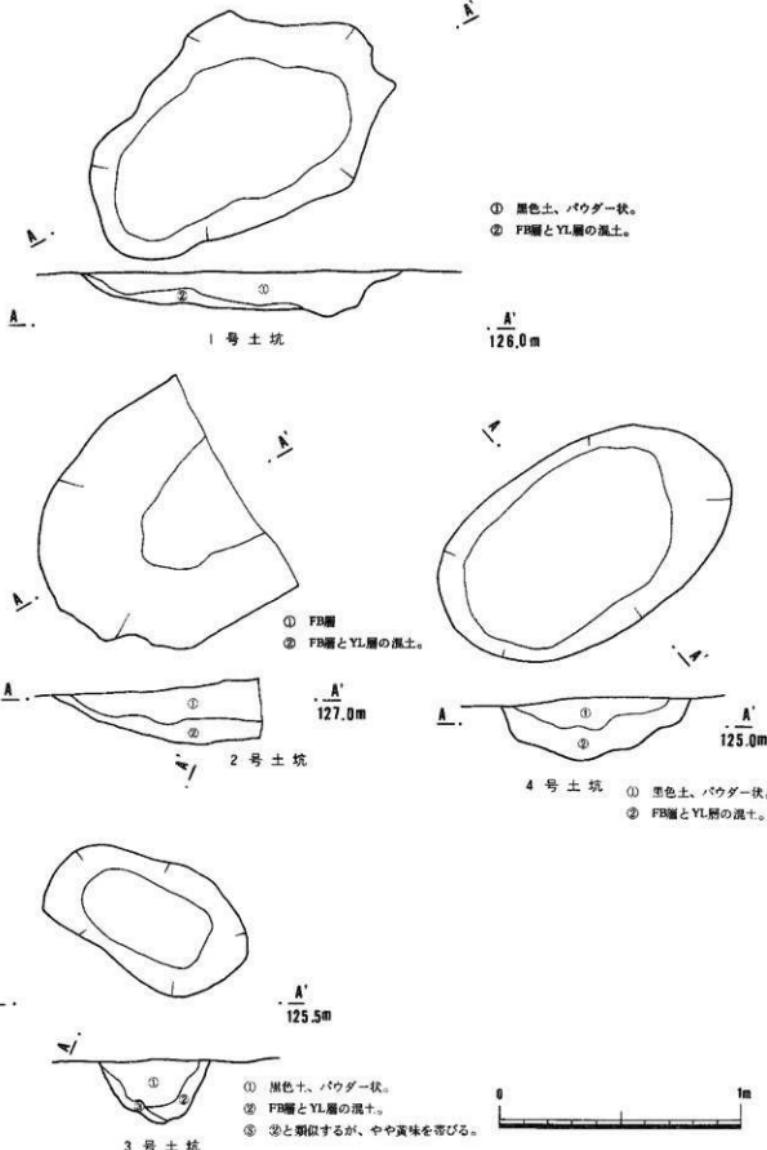
第7図 第1号住居跡掘り方面 (1/40)



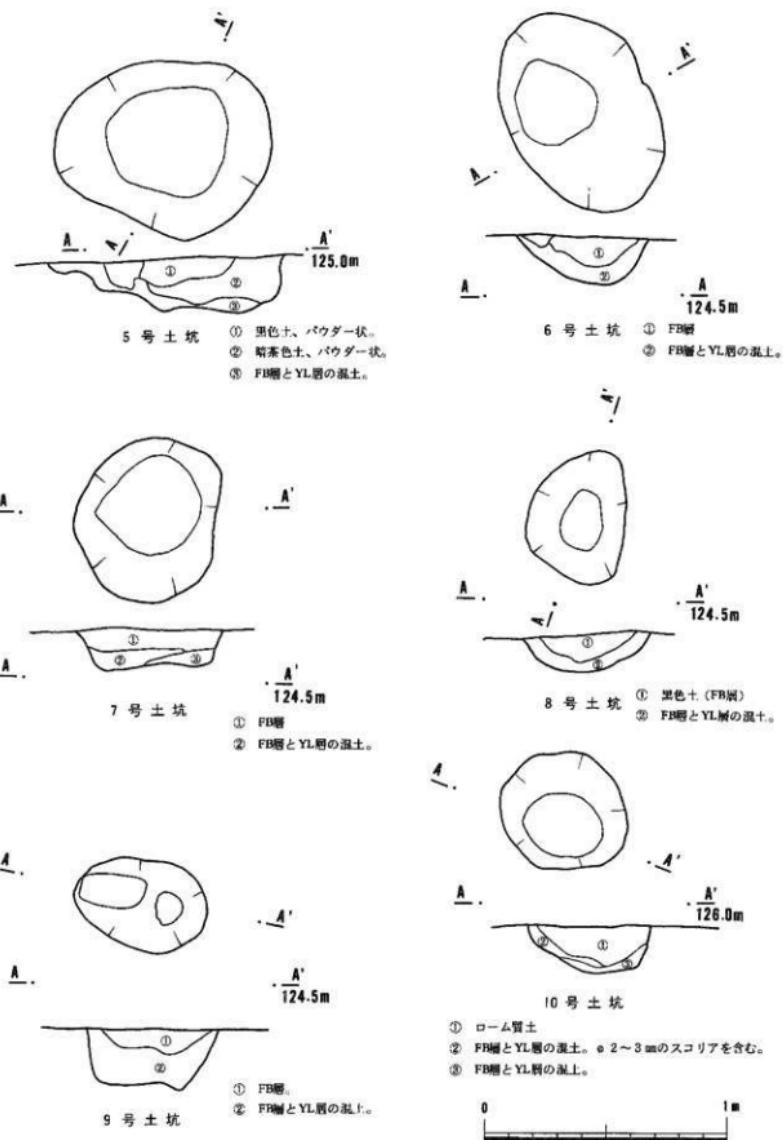
第8図 第1号住居跡遺物出土状況図 (1/40)



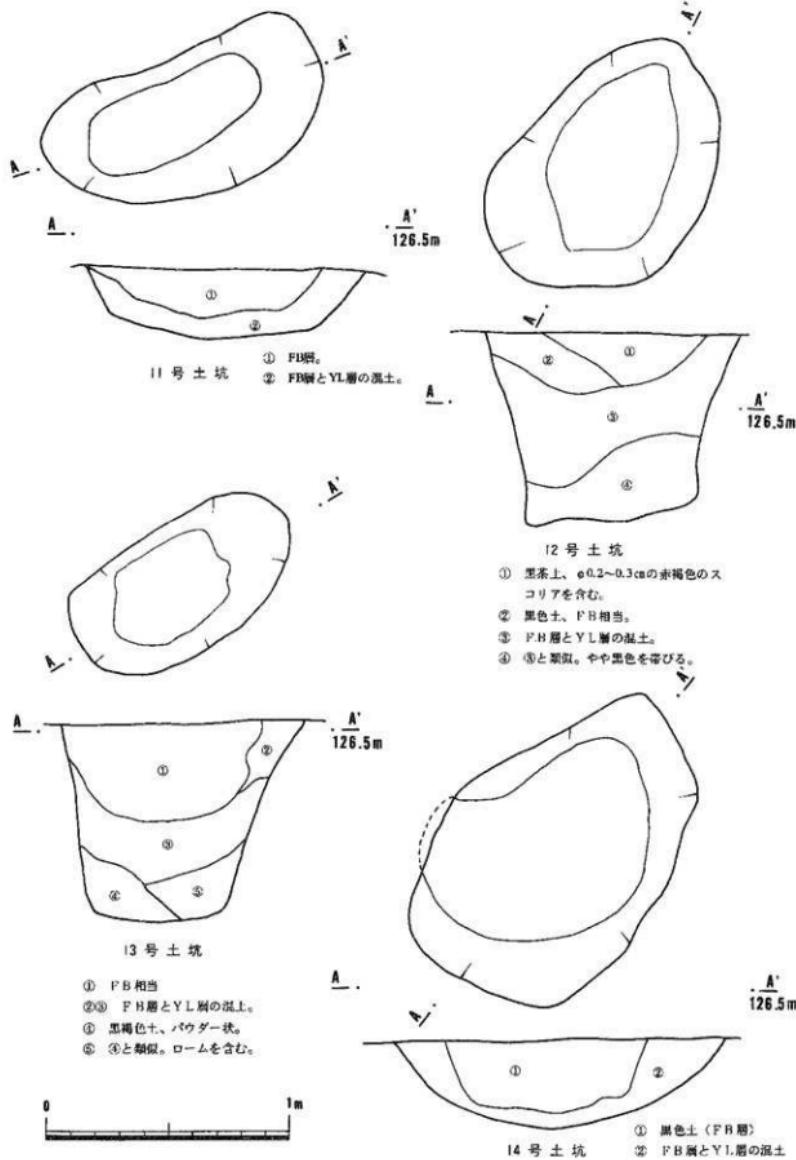
第9図 第1号住居跡出土石器 (1/3)



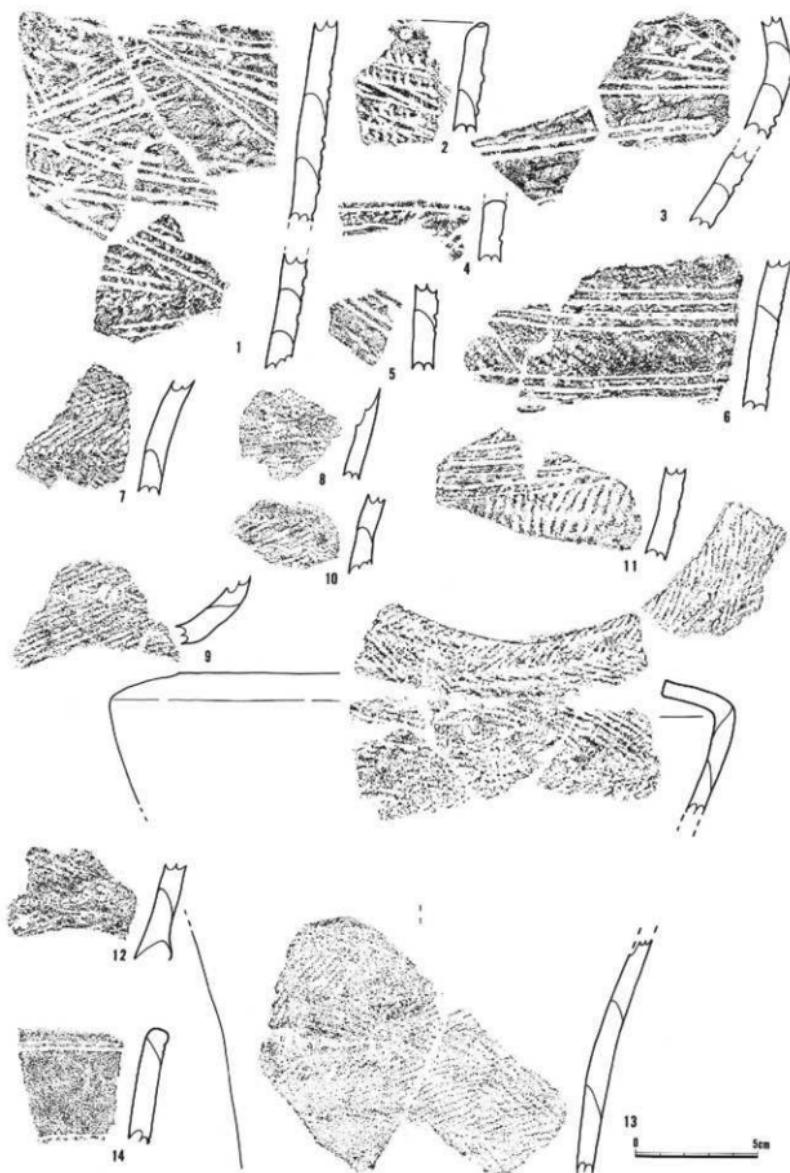
第10図 F B層土坑図1 (1/20)



第11図 FB層土坑図2 (1/20)



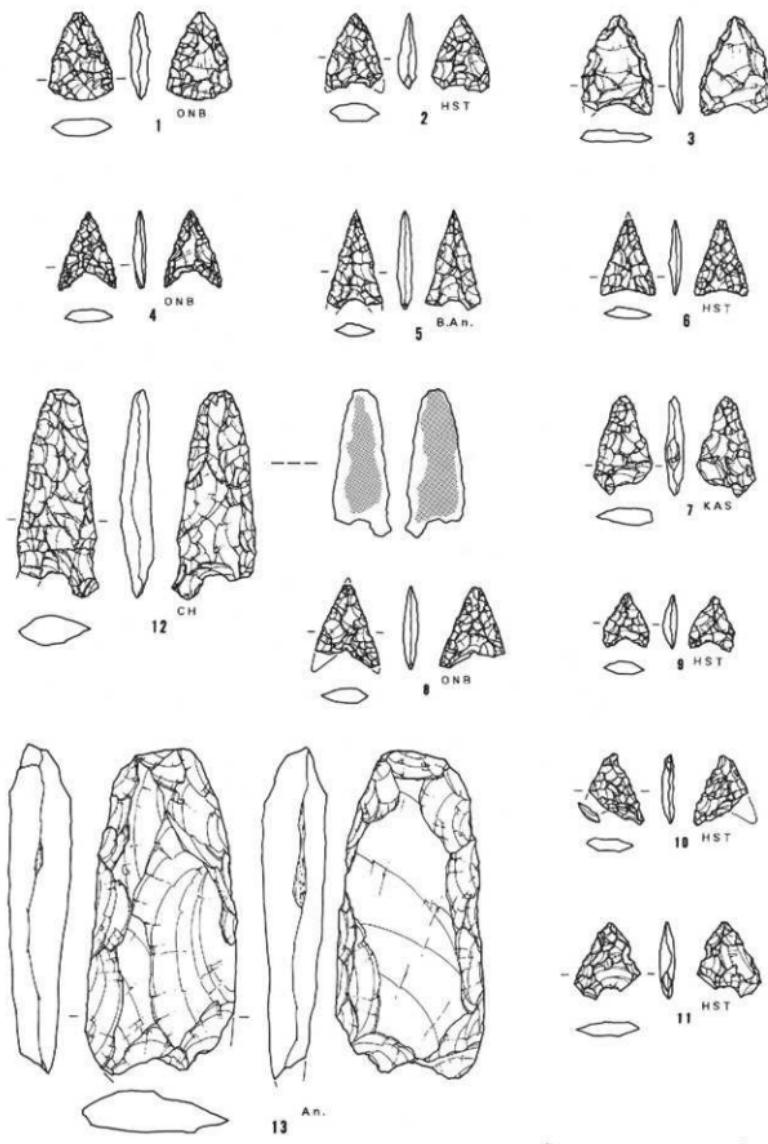
第12図 FB層土坑図3 (1/20)



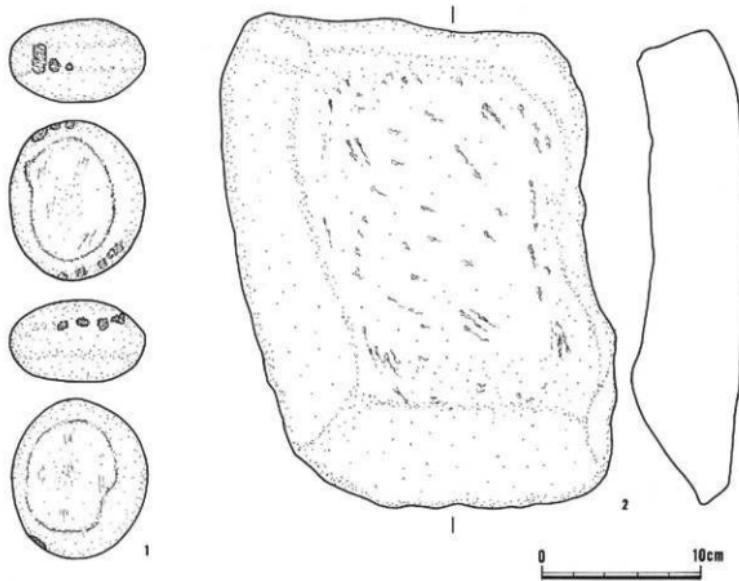
第13図 繩文土器拓影図 (1/2)

表4 土器観察表

PL-NO.	部位	胎土	色調	焼成	模様などの特徴
13-1	体部	砂粒・黒雲母・金雲母・石英	明赤褐色	良好	Lの繩文地に2本単位の半裁竹管による沈線で菱形や三角形を直線的に描く。
13-2	口縁部	金雲母・長石・砂粒	赤褐色	良好	半裁竹管による押引文を2段施し、間に1条の沈線を施す。下には粘土帯をはり、同じく押引文と沈線を施す。口縁部に刻目。
13-3	体部	金雲母・黒雲母・長石・石英。(バミス)	淡赤褐色	良好	Lの繩文地に2本単位の半裁竹管による沈線。
13-4	体部	金雲母・石英・砂粒	明褐色	良好	繩文地に半裁竹管による沈線。部分的に磨滅あり。
13-5	体部	金雲母・黒雲母・長石・石英。(バミス)	赤褐色	良好	繩文地に半裁竹管による沈線。部分的に磨滅あり。
13-6	体部	金雲母・石英・砂粒	明褐色	良好	R Lの繩文を施し、その上から半裁竹管による2本単位の沈線を施す。内面ヨコナデ。
13-7	体部	金雲母・石英・長石・砂粒	黒茶褐色	良好	R L・L Rの羽状繩文。内面ヨコナデ。
13-8	底部	金雲母・黒雲母・石英・長石・砂粒	茶褐色	良好	L Rの繩文。
13-9	体部	金雲母・石英・長石・砂粒	黒茶褐色	やや脆い	R L・L Rの羽状繩文。
13-10	体部	金雲母・石英・長石・砂粒	茶褐色	良好	R L・L Rの羽状繩文。内面ヨコナデ。
13-11	体部	金雲母・黒雲母・長石・石英。(バミス)	赤褐色	良好	L Rの繩文地に半裁竹管による沈線。
13-12	底部付近	金雲母・黒雲母・石英・長石・砂粒	赤茶褐色	良好	R Lの繩文、内面はヨコナデ。
13-13	口縁部～体部	金雲母・黒雲母・石英・長石・砂粒	茶褐色	良好	口縁部は上L R・下R Lの羽状繩文、体部は上R L・下L Rの羽状繩文。
13-14	口縁部	石英・金雲母・砂粒・黒色スコリア	黒褐色	良好	内外面とも丁寧なナデ調整。口縁端部は丸みを帯びる。外表面は半裁竹管による押引文。



第14図 遺構外出土の石器 1 (4/5)



第15図 遺構外出土の石器 2 (1/3)

表5 繩文時代石器計測表

(単位:mm, g)

器種	P	L	N	アーチト	遺物番号	石材	黒曜石原産地	最大縦長	最大横長	最大厚	重量
石核	8	1	M4	542	黒曜石	HST	25	18	10	4.7	
石匙	8	2	M4	550	石英輝石安山岩		58	26.5	8		10.8
磨石・敲石	9	3	M4	535	玄武岩質溶岩		65.5	104	52.5		391.6
磨石・敲石	9	3	M4	538	玄武岩質溶岩		100.2	70.5	54		381
磨石・敲石	9	4	M4	142	輝石安山岩		97	90.5	55.5		575
敲石	9	5	M4	549	角閃石安山岩		76	53	36		160
磨石	9	6	M4	553	玄武岩質溶岩		168	103	72		1440
石皿	9	7	M4	547	玄武岩質溶岩		244	288	89		5700
石鏃	14	1	N5	1	黒曜石	ONB	23	16.5	5		1.5
石鏃	14	2	N10	23	黒曜石	HST	(29.5)	(15.5)	(4.5)		(0.9)
石鏃	14	3	表採		粘板岩		25	18.5	3		1.5
石鏃	14	4	M5	1	黒曜石	ONB	20	15	3		0.5
石鏃	14	5	表採		黑色巖質安山岩		(25)	(14)	(4)		(0.7)
石鏃	14	6	M5	2	黒曜石	HST	19	14	3.5		0.5
石鏃	14	7	N5	3	黒曜石	KAS	(25.5)	(15)	(5)		(1.1)
石鏃	14	8	K5	65	黒曜石	ONB	(22)	(16.5)	(5)		(0.9)
石鏃	14	9	表採		黒曜石	HST	14	12	3.5		0.4
石鏃	14	10	L5	6	黒曜石	HST	18	19	4		0.5
石鏃	14	11	表採		黒曜石	HST	(19.5)	(17)	(4)		(0.9)
異形局部磨製石器	14	12	F13	1	チャット		(53)	(21.5)	(9)		(7.7)
打製石斧	14	13	表採		安山岩		(110)	(47)	(20)		(110)
磨石	15	1	H6	5	輝石安山岩		98.5	84	51		598.3
石皿	15	2	表採		輝石安山岩		245	307.5	69		7500

## 第2節 休場層上層の遺構と遺物

### 1 概要

休場層上層からは、縄文時代草創期と考えられる逆茂木痕を持つ土坑が4基、有舌尖頭器5点、石槍1点が出土している。

### 2 遺構（第17～21図）

YL層を覆土に持つものが11基検出されている。これらはBB0層の精査中にYL層の落ち込みとして確認した。中でも1号土坑～4号土坑は、土坑底部に深さ20cm前後の小穴を有するため、陥れ穴と考えられる。また2号土坑の覆土から有舌尖頭器が出土したことから、形態が類似するこの4基を縄文時代草創期の遺構としてとらえた。

#### 1号土坑（第17図）

M5グリッドに位置する。土坑の長軸は東西にあり、底部には深さ15～20cmの5個の小穴が確認された。土坑を半裁したところ、土坑壁はBB0・BBIにおいて‘荒れ’がひどく、ロームの侵入が確認された。これは、この土坑が一定期間、開口状態で放置されていたことを示す。長径109cm、短径84cm、深さ57cm。検出面はBB0層であるため、構築時の深さは100cmほどになると考えられる。

#### 2号土坑（第17図）

L5グリッドに位置する。土坑の長軸は東西にあり、底部には深さ15～20cmの4個の小穴が確認された。完掘後、底部をスライスして小穴の断面を確認したが、4個とも先端が尖る逆三角形を呈していた。また覆土③からは頁岩製の有舌尖頭器（第22図2）が出土した。長径90cm、短径56cm、深さ77cm。検出面はBB0層。

#### 3号土坑（第18図）

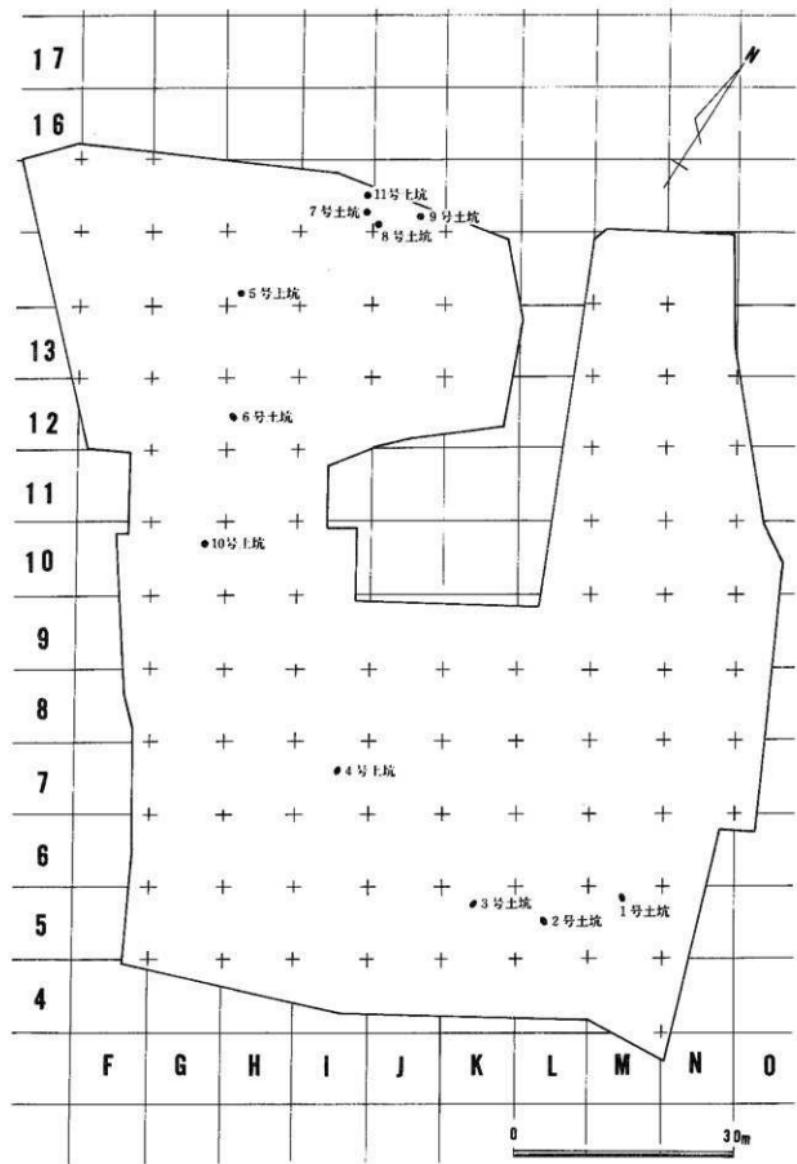
K5グリッドに位置する。土坑の長軸は南北にあり、底部には深さ11～24cmの9個の小穴が確認された。土坑を半裁したところ壁の崩落が著しく、北壁はロームの侵入によってフラスコ状に変形する。長径100cm、短径78cm、深さ75cm。検出面はBB0層。

#### 4号土坑（第19図）

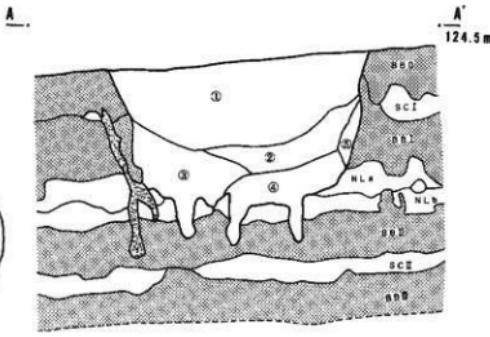
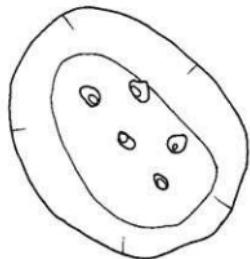
I7グリッドに位置する。土坑の長軸は南北にあり、底部には深さ8～15cmの7個の小穴が確認された。長径113cm、短径68cm、深さ70cm。検出面はBB0層。

#### 5号～II号土坑（第19～21図）

底部に逆茂木痕が観察されない土坑が7基検出されている。いずれも覆土にYL層を持つが、遺物は出土していないため、後期II石器時代後半～縄文時代草創期の遺構と考えられる。また検出面は全てBB0層である。

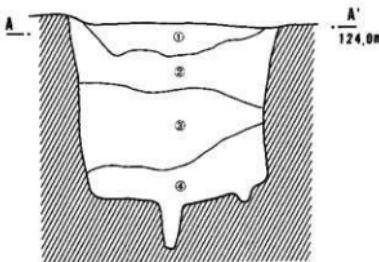


第16図 Y L U 厩土坑配置図



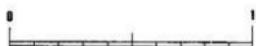
I号土坑

- ① YLU相当。パウダー状を呈する。
- ② BB相当の黒色のブロックをローム中に少量含む。
- ③ ②と類似するがBB0の含有量が増える。NLと考えられる黄色のスコリア塊を少量含む。
- ④ BB1の崩落土。
- ⑤ BB0相当の崩落土。

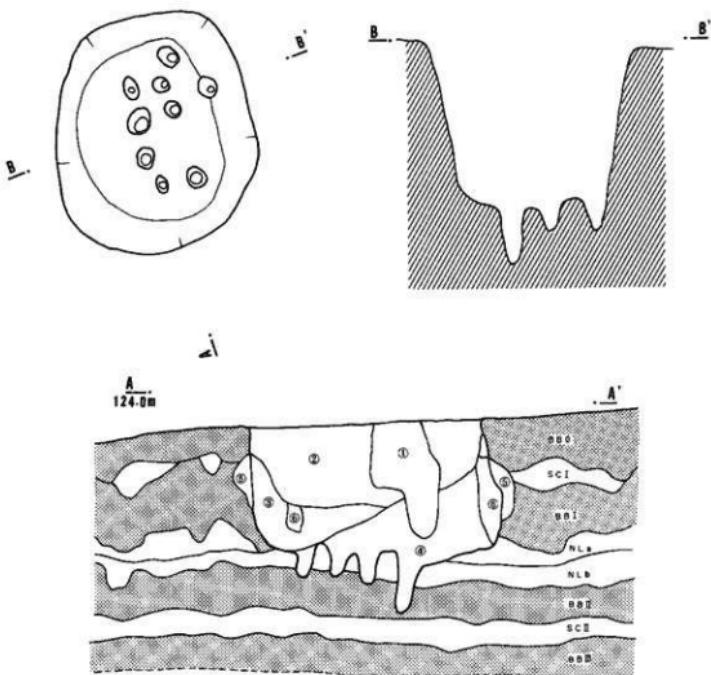


2号土坑

- ① YLU相当。パウダー状を呈する。
- ② 茶褐色上、赤色スコリアを少量含む。
- ③ ローム層にBB0相当の土がブロック状に混入する。
- ④ ③とほぼ同質だが、BB0の混入割合が高くなる。



第17図 YLU層土坑図1 (1/20)

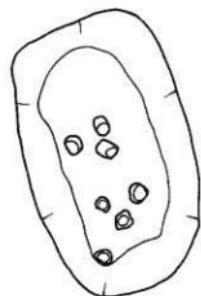


3号土坑

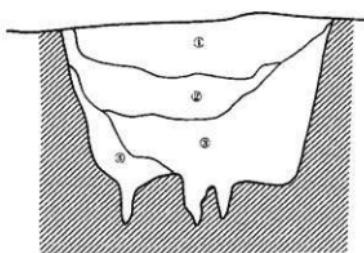
- ① 摂乱土
- ② YLU相当。パウダー状を呈し、YL Uに特徴的な乳白色の斑紋を有す。
- ③ ②にBB0相当のブロックが混入したもの。
- ④ BB1、BB0相当の崩落土とロームの混土。部分的にSC1起源と考えられるスコリアが混入する。
- ⑤ ②に類似する。BB1が崩落した後のロームの侵入と考えられる。
- ⑥ BB1のブロック。



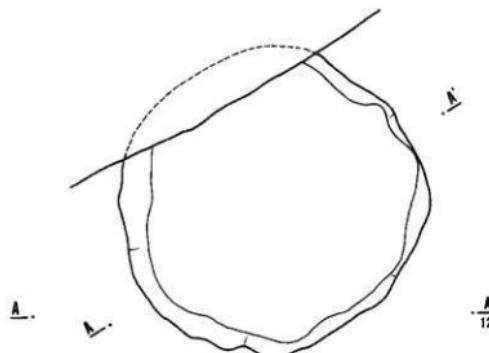
第18図 YLU層土坑図2 (1/20)



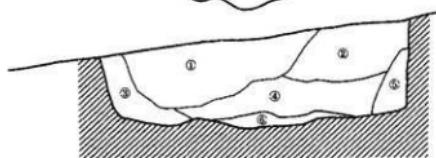
4号土坑



- ① Y L U相当。パウダー状を呈する。
- ② ローム層にBB0相当の土がブロック状に混入する。
- ③ BB0、BB1相当の土とローム層の混土。
- ④ BB1の崩壊土と考えられる黒色野スコリア質土。



126.5m

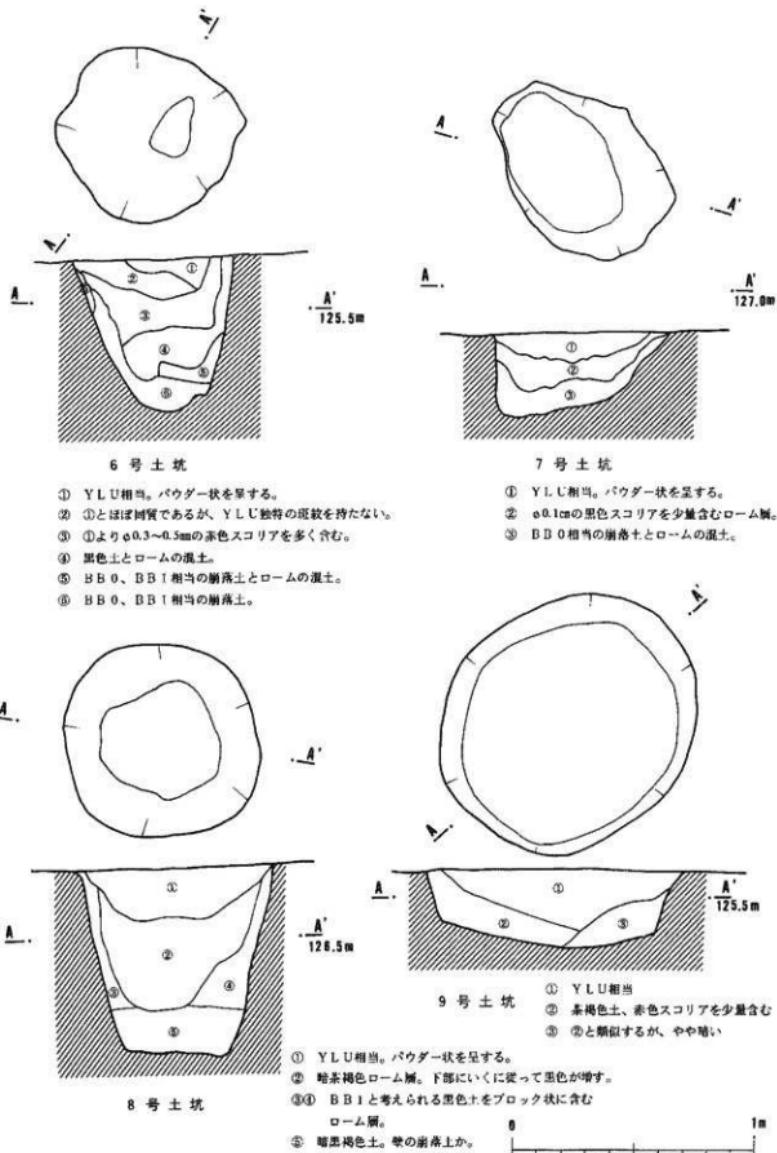


- ① Y L J相当。パウダー状を呈し、φ0.1cm以下の赤色スコリアを含む。
- ② ①と類似するが、やや黒色を呈する。
- ③ ロームとBB0相当の黒色土との混土。
- ④ ③と類似するが、φ0.1~0.5cmの赤色スコリアを含む。
- ⑤ ③ BB0相当の崩壊土。

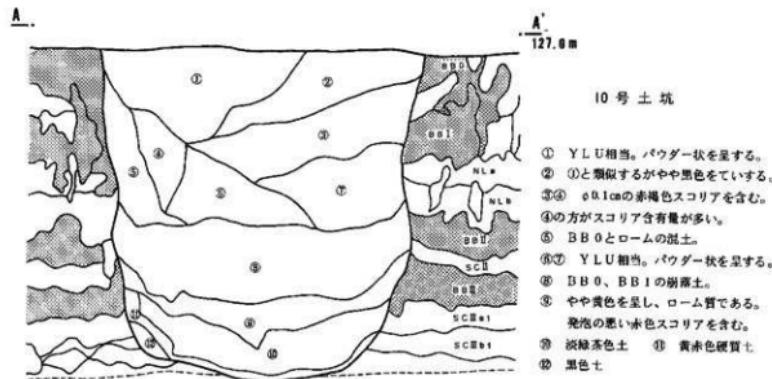
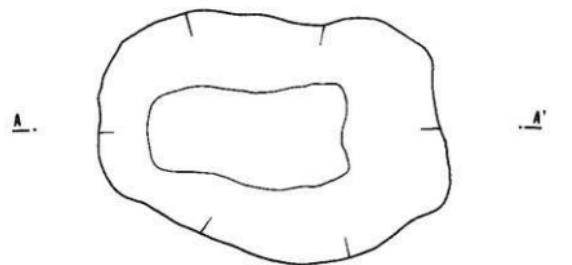
5号土坑



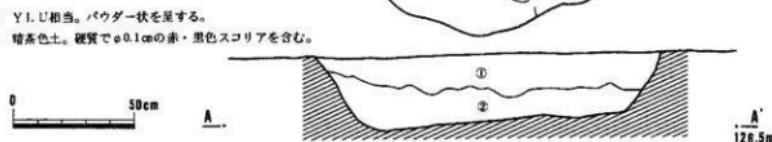
第19図 Y L U層土坑図3 (1/20)



第20図 YLU層土坑図4 (1/20)



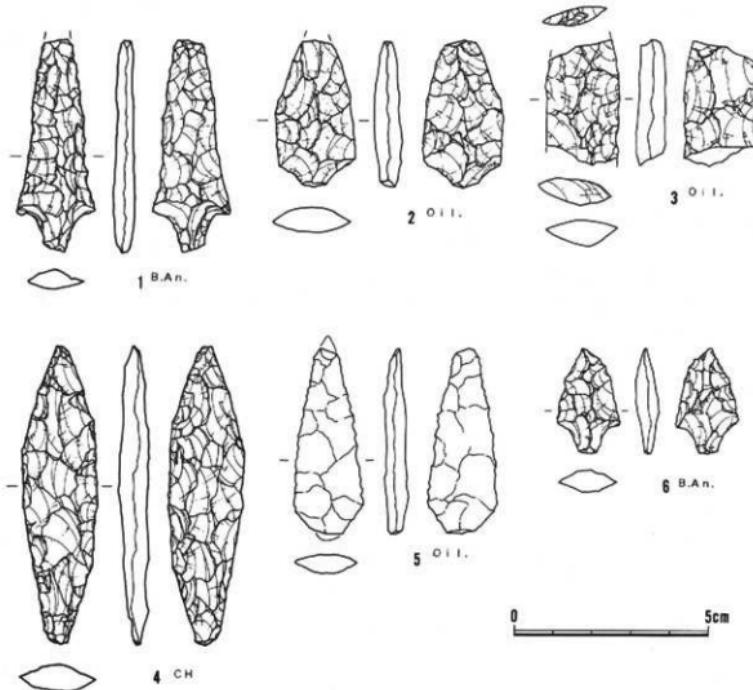
11号土坑



第21図 YLU層土坑図 5 (1/20)

### 3 石器 (第22図)

1は黒色緻密安山岩製の有舌尖頭器である。舌部と先端部を欠損する。2は頁岩製の有舌尖頭器で、舌部は欠損しているが短く、緩やかに内湾する。風化が著しい。3は有舌尖頭器の胴部と考えられる。4はチャート製の石槍である。



第22図 YLU層有舌尖頭器・石槍 (4/5)

表6 YLU層有舌尖頭器・石槍計測表

(単位mm・g)

器種	P.L.	No.	アリット	遺物番号	石材	母岩別	ブロック	最大縦	最大横	最大厚	重量
有舌尖頭器	22	1	N5	5	黒色緻密安山岩		(54)	(20)	(6)	(6)	
有舌尖頭器	22	2	L5	50	頁岩		(37.5)	(20.5)	(7.5)	(6.1)	
有舌尖頭器	22	3	F12	4	頁岩		(37)	(22)	(9)	(8.5)	
石槍	22	4	N10	28	チャート		76	19	7.5	11.7	
有舌尖頭器	22	5	N4	4	凝灰岩質頁岩		(47.5)	(18)	(6.5)	(4.1)	
有舌尖頭器	22	6	M11	5	黒色緻密安山岩		27	16	6	1.7	

## 第IV章 旧石器時代の遺構と遺物

### 第1節 休場層中層内の遺構と遺物

#### 1 概要

休場層中層中位から休場層上層下位にかけて遺物の出土が認められた文化層で、調査区内に一見環状を呈するように、16箇所の石器ブロックと疊群が検出された。遺物の出土は約50cmほどの垂直幅をもって認められるが、疊群の底面レベルが休場層中層中位から上位に安定していることから生活面は、休場層中層中位から上位と考えている。

#### 2 石器

出土した石器の総点数は913点である。内訳は以下の通り。

表7 YL層石材別器種組成表

	黒縞石							頁岩	チャート	黒縞 安山岩	安山岩	その他	合計
	WAD	HST	MUG	HAT	KAS	ONB	測定不可能品						
石槍	2	1		2				1		2			8
ナイフ形石器	12	35	12	7	1			10		3			80
台形様石器		2							1				3
搔器	1	1		2		1		2	1				8
削器		5	2	2				1	1				11
抉入削器		3							1				4
彫器		2											2
楔形石器		6	1		1			1	1	1			11
石刃状剥片		2						21	2				25
小型石刃状剥片		16			1								17
石核			3	1				20	2	8			34
敲石・磨石								1			19	2	22
剥片・碎片	9	229	35	61	8	1	43	226	28	37	6	5	688
合計	24	302	50	77	11	3	43	283	37	51	25	7	913

### (1) 尖頭器 (第23図)

- 幅広の木葉形の尖頭器 3点と、片面あるいは縁辺調整の小型尖頭器が 5点出土している。
- 1は畠宿の黒耀石製で、木製品と考えられる。裏面に素材の剥離面を残し、断面形は菱形を呈する。
  - 3は頁岩製の木葉形の尖頭器で、裏面に素材の剥離面を残す。
  - 4は和田岬産の黒耀石製で、縦長の分厚い剝片の背面に急角度の調整を施した、片面加工の尖頭器である。背面には素材の剥離面を残し、断面形は台形を呈す。
  - 5は和田岬産の黒耀石製の石槍である。縦長の剝片を素材として、縁辺部より平坦な調整を施す。背面、腹面ともに素材の剥離面を残す。
  - 8は未製品と考える。畠宿産の黒耀石製。

表8 YL層尖頭器計測表

(単位mm.g)

器種	P	L	No.	グリット	遺物番号	石材	母岩別	ブロック	最大縦	最大横	最大厚	重量
尖頭器	23	1	06	5		黒耀石	HAT-1		50.5	38	13	19.7
尖頭器	23	2	E14	1	黒色緻密安山岩			(52)	(40)	(11)	(18.1)	
尖頭器	23	3	J14	3		頁岩			66	44	11	32.4
尖頭器	23	4	H5	2		黒耀石	WAD-3	P	51	17	8.5	5.2
尖頭器	23	5	J14	1		黒耀石	WAD-5		36	14	510	2.4
尖頭器	23	6	F9	5		黒耀石	HST-2		(21)	(14)	(4.5)	(0.9)
尖頭器	23	7	N3	3	黒色緻密安山岩				(34)	(19)	(4)	(1.4)
尖頭器	23	8	I5	2		黒耀石	HAT-1		36	20.5	8	4.7

### (2) ナイフ形石器 (第24~28図)

80点が出土している。石材の内訳は、黒耀石製67点、頁岩製10点、黒色緻密安山岩製3点で、なかでも鬼ヶ塔産の黒耀石は全体の48%を占める。また、ナイフ形石器の分布は調査区の南側、M・N・Oブロックに集中する傾向があり、各ブロックが保有する石材の影響が考えられる。なお、欠損率は45%である。

これらはプランティングの施された部位によって大きく5種類に分類される。

- 1類 二側縁に調整を施し、刃部が全長の1/2以上のもの。
- 2類 二側縁に調整を施し、刃部が全長の1/2に達していないもの。
- 3類 基部と先端部に調整を施すもの。
- 4類 一側縁に調整を施すもの。
- 5類 先端部に調整を施すもの。

#### 1類 (第24図1~15) 二側縁に調整を施し、刃部が全長の1/2以上のもの。

15点が該当する。基本的には縦長剝片を素材として用い、剝片の長軸を石器の縦軸にとる。よって、1~3、6~9、11~15は打面や打溜を取り去っているが、5、10のように打溜が発達していないものについては残るものもある。

2は平面的な二側縁のプランティングに加え、基部に平坦な剥離を加えたものである。3は素材となる剝片の形状を大きく変えるように、背面と覆面両方から急斜なプランティングを施すもので、基部を平坦に整える。9は刃部をスクレイパーに転用したものである。

#### 2類 (第25図、第26図1~4) 二側縁に調整を施し、刃部が全長の1/2に達していないもの。

17点が該当する。いわゆる切(折)断技法を用い、素材の形状を大きく変えるものが多い。

25-1は縦長の剥片を素材として、急斜なプランディングを背面と覆面の両方から施し、打溜を取り去っている。刃部は使用痕が顕著である。25-2・3・4は素材の剥片を横方向に置き、打面と打溜を取り去っている。25-6は剥片に急角度の調整を背面と覆面の両方から施す。打面と打溜は残す。26-1は剥片の先端部と縁辺部に背面と覆面の両方からプランディングを施したもので、打面と打溜は残す。

### 3類（第26図5～14）基部と先端部に調整を施すもの。

10点が該当する。素材の形状をあまり変えることなく用いるもので、縦長剥片を使用する。基部の調整には、腹面に平坦剥離を加えるもの（26-1・2）と、縁辺部にのみプランディングを施すものがある。

### 4類（第27図、第28図1～4）一側縁に調整を施すもの。

18点が該当する。素材の形状をあまり変えることなく、剥片の一側縁に調整を施す。素材には、縦長剥片を用いたもの（27-1・2・4・5・6・7・8・9・10・11・12・13、28-1・4）と、貝殻状の剥片を用いたもの（27-3、28-2・3）がある。

### 5類（第28図5・6）先端部に調整を施すもの。

2点が該当する。

28-5は縦長の剥片を素材として、剥片の先端部に斜めにプランディングを施すものである。28-6は縦長の剥片を素材として、剥片の打面側に斜めにプランディングを施すものであり、剥片の末端はヒンジフラクチャーにより、厚くなっている。

### その他（第28図7～23）

分類が不可能な欠損品をまとめた。

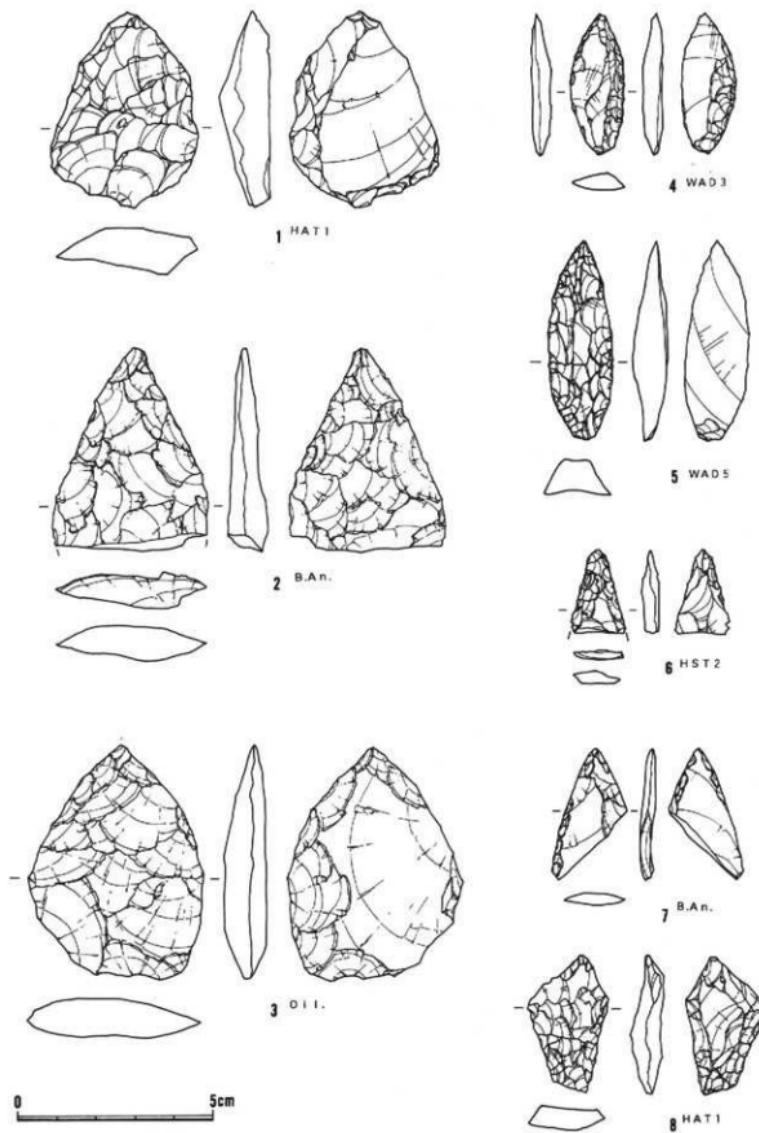
#### (3) 台形様石器（第29図）

3点が出土している。いずれも調査区の南側、Nブロックで出土している。

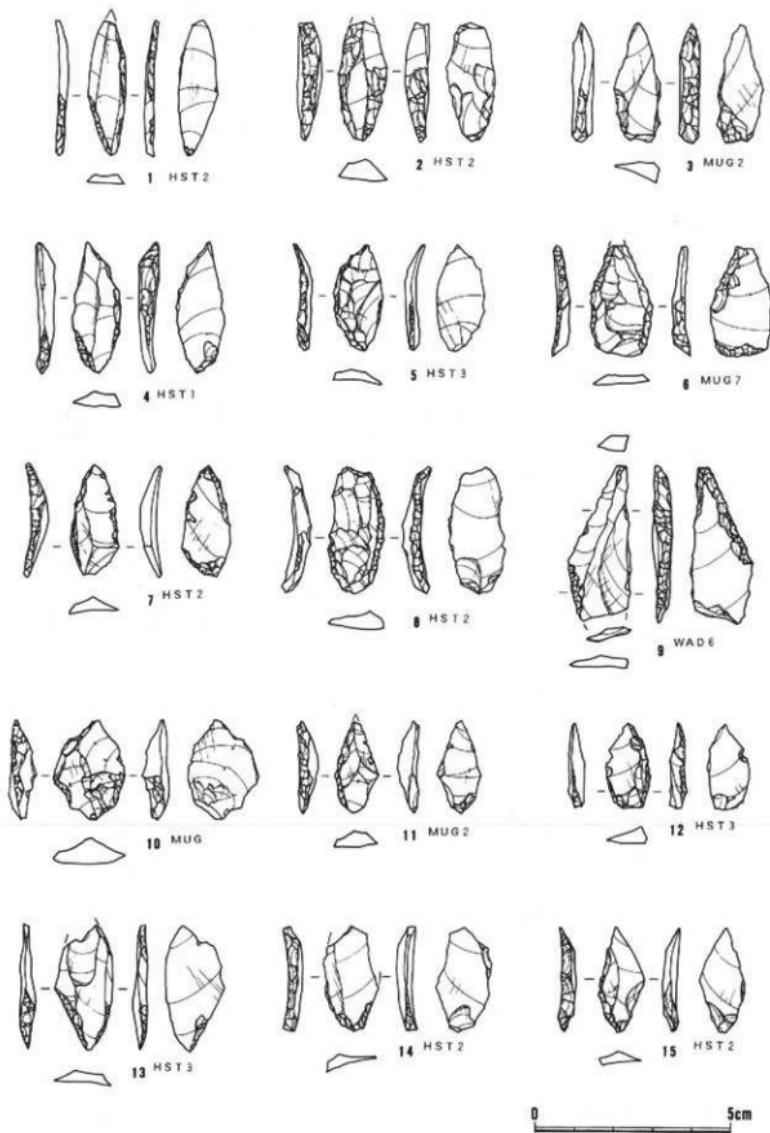
1は星ヶ塔座の黒耀石製で、剥片の末端部を折り取り、打面部には調整を加えている。また、基部背面には、稜を取り去るための調整が観察できる。

2は星ヶ塔座の黒耀石製で、剥片の末端部と打面側を折り取ったものである。上・下端には使用痕が観察される。

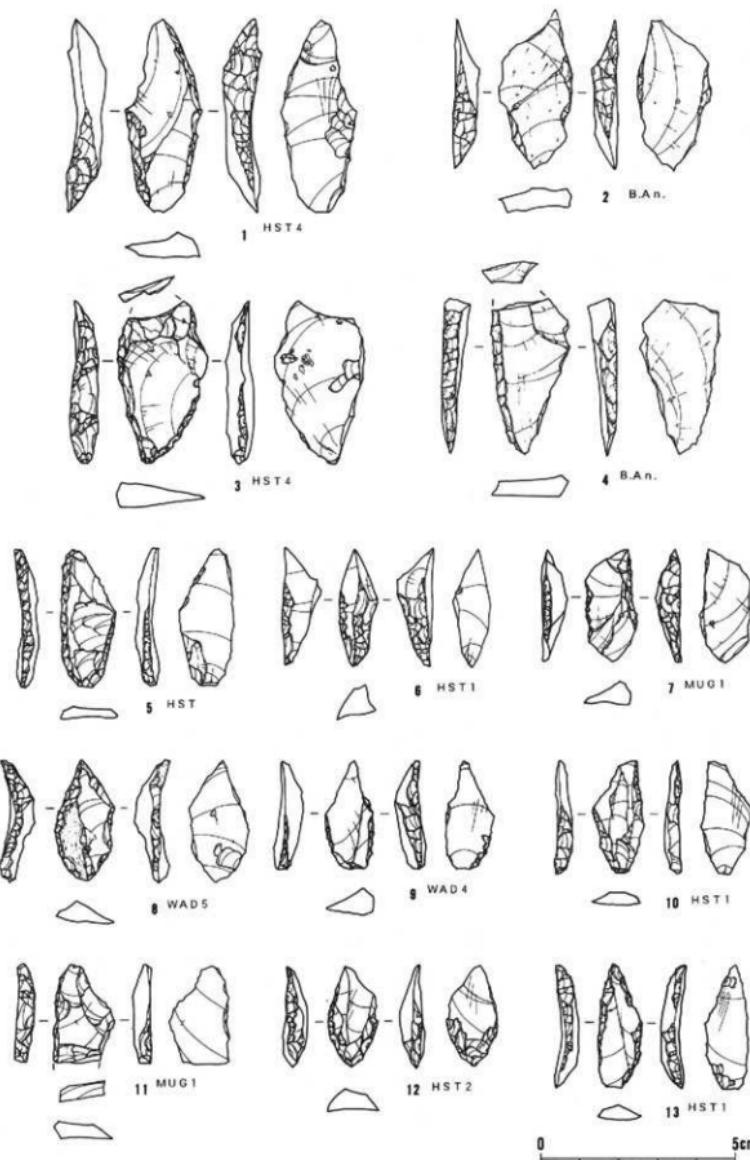
3はチャート製で、剥片の側縁部一端にプランディングを施し、同時に打面と打溜を取り去り、末端を刃部としたものである。一辺には、節理面が残る。



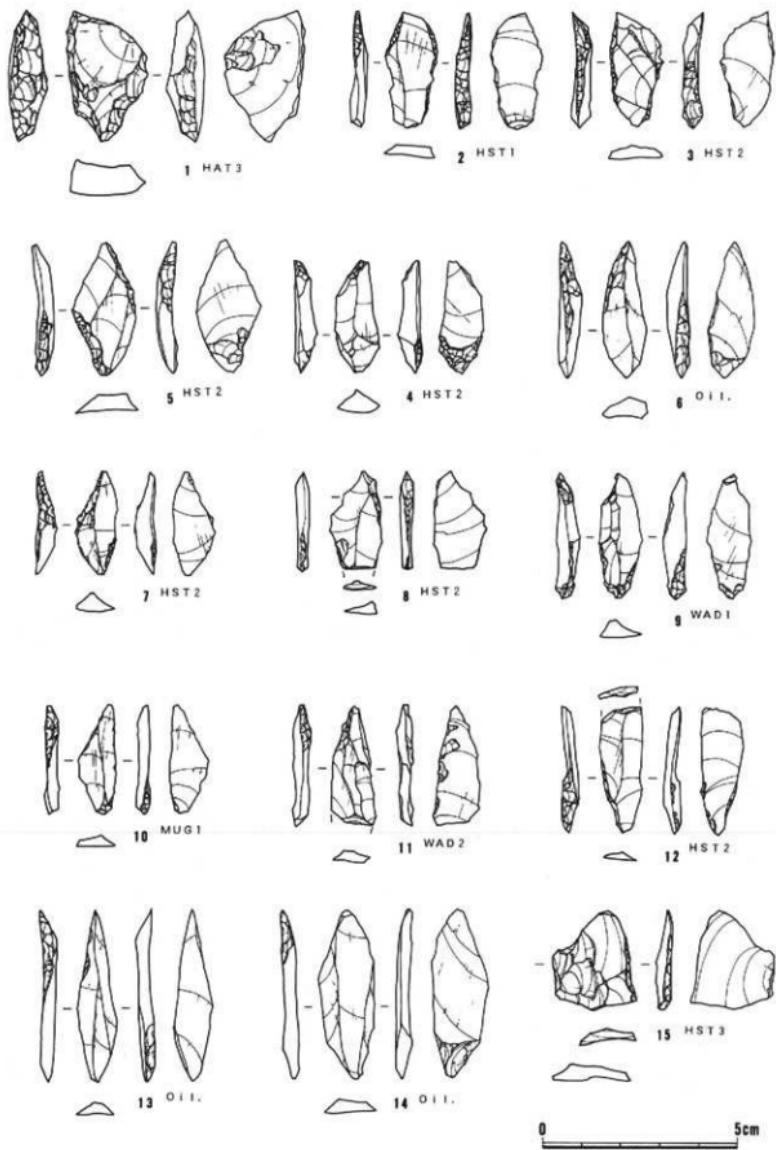
第23圖 Y.L.層尖頭器 (4/5)



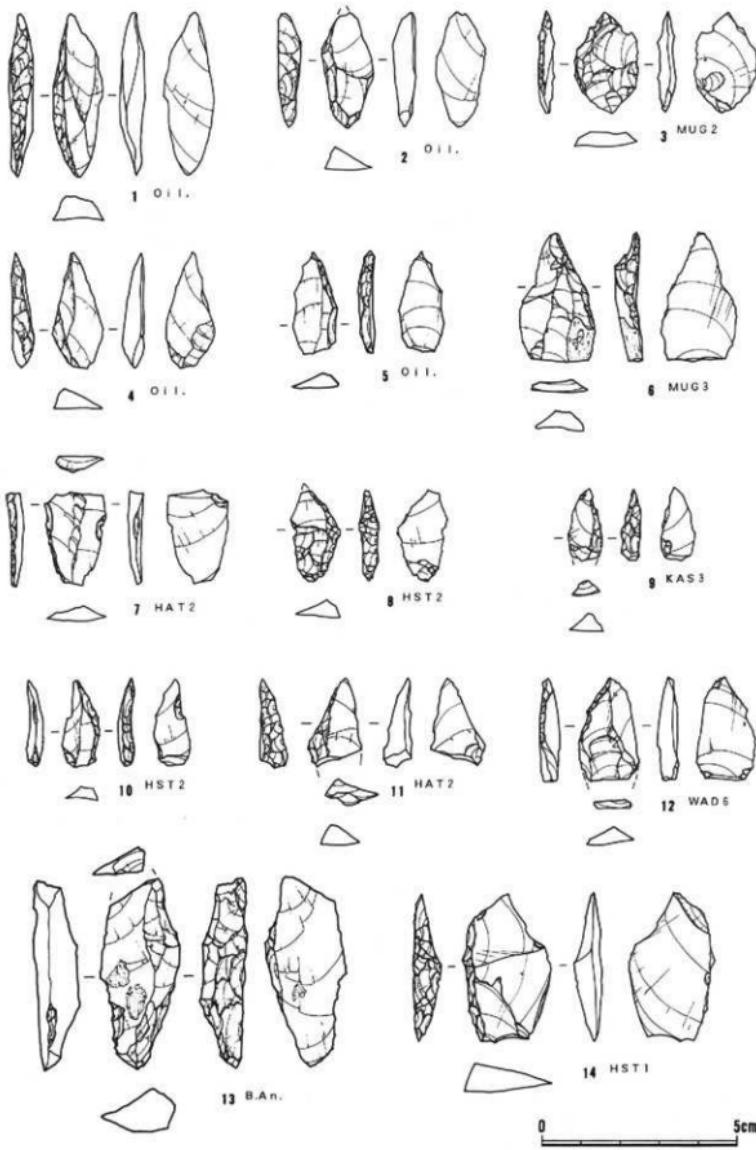
第24図 Y L層ナイフ形石器 1 (4/5)



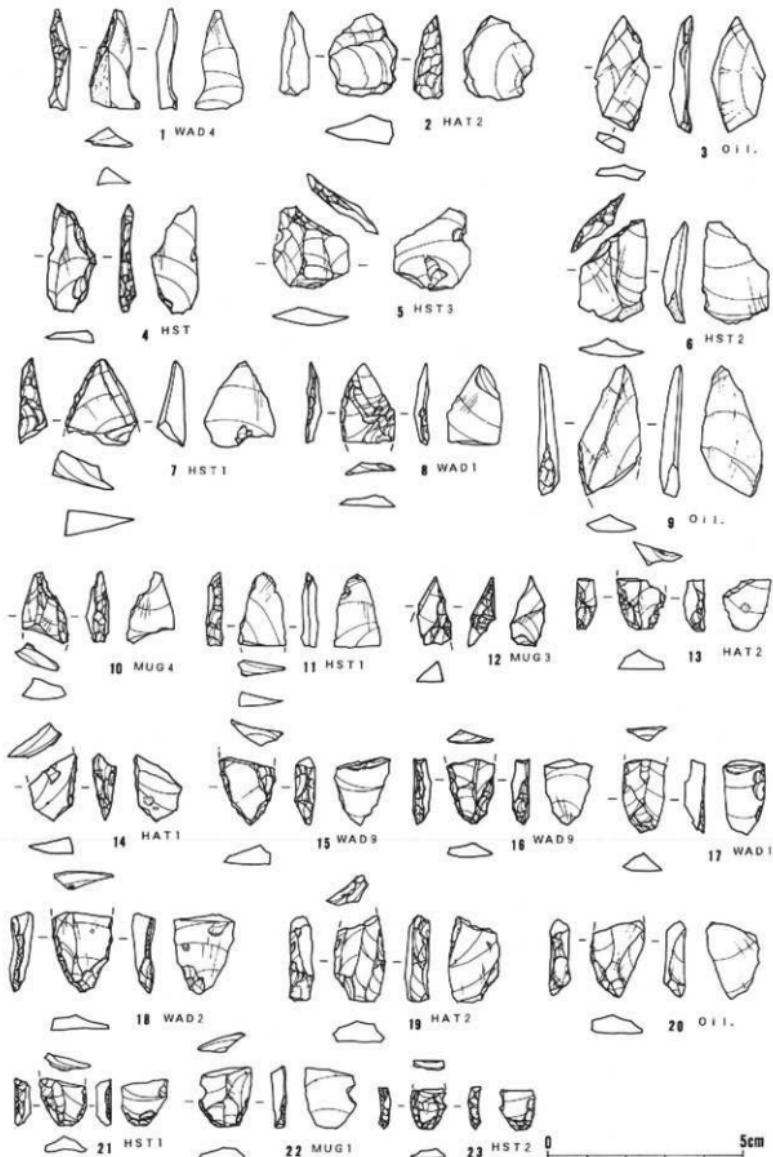
第25図 YL層ナイフ形石器2 (4/5)



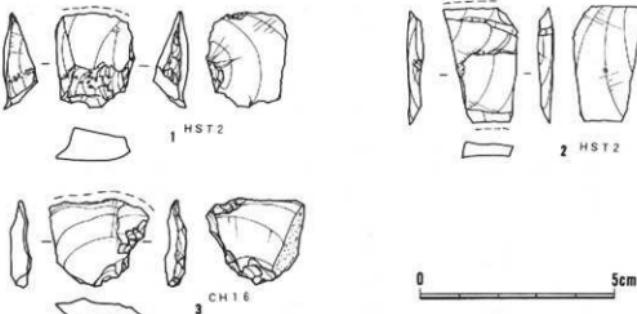
第26図 Y L層ナイフ形石器 3 (4/5)



第27図 Y L層ナイフ形石器4 (4/5)



第28図 YL層ナイフ形石器 5 (4/5)



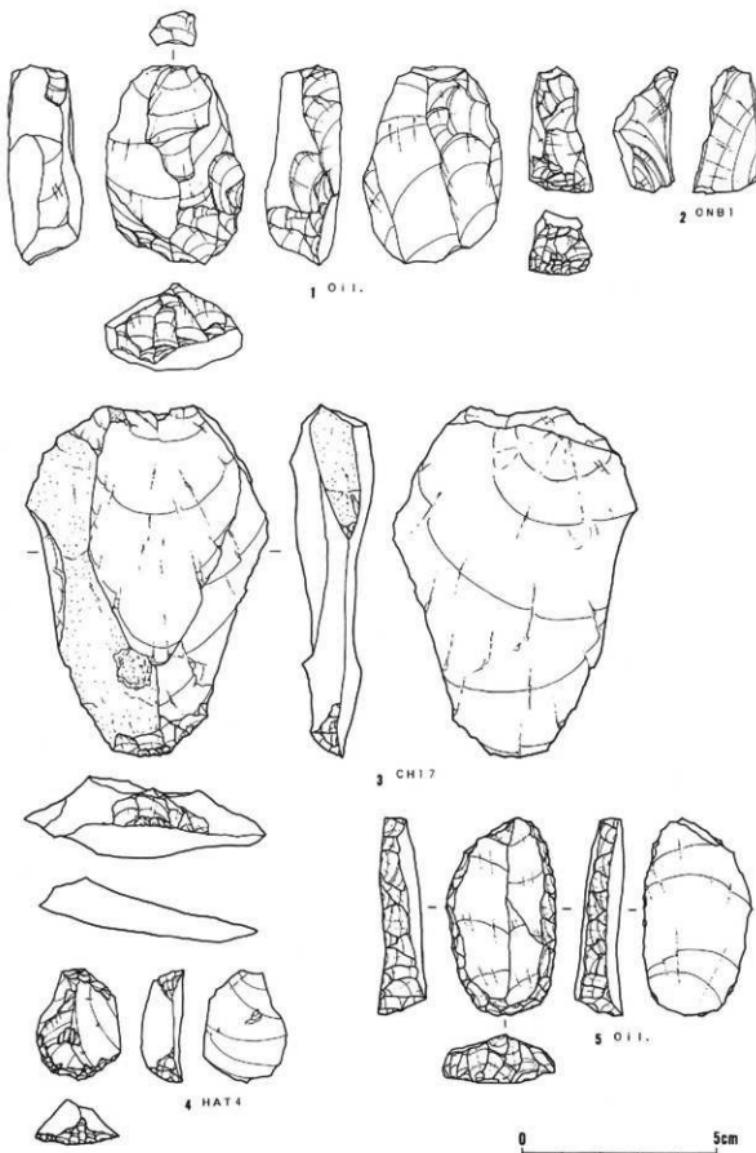
第29図 Y.L層ナイフ形石器 (4/5)

表9 Y.L層ナイフ形石器計測表

(単位mm.g)

器種	P.L	No.	ガット	遺物番号	石材	母岩別	ブロック	最大縱	最大横	最大厚	重量
ナイフ	24	2	F9	1	黒曜石	HST-2	(30)	(12.5)	(6)	(2.1)	
ナイフ	24	3	G5	8	黒曜石	MUG-2	P	31	12	5	1.7
ナイフ	24	4	E13	1	黒曜石	HST-1		33	12.5	5	1.2
ナイフ	24	5	O10	8	黒曜石	HST-3	K	26.5	13	3	0.9
ナイフ	24	6	J12	18	黒曜石	MUG-7	D	(28)	(11)	(3.5)	1.4
ナイフ	24	7	O10	1	黒曜石	HST-2	K	28.5	12.5	5	1.3
ナイフ	24	8	L6	6	黒曜石	HST-2	M	32	14.5	7	1.9
ナイフ	24	9	M5	6	黒曜石	WAD-6	L	40	18	5	2.7
ナイフ	24	10.	表採		黒曜石	(MUG)		25	18.5	7	2.2
ナイフ	24	11	F13	4	黒曜石	MUG-2	B	23.5	11	5.5	0.9
ナイフ	24	12	L11	6	黒曜石	HST-3	G	22	11	4	0.6
ナイフ	24	13	F9	2	黒曜石	HST-3		(32)	(15)	(4)	(1.1)
ナイフ	24	14	K5	48	黒曜石	HST-2		(27)	(14.5)	(4.5)	(1.4)
ナイフ	24	15	L6	8	黒曜石	HST-2	M	26.5	12	4.5	0.9
ナイフ	24	1	K5	97	黒曜石	HST-2	N	(35)	(10)	(8)	(0.8)
ナイフ	25	1	I6	1	黒曜石	HST-4		49	19	10	5.8
ナイフ	25	2	J6	2	黒色緻密安山岩		O	38.5	19	7	4.5
ナイフ	25	3	H6	2	黒曜石	HST-4		(41.5)	(23)	(7)	(6.1)
ナイフ	25	4	J6	3	黒色緻密安山岩			(40)	(21)	(6)	(4.6)
ナイフ	25	5	表採		黒曜石	(HST)		35	14.5	5	2.3
ナイフ	25	6	J5	34	黒曜石	HST-1	O	30	10	9	1.5
ナイフ	25	7	G5	3	黒曜石	MUG-1	P	28.5	13.5	6.5	1.7
ナイフ	25	8	L5	28	黒曜石	WAD-5		39	14	6	2.2
ナイフ	25	9	N3	2	黒曜石	WAD-4		28	13	6	1.4
ナイフ	25	10	J12	17	黒曜石	HST-1	D	28.5	13.5	4.5	1.1
ナイフ	25	11	H5	5	黒曜石	MUG-1	P	(25.5)	(15.5)	(5)	(2)
ナイフ	25	12	L8	13	黒曜石	HST-2	M	26	13	7	1.7
ナイフ	25	13	J13	1	黒曜石	HST-1	D	31.5	11	6	1.1
ナイフ	26	1	K5	95	黒曜石	HAT-3		33.5	20	9	5.7
ナイフ	26	2	K5	23	黒曜石	HST-1	N	29.5	13	5	1.3
ナイフ	26	3	L4	2	黒曜石	HST-2	N	29.5	8.5	5	1.6
ナイフ	26	4	N10	8	黒曜石	HST-2	I	34	16.5	5.5	2.1
ナイフ	26	5	J5	11	黒曜石	HST-2	O	29	11.5	6.5	1.2
ナイフ	26	6	L8	1	頁岩			35	11.5	6	2.2

ナイフ	26	7	K5	54	黒曜石	HST-2	N	26	10.5	5	1
ナイフ	26	8	L6	16	黒曜石	HST-2	M	(25)	(13)	(2.6)	(0.7)
ナイフ	26	9	I7	1	黒曜石	WAD-1		32	11	6	1.2
ナイフ	26	10	G5	18	黒曜石	MUG-1	P	28	9.5	3.5	0.7
ナイフ	26	11	J5	20	黒曜石	WAD-2	O	(30.5)	(12)	(4)	(1.1)
ナイフ	26	12	K5	102	黒曜石	HST-2		32	12	4	1.1
ナイフ	26	13	M9	8	頁岩			44	10.5	4	1.7
ナイフ	26	14	G10	2	頁岩	E		43.5	15	45	3
ナイフ	26	15	L11	8	黒曜石	HST-3		(25.5)	(21.5)	(4)	(1.5)
ナイフ	27	1	L10	40	頁岩	H		42	13	6	3.5
ナイフ	27	2	J8	2	頁岩			29	13	6	2.1
ナイフ	27	3	K7	9	黒曜石	MUG-2		26	16	4.5	1.3
ナイフ	27	4	L10	31	頁岩	H		29	13	6	1.7
ナイフ	27	5	表探		頁岩			26	12	3.5	1
ナイフ	27	6	F12	2	黒曜石	MUG-3	B	33	20	7	2.7
ナイフ	27	7	L5	8	黒曜石	HAT-2	N	(24)	(16)	(4)	1
ナイフ	27	8	L6	11	黒曜石	HST-2	N	23	13	5	1
ナイフ	27	9	O8	1	黒曜石	KAS-3		(18)	(18.5)	(5)	(0.5)
ナイフ	27	10	L6	34	黒曜石	HST-2	M	22	9	4	0.6
ナイフ	27	11	K6	2	黒曜石	HAT-2	M	22.5	14	7	1.1
ナイフ	27	12	H6	4	黒曜石	WAD-6		(17)	(15.5)	(5)	(1.3)
ナイフ	27	13	J6	7	黒色緻密安山岩		O	(49)	(20.5)	(12)	(10)
ナイフ	27	14	J5	56	黒曜石	HST-1	O	37	23	7	2.9
ナイフ	28	1	N3	5	黒曜石	WAD-4		25	13	5	0.9
ナイフ	28	2	F13	6	黒曜石	HAT-2	A	18	21	6.7	2.3
ナイフ	28	3	H11	3	頁岩	C		29	14	5.5	1.8
ナイフ	28	4	K5	11	黒曜石	(HST)	N	28	13	4	0.9
ナイフ	28	5	L10	10	黒曜石	HST-3	H	(21)	(20)	(4.5)	(1.3)
ナイフ	28	6	N3	6	黒曜石	HST-2		27	18	5	1.6
ナイフ	28	7	L6	17	黒曜石	HST-1	N	(22)	(18)	(7)	(1.6)
ナイフ	28	8	I5	7	黒曜石	WAD-1		(20.5)	(19)	(3.5)	(0.6)
ナイフ	28	9	F9	3	頁岩			(35)	(15)	(5)	(2.1)
ナイフ	28	10	J13	4	黒曜石	MUG-4	D	(18)	(12)	(8)	(0.8)
ナイフ	28	11	J5	54	黒曜石	HST-1	O	(19)	(13)	(3.5)	(0.7)
ナイフ	28	12	F12	9	黒曜石	MUG-3	B	19	8	7.2	0.7
ナイフ	28	13	N4	3	黒曜石	HAT-2		(13)	(12.5)	(5)	(0.7)
ナイフ	28	14	N10	22	黒曜石	HAT-1	K	(17.5)	(12)	(6)	(0.8)
ナイフ	28	15	J5	29	黒曜石	WAD-9	O	(17.5)	(9.5)	(5)	(0.9)
ナイフ	28	16	G13	2	黒曜石	WAD-9	C	(17)	(12)	(5)	(0)
ナイフ	28	17	M6	2	黒曜石	WAD-1	M	(18.5)	(11)	(5)	(0.8)
ナイフ	28	18	J5	37	黒曜石	WAD-2	O	(20.9)	(16.5)	(6)	(1.5)
ナイフ	28	19	N10	4	黒曜石	HAT-2	I	(22)	(18.5)	(6)	(2.1)
ナイフ	28	20	N9	11	頁岩	K		(20)	(19)	(5.5)	(1.6)
ナイフ	28	21	L11	9	黒曜石	HST-1		(12)	(12)	(4)	(0.4)
ナイフ	28	22	F6	1	黒曜石	MUG-1		(15.5)	(13)	(14)	(0.6)
ナイフ	28	23	L10	11	黒曜石	HST-2	H	(10.5)	(9)	(3)	(0.3)
台形様石器	29	1	K5	56	黒曜石	HST-2	N	24.5	20	8.5	3
台形様石器	29	2	K6	7	黒曜石	HST-2	N	29.5	19	4.5	2.8
台形様石器	29	3	L5	26	チャート	CH-16	N	22	26	5	2.6



第30図 Y L層 手打器 (4/5)

#### (4) 撃器（第30図、第31図1～3・5）

8点が出土している。石材の内訳は黒耀石5点、チャート1点、頁岩2点である。

30-1は頁岩製の石核を素材としたものである。平坦な面を打面としてスクレイバーエッジを削出する。30-2は神津島産の黒耀石の分厚い剥片を素材としている。30-4は畠宿産の黒耀石の分厚い剥片を素材としたもので、剥片の末端に調整を加える。母指状を呈する小型の撃器である。30-5は頁岩製の剥片を素材としたもので、剥片のほぼ全周に刃部を削出したものである。31-1は星ヶ塔産の黒耀石の剥片を素材としたもので、欠損後、削器あるいは刃器に再加工したものである。31-3は先端部が欠損しているが、ほぼ全周に加工を施したものである。

#### (5) 削器・抉入削器（第31図4・6、第32図1・2・4～7、第33図2）

15点が出土している。石材の内訳は黒耀石12点、チャート2点、頁岩1点である。削器と抉入削器は、それぞれの機能を併せ持った石器が多く、分離も困難な状況なので、本遺跡では併せて扱う。

32-1は先端部を欠損するため、撃器の欠損品とも考えられる。31-6は黒耀石製の縦長剥片の側縁部に刃部を削山したものであるが、対面する縁辺部には、使用痕が観察される。33-5は頁岩製の縦長の剥片を素材としたもので、縁辺部に抉入部を設けたものである。31-4は星ヶ塔産の黒耀石の剥片を素材とし、縁辺部に刃部を削出したものである。刃部の角度より撃器とも考えられる。33-3は稜付きの縦長剥片の縁辺部に抉入部を3箇所設けたものである。

#### (6) 彫器（第33図7・8）

2点が出土している。

33-7は星ヶ塔産の黒耀石製で、縦長の剥片の縁辺部に調整を施し、ここを打面として側縁に2条の彫刻刀面を削出する。33-8は星ヶ塔産の黒耀石製で、縦長の剥片の縁辺部に平坦な調整を施し、ここを打面として腹面側に2条の彫刻刀面を削出する。

#### (7) 楕形石器（第34図）

上下に打撃痕を残すものを分類した。11点が出土している。石材の内訳は黒耀石8点、チャート1点、頁岩1点、黒色緻密安山岩1点である。

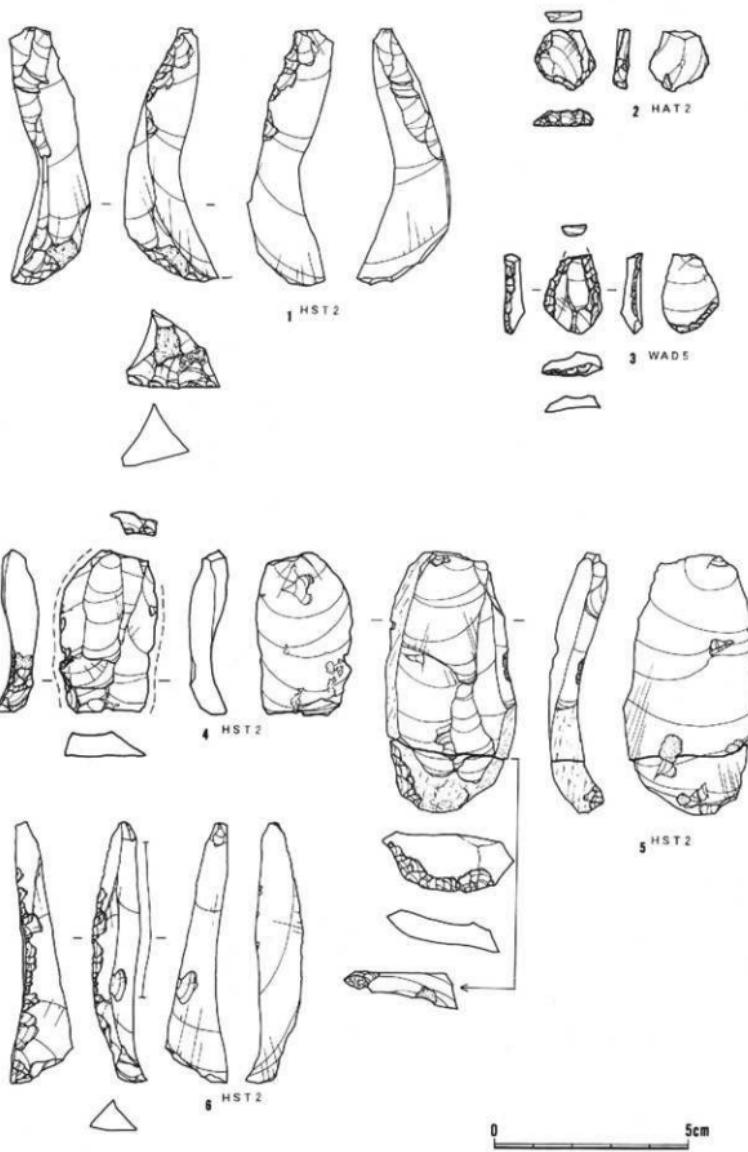
#### (8) 石刃状剥片（第35・36・37・38図）

全長が5.0cm以上で、横幅が1.5cm以上、縦長が横幅の2倍以上のもの25点を分類した。石材の内訳は黒耀石2点、頁岩21点、チャート2点で、頁岩が全体の84%を占める。これらはナイフ形石器やその他の石器の素材とは、形状や石材の選択に隔たりがあり、むしろ刃器として単独で用いられていたと考えられる。また頁岩製の石器は風化が激しく、使用痕の観察は不可能であった。分布は調査区の東側、Hブロック付近に若干集中する他は、調査区全体で検出された。

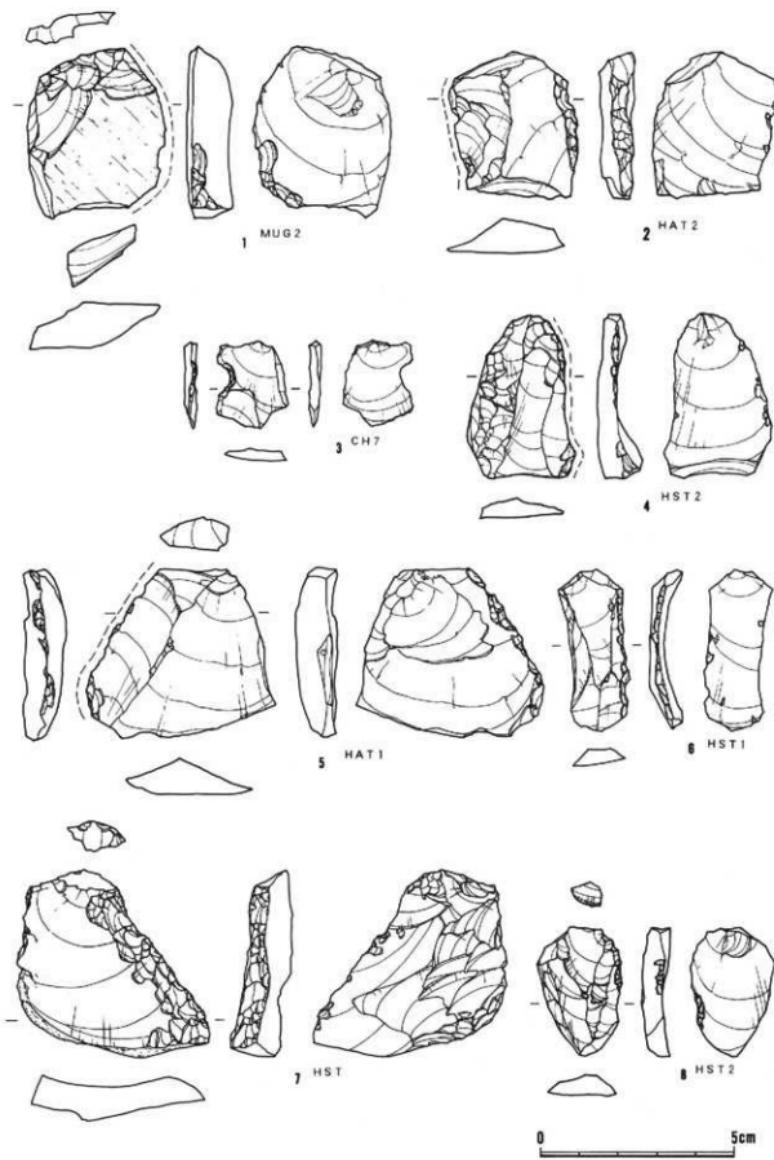
#### (9) 小型石刃状剥片（第39図）

全長が5.0cm以下で、縦長が横幅の2倍以上あり、両縁辺が平行で、背面にこれに平行な稜があるものを分類した。17点が出土している。

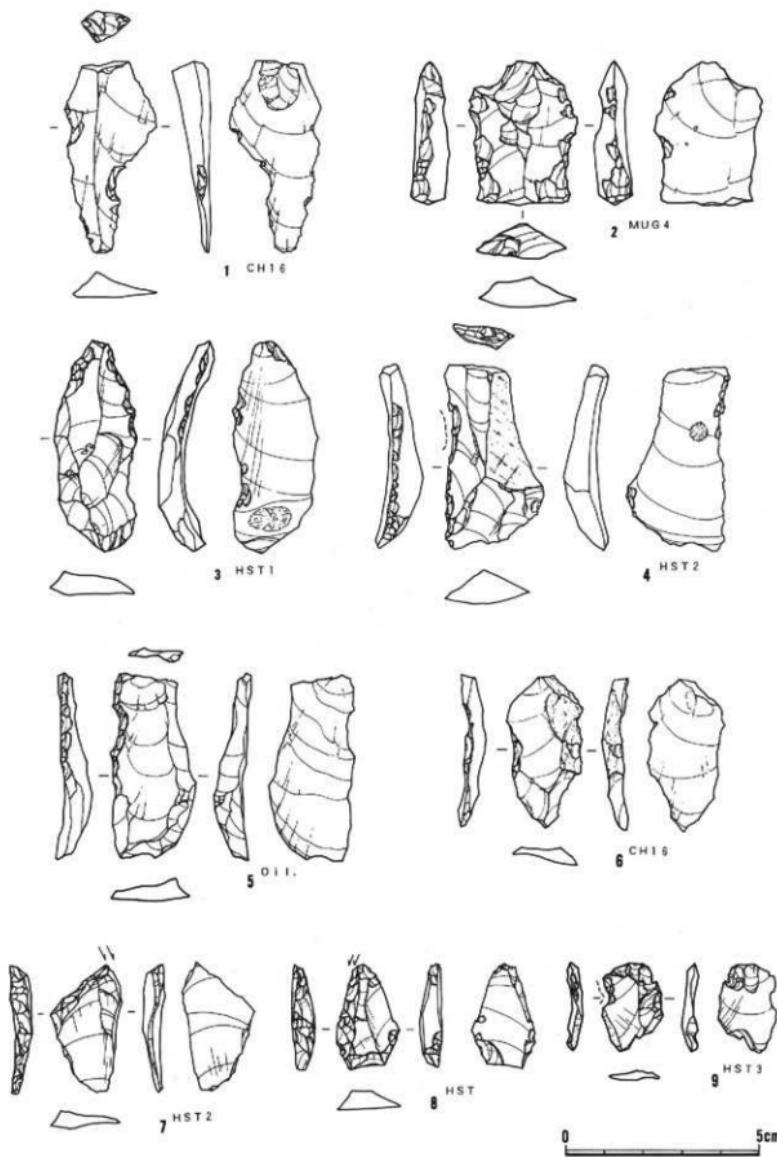
これらは細石刃と類似するが、やや大きめであることと、細石刃核が出土していないこと、そして他の石器と頁岩を共有することから区別した。石材は全て黒耀石で、产地は神津島産が1点ある他は全て星ヶ塔産である。また全てに使用痕が観察され、分布も調査区の南側、O・Nブロックに集中する。



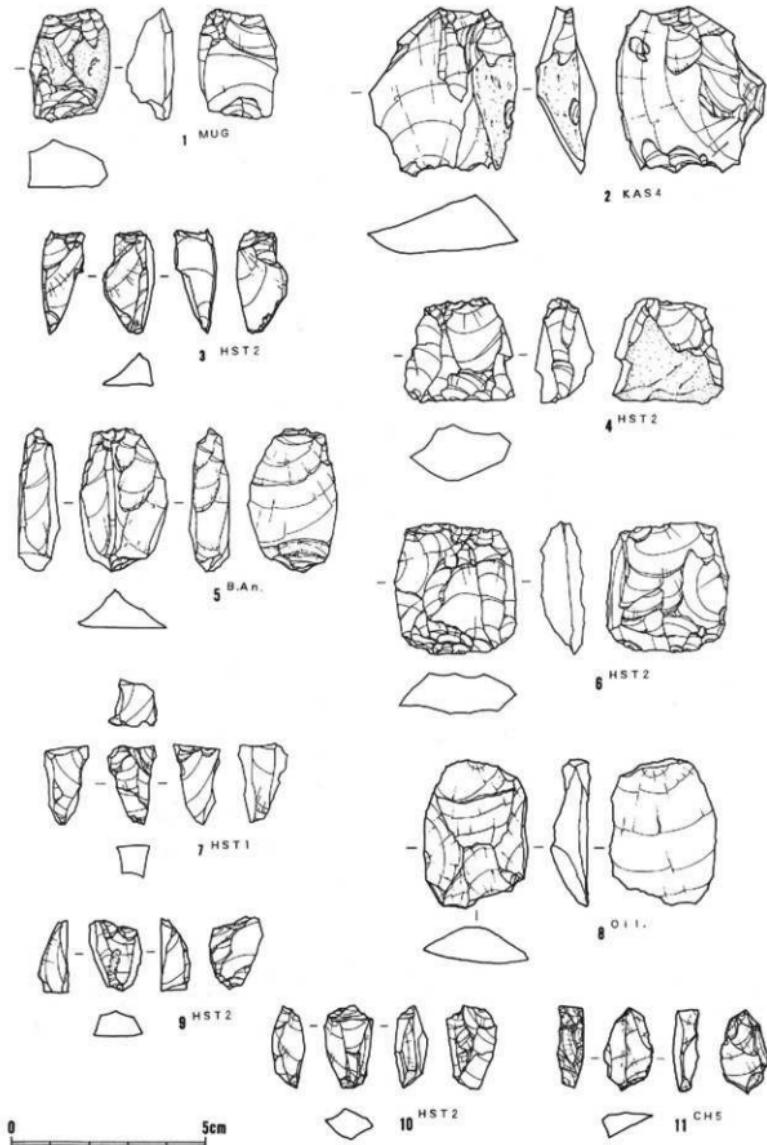
第31図 Y L層搔器・削器 (4/5)



第32図 Y L磨削器・抉入削器 (4/5)



第33図 Y L層抉入削器・彫器 (4/5)

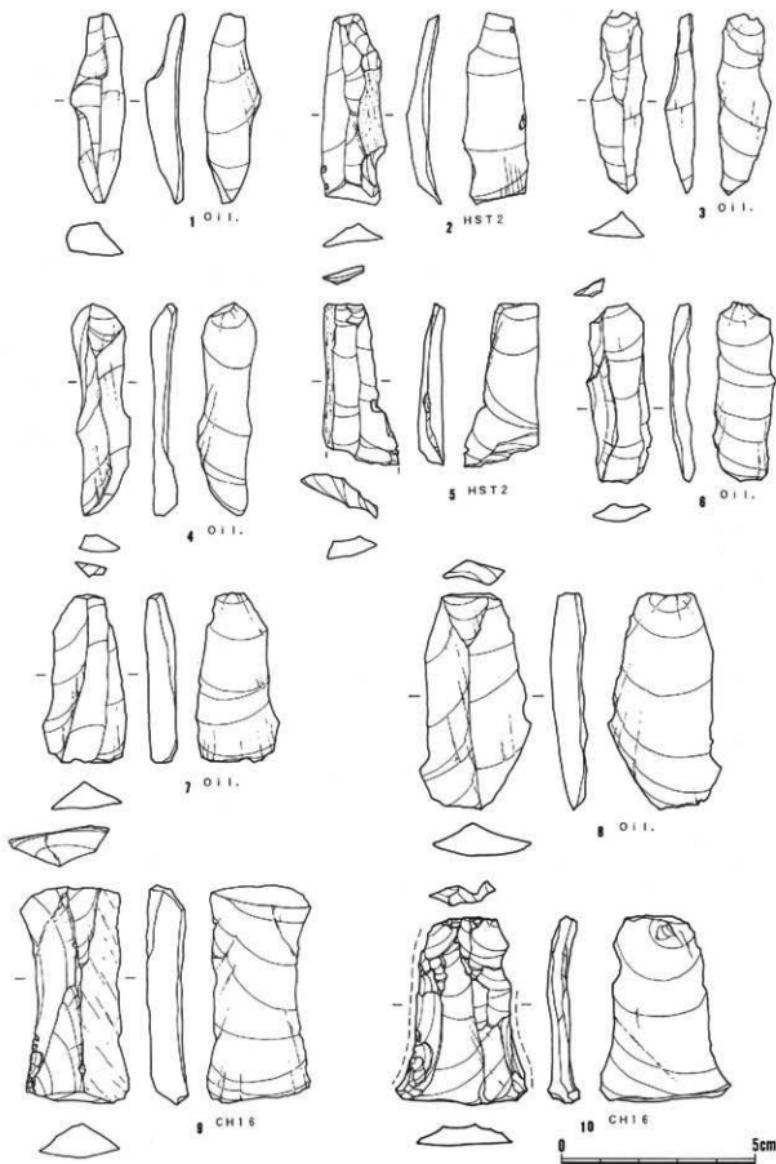


第34図 Y L層模形石器 (4/5)

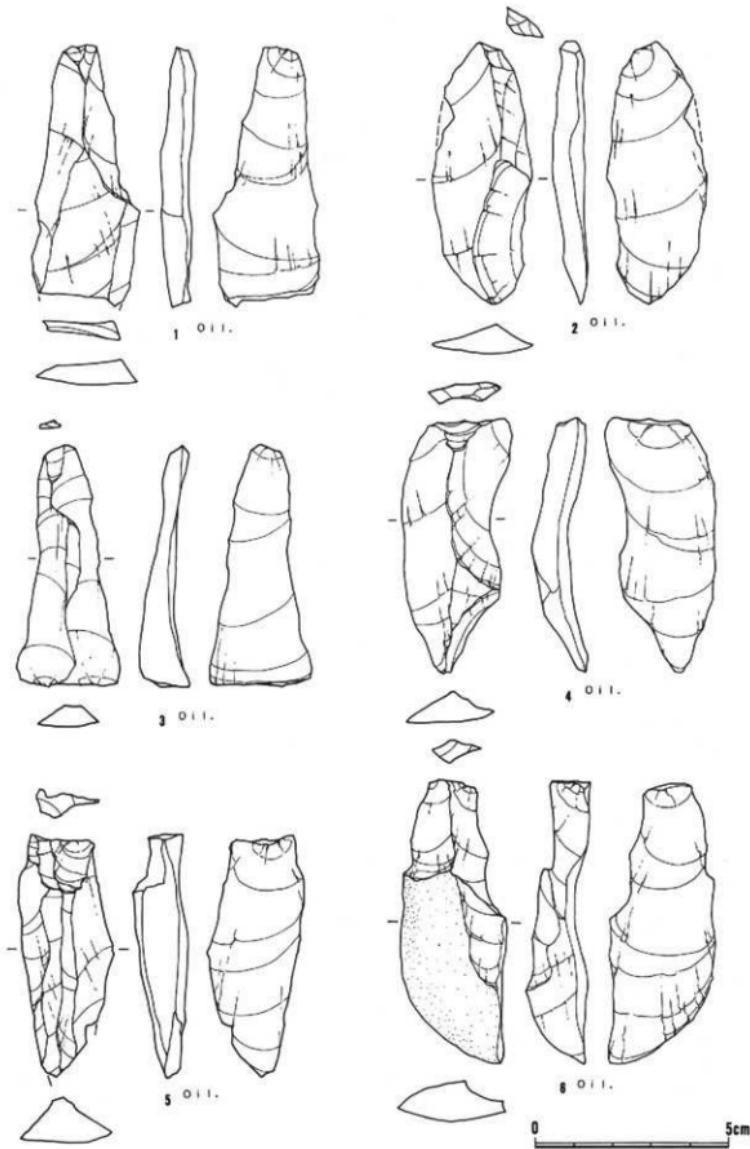
表10 YL層振器・削器他計測表

(単位mm, g)

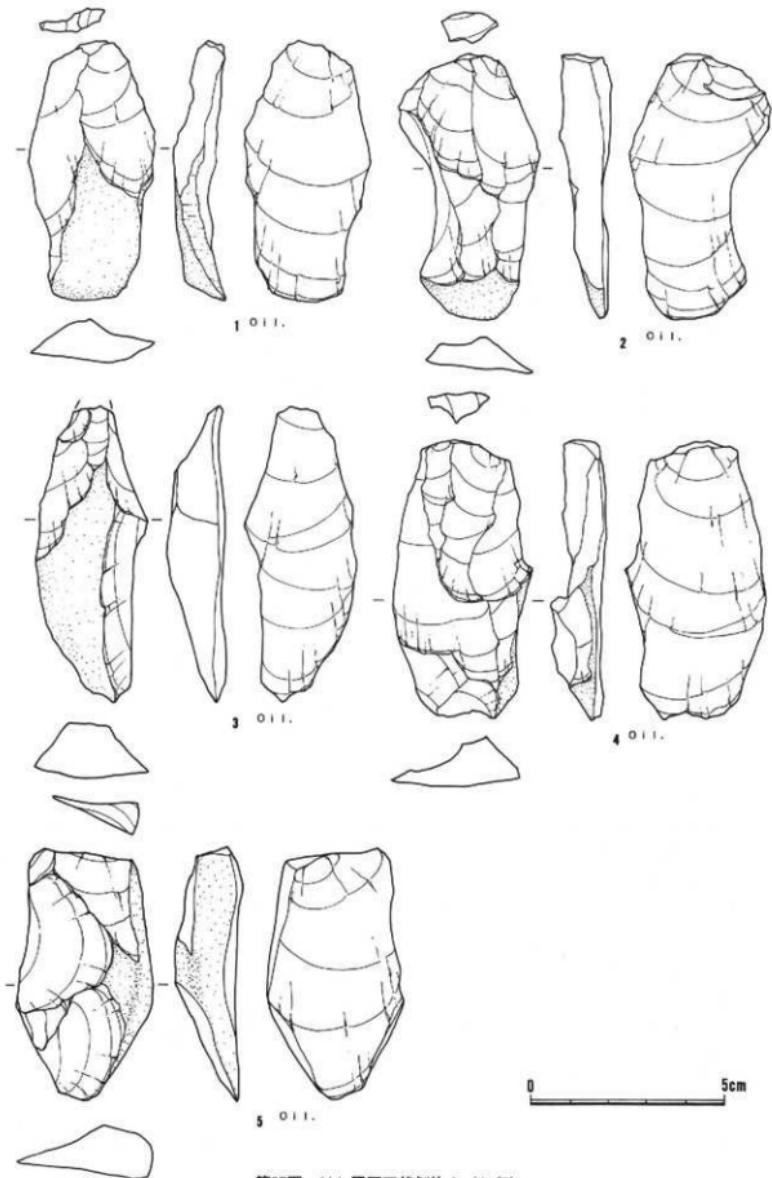
器種	P	L	No.	シリット	遺物番号	石材	母岩別	ブロック	最大縦	最大横	最大厚	重量
振器	30	1	L10	37	貞岩	H		51	35	20	39	
振器	30	2	K6	5	黒耀石	ONB-1	M	32	16.5	16	7.5	
振器	30	3	K6	1	チャート	CH-17	N	90	62	22	90	
振器	30	4	J6	13	黒耀石	HAT-4	O	29	21.5	11	5.2	
振器	30	5	O10	15	貞岩		K	51	27	12	18.8	
振器	31	1	N7	9	黒耀石	HST-2	L	66	21	15	13	
振器	31	2	J5	5	黒耀石	HAT-2	O	15	14.5	3.8	1	
振器	31	3	J8	1	黒耀石	WAD-5		20	15	5	1.2	
削器	31	4	J14	2	黒耀石	HST-2		41	24	7.8	9.1	
振器	31	5	I12	5	黒耀石	HST-2	D	67	35	17	19	
振器	31	5	H12	13	黒耀石	HST-2	C	I12と接合				
削器	31	6	L6	5	黒耀石	HST-2		67.5	15	15.5	7.1	
削器	32	1	K5	27	黒耀石	MUG-2		45	38	12.4	20.1	
削器	32	2	G5	5	黒耀石	HAT-2	P	31	38.5	8.5	11.6	
抉入削器	32	3	M4	551	チャート	CH-7		22	9	3	2.8	
削器	32	4	N11	35	黒耀石	HST-2	J	40	28	11.8	8.9	
削器	32	5	M6	7	黒耀石	HAT-1		46	42	11.3	19.4	
削器	32	6	N12	2	黒耀石	HST-1		41.5	18.5	8	4.2	
削器	32	7	表採		黒耀石	(HST)		48	48	14	28.1	
抉入削器	32	8	K6	6	黒耀石	HST-2	N	32	20.5	7	5.4	
抉入削器	33	1	K5	70	チャート	CH-16	N	49	23.5	10	5.7	
削器	33	2	K13	2	黒耀石	MUG-4	D	37	27.5	10	10.7	
抉入削器	33	3	M12	2	黒耀石	HST-1	G	54	2.2	8	7.4	
抉入削器	33	4	F14	3	黒耀石	HST-2		47.5	26.5	11.5	7.5	
削器・抉入削器	33	5	M6	4	頁岩			47	21.5	6.6	5.8	
抉入削器	33	6	L5	31	チャート	CH-16	N	39	20	6.5	3.2	
彫器	33	7	M10	2	黒耀石	HST-2	I	32.5	18.5	6	2	
彫器	33	8	表採		黒耀石	(HST)		27	16	5	1.7	
抉入削器	33	9	L11	13	黒耀石	HST-3	G	23	15	2.9	0.9	
楕形石器	34	1	表採		黒耀石	(MUG)		28.5	20.5	12	6.6	
楕形石器	34	2	G5	6	黒耀石	KAS-4	P	43	38	15	21.7	
楕形石器	34	3	K5	34	黒耀石	HST-2	N	26.5	12.5	11	2.6	
楕形石器	34	4	G5	11	黒耀石	HST-2	P	27	28.5	15	8.8	
楕形石器	34	5	J13	11	黒色橄欖安山岩		D	36.5	23	10	7.8	
楕形石器	34	6	M11	7	黒耀石	HST-2	G	34	31	0.9	12	
楕形石器	34	7	M10	10	黒耀石	HST-1	I	20	13	11.5	2	
楕形石器	34	8	O10	21	貞岩		K	38	27	9	9.2	
楕形石器	34	9	M9	10	黒耀石	HST-2	H	18.5	9	7.5	1.6	
楕形石器	34	10	K5	21	黒耀石	HST-2		21	12.5	8	1.8	
楕形石器	34	11	K5	86	チャート	CH-5	N	21	13	7	1.5	



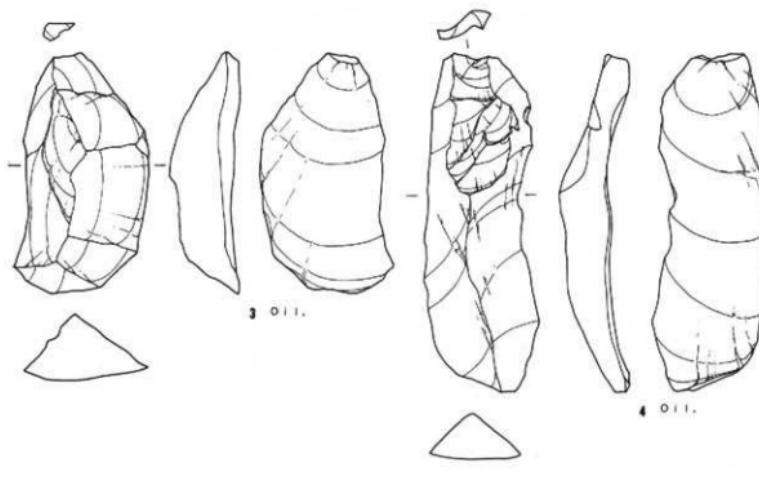
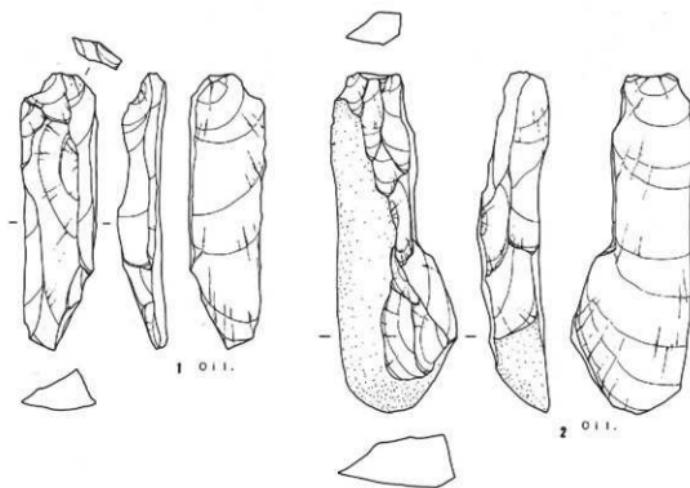
第35図 Y L層石刃状剝片1 (4/5)



第36圖 Y L 壓石刃狀剝片 2 (4/5)



第37図 Y L 層石刃状剥片 3 (4/5)



第38図 YL層石刃状剝片4 (4/5)



第39図 YL層小型石刃状制片 (4/5)

表11 Y L層石刃状剥片計測表

(単位mm.g)

器種	P	L	N	チャット	遺物番号	石材	母岩別	ブロック	最大縦	最大横	最大厚	重量
石刃状剥片	35	1	O9	4	頁岩	黒曜石	HST-2	N	49	14.5	10	4.5
石刃状剥片	35	2	K5	63	頁岩	黒曜石	HST-2		48.5	17	8.5	5
石刃状剥片	35	3	M10	16	頁岩	黒曜石	HST-2		45	14	8	4.2
石刃状剥片	35	4	L9	8	頁岩	黒曜石	HST-2	P	53.5	14	6.3	4.5
石刃状剥片	35	5	H4	1	頁岩	黒曜石	HST-2	C	41	19.5	7	3.6
石刃状剥片	35	6	I12	18	頁岩	黒曜石	HST-2	H	42.5	21	8.2	3.2
石刃状剥片	35	7	M10	30	頁岩	黒曜石	HST-2		53.5	27	1.3	11.3
石刃状剥片	35	8	F9	6	頁岩	黒曜石	HST-2		48	34	8	9.8
石刃状剥片	35	9	N6	3	チャット	CH-16		L	60	27.5	10	15
石刃状剥片	35	10	M4	554	チャット	CH-16			67	27.5		
石刃状剥片	36	1	I13	1	頁岩	黒曜石	HST-2	B	66	25	8	12.5
石刃状剥片	36	2	F12	14	頁岩	黒曜石	HST-2	H	60.5	26	12	11.2
石刃状剥片	36	3	L10	14	頁岩	黒曜石	HST-2	C	66	27	12.8	16.3
石刃状剥片	36	4	H12	26	頁岩	黒曜石	HST-2	E	61	24	13	15.7
石刃状剥片	36	5	G11	1	頁岩	黒曜石	HST-2	D	75	27	12.8	25.3
石刃状剥片	36	6	J12	11	頁岩	黒曜石	HST-2	K	66	31	14.5	24.5
石刃状剥片	37	1	H15	1	頁岩	黒曜石	HST-2	G	67	36	11.5	21.7
石刃状剥片	37	2	D10	3	頁岩	黒曜石	HST-2		74	28	11.2	24
石刃状剥片	37	3	M12	3	頁岩	黒曜石	HST-2		70	35	8.8	27.2
石刃状剥片	37	4	G10	3	頁岩	黒曜石	HST-2	B	65	35	15	36.8
石刃状剥片	38	1	F12	18	頁岩	黒曜石	HST-2	B	70.5	19.8	10.8	16.1
石刃状剥片	38	2	F12	20	頁岩	黒曜石	HST-2		87.5	32	15	41.1
石刃状剥片	38	3	M11	29	頁岩	黒曜石	HST-2	I	61.5	31	16.5	31.5
石刃状剥片	38	4	L10	19	頁岩	黒曜石	HST-2	H	86	40	18	33.4

表12 Y L層小型石刃状剥片計測表

(単位mm.g)

器種	P	L	N	チャット	遺物番号	石材	母岩別	ブロック	最大縦	最大横	最大厚	重量
小型石刃状剥片	39	1	J5	63	黒曜石	HST-1	O	19	8	1.2	0.2	
小型石刃状剥片	39	2	N3	4	黒曜石	HST-2			20.5	10	2.4	0.6
小型石刃状剥片	39	3	J5	28	黒曜石	HST-1	O	24	7	2.2	0.3	
小型石刃状剥片	39	4	L5	1	黒曜石	HST-2	N	23	10	1.5	0.4	
小型石刃状剥片	39	5	L5	16	黒曜石	HST-2	N	28	13.5	2	0.5	
小型石刃状剥片	39	6	J5	10	黒曜石	HST-1	O	19.5	10	2.1	0.5	
小型石刃状剥片	39	7	J5	36	黒曜石	HST-1	O	17.5	10	1.8	0.3	
小型石刃状剥片	39	8	J5	60	黒曜石	HST-1	O	17	6	1.6	2	
小型石刃状剥片	39	9	J4	1	黒曜石	HST-2			34.5	12	3.3	1.1
小型石刃状剥片	39	10	L6	12	黒曜石	HST-2	N	31	21	7.6	2.8	
小型石刃状剥片	39	11	K4	8	黒曜石	HST-2	N	28	11	3.5	0.9	
小型石刃状剥片	39	12	M5	4	黒曜石	ONB-1			10	8.5	1.2	0.1
小型石刃状剥片	39	13	L5	13	黒曜石	HST-2	N	12	6	2.7	0.1	
小型石刃状剥片	39	14	N11	39	黒曜石	HST-1	J	26	9	1.6	0.4	
小型石刃状剥片	39	15	L6	18	黒曜石	HST-2	N	28	10	2.5	0.6	
小型石刃状剥片	39	16	L5	27	黒曜石	HST-2	N	27	6	3.6	0.4	
小型石刃状剥片	39	17	J5	70	黒曜石	HST-1	O	25	14	2.1	0.7	

#### (10) 石核調整剥片（第40・41図）

剥片の中で、特に石核の調整剥片と判断するもの15点を分類した。石材の内訳は黒耀石13点、黒色緻密安山岩2点である。中でも、打面の調整剥片と考えられるものは40-5、41-1・2・3・4・5・6・7・9・10である。また、剥片の鋭利な縁辺部については使用痕が観察されるものが多い。なお石材について、頁岩が含まれていない理由として、風化が著しいために、観察が不可能であったことを特記しておきたい。特に薄手の剥片は風化作用のため、ほとんど稜線を判別することも不可能な状態となることがある。

#### (11) 石核（第42～51図）

33点が出土している。石材の内訳は、黒耀石3点、頁岩20点、チャート2点、黒色緻密安山岩8点である。黒耀石の原産地は、畠宿2点、柏峰1点であり、石核の全てが遺跡周辺で採取できる石材である。これらは打面の位置によって4種類に分類することができる。

- 1類 打面を固定し、一方向から剥片剥離作業をおこなうもの。
- 2類 上下に打面を設定し、両方向から剥片剥離をおこなうもの。
- 3類 打面を約90度転移しながら、剥片剥離をおこなうもの。
- 4類 縁の縁辺部より求心的に剥片剥離をおこなうもの。

1類（第42～44図・50図1）打面を固定し、一方向から剥片剥離作業をおこなうもの。

10点が該当する。

- 42-1は頁岩製の円盤を素材とし、単剥離の打面を有するものである。縁面を残す。  
42-2は頁岩製の円盤を素材とし、複剥離の打面を有する。頭部調整の痕跡も観察され、縁面を残す。  
42-3は隼人の頁岩製の円盤を素材とし、複剥離打面を有する。  
43-2は頁岩製の円盤を素材とし、単剥離打面を有する。縦長剥片を連続的に剥離したと考えられる。作業面の裏側には縁面を残す。

43-3は柏峰産の黒耀石の角盤を素材とし、平坦な原盤面に打面調整を施したのち、剥片剥離をおこなったものであり、最終の剥離はヒンジフラクチャーをおこしている。側面部に頭部調整と考えられる剥離が観察されるが、剥片剥離作業は継続されていない。

44-2は黒色緻密安山岩製の縁を素材としたもので、打面調整が顕著な複剥離面を打面として、不定形な寸詰まりの剥片を剥離したものである。石核が分割したために作業を中止したものと考えられる。  
50-1は畠宿の黒耀石を素材としたもので、上設の単剥離打面より寸詰まりの縦長剥片を剥離したものである。残核は角錐形を呈する。

2類（第45図、第46図1・2）上下に打面を設定し、両方向から剥片剥離をおこなうもの。

6点が該当する。

45-2は頁岩製で、両設の単剥離面を打面として、縦長の剥片を剥離したものである。残核は柱状を呈し、目的的剥片が縦長であったことを示す。  
45-4は上面が単剥離面、下面が縁面を打面とした両設打面石核で、主に上面から連続的に縦長剥片、あるいは石刃状剥片を剥離する。一部に縁面を残す。

46-2は筋理が発達した黒色緻密安山岩製で、主に下面からの剥離により、やや幅広の縦長剥片を剥離したと考えられる。

3類（第46図3・4～第49図2・第50図2）打面を90度転移しながら、剥片剥離をおこなうもの。

10点が該当する。

46-4は黒色緻密安山岩製で、打面を転移しながら小型の剥片を剥離したもので、残核はサイコロ状を呈する。

47-1は黒色緻密安山岩製で、頻繁に打面転移を繰り返しながら、不定形の剥片を剥離する。

47-2は頁岩の円礫を素材として、打面転移しているものの、概して上設の単剥離打面より、縦長剥片を剥離しているものである。一部に原礫面を残す。

48-1は知床産の黒耀石を素材としたもので、頻繁に打面を転移しながら不定形な寸詰まりの剥片を剥離する。一部に礫面を残し、残核はサイコロ状を呈する。

50-2は拳大の頁岩の円礫を素材としたもので、打面の転移を繰り返しながら縦長の剥片を剥離する。礫面を縁間に残し、端部に敲打痕が観察されることから、敲石として用いられたと考えられる。

4類（第51図1）礫の縁辺部より求心的に剥片剥離をおこなうもの。

該当するものは1点である。51-1は頁岩の円礫を素材として、原礫面を打面として貝殻状の剥片を剥離したもので、剥片2点と接合する。あるいは礫器とも考えられる。

以上出土した石核は33点である。石核の約60%を占める頁岩は、いずれも廃棄された残核の最大長が5cm前後であり、その作業面からは縦長剥片、あるいは石刃状剥片を剥離した痕跡が観察される。これらは、原礫面の状態からみても、それほど大きな礫として遺跡に搬入されたものとは考えられず、剥離された目的的剥片の数も、1つの石核について、5点を大きく超えることはなかったと考えられる。よって、大量に持ち込まれ、大量に消費されたことが予想され、サイコロ状になるまで小型の剥片を剥ぎ続いている黒耀石製の石核とは対照をなす。この、石材消費の在り方は、ナイフ形石器や石刃状剥片の石材選択の偏りとあわせて、黒耀石→小型剥片→ナイフ形石器、頁岩→石刃状剥片（刃器）という、剥片剥離技術と石材、器種の結びつきを示す。

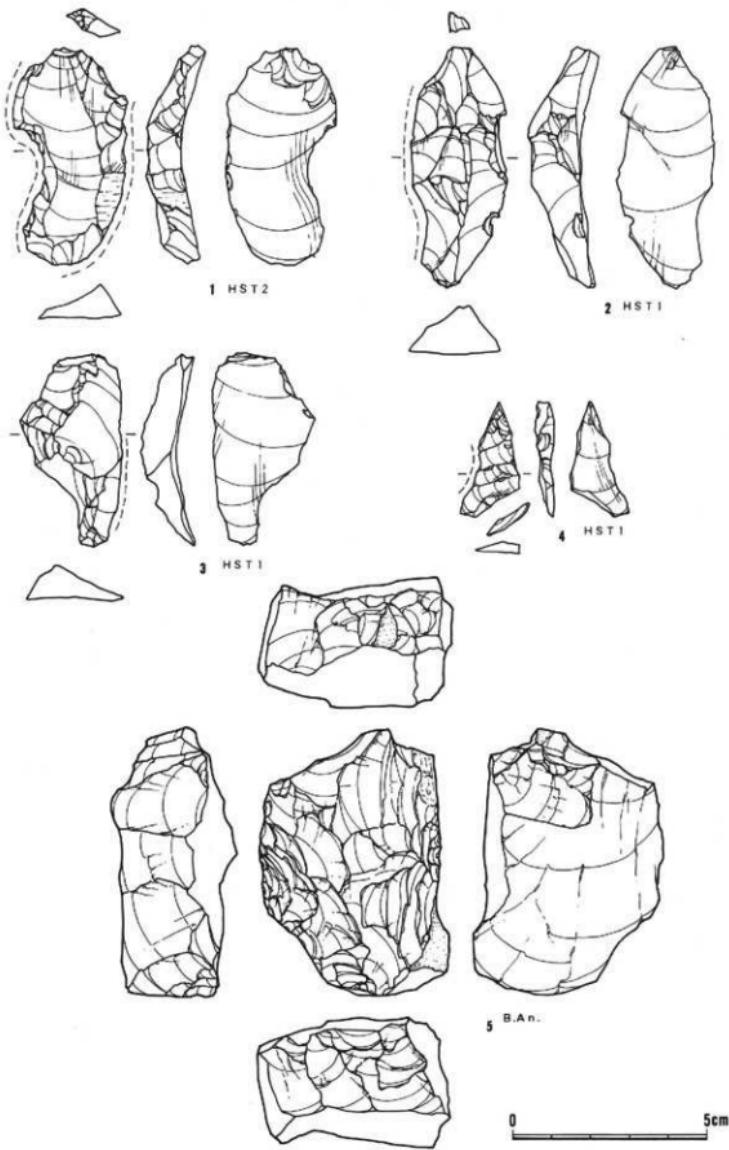
#### (12) 原石（第51図2）

黒色緻密安山岩製の礫が1点出土している。石器の素材として、遺跡に持ち込まれたものと考えられる。剥片剥離した痕跡はない。

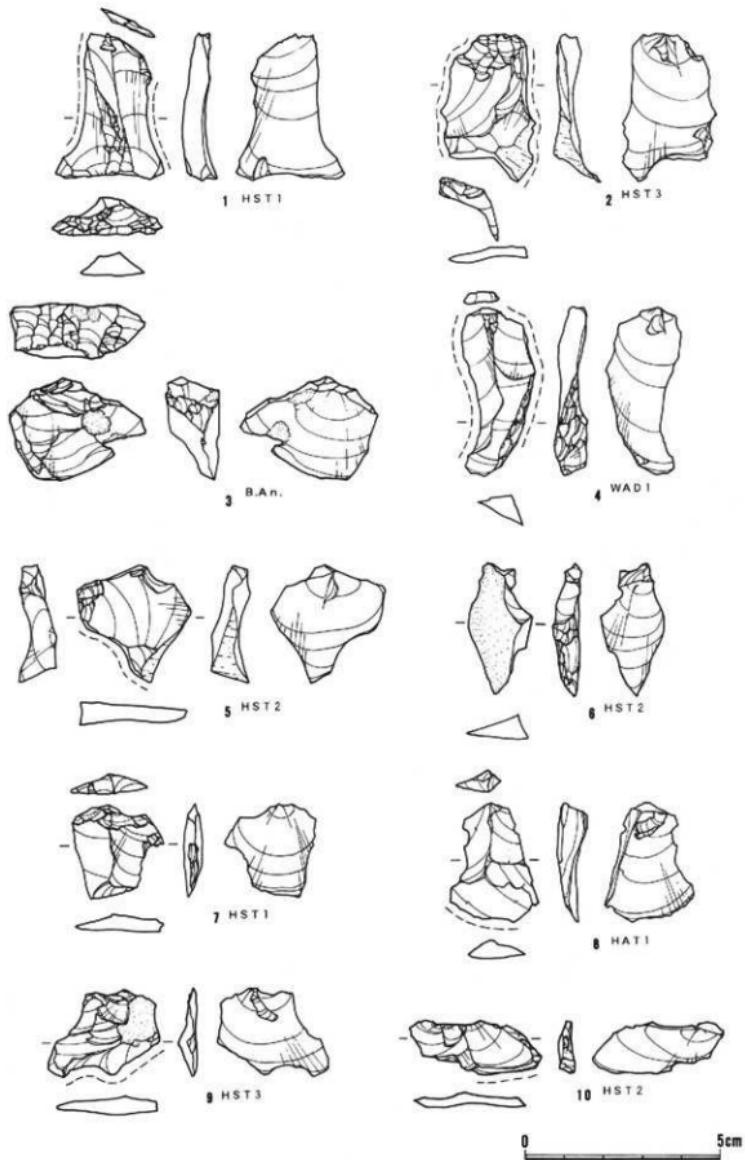
#### (13) 敲石・磨石・凹石（第52・53図）

礫石器をあげた。敲石・磨石・凹石の3種類に分類できるが、実際は磨石と敲石は複合石器であることが多い。磨石1点、磨石・敲石の複合石器が7点、敲石が8点、凹石が1点である。

分布は調査区の北側に多い。

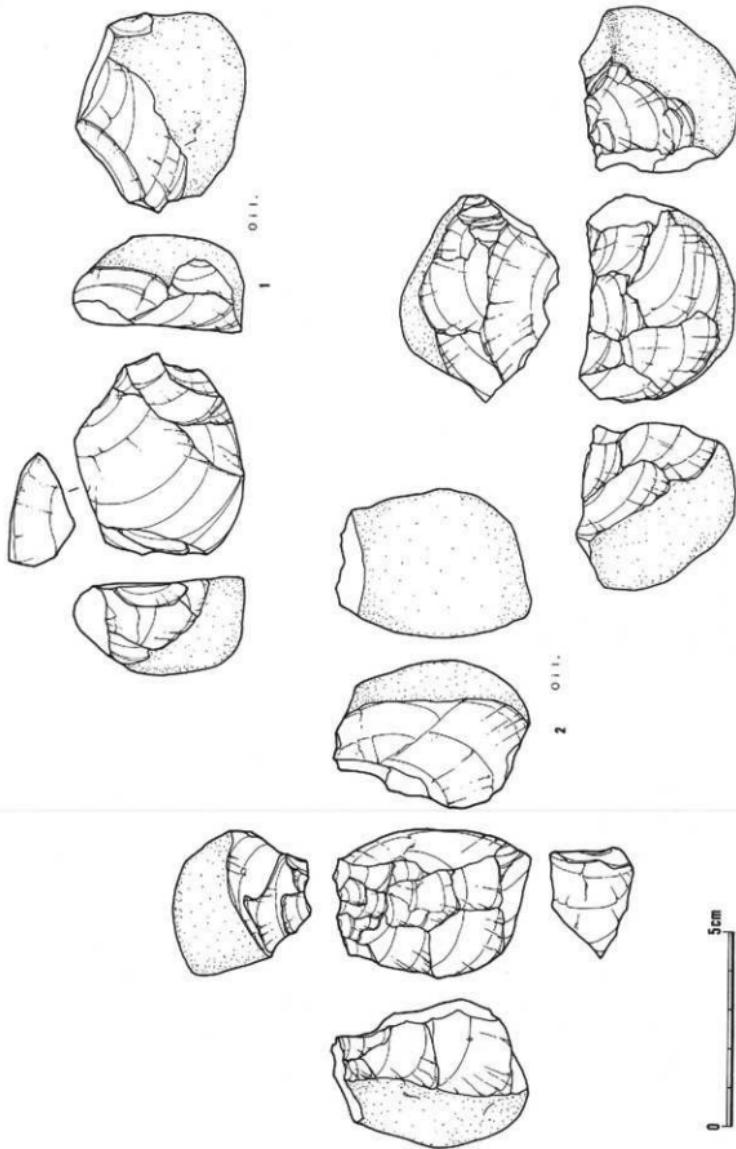


第40図 Y L層石核調整剝片 1 (4/5)

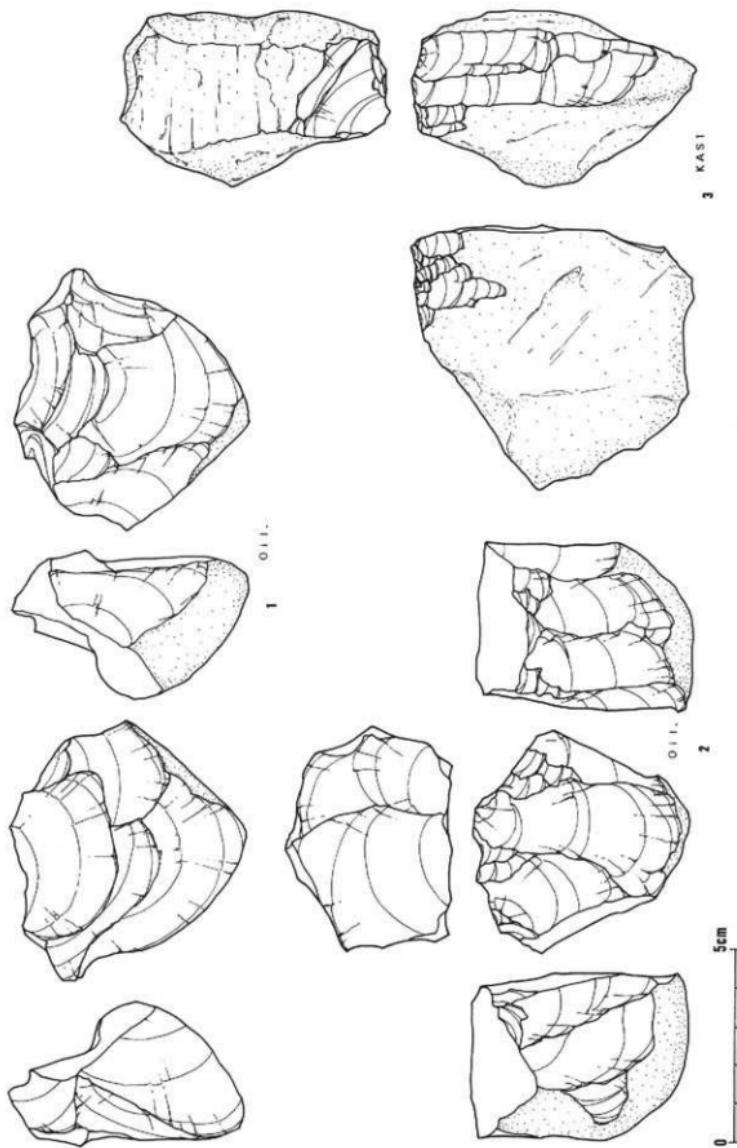


第41図 Y L 層石核調整剝片 2 (4/5)

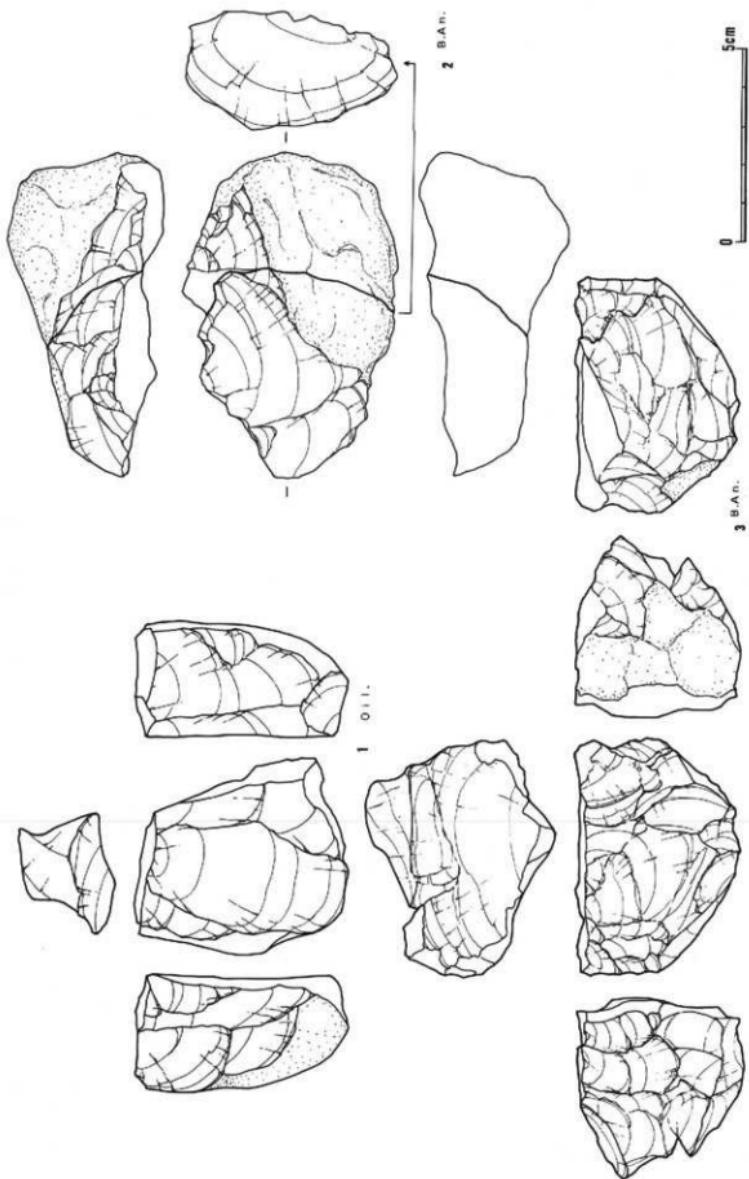
第42圖 YL層石核 1 (4/5)



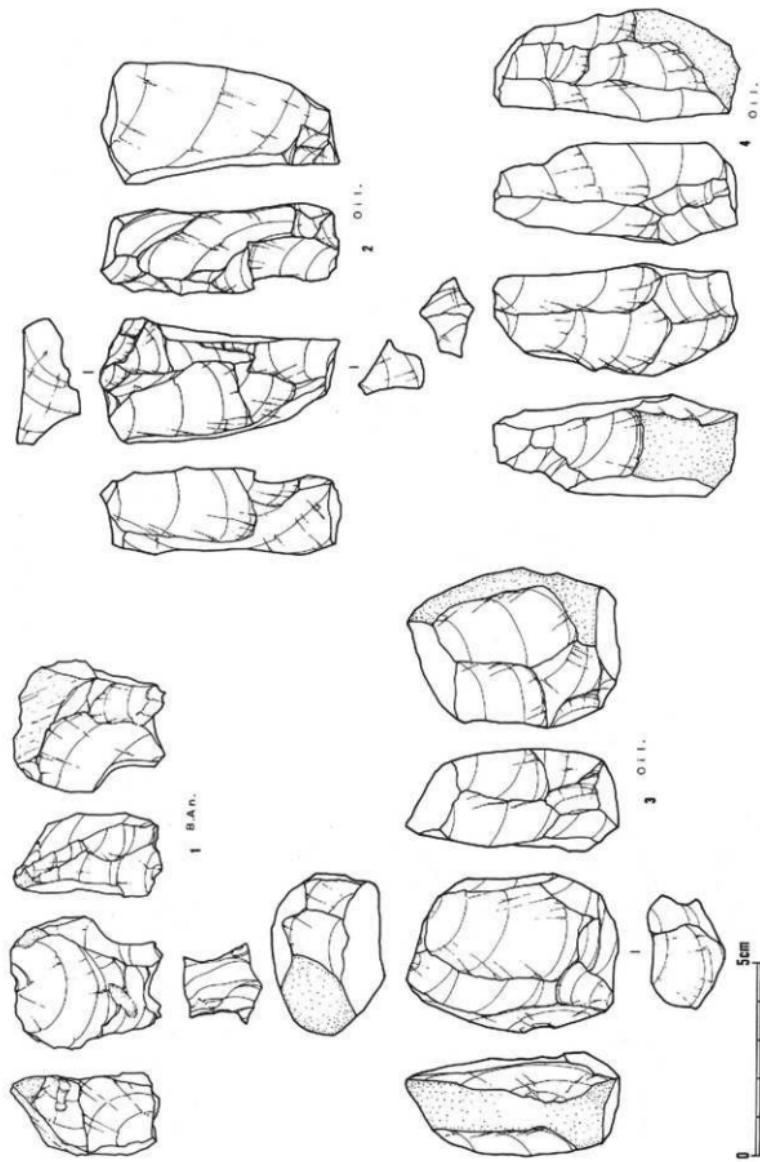
第43圖 YL層石核2 (4/5)



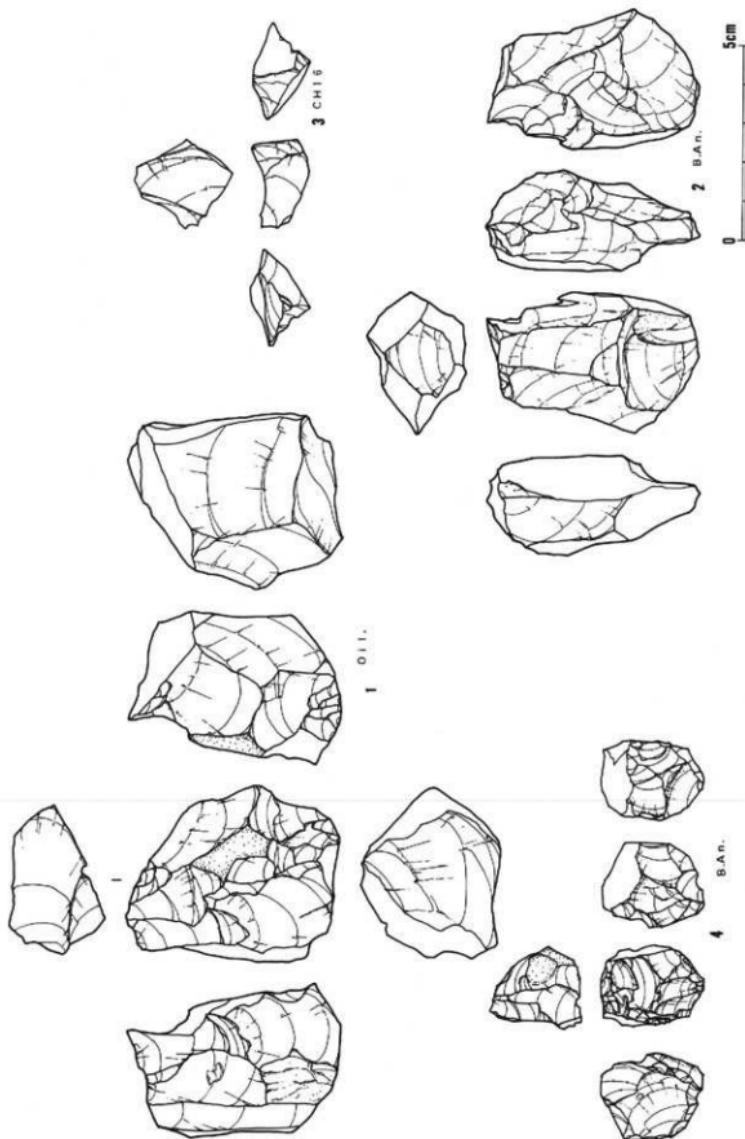
第44圖 YL層石核3 (4/5)



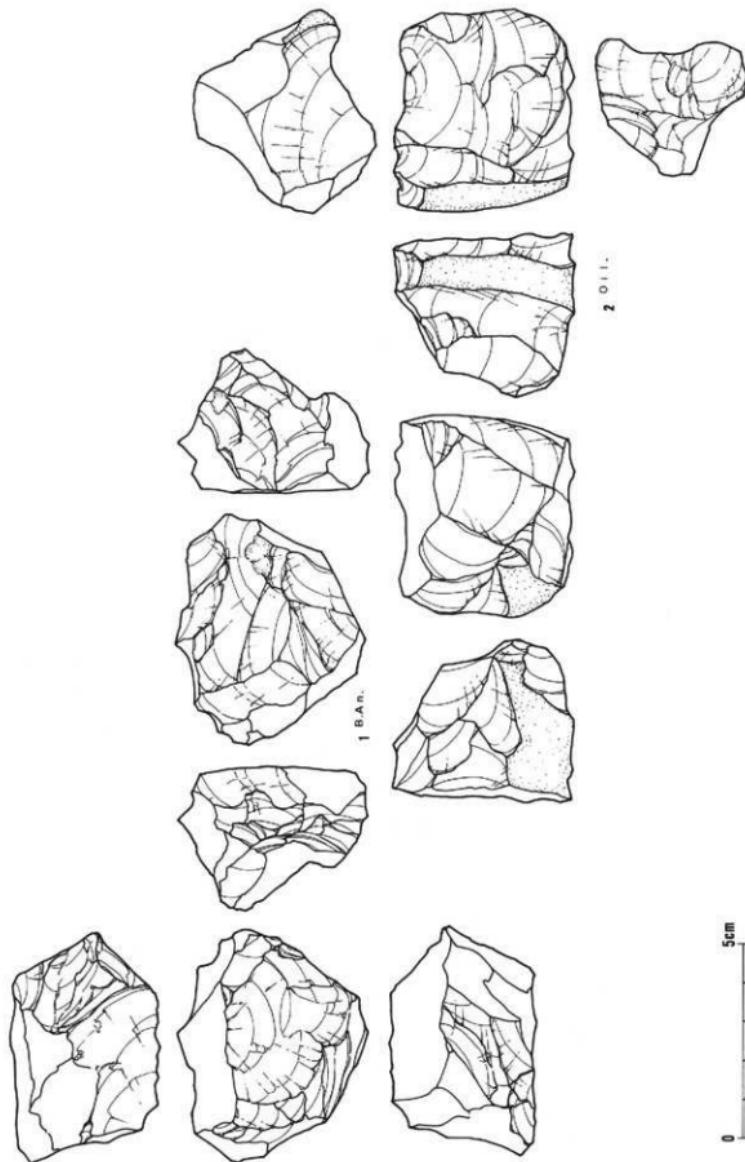
第45圖 Y L 磚石核 4 (4/5)



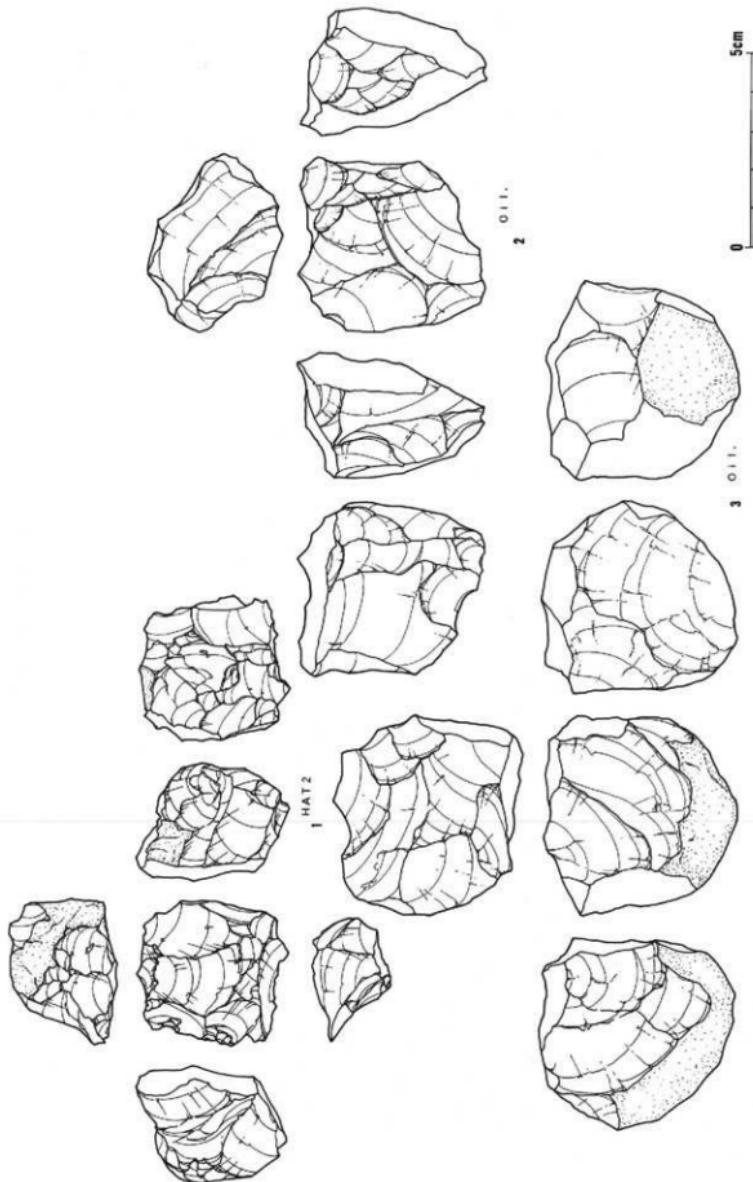
第46圖 YL層石核 5 (4/5)



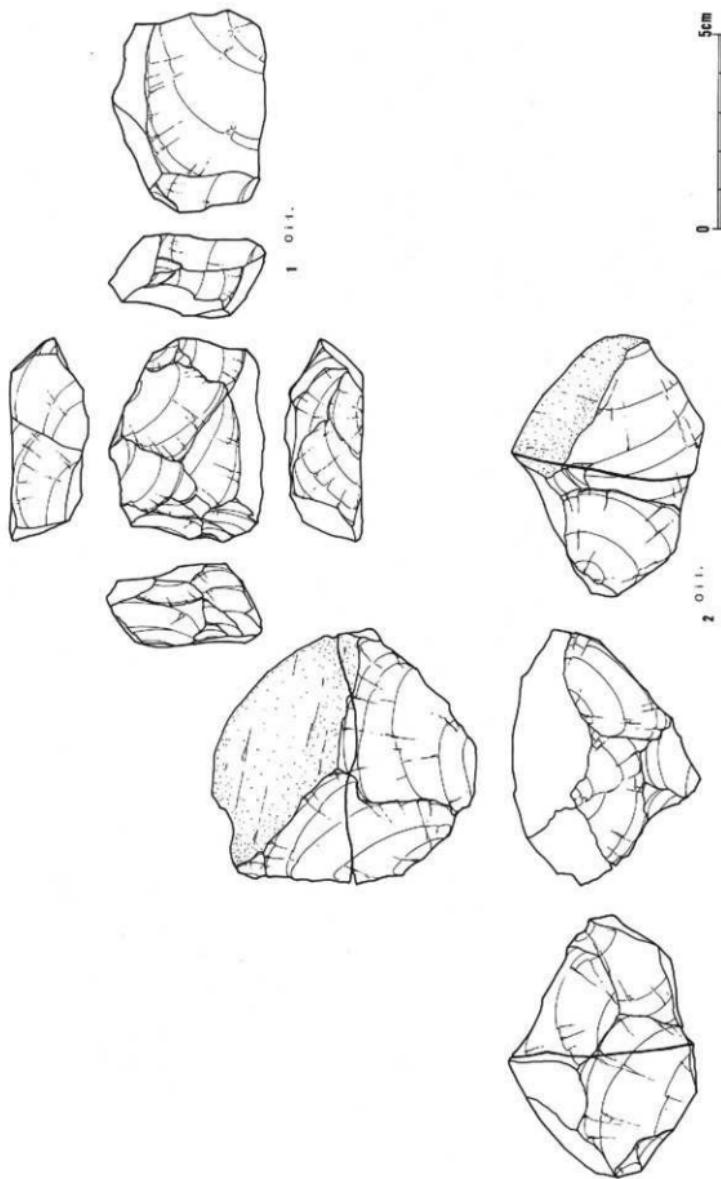
第47圖 Y L層石核 6 (4/5)



第48圖 YL層石核7 (4/5)



第49圖 Y L層石核 8 (4/5)



5cm

第50圖 Y L層石核9 (4/5)

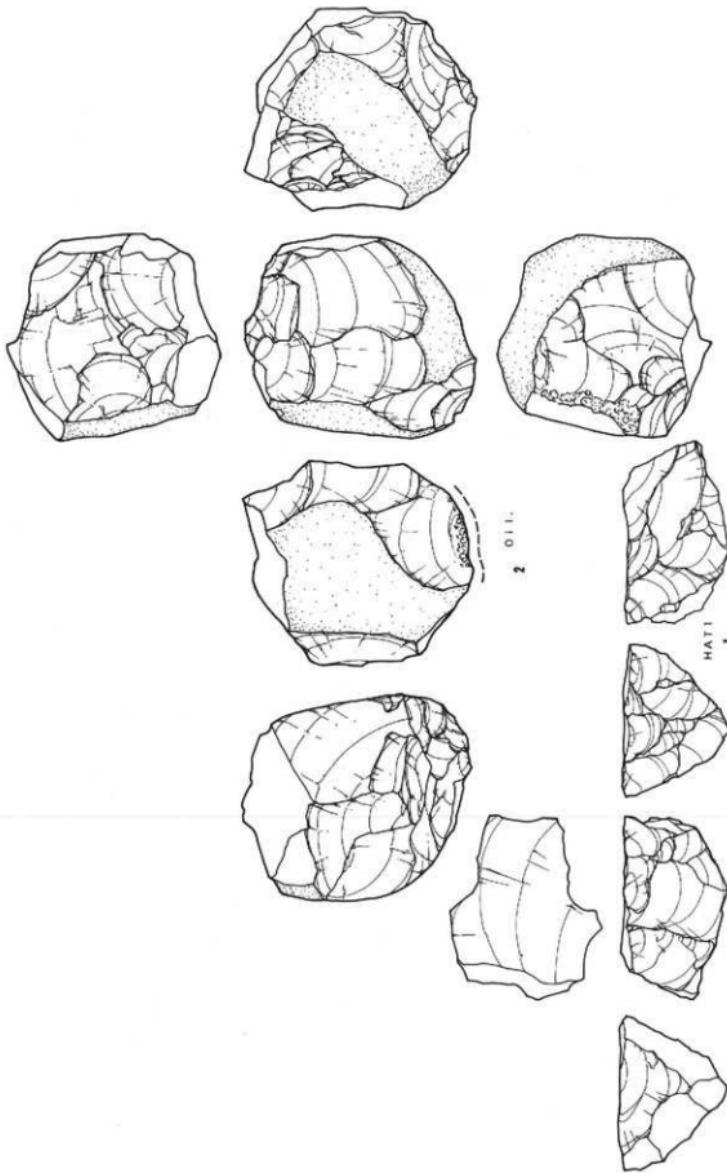


圖51圖 YL層石核·原石 (4/5)

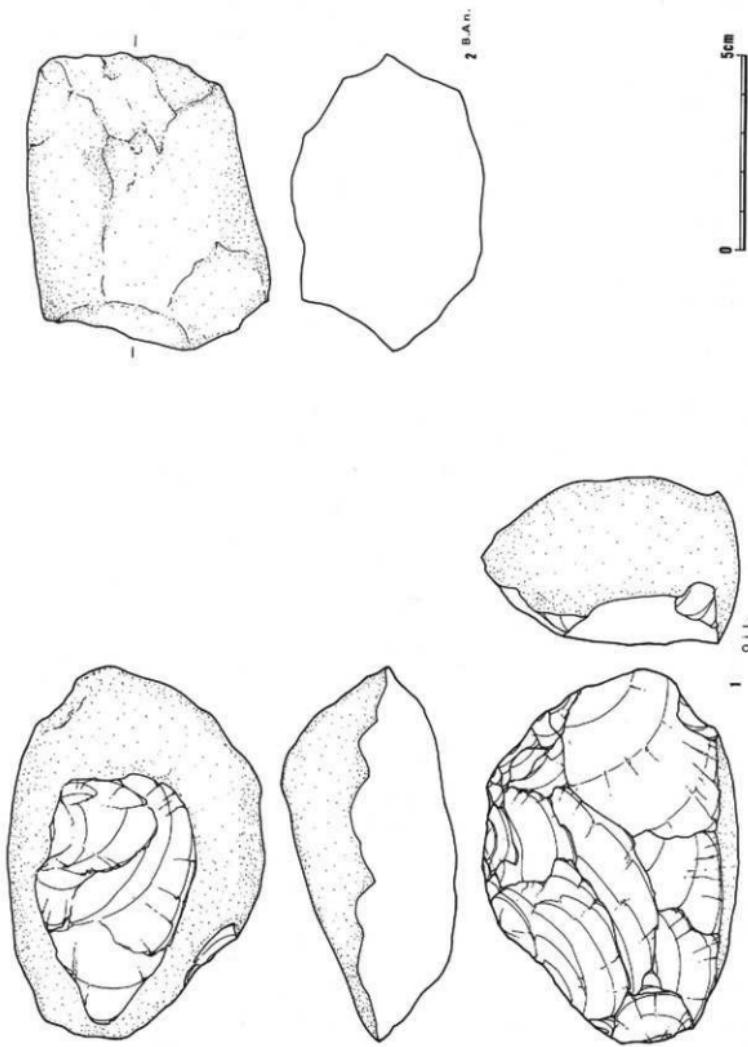


表13 YL層石核調整剝片計測表

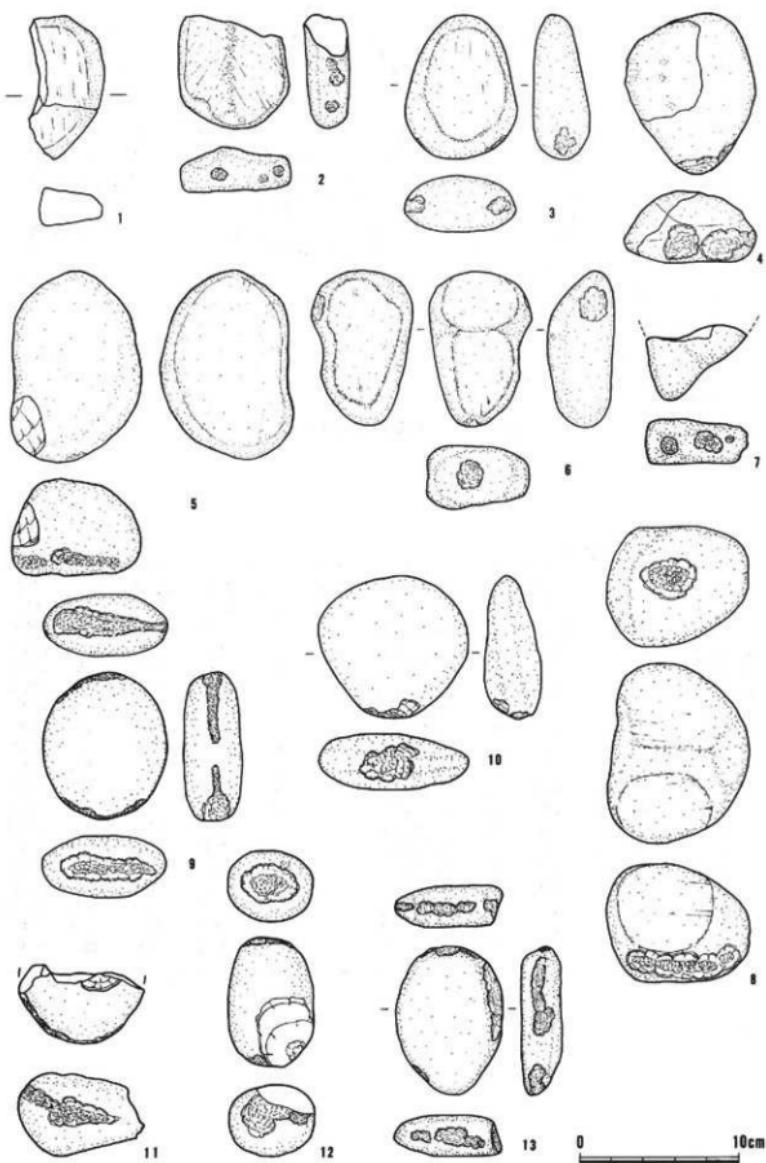
(単位mm.g.)

器種	P L	N	グリット	遺物番号	石材	母岩別	ブロック	最大縦長	最大横長	最大厚	重量
石核調整剝片	40	1	K5	60	黒耀石	HST-2	N	55	30	10	13.1
石核調整剝片	40	2	J5	9	黒耀石	HST-1	O	38.5	19	6.5	3.2
石核調整剝片	40	3	J5	7	黒耀石	HST-1	O	48	24.5	7.6	7
石核調整剝片	40	4	J5	66	黒耀石	HST-1	O	30	13	4.9	1.1
石核調整剝片	40	5	N12	3	黒色緻密安山岩		J	46	69	33.5	135.6
石核調整剝片	41	1	J5	57	黒耀石	HST-1	O	40	27	7.7	4.3
石核調整剝片	41	2	N7	4	黒耀石	HST-3	L	38	23	9.2	4.4
石核調整剝片	41	3	J13	9	黒色緻密安山岩		D	35	25	11.5	6.9
石核調整剝片	41	4	L5	3	黒耀石	WAD-1		43	19	8	3.3
石核調整剝片	41	5	L5	43	黒耀石	HST-2	N	31	22	12.7	4.9
石核調整剝片	41	6	K5	93	黒耀石	HST-2	N	35	15	6.1	2.2
石核調整剝片	41	7	J6	12	黒耀石	HST-1	O	23	22	6.2	2.5
石核調整剝片	41	8	M12	4	黒耀石	HAT-1	G	23	29	6.6	3
石核調整剝片	41	9	L5	38	黒耀石	HST-3		32	20	4.3	2
石核調整剝片	41	10	M6	5	黒耀石	HST-2	L	34	11	4.2	1.3

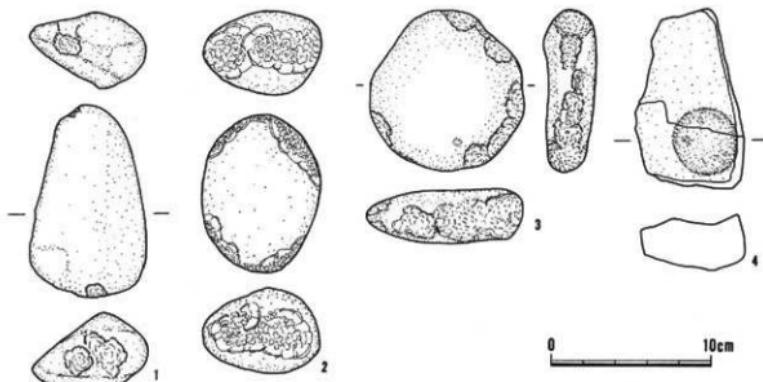
表14 YL層石核計測表

(単位mm.g.)

器種	P L	N	チャット	遺物番号	石材	母岩別	ブロック	最大縦	最大横	最大厚	重量
石核	42	2	J13	13	頁岩		D	50	38.5	37	73.2
石核	42	1	M11	42	頁岩		I	44	52	25	69.7
石核	42	3	H12	29	頁岩		C	40	54	43	107.5
石核	43	1	M11	36	頁岩		I	60	68.5	39.5	125.8
石核	43	2	G11	11	頁岩		E	55	58	45	166.6
石核	43	3	N6	6	黒耀石	KAS-1	L	73	46	71	206.4
石核	44	1	H12	24	頁岩		C	54.5	51	30	104.4
石核	44	3	H12	31	黒色緻密安山岩		C	42	62	47	119.8
石核	44	2	G5	7	黒色緻密安山岩		P	51	55.5	23	60.3
石核	44	2	G5	17	黒色緻密安山岩		P	52.1	49.9	38.7	101.9
石核	45	1	L10	25	黒色緻密安山岩		H	38.5	35	22	30.7
石核	45	3	H12	25	頁岩		C	54.5	42	27	79.4
石核	45	2	L11	14	頁岩		G	38	25	13.5	18.5
石核	45	4	K13	1	頁岩		D	63	29.5	26	55.5
石核	46	1	G14	1	頁岩		A	55	46	40	96.7
石核	46	4	K6	10	黒色緻密安山岩		N	26	21	22	15.6
石核	46	3	K4	1	チャット	CH-16	N	15	23	25	5.7
石核	46	2	G5	15	黒色緻密安山岩		P	54	36	26	46.5
石核	47	1	N5	7	黒色緻密安山岩		L	48.5	60	37.5	89.3
石核	47	2	I12	10	頁岩		C	46	52.5	42.5	113.3
石核	48	1	K5	42	黒耀石	HAT-2	N	36	37	31	44.9
石核	48	3	N10	35	頁岩		K	50	53.5	51	146.7
石核	48	2	N10	19	頁岩			47.5	46	34	75.5
石核	49	2	G5	1	頁岩		P	55	45	36.7	105.1
石核	49	2	G5	16	頁岩		P	64	47	31	74.4
石核	49	1	M10	12	頁岩		I	39	52.5	22	53.5
石核	50	1	K14	1	黒耀石	HAT-1	F	47	39	24.1	37.1
石核	50	2	O10	12	頁岩		K	60	52.5	52	193.1
石核	51	1	L6	42	頁岩		M	95.2	68.2	40.1	329.2
原石	51	2	G5	13	黒色緻密安山岩		P	90.5	88.3	59.3	478.4



第52図 Y L 層敲石・磨石他 1 (1/3)



第53図 Y L層敲石・磨石他 2 (1/3)

表15 Y L層敲石・他計測表

(単位mm, g)

器種	P.L	No	分類	遺物番号	石材	母岩別	ブロック	最大縦	最大横	最大厚	重量
磨石	52	1	M12	6	輝石安山岩	G	59.6	44.3	28.5	102.3	
磨石・敲石	52	2	K14	10	角閃石安山岩		71.5	6.9	28.5	180.8	
磨石・敲石	52	3	N14	1	輝石安山岩			89	70	36	293.8
磨石・敲石	52	4	K5	105	角閃石安山岩	N	99	75.2	41	336.9	
磨石・敲石	52	5	J12	21	輝石安山岩	D	68.5	77.5	53.5	419.3	
磨石・敲石	52	6	N5	8	輝石安山岩	L	95.5	63.5	40	347.5	
磨石・敲石	52	7	J13	28	角閃石安山岩	D	46	64.5	28	82	
磨石・敲石	52	8	F13	5	角閃石安山岩	A	112.5	90.5	75	1004	
敲石	52	9	J13	5	玄武岩質溶岩	D	90.5	76.5	38.5	326.4	
敲石	52	10	M11	44	砂岩	I	88	93	35	370	
敲石	52	11	J13	10	輝石安山岩	D	51	79	52.5	192.6	
敲石	52	12	J12	10	輝石安山岩		80	52.5	44	221.4	
敲石	52	13	L9	10	輝石安山岩	H	91.5	66.5	25.5	218.1	
敲石	53	1	M11	52	輝石安山岩			118	73	48	421.6
敲石	53	2	I12	16	輝石安山岩	C	98	74	54	443.3	
敲石	53	3	N10	44	輝石安山岩			100	96.5	33	403.8
圓石	53	4	M11	45	輝石安山岩	I	75.1	58.7	42.5	250.1	
圓石	53	4	M11	53	輝石安山岩			44.8	68	32.5	124.9

### 3 個体別資料の分類（表16）

個体別資料の分類は、石器群の理解を助ける重要な作業である。本遺跡では、個体差が比較的分別容易な、黒耀石とチャートについて色調・含有物・光沢・自然面の各項目について観察し、個体別資料の分類作業を実施した。特に黒耀石については、原産地分析の結果をもとに産地別に個体別資料番号を付している。また各個体ごとに、平面分布を示すドットマップを作成した（第56～61図）。なお、本遺跡から多量に出土している頁岩と黒色緻密安山岩については、個体別の識別が困難なため、分類作業はおこなっていない。

表16 個体別資料分類表

	個体別番号	色調	含有物・その他	光沢	自然面	石器数
1	Ob-HAT 1	黒～灰色で不透明 あるいは半透明	灰黒色の縞、全体的に微細な気泡、白斑あり	鈍い	なめらか	5 9
2	Ob-HAT 2	漆黒色不透明	灰黒色の縞、白点少々	ガラス光沢に富む	なめらか	1 3
3	Ob-HAT 3	灰黒～黒色不透明	灰色の縞がめだち流理に沿って小さい割れ目が多く細かな気泡や白斑が少々ある	ガラス光沢に富む	不明	3
4	Ob-HAT 4	灰色・黒色	灰色部と黒色部がマーブル状に混じり、球顆を僅かに含む	ガラス光沢に富む	不明	1
5	Ob-MUG 1	薄灰黒色半透明 灰黒色不透明	灰～灰褐色の縞。縞に沿って微細な気泡や0.5mm～1mm程度の球顆が全体にある	ガラス光沢に富む	不明	9
6	Ob-MUG 2	薄褐色透明～半透明	灰～灰黒色の縞。縞に沿って微細な気泡や0.5mm～1mm程度の球顆が多い	ガラス光沢に富む	なめらかだが、微細な発泡が多い	1 8
7	Ob-MUG 3	薄灰黒色半透明	全体に微細な気泡や0.5mm程度の球顆が多く散在	ガラス光沢に富む	なめらか	2
8	Ob-MUG 4	薄褐色透明	白灰～灰色の縞。全体に黒色微粒子や1mm程度の球顆が散在	ガラス光沢に富む	不明	1 7
9	Ob-MUG 5	灰～灰黒色半透明	全体に微細な気泡状の縞	ガラス光沢は鈍い	不明	1
10	Ob-MUG 6	薄褐色透明	灰黒～黒色の縞	ガラス光沢は鈍い	不明	1
11	Ob-MUG 7	赤褐色半透明	赤色の縞。縞に沿って淡褐色の微粒子や0.5mm程度の球顆が散在	ガラス光沢に富む	不明	1
12	Ob-ONB 1	黒色半透明	全体に黒灰色微粒子が散在	ガラス光沢に富む	不明	2
13	Ob-KAS 1	灰～灰黒色不透明	微粒子が散在する。全体に灰～灰黒色の微細な縞が無数。一部レンズ状の縞	ガラス光沢は鈍い	発泡し、アバタ状	1
14	Ob-KAS 2	黑灰色不透明	一部に灰色の縞、2～3mm程度の球顆を含む	ガラス光沢に富む	不明	5
15	Ob-KAS 3	黑色半透明～透明	全体に灰黒色の微細な縞や灰色のレンズ状の縞。白斑点在	ガラス光沢に富む	アバタ状	2
16	Ob-KAS 4	黑色不透明	灰黒色の縞が多少あり	風化によりガラス光沢は失われている	不明	2

	個体別番号	色調	含有物・その他	光沢	自然面	石器数
17	O b - HST 1	漆黒色不透明～透 明	黒色羽毛状の繊。繊に沿っ て、黒色微粒子が散在	ガラス光沢に富む	なめらか	9 4
18	O b - HST 2	煙色透明で透明度 が高い	1～5mmの球類を少し含み、 灰白色、コゲ茶色の繊が見 られる	ガラス光沢に富む	スリガラス 状で、一部 発泡	1 5 9
19	O b - HST 3	煙色透明	灰白色の微細な繊模様が見 られ、全体的に灰白色の微 細な気泡が目立ち、3～5mm の球類を含む	ガラス光沢は鈍い	スリガラス 状で、一部 発泡してい る	2 5
20	O b - HST 4	薄黒色半透明	灰色～褐色の繊模様が見ら れ、全体的に灰褐色の微粒 子が散在し、2mm程度の球類 を少々含む	ガラス光沢は鈍い	不明	4
21	O b - WAD 1	薄煙色透明	白灰～灰色の微細な繊や黑 色の繊模様が一部見られる	ガラス光沢は鈍い	不明	6
22	O b - WAD 2	漆黒色半透明～不 透明	黒褐色の繊が全体的に見ら れ暗赤～コゲ茶色の微粒子 が網目状に散在する	ガラス光沢に富む	スリガラス 状	3
23	O b - WAD 3	白灰～暗灰色の半 透明	全体的に白灰色の気泡の繊 があり、1.5mm程度の球類を 僅かに含む	ガラス光沢に富む	不明	1
24	O b - WAD 4	漆黒色半透明	黒色微粒子が全体的に散在 し細やかな繊を作っている。 0.5mm程度の白斑が見られる	ガラス光沢に富む	スリガラス 状	2
25	O b - WAD 5	薄黒色透明	黒色微粒子や0.5mm程度の球 類を僅かに含む	ガラス光沢に富む	不明	4
26	O b - WAD 6	薄黒色透明	黒～コゲ茶色の繊模様が見 られ繊に沿って、黒色微粒 子が散在。0.5mm程度の球類 を少々含む	ガラス光沢に富む	不明	2
27	O b - WAD 7	黒色不透明～半透 明	全体に黒色微粒子が散在し、 0.5～1mm程度の球類を含む	ガラス光沢に富む	不明	1
28	O b - WAD 8	漆黒色不透明		ガラス光沢に富む	スリガラス 状	1
29	O b - WAD 9	黒灰色透明～半透 明	灰～灰黒色の微粒子が全体 に散在し、細やかな繊を作 っている。1mm程度の球類を 僅かに含む	ガラス光沢に富む	スリガラス 状	2
30	C h 1	暗灰緑色不透明	石質は緻密で暗褐色の細い 脈と網目状の細やかな脈が 少し見られる	脂防光沢は鈍い	黄褐色に変 色したなめ らかな平面	1
31	C h 2	暗灰色半透明	灰色微粒子が散在し、灰色 の緻密な脈が数条見られる。 石質は緻密	ガラス光沢に近い 脂防光沢に富む	不明	1
32	C h 3	暗灰色半透明～不 透明	石質は緻密な玉髓質。灰色 微粒子が散在。暗褐色の細 かい脈が見られる。断口は 鈍い	脂防光沢に富む	不明	1

	個体別番号	色調	含有物・その他	光沢	自然面	石器数
3 3	C h - 4	灰黒色不透明	石質は緻密。白色の石英の微細な脈が発達して網目状に通り、節理が発達して断山は鋭い	脂肪光沢は鈍い	スリガラス状	1
3 4	C h - 5	暗緑色不透明	石質は緻密な碧玉質	脂肪光沢に富む	不明	1
3 5	C h - 6	灰緑色不透明	石質は緻密だが不純物を多く含み、暗褐色の脈が僅かに見られる	脂肪光沢はほとんどない	不明	2
3 6	C h - 7	暗灰緑色不透明	石質は緻密、細い半透明な脈が数条見られ、一部に黄褐色の微細な脈が見られる	脂肪光沢に富む	スリガラス状	7
3 7	C h - 8	灰色半透明	石質は緻密な玉髓質。暗灰色の微細な脈が平行状・網目状にのびている。灰色微粒子が全体に散在し一部黒色微粒子が見られる	脂肪光沢に富む	不明	1
3 8	C h - 9	灰黒色半透明～不透明一部赤褐色の部分あり	石質は緻密。黄褐色～赤褐色の細やかな脈が見られ、細かい剥離が見られる	脂肪光沢に富む	なめらか	1
3 9	C h - 1 0	灰黒色不透明	石質は緻密で、剥離が少し発達している。黒色の細い脈が平行に数条見られる	脂肪光沢に富む	なめらか。 一部黄褐色の 変色が見られる	1
4 0	C h - 1 1	灰～灰黒色不透明	石質は緻密な玉髓質。暗褐色の緻密な脈が全体に網目状に通っている	脂肪光沢に富む	不明	1
4 1	C h - 1 2	暗灰色半透明	石質は緻密な玉髓質。黒色の脈が数条見られ、灰色の微粒子が全体に散在する	脂肪光沢に富む	不明	1
4 2	C h - 1 3	灰黒色不透明	石質は緻密で剥離が少し発達している。暗灰色の微細な脈が数条見られる	脂肪光沢に富む	不明	1
4 3	C h - 1 4	灰黒色半透明	石質は緻密	脂肪光沢に富む	不明	1
4 4	C h - 1 5	暗赤褐色	石質は緻密で細かな剥離が発達している。微細な半透明の石英脈が僅かに見られる	脂肪光沢は鈍い	スリガラス状	1
4 5	C h - 1 6	暗赤褐色	石質は緻密。微細な半透明の石英脈が僅かに見られる	脂肪光沢に富む	スリガラス状	1 7

O b - 黒煙石、C h - チャート、H A T - 煙宿、M U G - 麦草岬、O N B - 恩駆（神津島）、K A S - 柏岬、H S T - 星ヶ塔、W A D - 和田岬

#### 4 個体別資料の器種組成と分布（第56～61図）

前述の方法で、個体別分類をおこなった結果、それぞれの資料に、分布や石器組成の面で、特徴があることがわかった。以下に各産地ごとに記す。

##### 畠宿産黒耀石（第56図）

4つの個体に分類できるが、HAT 1、HAT 2以外は資料数が1～2と少ない。HAT 1は59点が出土している。M10・11、N10・11に分布の中心があり、石核・碎片も出土していることから剥片剥離がおこなわれていたと考えられる。石槍2点はO5、16グリットで単独出土している。HAT 2は13点が出土しており、ナイフ形石器5点と、削器2点、石核1点が単独で出土している。剥片剥離作業がおこなわれた痕跡はない。

##### 神津島・柏崎産黒耀石（第57図）

資料数1～5点の個体が主で、それぞれ単独で出土している。

##### 麦草峠産黒耀石（第58図）

7つの個体に分類できるが、いずれも20点以下と点数は少ない。MUG 1は資料数9点で、G5グリットに集中するが、50%がナイフ形石器である。MUG 2は麦草峠産の黒耀石の中で最も資料数が多く18点で、調査区の北西に集中する。ナイフ形石器3点、搔器1点が含まれる。MUG 4はMUG 2とほぼ同じ分布を示し、ナイフ形石器は1点出土している。MUG 5・6・7は各資料数1点である。このうちMUG 7はナイフ形石器である。麦草峠産の黒耀石の特徴は、個体数は7個体と多いものの、分布に

表17 個体別資料別石器器種組成表

	H A T 1	H A T 2	H A T 3	H A T 4	H S T 1	H S T 2	H S T 3	K A S 1	K A S 2	K A S 3	K A S 4	M U G 1	M U G 2	M U G 3	M U G 4	M U G 5	M U G 6	M U G 7	O N B 1	W A D 1
石槍	2					1														
ナイフ形石器	1	5	1		9	17	5	2			1		5	3	1	1			1	3
台形様石器							2													
搔器・削器・ 抉入削器	1	2		1	2	4	1							1	1					1
彫器																				
楔形石器					1	5						1								
石刃状剥片							1													
小型石刃状剥片						7	9													1
石核	1	1	1					1												
U剥片	12	1			28	55	9	2		3		2	5	1	7	1				2
剥片・砂片	42	4	1		47	64	10		2	1	1	2	9		8		1			1
合計	59	13	3	1	94	159	25	4	1	5	2	2	9	18	2	17	1	1	1	6

関してはその個体差がでないことである。同じ石器集中地点（後述1群）にMUG 1以外の個体は保存される。

#### 尾ヶ塔産黒耀石（第59図）

4つの個体に分類できる。HST 1はJ 5 グリットに分布の中心があり、各ブロックに剥片・石器が分布している。全資料に対する石器（tool）の割合は50%である。HST 2はK 5 グリットに分布の中心があり、石器の割合は約60%である。HST 3と分布域が重なる。HST 4は資料数4点で、ナイフ形石器が2点、使用痕のある剥片が2点である。尾ヶ塔の黒耀石を用いた石器として、小型石刃状剥片があげられる。これは出土17点中16点がHST 1あるいはHST 2の母岩に属するもので、分布も後述のM・N・Oブロックに集中する。

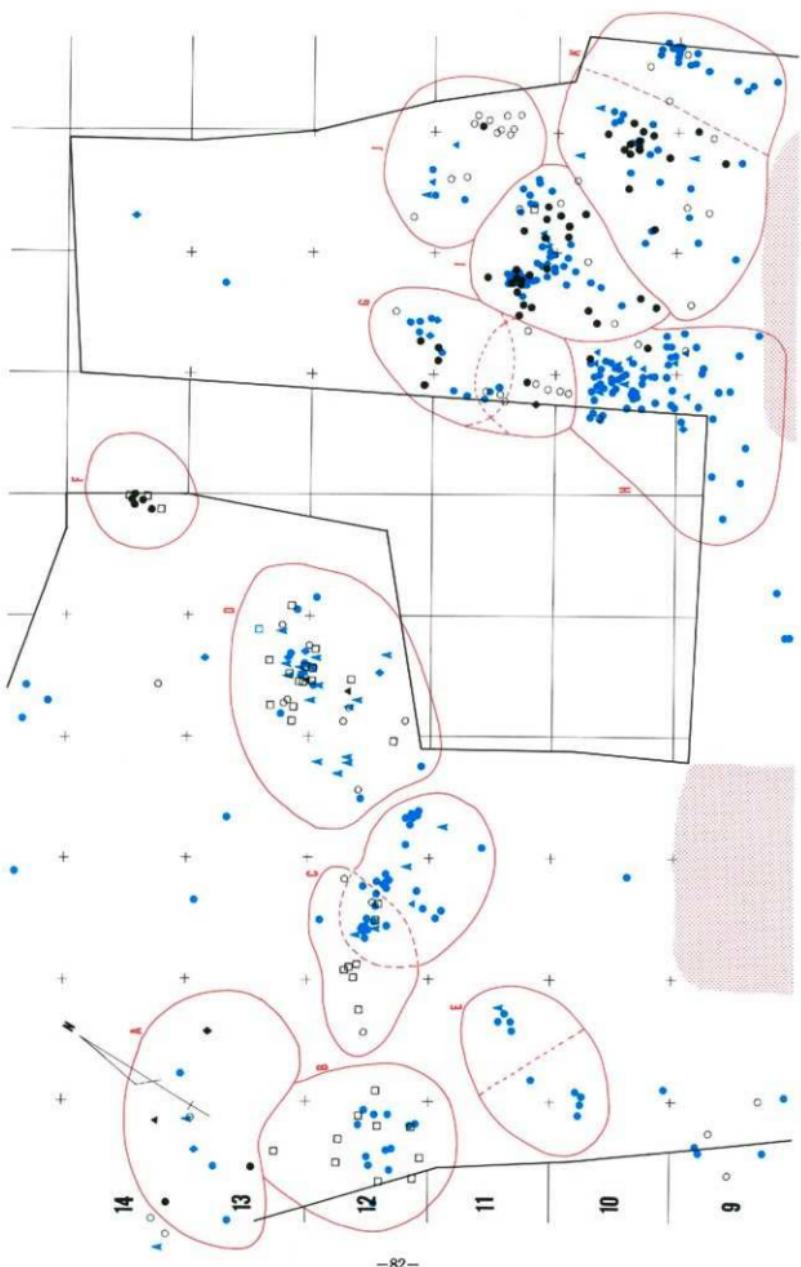
#### 和田岬産黒耀石（第60図）

9の個体に分類できる。各個体とも資料数が1～6点と少なく、ナイフ形石器・石槍として用いられているのが特徴である。また分布も調査区の南側にやや偏るが、各ブロックに1、2点の割合で出土している。

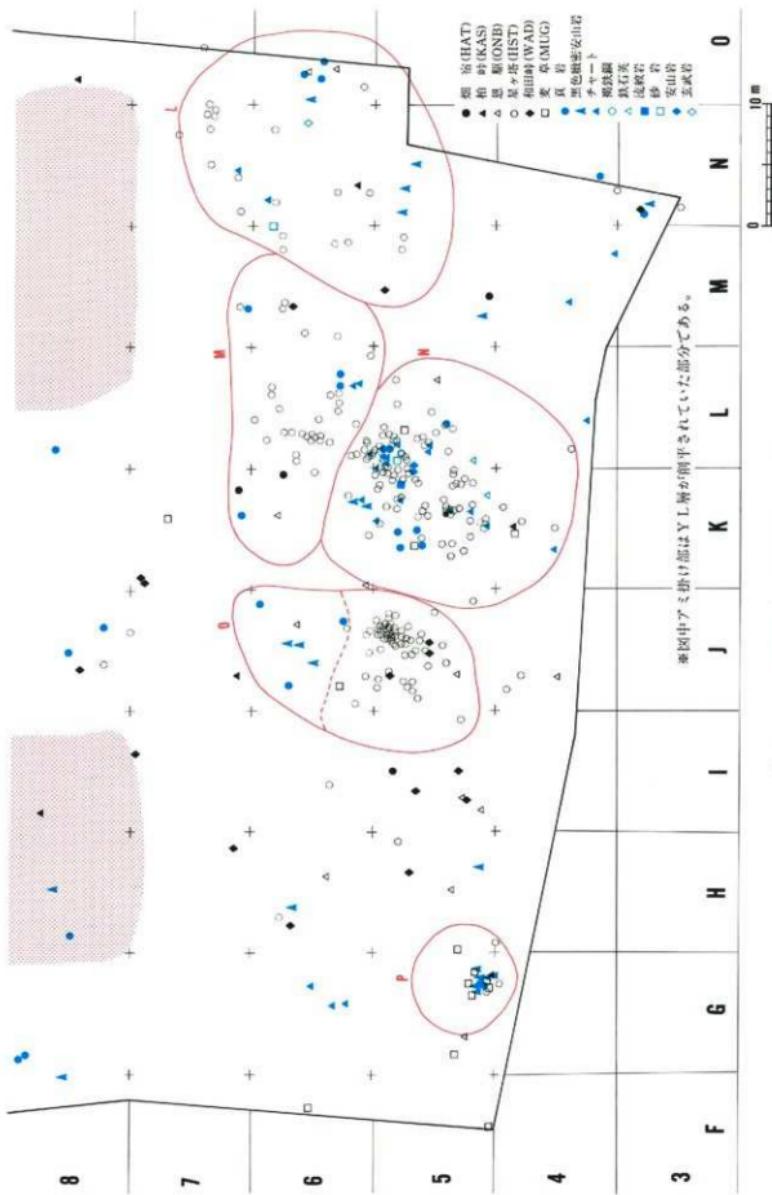
#### チャート（第61図）

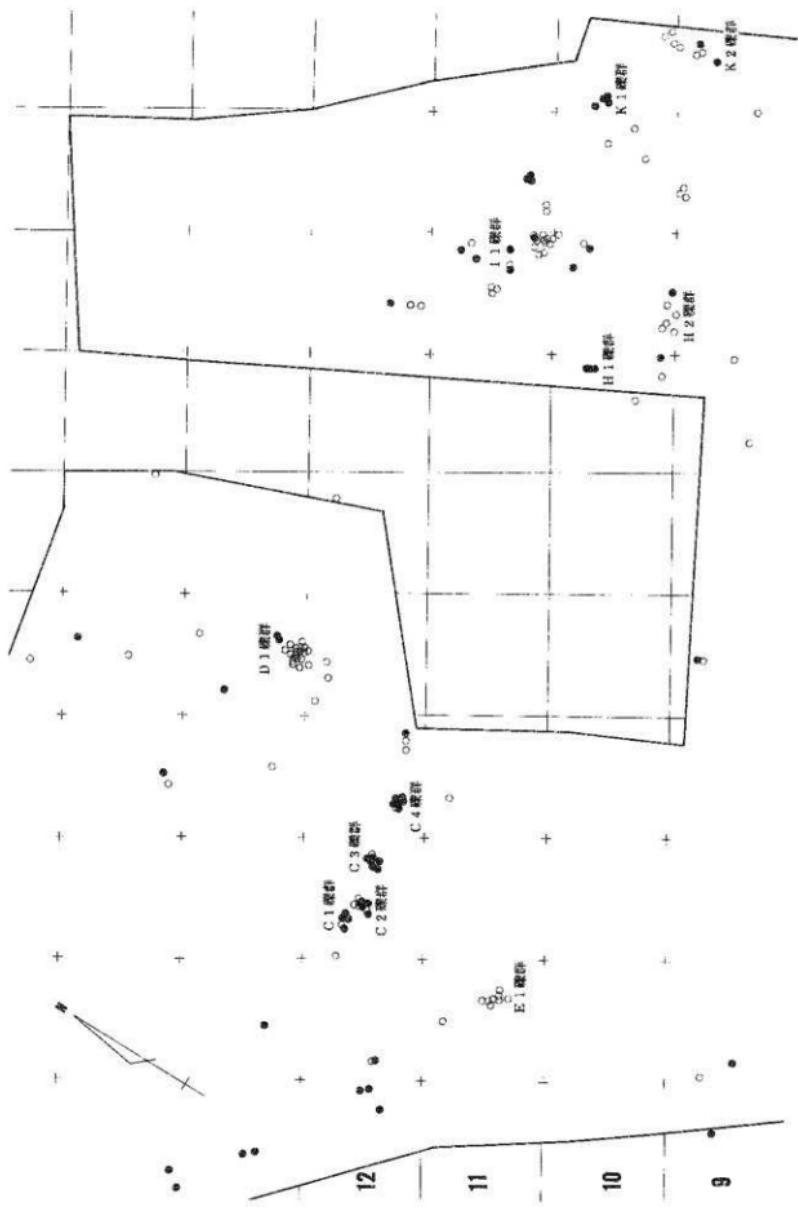
16の個体に分類できる。Ch16はNブロックに集中し資料数が12点で、台形様石器1点、削器3点、石刃状剥片1点が含まれる。その他は、各個体とも資料数が1～6点と少なく、器種は剥片が主体である。

W A D 2	W A D 3	W A D 4	W A D 5	W A D 6	W A D 7	W A D 8	W A D 9	潤 定 可 能 品	チ ナ ト 1	チ ナ ト 2	チ ナ ト 3	チ ナ ト 6	チ ナ ト 7	チ ナ ト 8	チ ナ ト 9	チ ナ ト 10	チ ナ ト 12	チ ナ ト 13	チ ナ ト 15	チ ナ ト 16	チ ナ ト 1	チ ナ ト 1	真 岩 山 岩	黒 耀 安 山 岩	そ の 他		
1	1																							1	2		
2	2	1	2			2																		10	3		
																								1			
																								3	3		
																								1			
																								2	21		
																								2	21	8	
1																								5	1	2	
																								4	225	37	3
3	1	2	4	2	1	1	2	43	1	1	1	1	2	7	1	1	1	1	1	1	1	1	17	283	51	5	

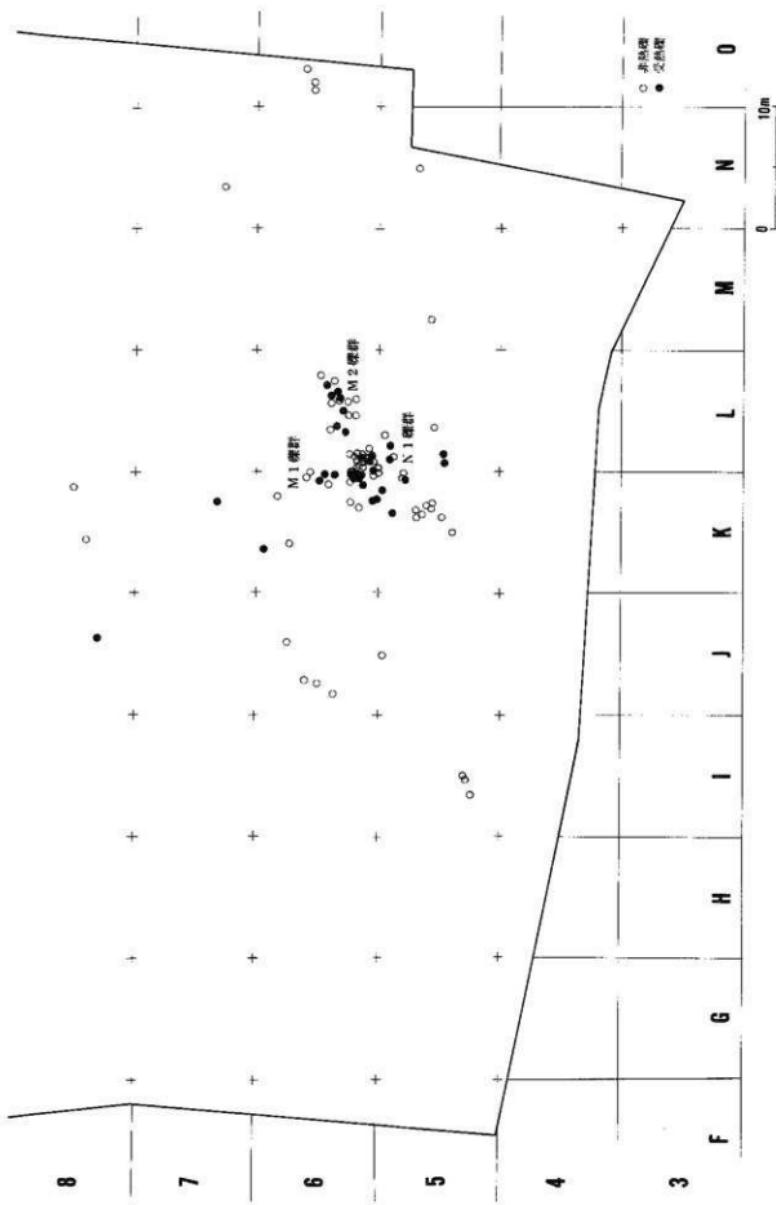


第54図 YL層石材別遺物出土状況図 (1/400)





第55図 YL層縄出土状況図 (1/400)





+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

+

14

°

13

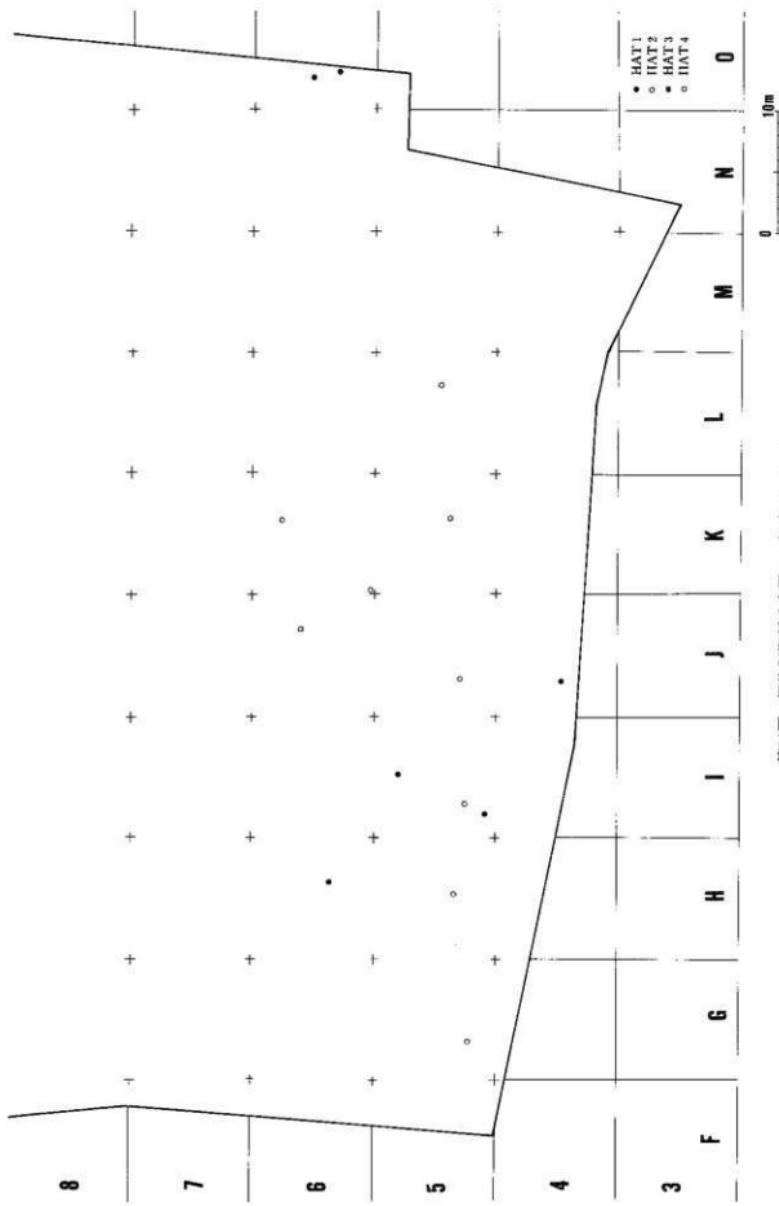
12

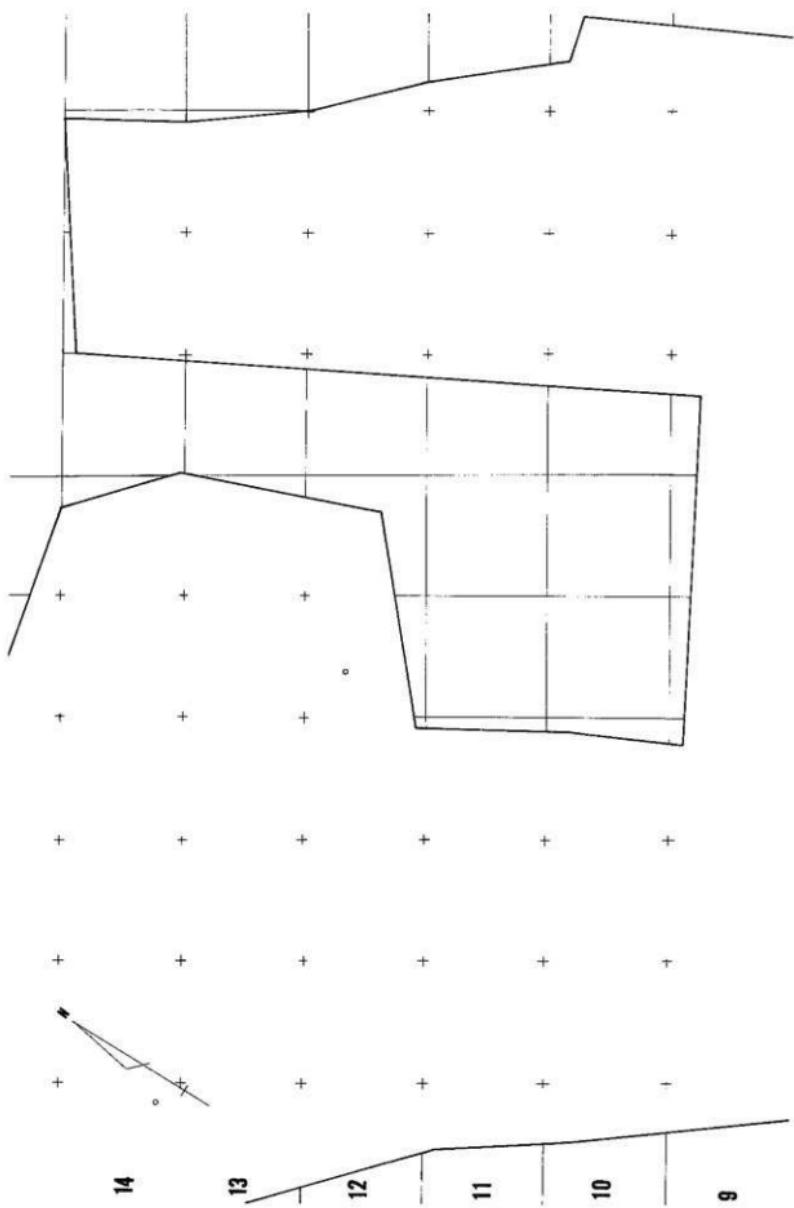
11

10

9

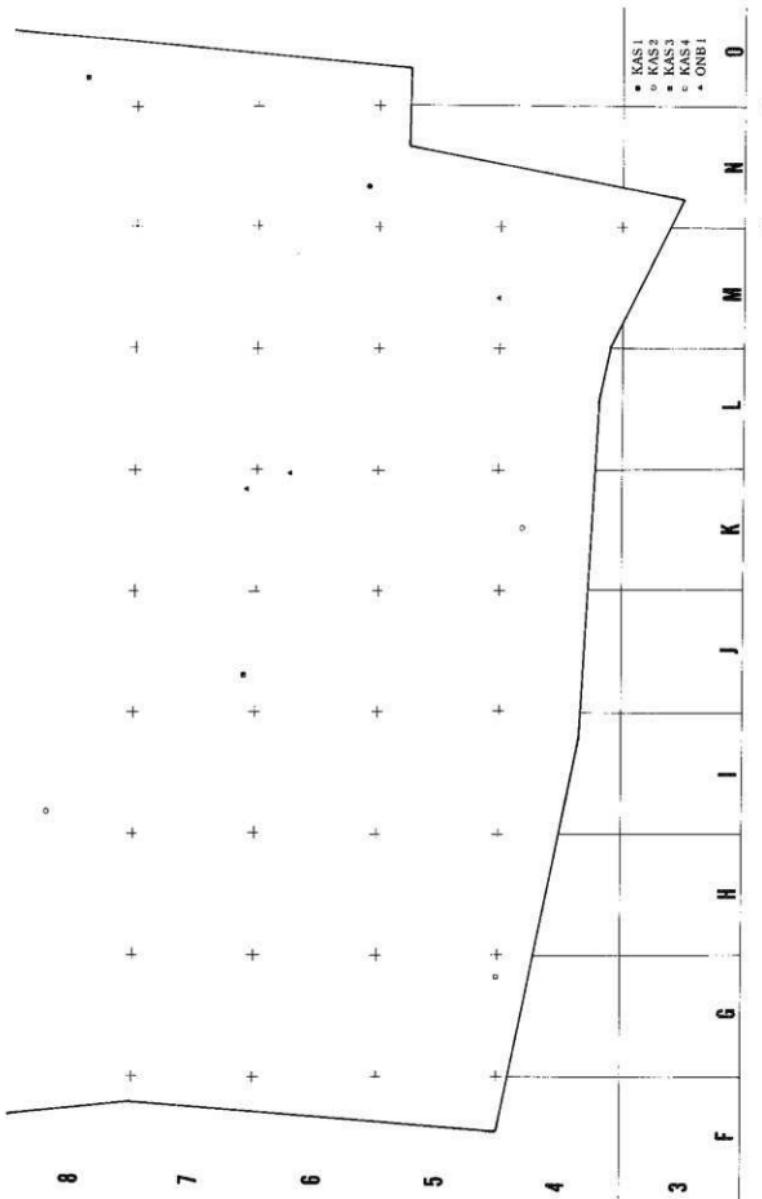
第56圖 植物資料分布圖 1、烟管 (1/400)





10m

第57図 個体別資料分布図2、相峰・恩恵(神津島) (1/400)





+ + + + + +

+ + + + + +

+ + + + + +

14

13

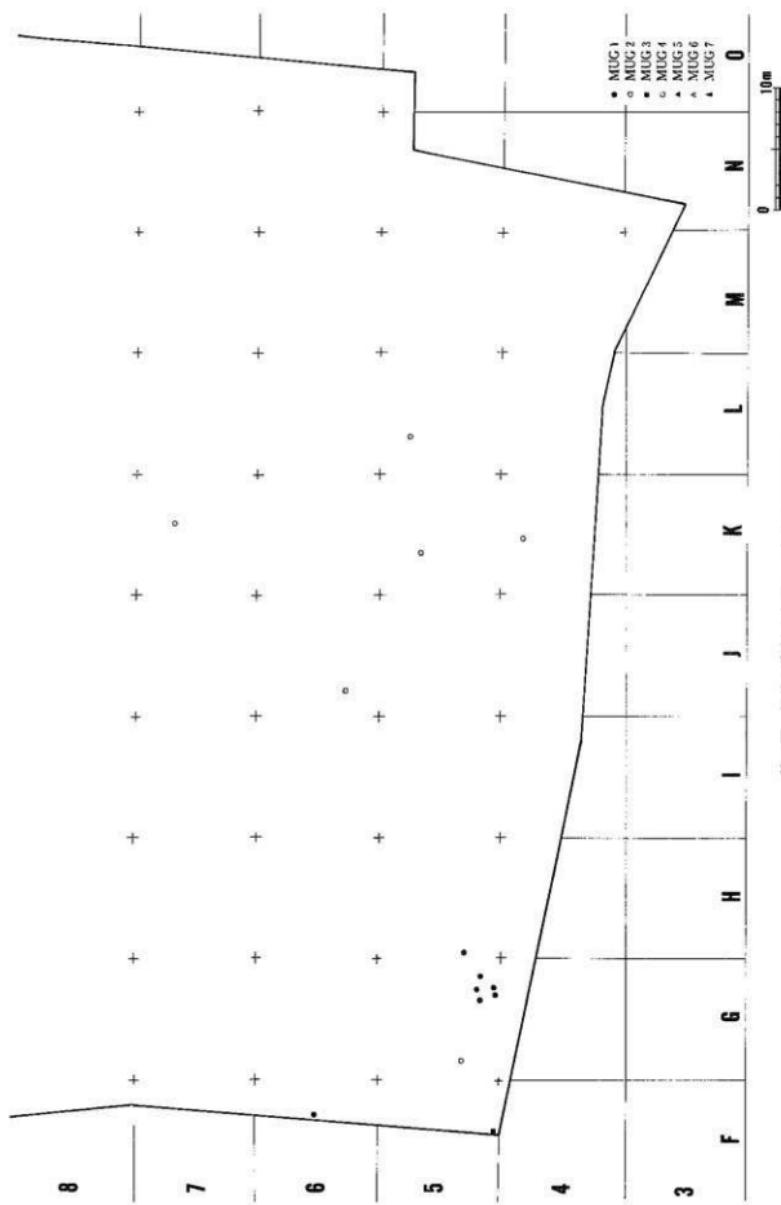
12

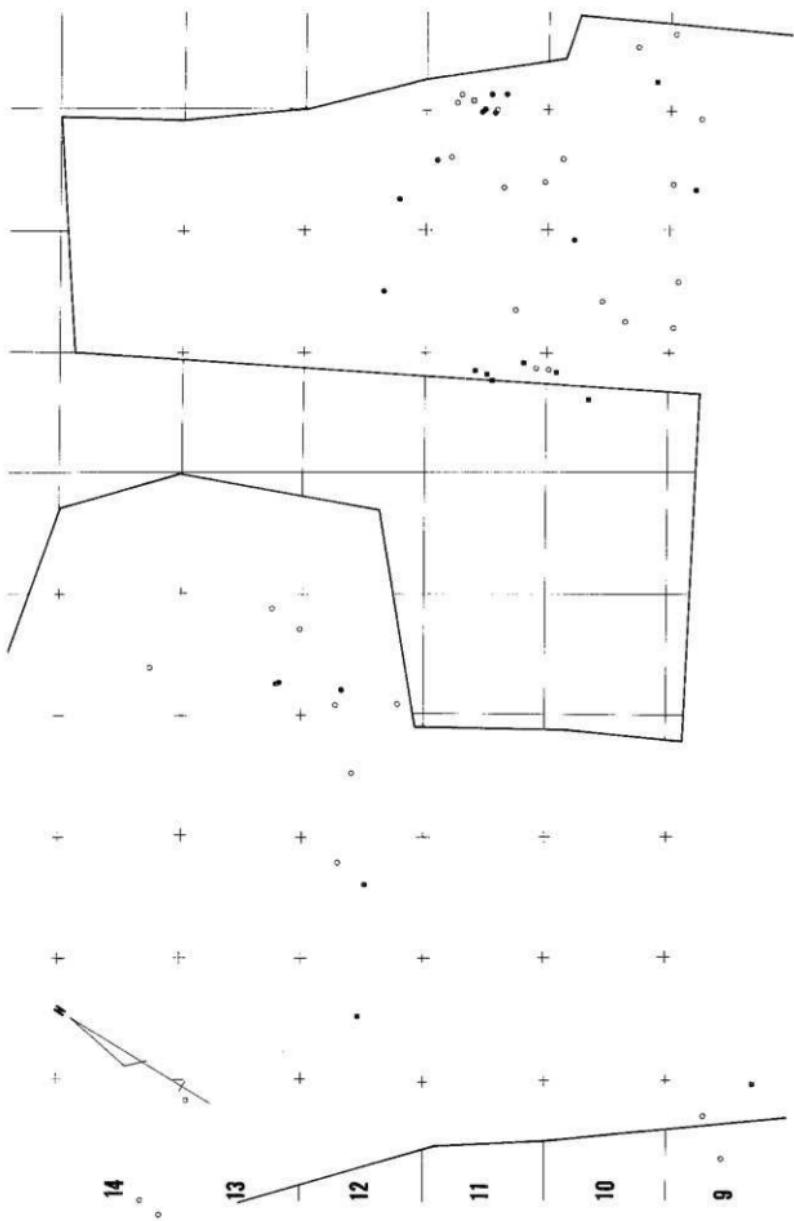
11

10

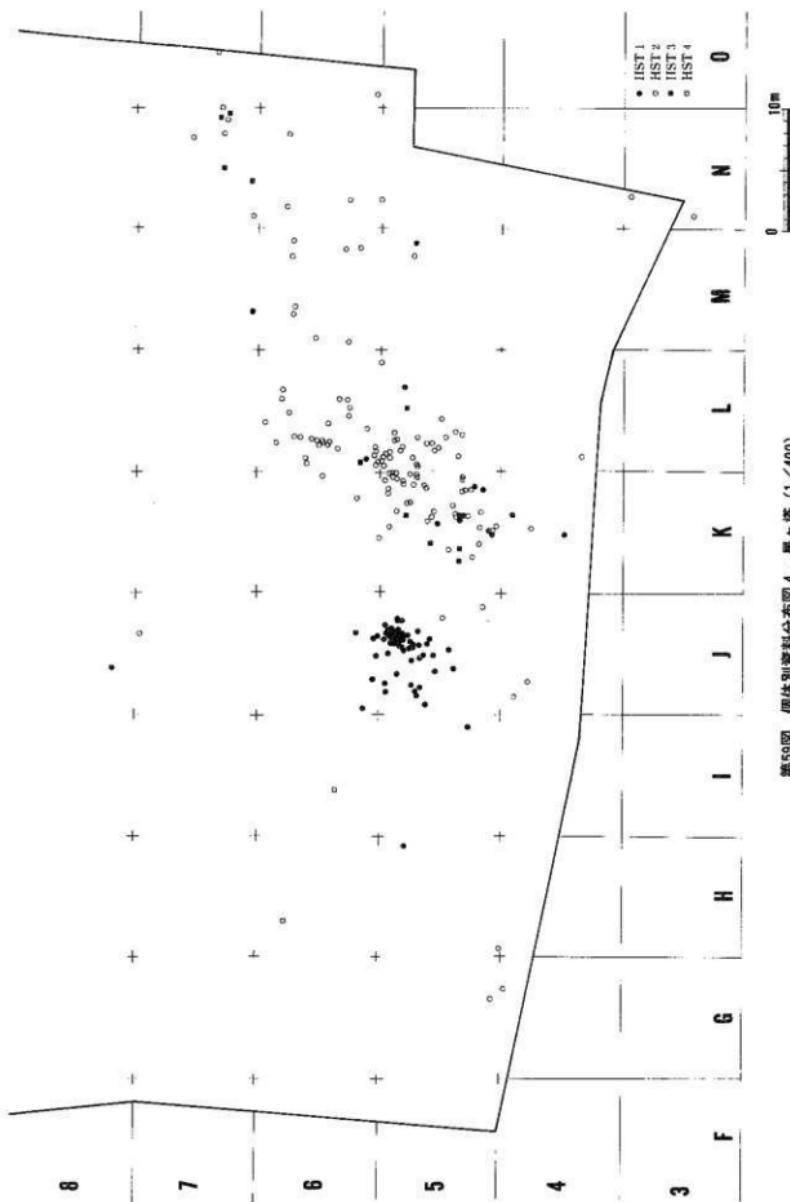
9

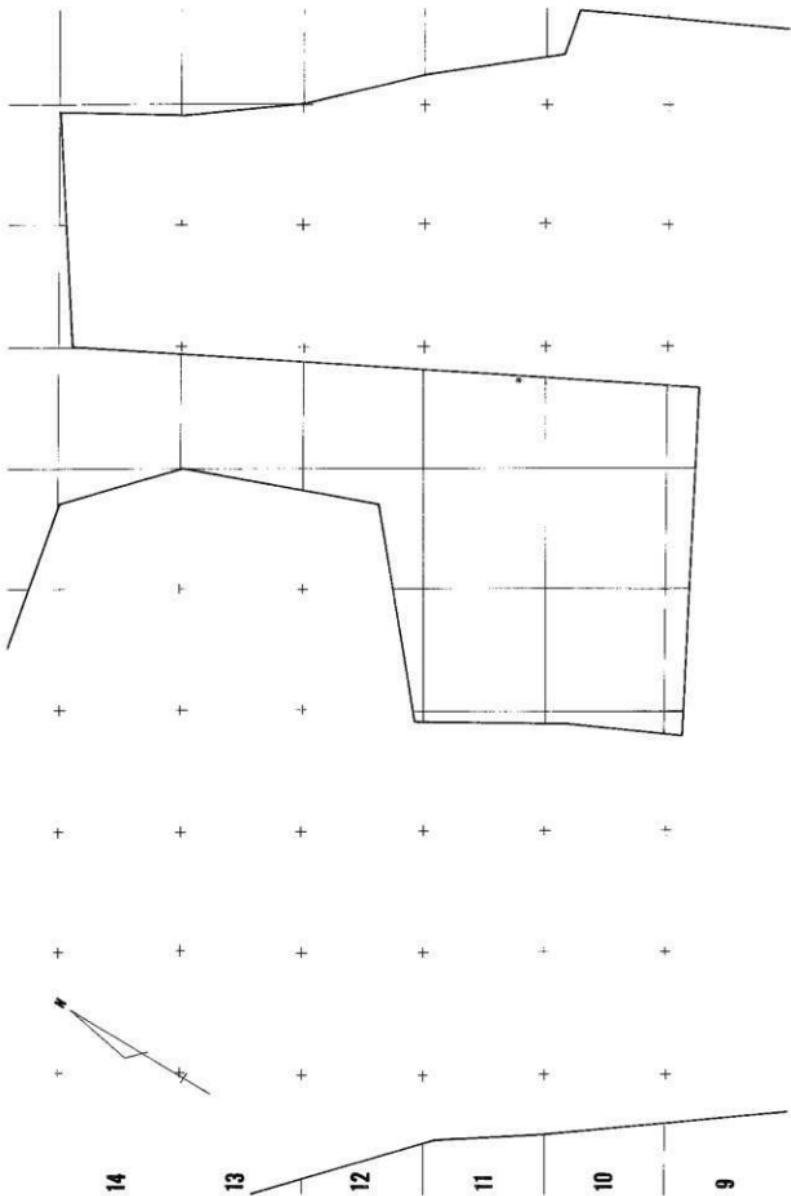
第58圖 個体別資料分布図3、麥草蛉 (1/400)





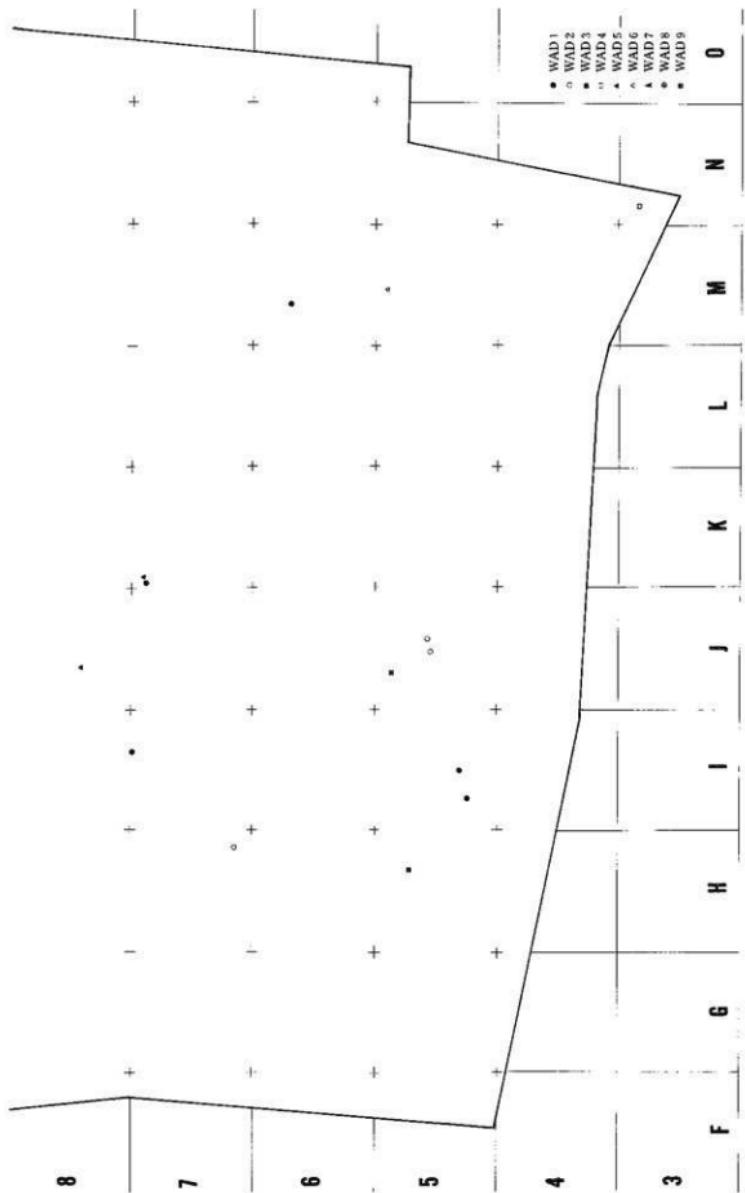
第59圖 個體別資料分布図4、墨ヶ塔 (1/400)





0 10m

第90図 程体別資料分布図5、和田峰(1/400)





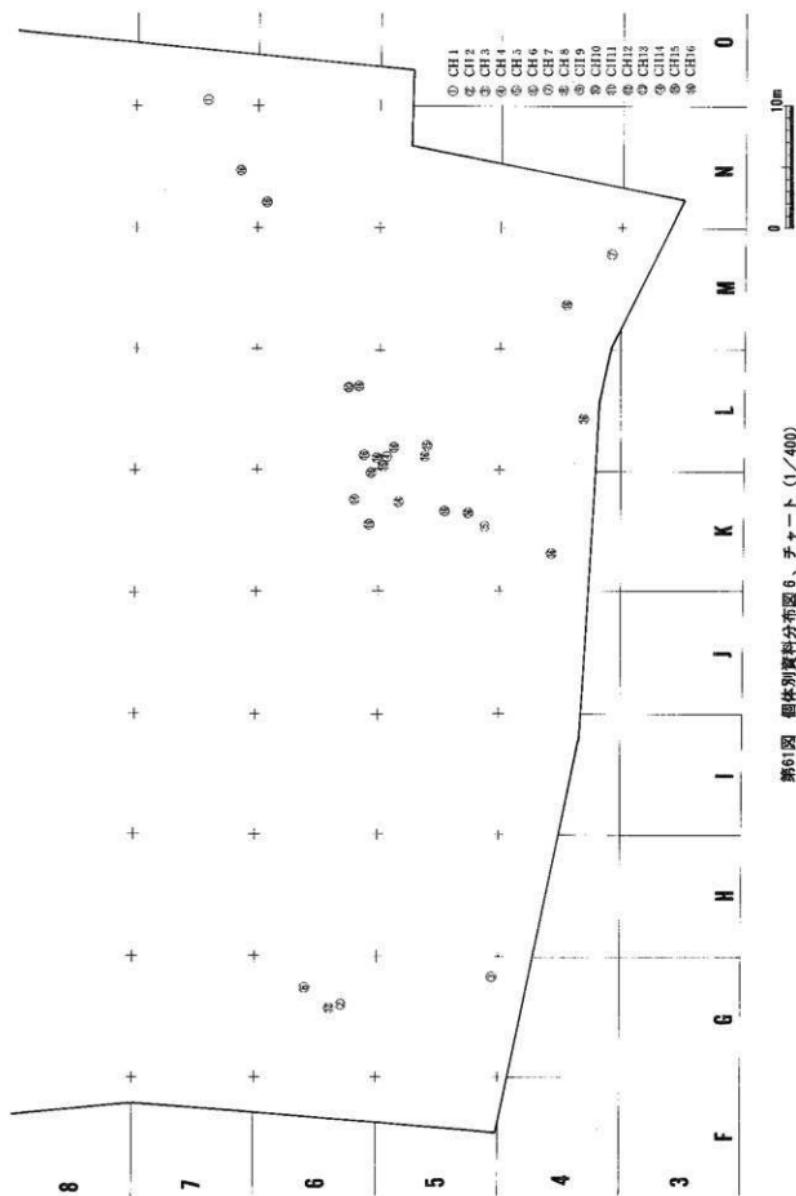
14

13

12

11

10



第61図 個体別資料分布図 6、チャート (1/400)

## 5 遺物の分布（第54・55図）

遺物の分布は発掘区の北側と南側に集中する。しかし、遺跡中央部には、未発掘区域と休場層がすでに耕作によって削平されていた部分（第54図中網掛け部）があることから、遺物は調査区の全域に広がるものとも考えられる。

遺物の平面分布の疎密より、調査区全域は16箇所の遺物集中地点に分割することができる。しかし、その遺物集中地点も、全体的に散漫な分布を示すもの、疎の部分から密な部分へと求心的な分布を示すもの、疊群を内在するもの、さらに幾つかの小さな集中地点に分割できるもの、など内容は様々である。またこれらは、石材の面から大局的にとらえると、頁岩と黒色緻密安山岩・麦草峠産の黒耀石を主体とする調査区の北西部の一群、頁岩を主体とした調査区東側の一群、星ヶ塔産の黒耀石を主体とした調査区南側の一群、の3地点にわけることもできる。

ここでは、仮にこれらの16箇所の遺物集中地点をA～Pブロックと呼称し、前記の個体別資料や他の石材のありかたも含めて、以下に記載する。

### （1） Aブロック（第62・63図）

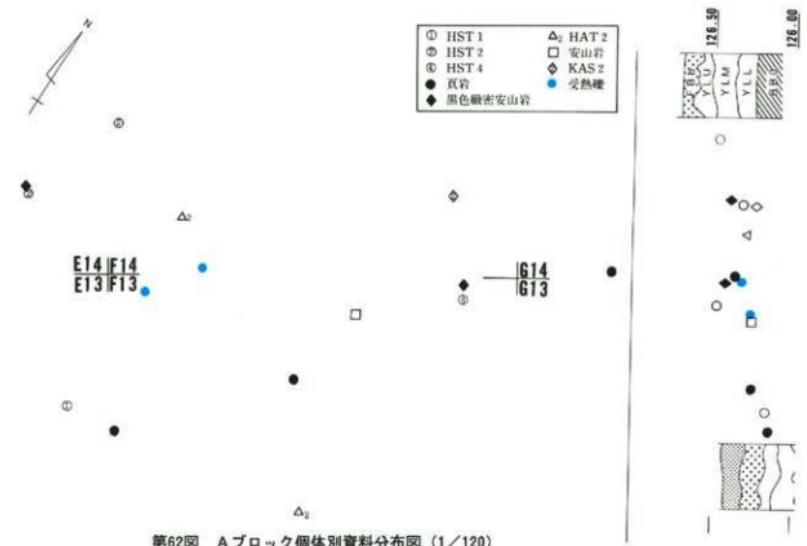
F13付近に散漫な分布を示し、Bブロックとの境は不明瞭である。分布は調査区の西側に広がる可能性がある。石器総数は11点で、小規模なブロックである。全体の約50%が石器（tool）である。

表18 Aブロック石器組成表

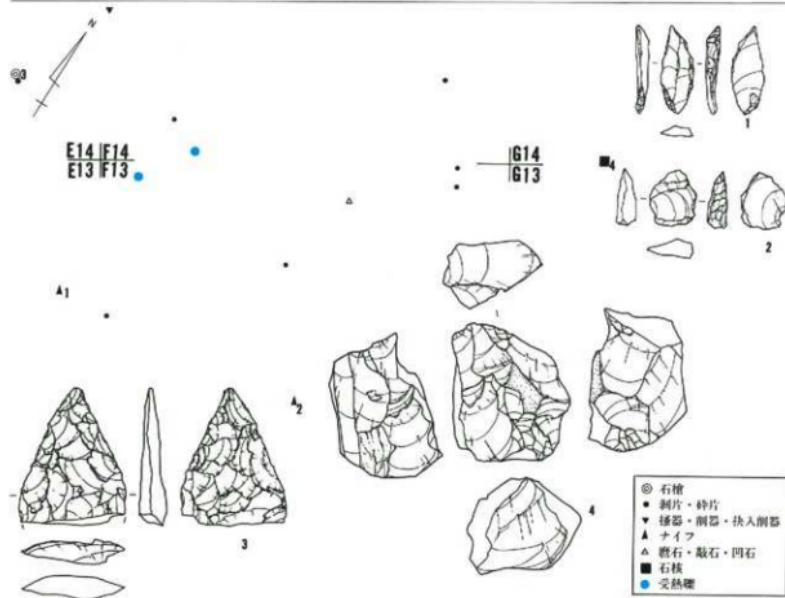
	黒耀石				頁岩	黒鐵 安山岩	安山岩	合計
	WAD9	KAS2	HAT2	HST4				
石槍						1		1
ナイフ	1		1					2
敲石・磨石							1	1
石核					1			1
U剥片		1		1				2
剝片			1		2	1		4
合計	1	1	2	1	3	2	1	11

### （2） Bブロック（第64・65図）

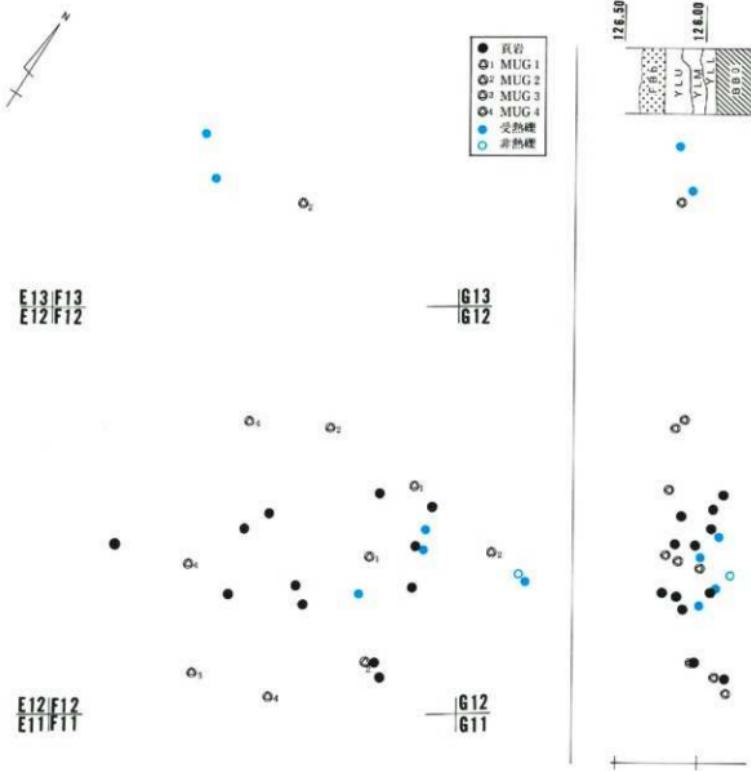
F12付近に散漫な分布を示す。全体は主に、頁岩製の石刃状剝片と黒耀石製（麦草峠産）のナイフ型石器からなる。石器総点数は21点で、約50%が石器（tool）である。



第62図 A ブロック個体別資料分布図 (1/120)



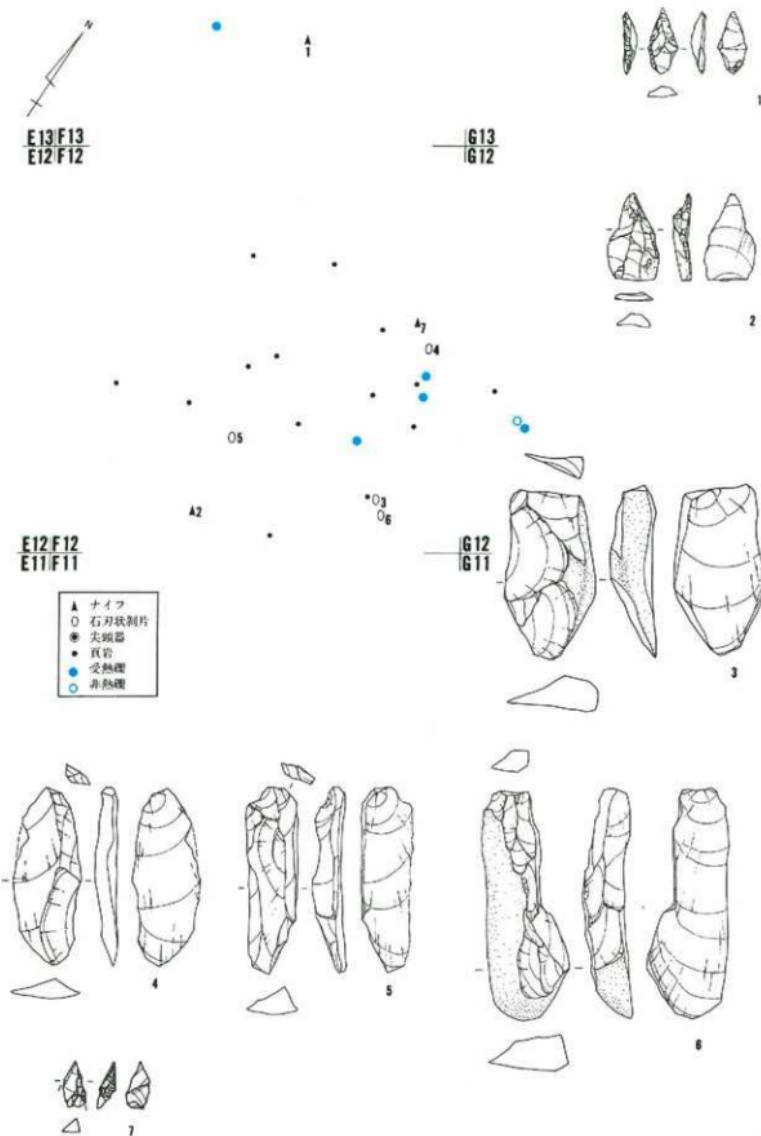
第63図 A ブロック石器器種別分布図 (1/120)



第64図 B ブロック個体別資料分布図 (1/120)

表19 B ブロック石器組成表

	頁岩	黒輝石				合計
		MUG 1	MUG 2	MUG 3	MUG 4	
ナイフ		1	1	1		3
石刃状剥片	4					4
U剥片			2		2	4
剥片	7	1	1		1	10
合計	11	2	4	1	3	21



第65図 B ブロック石器巻種別分布図 (1/120)

(3) Cブロック(第66・67・68・69図)

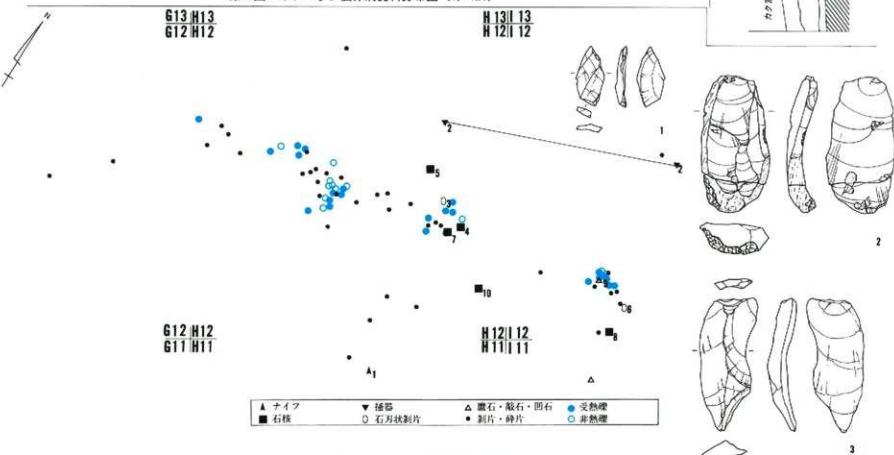
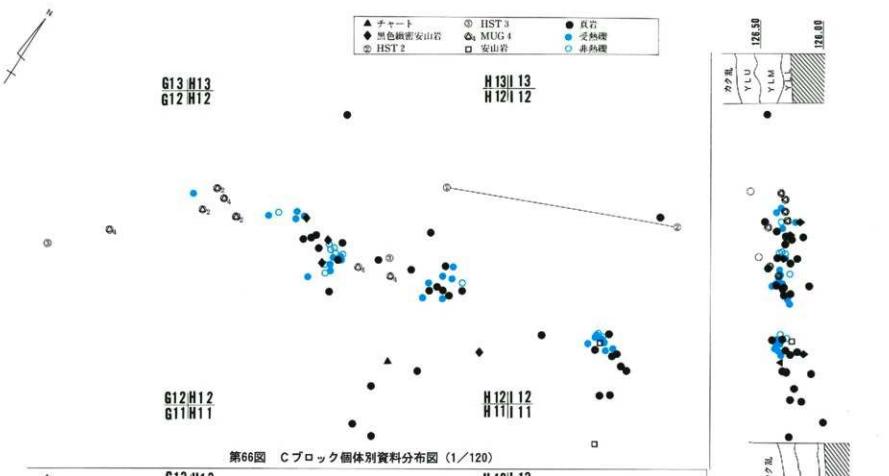
H12グリット付近に分布の中心がある。全体は麦草岬産の黒耀石を中心とした一群と、頁岩を中心とした一群に分けることができる。石器総点数は48点で、頁岩が全体の63%を占め、ナイフ形石器1点、石刃状剝片2点、石核4点を含む。ブロック内に安山岩製の敲石が出土しており、さらに76%が剝片・碎片であることから、石器製作跡の性格も持つと考えられる。一方黒耀石は全体の21%で、折損した搔器1点の他は剝片・碎片である。ブロック内には4基の礫群を内在し、特に頁岩の剝片が礫群周辺で出土している。全体の23%が利器である。

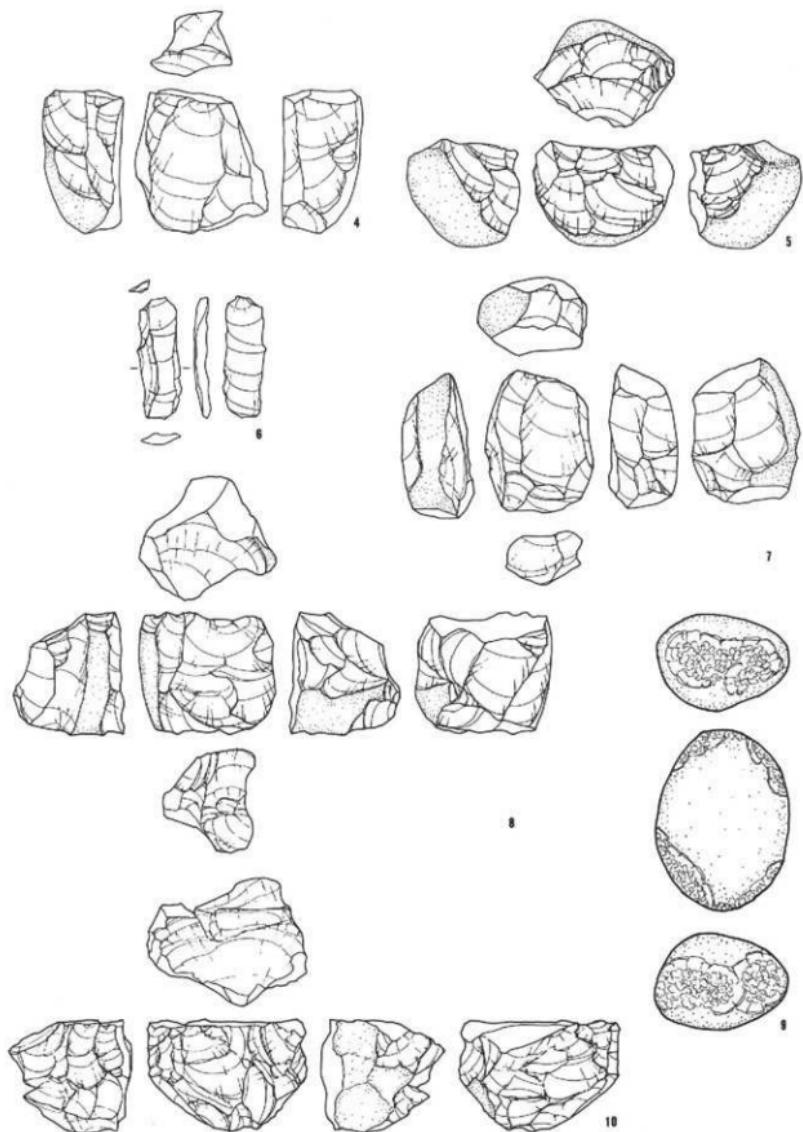
表20 Cブロック石器組成表

	頁岩	黒耀石				黒鐵 安山岩	珪質頁岩	安山岩	チャート	合計
		HST2	HST3	MUG2	MUG4					
ナイフ	1									1
搔器		1								1
石刃状剝片	2									2
敲石								2		2
石核	4					1				5
U剝片・碎片			1	1	3					5
剝片・碎片	23		1	2	1	3	1		1	32
合計	30	1	2	3	4	4	1	2	1	48

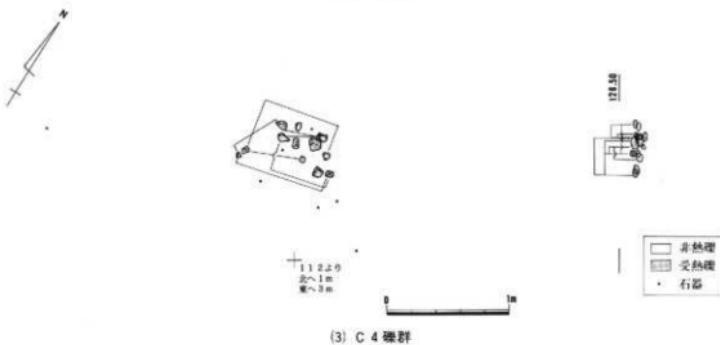
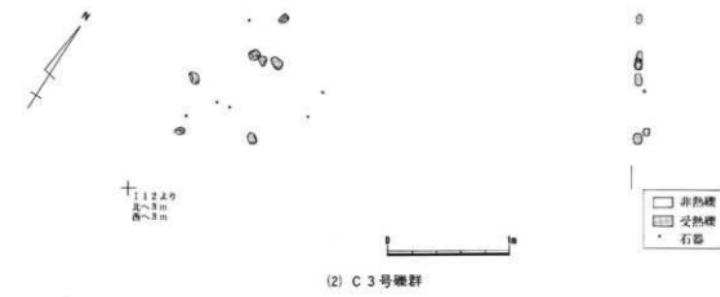
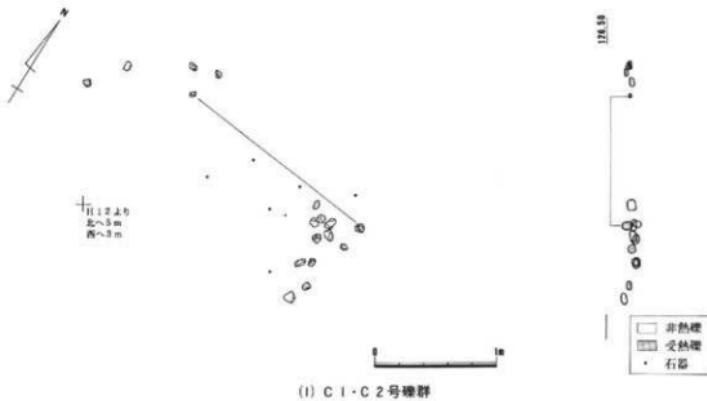
(4) Dブロック(第70・71・72・73図)

J13グリット付近に分布の中心がある。石器総点数は54点で、礫群を中心に円形の分布を示し、44%を黒耀石、26%を黒色緻密安山岩、18%を頁岩が占める。黒耀石の原産地は、尼ヶ塔・麦草・柏崎と様々で、Cブロックと同様、麦草岬産のものが多い。また黒色緻密安山岩は、調査区全体で見ると分布の中心は本ブロックにある。黒耀石製のナイフ形石器4点、搔器1点、削器1点、頁岩製の石刃状剝片1点を含み、約30%が利器である。礫群1基が内在する。

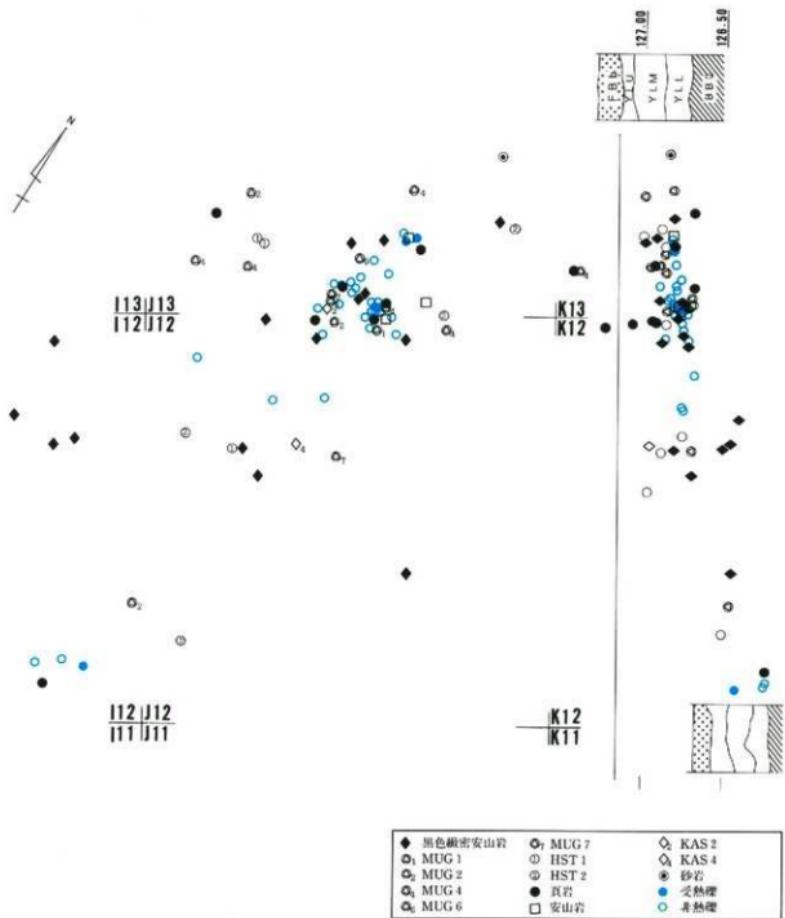




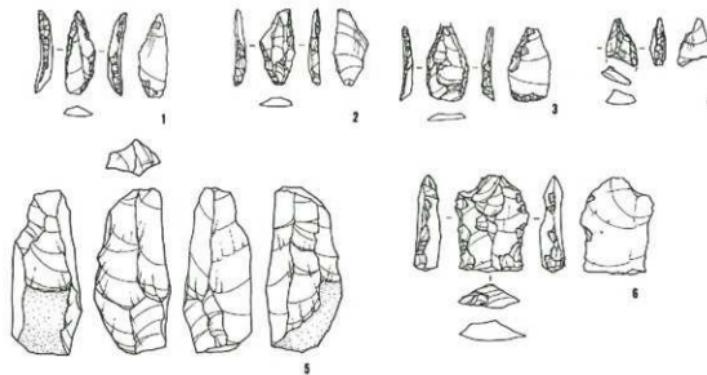
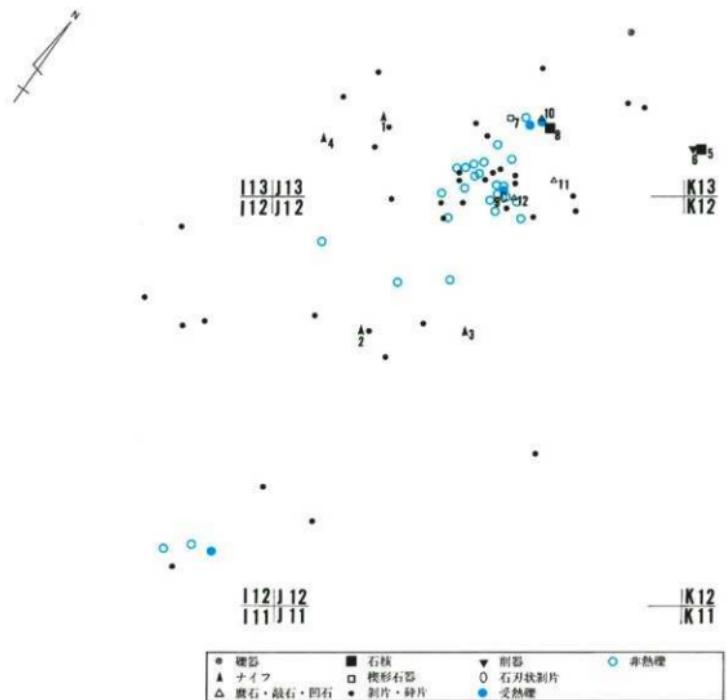
第68図 C ブロック石器種別分布図 2



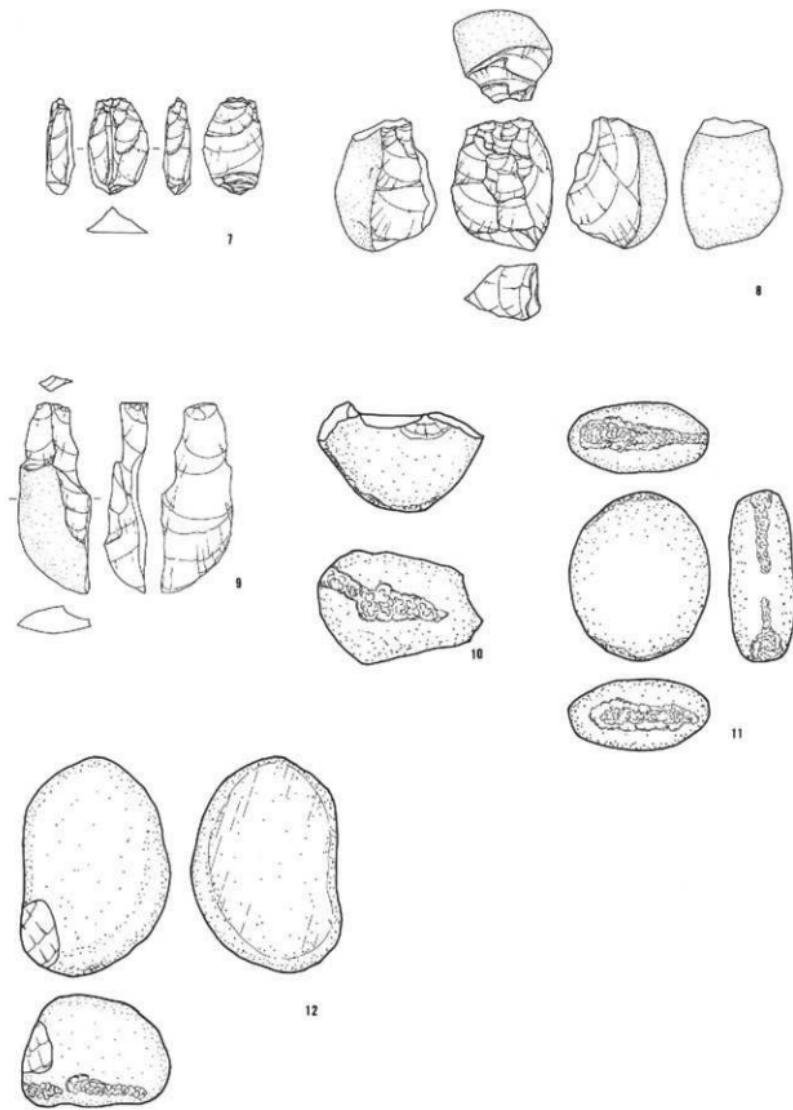
第69図 C ブロック砾群平面・垂直分布図 (1/40)



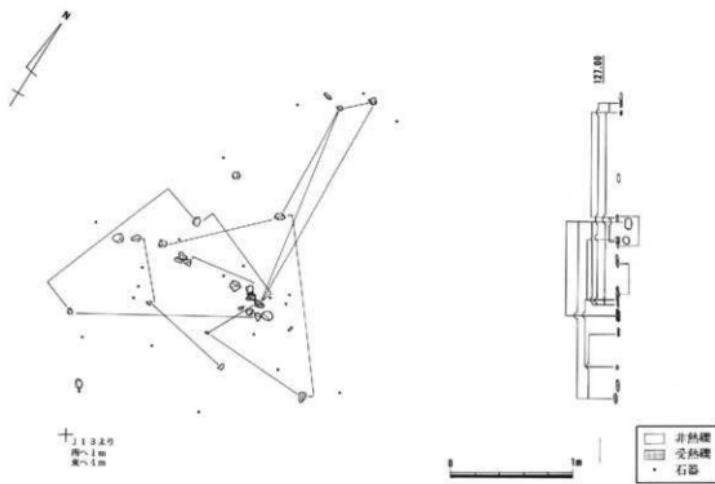
第70図 Dブロック個体別資料分布図 (1/120)



第71図 Dブロック石器器種別分布図1 (1/120)



第72図 D ブロック石器種別分布図 2



第73図 D ブロック 磺群平面・垂直分布図 (1/40)

表21 D ブロック石器組成表

	黒耀石										黒鐵 安山岩	真岩	その 他	合計	
	HST 1	HST 2	MUG 1	MUG 2	MUG 4	MUG 6	MUG 7	KAS 2	KAS 2	HST					
ナイフ	2				1		1								4
搔器		1													1
削器				1											1
楔形石器											1				1
石刃状剥片												1			1
石核												2			2
敲石・磨石													4		2
U剥片		1		1	1						1				4
剥片	1	1	1	3	4	1		1	1	1	13	7	1	35	
礫器													1		1
合計	3	3	1	4	7	1	1	1	1	2	14	10	6	54	

(5) E ブロック (第74・75・76図)

E11グリット付近に分布の中心がある。石器総点数が11点の頁岩を中心としたブロックで、2地点に分けることができる。北側の一群をE1ブロック、南側の一群をE2ブロックとすると、E1ブロックには砾群1基と頁岩製の石核が含まれ、E2ブロックには頁岩製のナイフ形石器が含まれる。いずれも散漫な分布を示す。

(6) F ブロック (第77図)

K14グリット付近に分布する、黒耀石を中心としたブロックである。石器総点数は8点で、非常に小規模であるが、約2mの範囲に、畠宿廬の黒耀石5点と麦草峠廬の黒耀石3点が集中して分布する。なお、畠宿廬の黒耀石の石核も出土している。剥片と石核は接合していないが、同一母岩と考えている。調査区の端に分布するため、ブロックは本調査区部分に拡大する可能性がある。

表22 E ブロック石器組成表

	黒耀石	頁岩	黒鐵安山岩	合計
ナイフ	1		1	
石刃状剥片	1		1	
石核	1		1	
剥片	1	6	1	8
合計	1	9	1	11

表23 F ブロック石器組成表

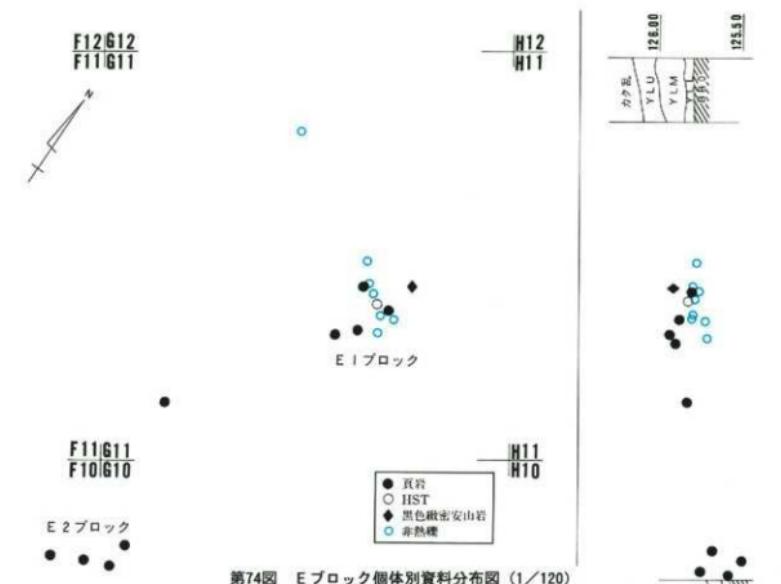
	黒耀石					合計
	HAT1	MUG2	MUG4	MUG5		
石核	1					1
U剥片	1				1	2
剥片・碎片	3	1	1			5
合計	5	1	1	1		8

(7) G ブロック (第78・79図)

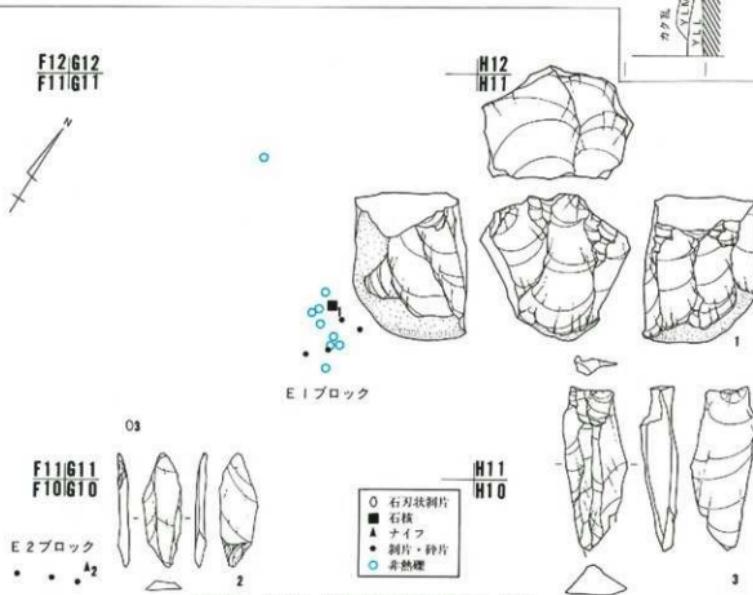
L11からM12ブロックにかけて帶状に分布するブロックで、石器総点数は25点で、北側の頁岩を主体とするG1ブロックと、南側の黒耀石を主体とするG2ブロックに分けることができる。G1ブロックでは敲石の他に、頁岩の剥片と畠ヶ塔廬の黒耀石の抉入削器が出土している。G2ブロックでは畠ヶ塔廬の黒耀石のナイフ形石器と抉入削器が出土している。これらのブロックは石材組成と器種組成の面に特徴があり、黒耀石すなわちG2ブロックは、利器の占める割合が57%であるのに対して、頁岩は7%以下である。

表24 G ブロック石器組成表

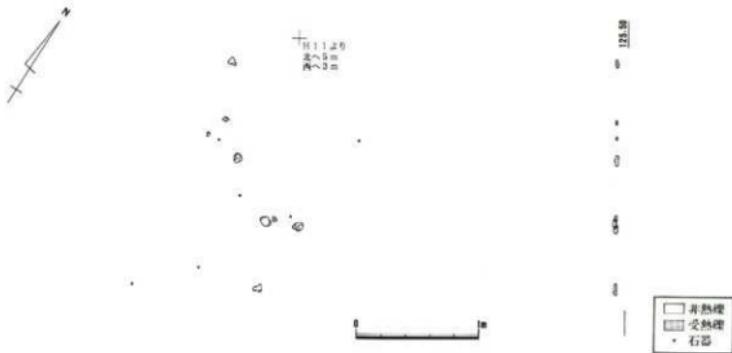
	黒耀石					頁岩	安山岩	合計
	HST1	HST2	HST3	HAT1	WAD8			
ナイフ		1	2					3
抉入削器	1		1					2
楔形石器			1					1
石刃状剥片						1		1
石核						1		1
磨石							2	2
U剥片				2				2
剥片	1	1	2	1	1	7		13
合計	2	3	5	3	1	9	2	25



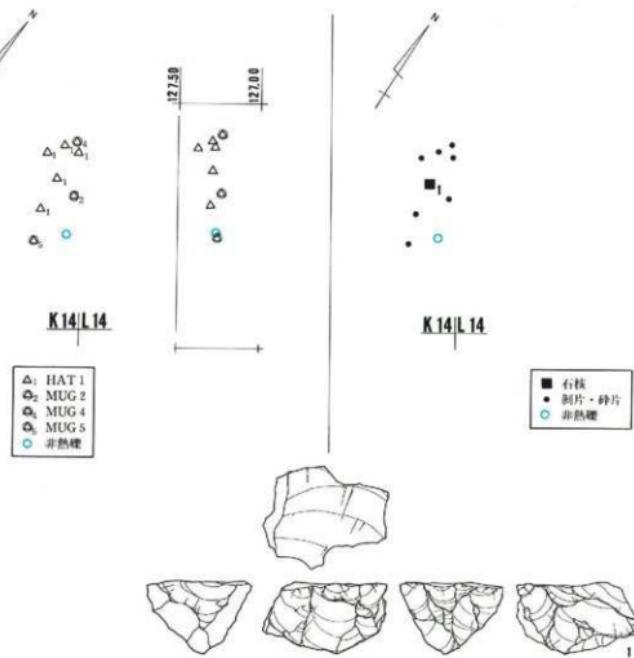
第74図 E ブロック個体別資料分布図 (1/120)



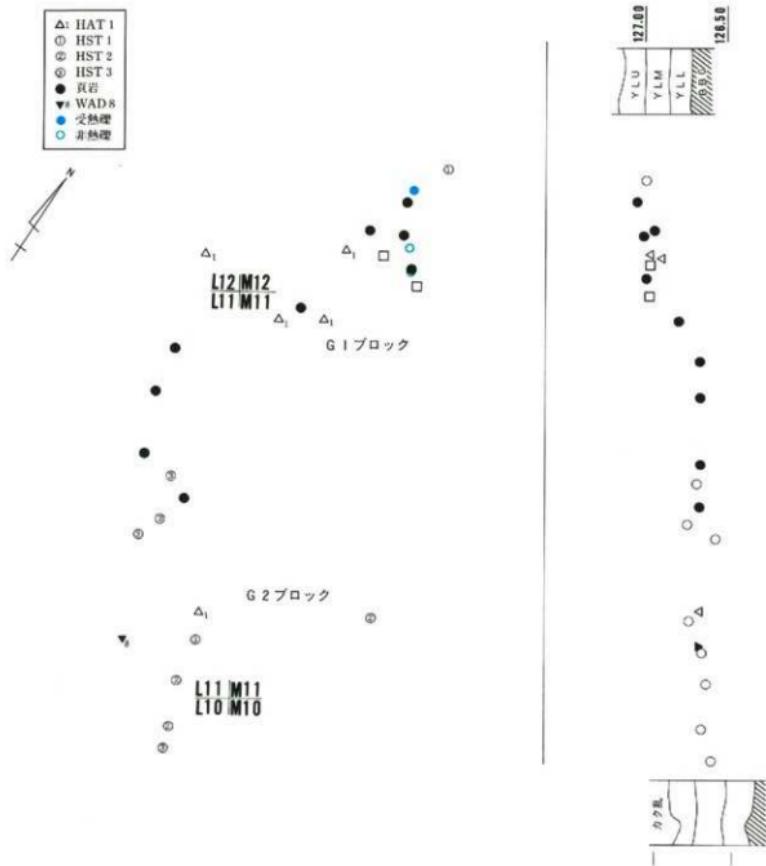
第75図 E ブロック石器種別分布図 (1/120)



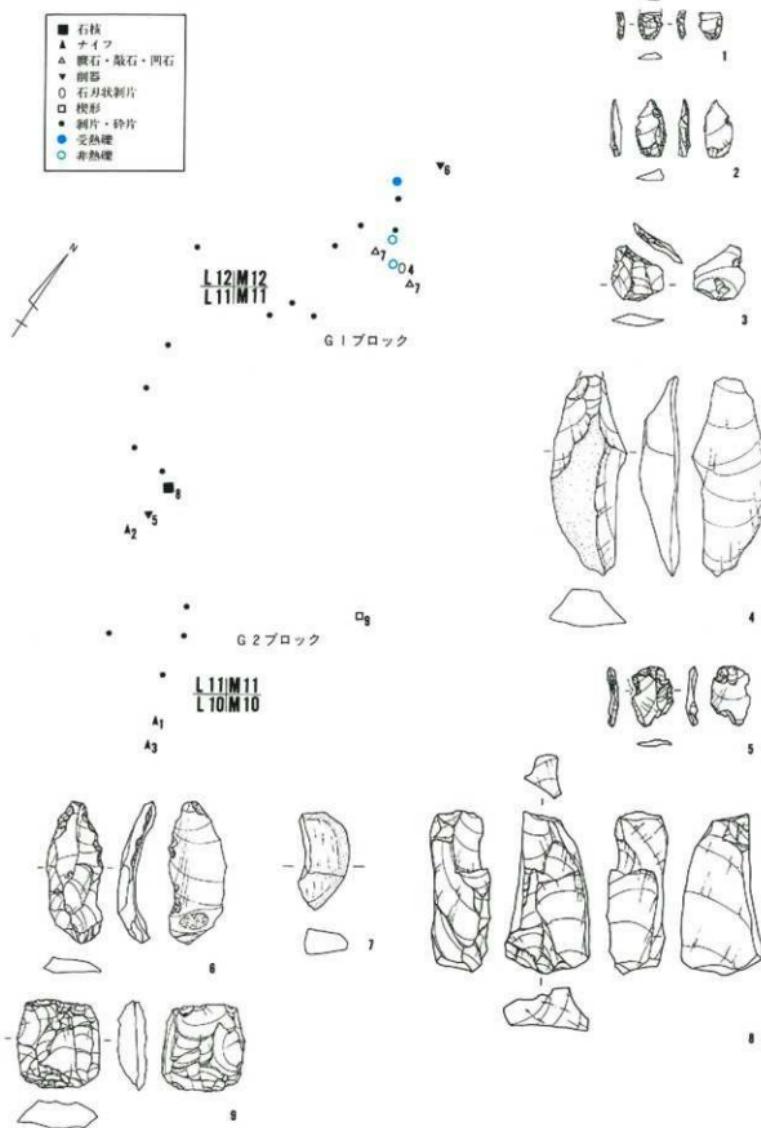
第76図 E ブロック礫群平面・垂直分布図 (1/40)



第77図 F ブロック個体資料・石器器種別分布図 (1/120)



第78図 G ブロック個体別資料分布図 (1/120)



第79図 Gブロック石器器種別分布図 (1/120)

(8) Hブロック (第80・81・82図)

L11からM10ブロックを中心として分布する。石器総数78点で、全体の約80%を真岩が占めるブロックで、散漫ではあるが礫群を含む。器種の内訳は、ナイフ形石器3点、撃器1点、石刃状剥片4点、石核1点が真岩製であり、撃器については石核を素材とするものである。星ヶ塔の黒耀石では楔形石器が1点出土している。

表25 Hブロック石器組成表

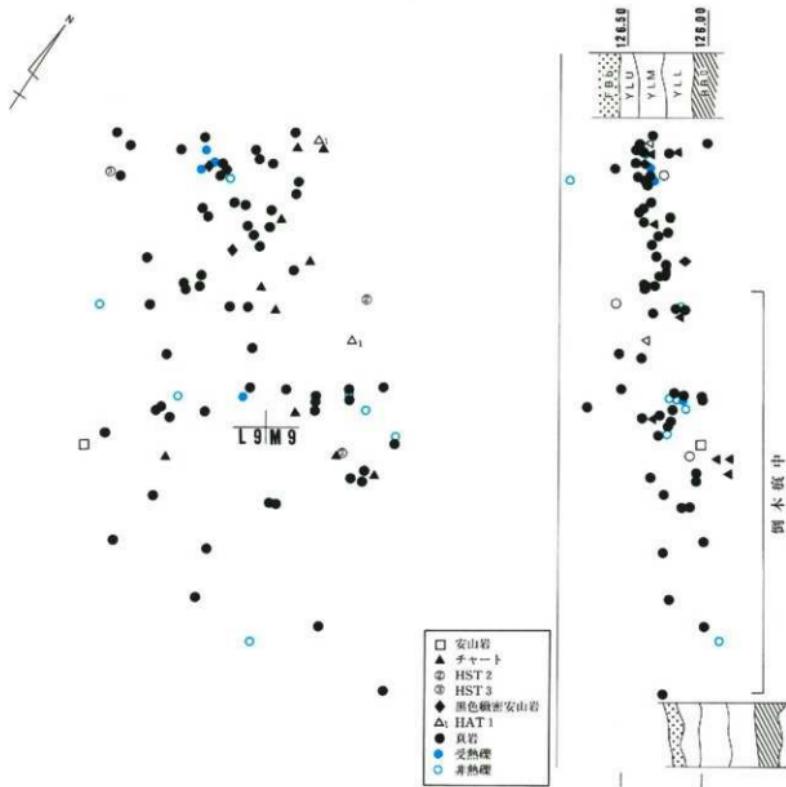
	真岩	チャート	黒耀石			黒織 安山岩	安山岩	合計
			HST 2	HST 3	HAT 1			
ナイフ	3							3
撃器	1							1
楔形石器			1					1
石刃状剥片	4							4
石核	1					1		2
敲石							1	1
U剥片				1				1
剥片・碎片	54	8	1		1	1		65
合計	63	8	2	1	1	2	1	78

(9) Iブロック (第83・84・85・86・87図)

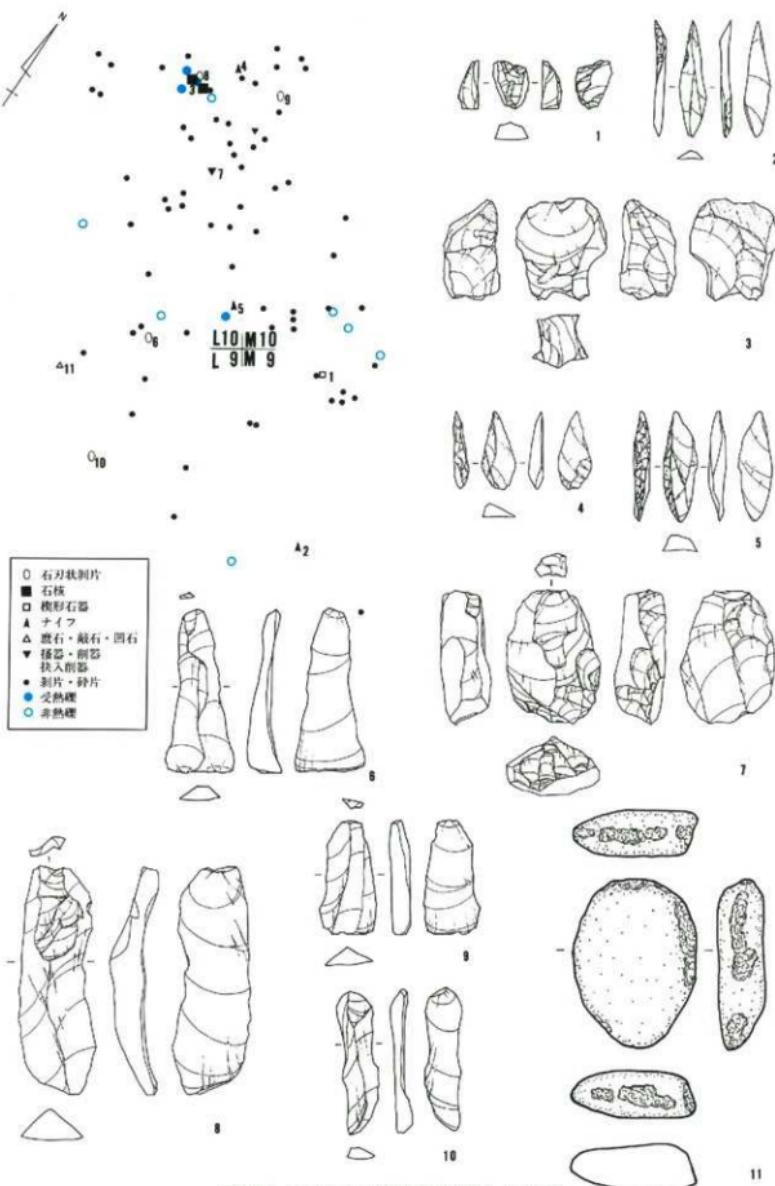
M11グリットを中心に、約10mの広範囲に分布するブロックである。石器総点数は80点で、約57%が真岩、約30%が細粒産の黒耀石であり、在地系の石材を持つブロックである。真岩と黒耀石はほぼ同様の分布を示し、ブロックの外周に星ヶ塔産の黒耀石が分布する。この星ヶ塔産の黒耀石は全てが利器であり、ブロックに持ち込まれたものと考えることができる。また真岩の石核は4点が出土しており、剥片剥離がおこなわれたものと考えられる。礫群はN11グリット杭付近に、非熱融を中心としたものが1基検出されている。

表26 Iブロック石器組成表

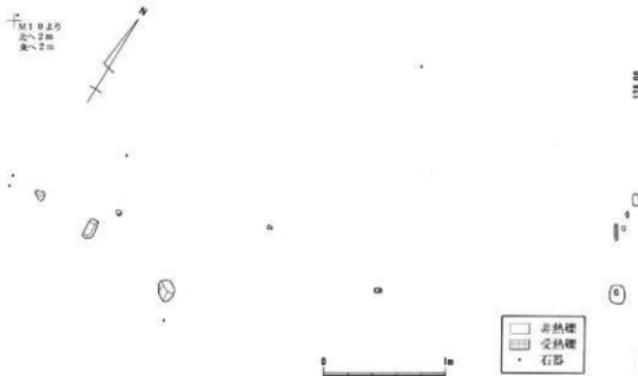
	真岩	黒耀石						チャート	安山岩	砂岩	合計
		HAT 1	HAT 2	HAT 3	HST 1	HST 2	MUG 2				
ナイフ			1			1					2
楔形石器						1					1
石刃状剥片	1										1
石核	4			1							5
敲石・凹石	1								1	1	3
U剥片		5				1			1		7
剥片・碎片	40	16	1				1	2			60
合計	46	21	2	1	1	3	1	2	2	1	80



第80図 Hブロック個体別資料分布図 (1/120)



第81図 Hブロック石器種別分布図 (1/120)



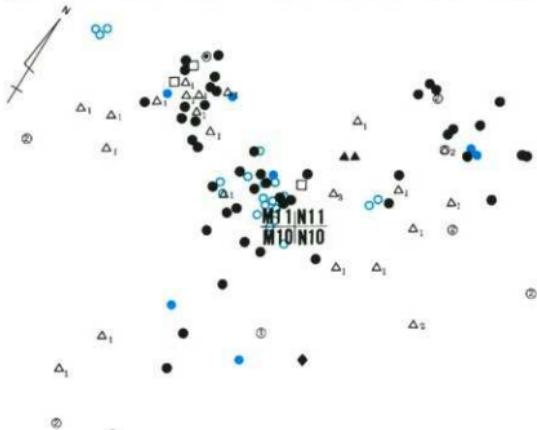
(1) H 1号碑群



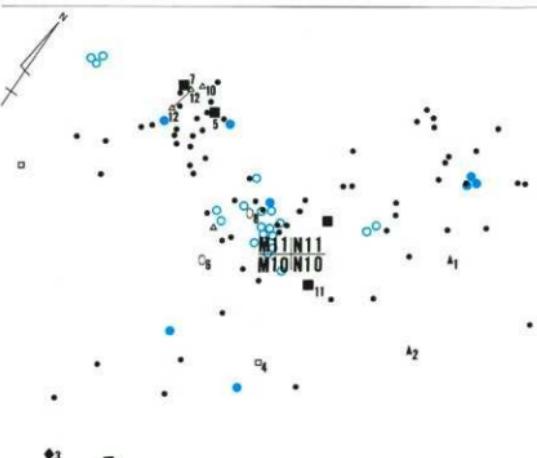
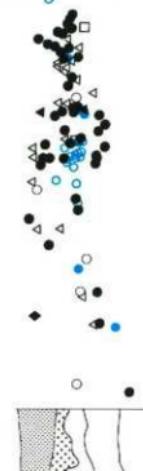
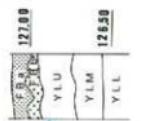
(2) H 2号碑群

第82図 H ブロック 碑群平面・垂直分布図 (1/40)

▲ チャート	○ HST 1	● 砂 岩	○ 非熱縛
△ <sub>1</sub> HAT 1	○ <sub>1</sub> HST 2	● <sub>2</sub> MUG 2	○ <sub>2</sub> 非熱縛
△ <sub>2</sub> HAT 2	□ 安山岩	● <sub>3</sub> 真 岩	● <sub>4</sub> 受熱縛
△ <sub>3</sub> HAT 3	◆ 黒色緻密安山岩		

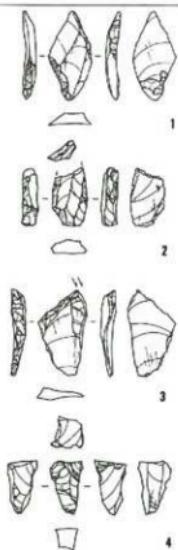


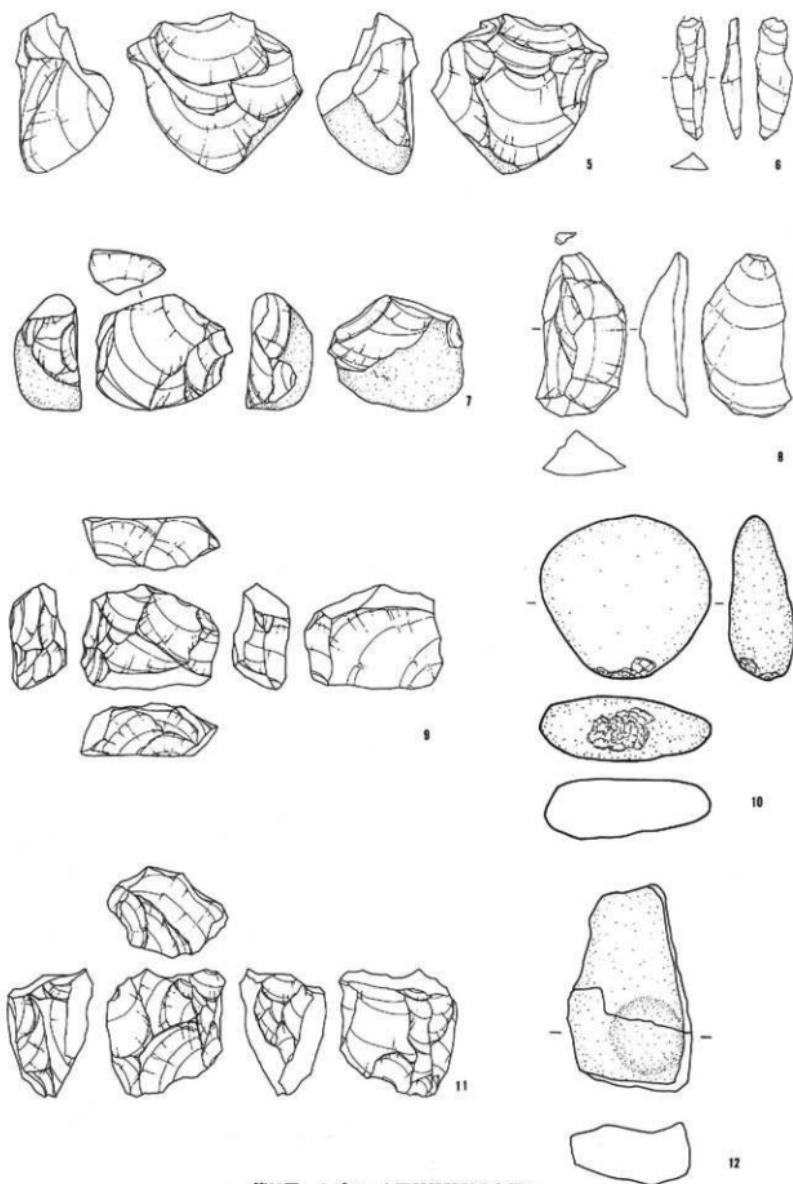
第83図 I ブロック個体別資料分布図 (1/120)



■ 石 核	○ 石刃状剥片	● 剥片・碎片
△ 磨石・敲石・凹石	◆ 邪 武	● 受熱縛
▲ ナイフ	□ 梯形石器	○ 非熱縛

第84図 I ブロック石器種別分布図 1 (1/120)

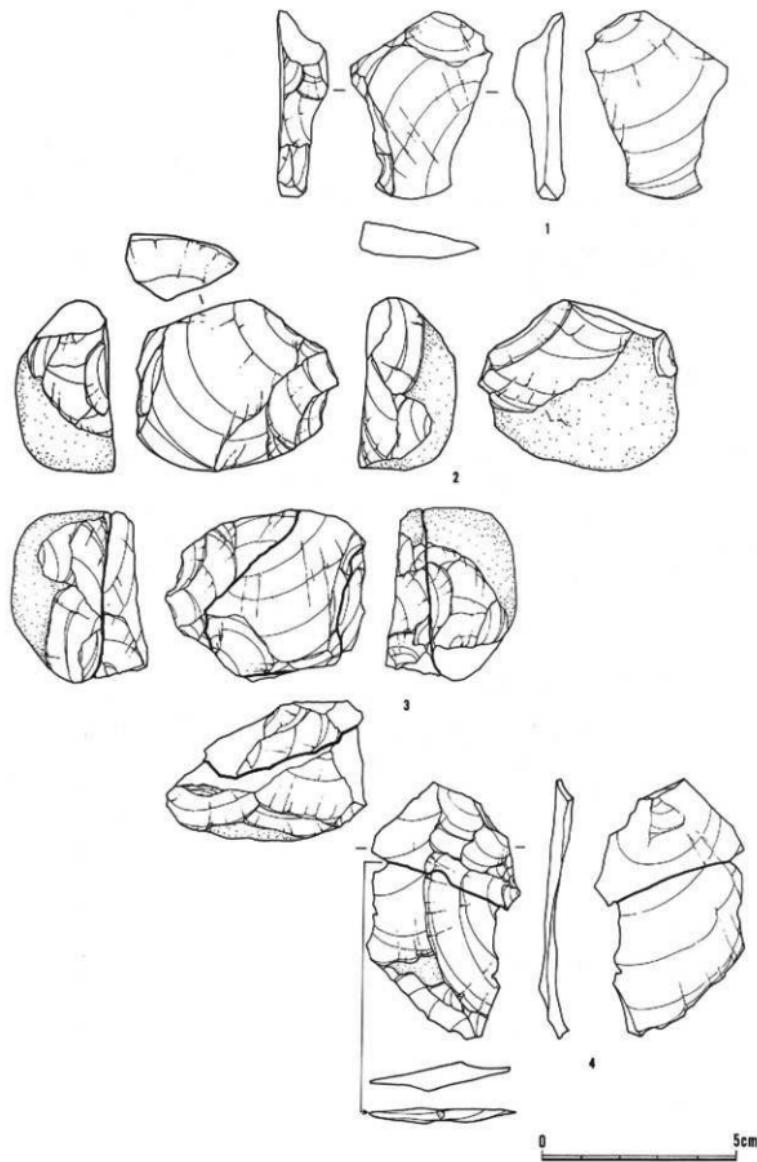




第85図 I ブロック石器種別分布図 2



第86図 I ブロック礫群平面・垂直分布図 (1/40)



第87図 I ブロック石器接合資料 (4/5)

(10) J ブロック (第88図)

N11からO11にかけて散漫な分布を示す。石器総点数は6点で、星ヶ塔産の黒耀石を中心とし、削器1点の他に、使用痕のある剥片を7点含む。

表27 J ブロック石器組成表

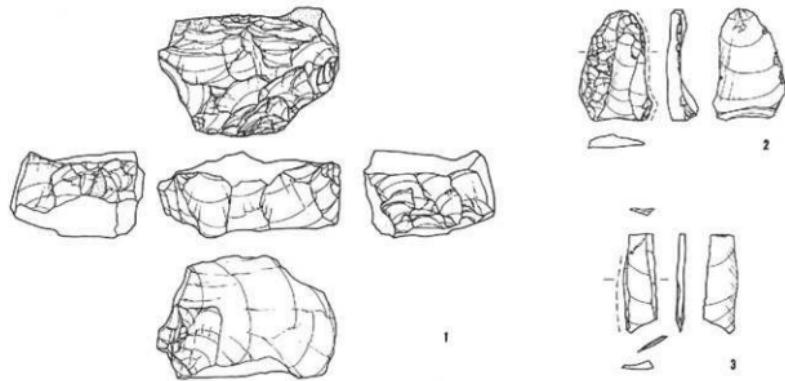
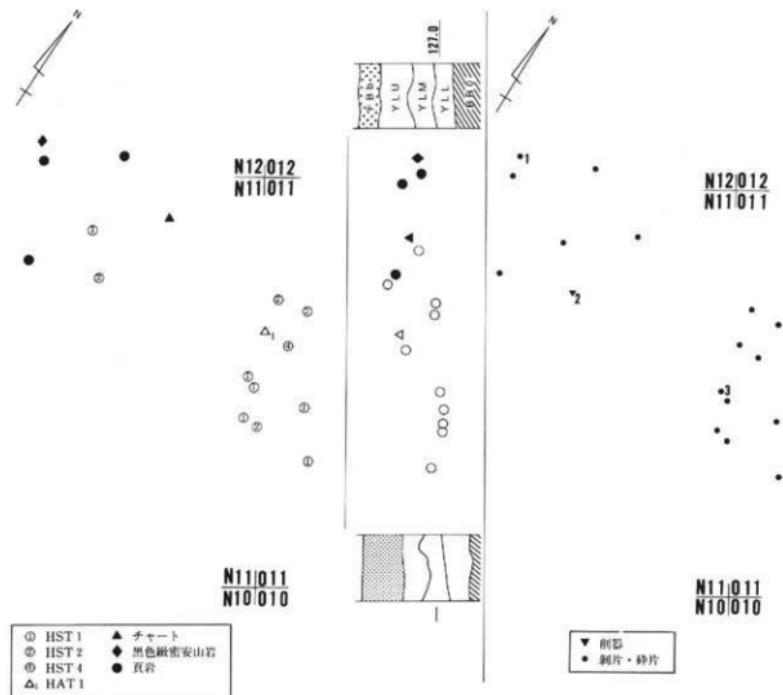
	黒耀石				頁岩	黒鐵 安山岩	合計
	HST 1	HST 2	HST 4	HAT 1			
削器		1					1
小型石刃状剥片	1						1
U剥片	3	3	1				7
剥片	2			1	3	1	7
合計	6	4	1	1	3	1	16

(11) K ブロック (第89・90・91図)

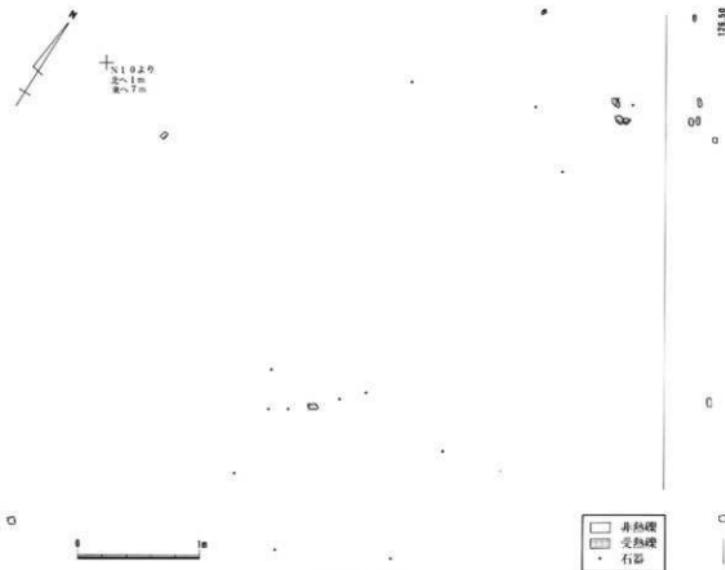
N10とO10を中心として分布し、2基の散漫な分布の疊群を内包する。全体は、東側の帯状に広がる一群をK1 ブロック、西側の広範囲に散漫な分布を示す一群をK2 ブロックと、2つに分けることができる。K1 ブロックの石材は頁岩を中心とし、剥片と搔器1点、楔形石器1点を含む。K2 ブロックは畠宿産の黒耀石と頁岩から成り、頁岩の石核、畠宿産の黒耀石のナイフ形石器1点を含む。この2つのブロックの境界線付近には、星ヶ塔産の黒耀石のナイフ形石器が2点出土している。石器総点数は69点である。このブロックもまた、I ブロックと同様、在地系の石材の中に、星ヶ塔産の黒耀石が利器で搬入されていると考えることができる。

表28 K ブロック石器組成表

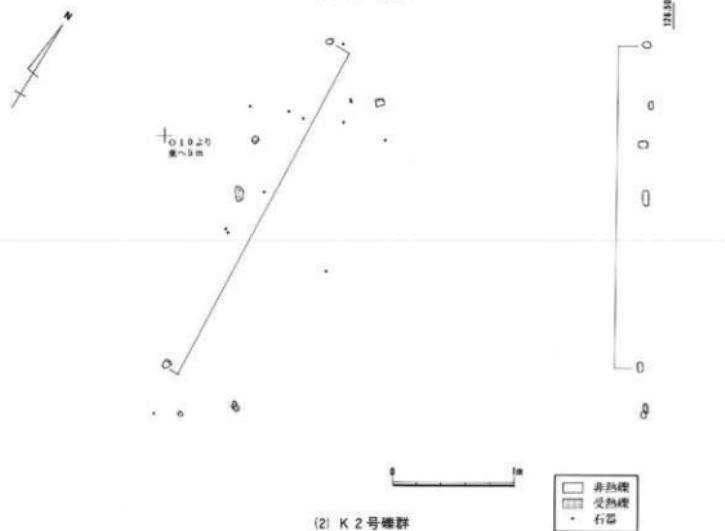
	頁岩	黒耀石				黒鐵 安山岩	合計
		HST 1	HST 2	HST 3	HAT 1		
ナイフ	1		1	1	1		4
搔器	1						1
楔形石器	1						1
石刃状剥片	1						1
石核	2						2
U剥片		1	4		1		6
剥片	36		1		13	4	10
合計	42	1	6	1	15	4	69



第88図 Jブロック個体別資料・石器器種別分布図 (1/120)

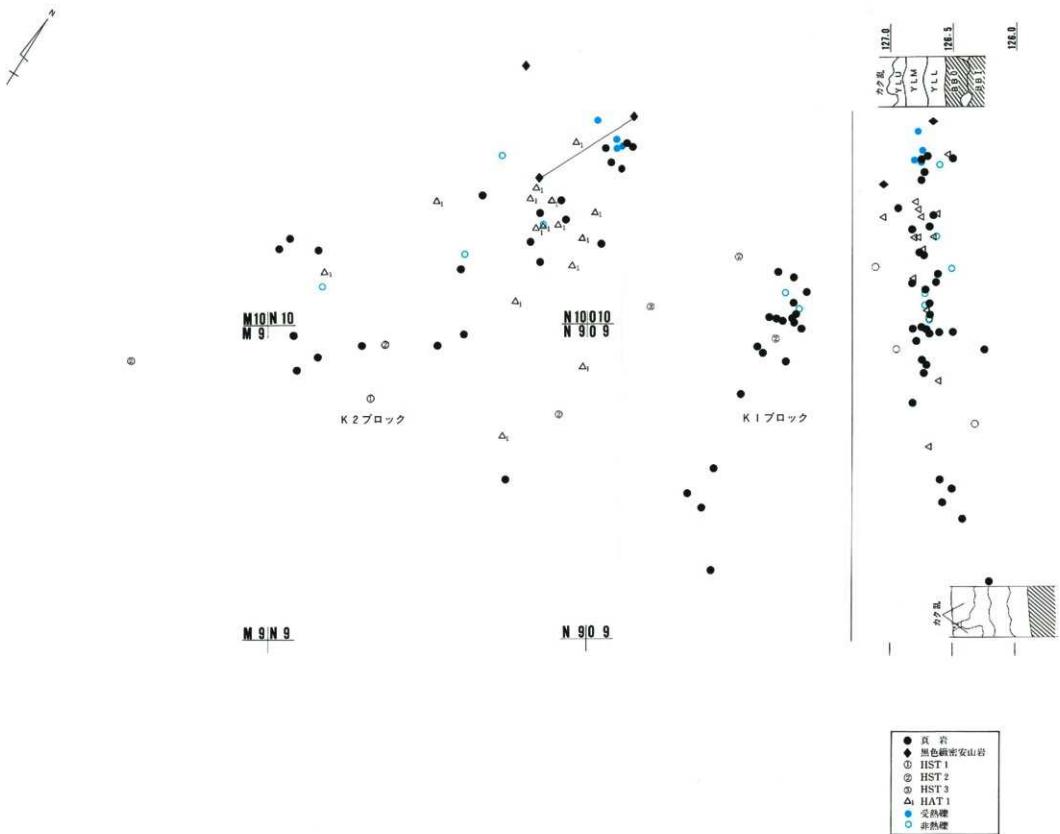


(1) K 1号塊群

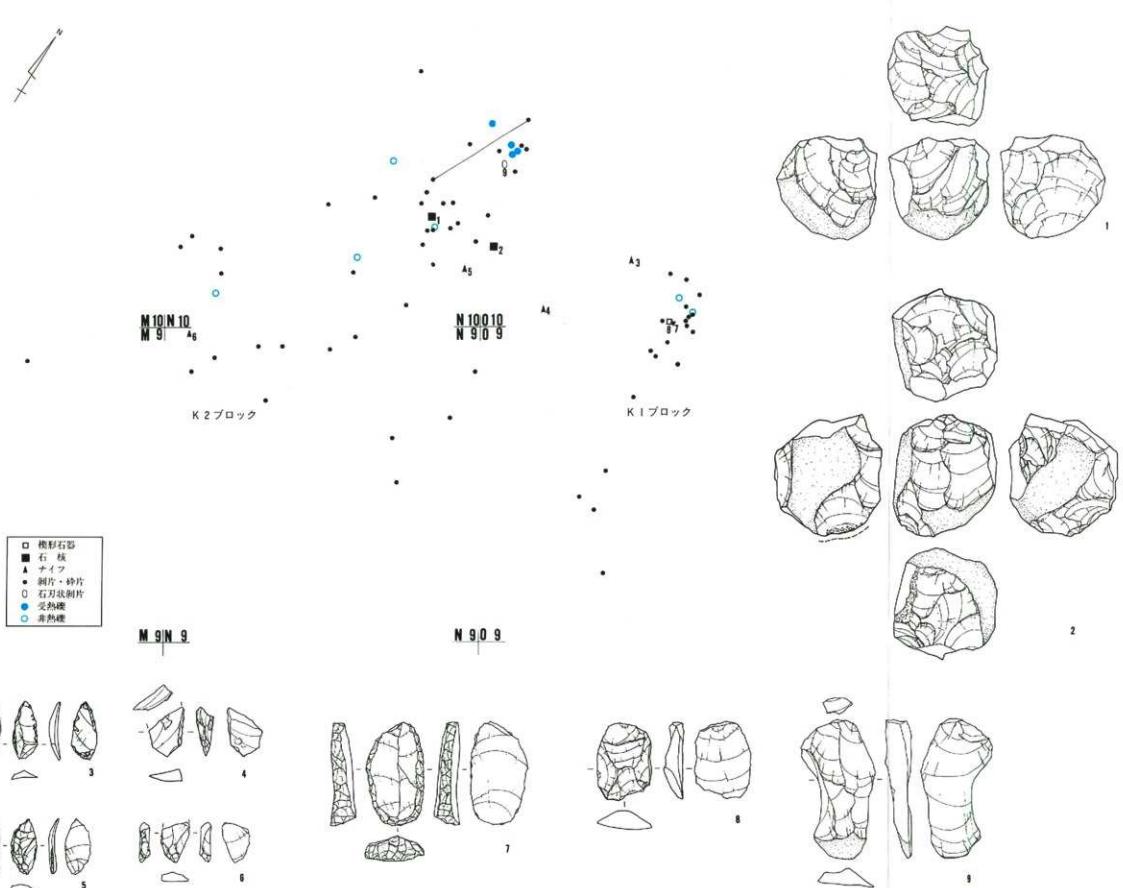


(2) K 2号塊群

第89図 K ブロック塊群平面・垂直分布図 (1/40)



第90図 K ブロック個体別資料分布図 (1/120)



第91図 K ブロック石器種別分布図 (1/120)

## (12) Lプロック (第92図)

X 6グリット周辺に散漫に分布する。プロックと呼べるか疑問はあるが、石材は星ヶ塔産の黒耀石を中心とする。石器総点数は33点である。

表29 Lプロック石器組成表

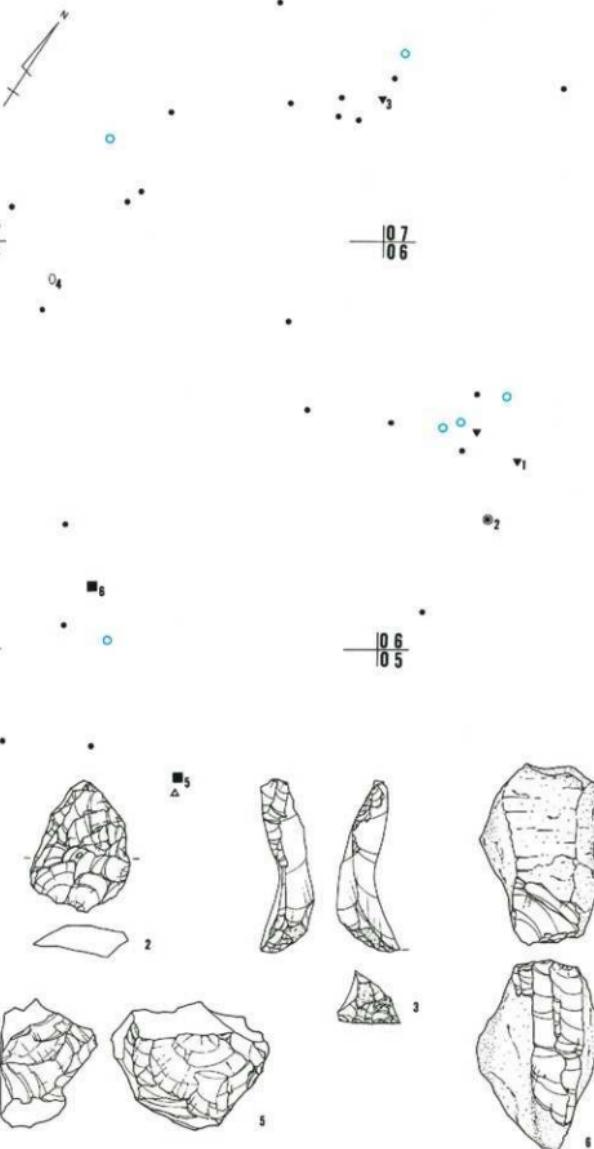
	黒耀石					頁岩	安山岩	チャート	砂岩	合計
	HST 2	HST 3	KAS 1	KAS 2	WAD 6					
ナイフ					1					1
搔器	1									1
削器						1				1
石刃状剥片								1		1
石核			1			1				2
磨石							1			1
U剥片・碎片	5	2							1	8
剥片・碎片	5	6		1		4	2			18
合計	11	8	1	1	1	5	3	1	1	33

## (13) Mプロック (第93・94・95・96・97図)

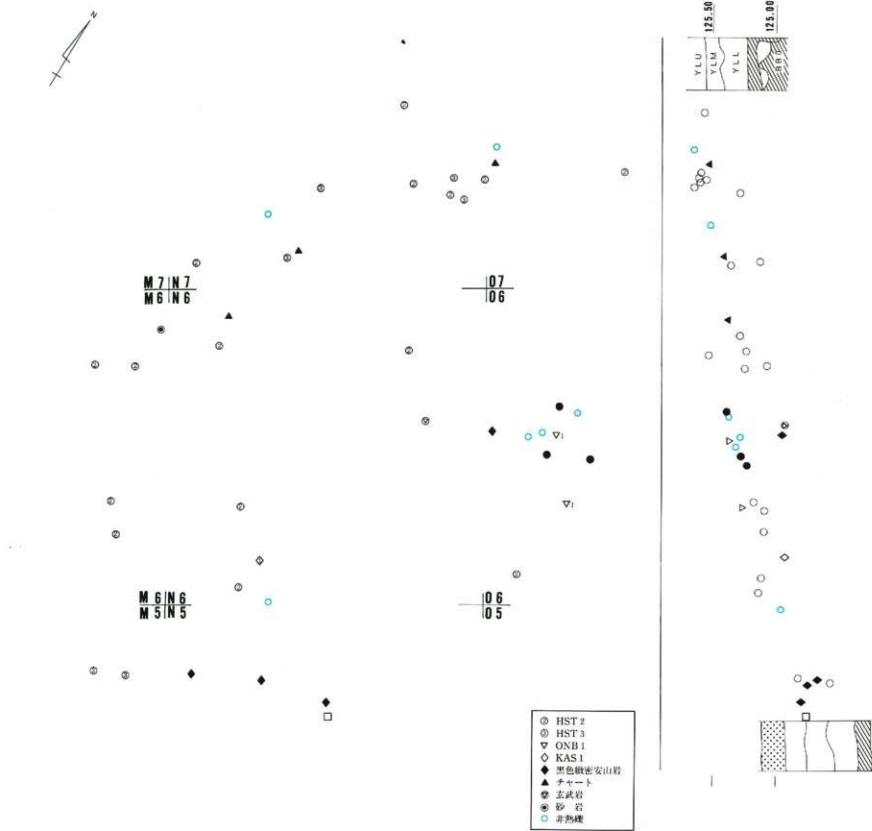
L 6グリットに分布し、石材は星ヶ塔産の黒耀石が全体の約75%を占め、主体をなす。石器総点数は37点で、ナイフ形石器7点、搔器1点、削器1点を含み約50%が利器である。プロック内には2基の巣群が含まれる。なお、プロック中央にて倒木痕が観察された。このため、平面分布と垂直分布に、若干の影響がでたと考えられる。

表30 Mプロック石器組成表

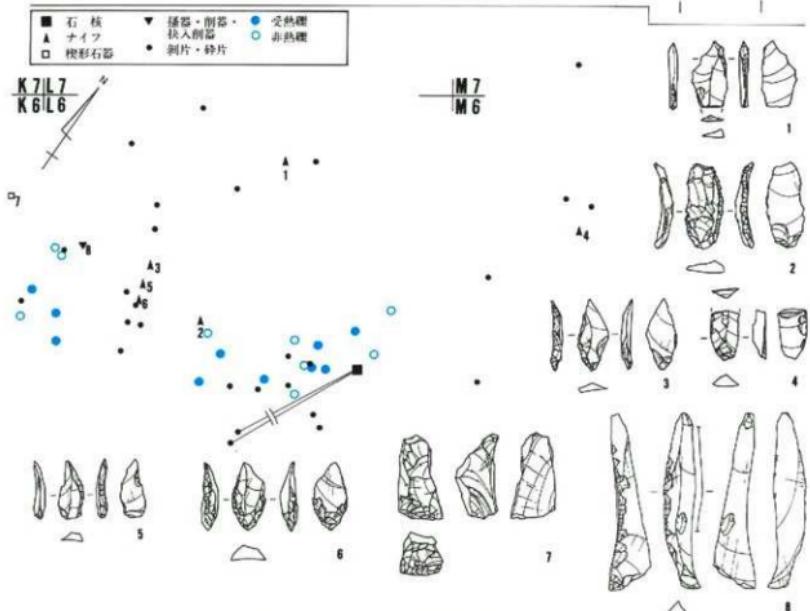
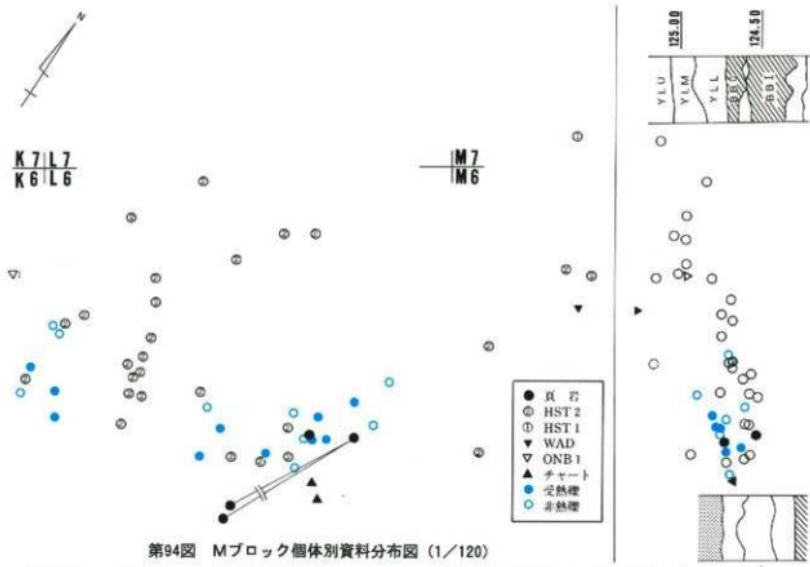
	黒耀石						頁岩	チャート	砂岩	合計
	HST 1	HST 2	HAT 2	WADI	ONB 1	ONB				
ナイフ		5	1	1						7
搔器					1					1
削器		1								1
石核							1			1
U剥片	1	7					1			9
剥片・碎片		13					1	1	2	18
合計	1	26	1	1	1	1	3	2	1	37

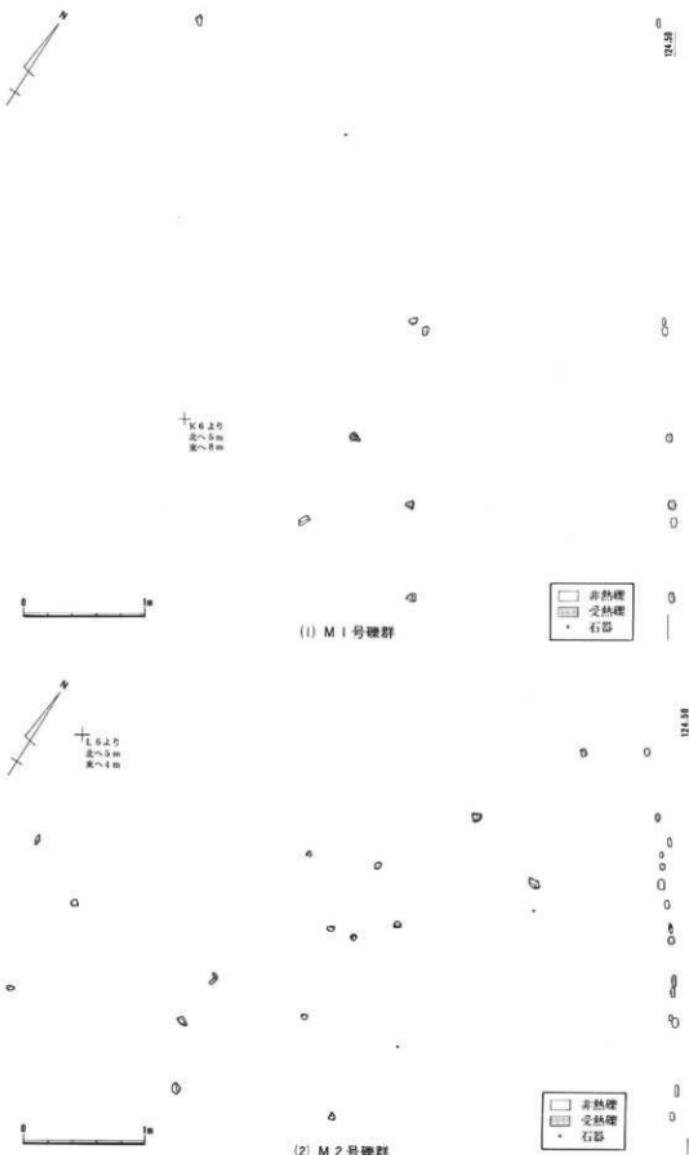


第92図 Lブロック石器種別分布図 (1/120)

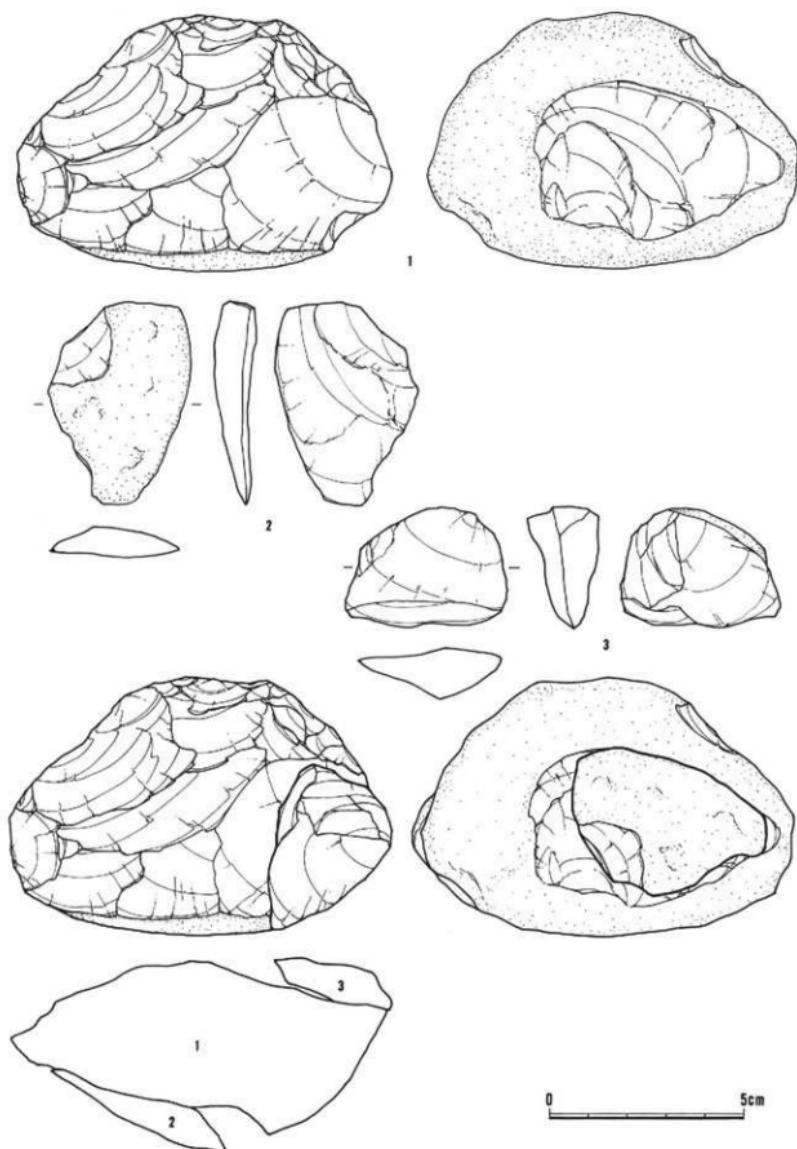


第93図 L ブロック個体別資料分布図 (1/120)





第96図 Mブロック碑群平面・垂直分布図 (1/40)



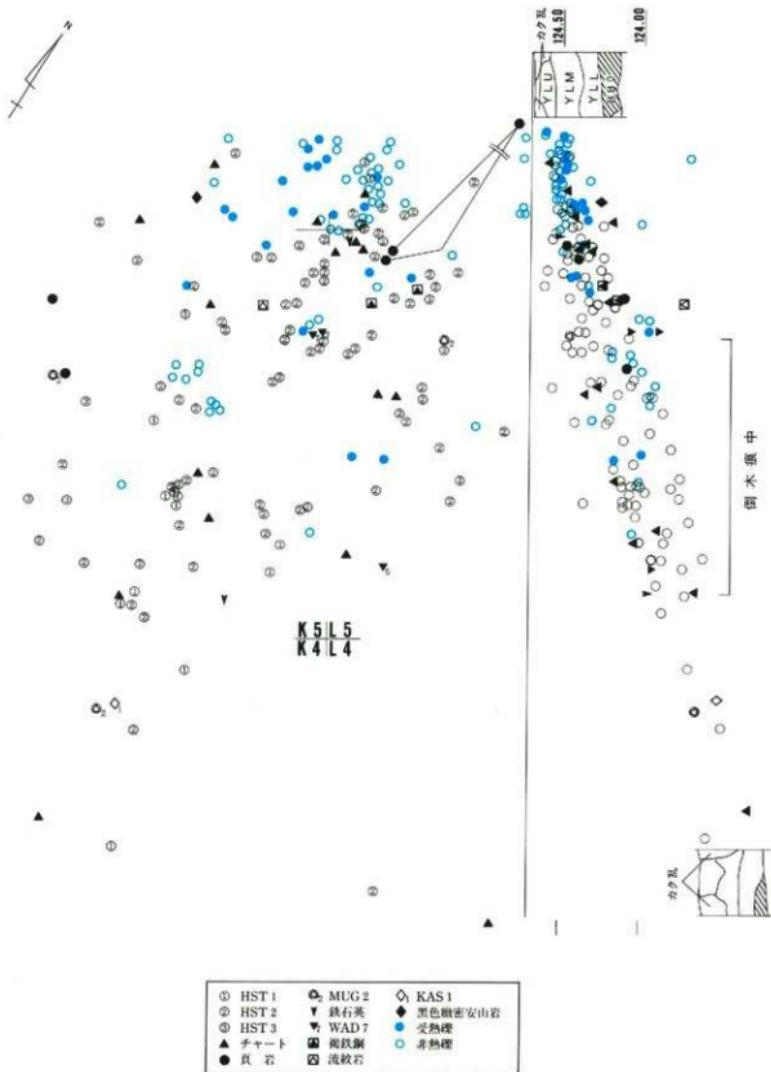
第97図 Mブロック石器接合資料 (4/5)

## (14) Nブロック(第98・99・100・101図)

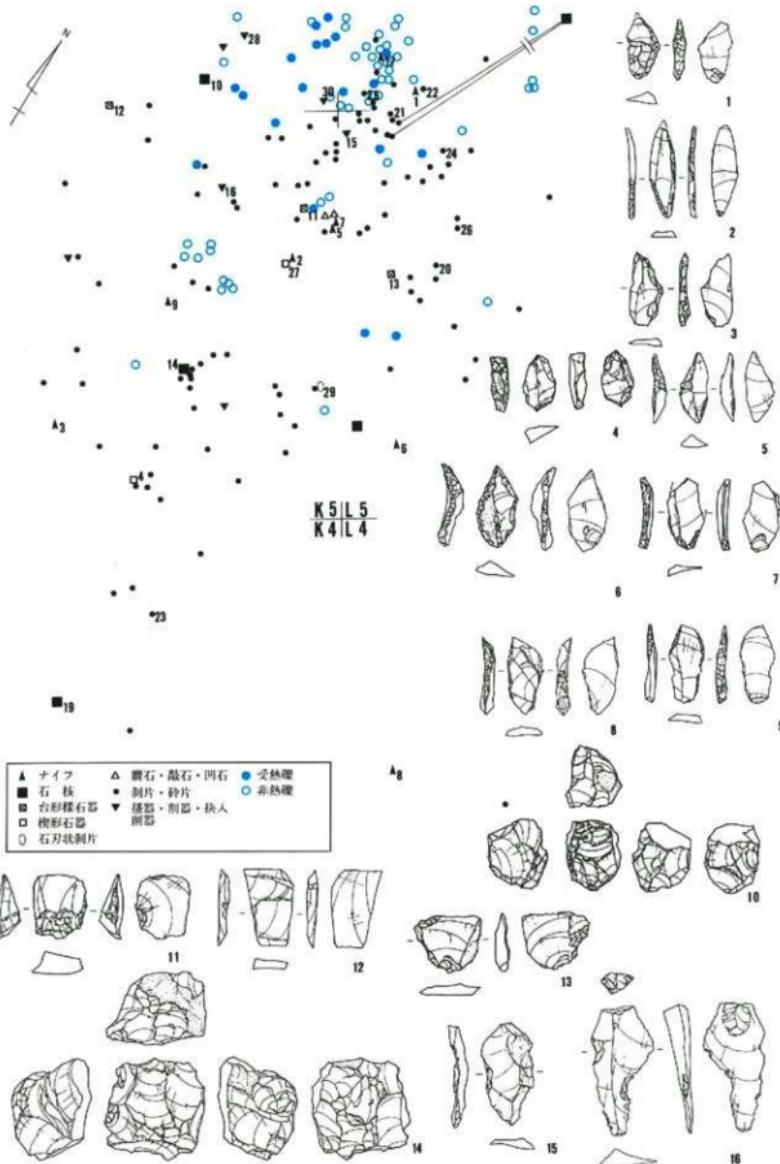
K5グリット付近に分布の中心がある。総石器数129点の最大のブロックで、石材は星ヶ塔産の黒耀石が全体の70%を占め、チャートも10%含まれる。ナイフ形石器9点は全て黒耀石製で、チャートは搔器等の加工具に6点が含まれる。貞岩は石核が1点あるのみである。また特徴的のは、小型石刃状剥片の存在で、HST2の個体の7点が当ブロックで出土している。礫群は散漫な分布を示し、ブロック内に2基が含まれる。

表31 Nブロック石器組成表

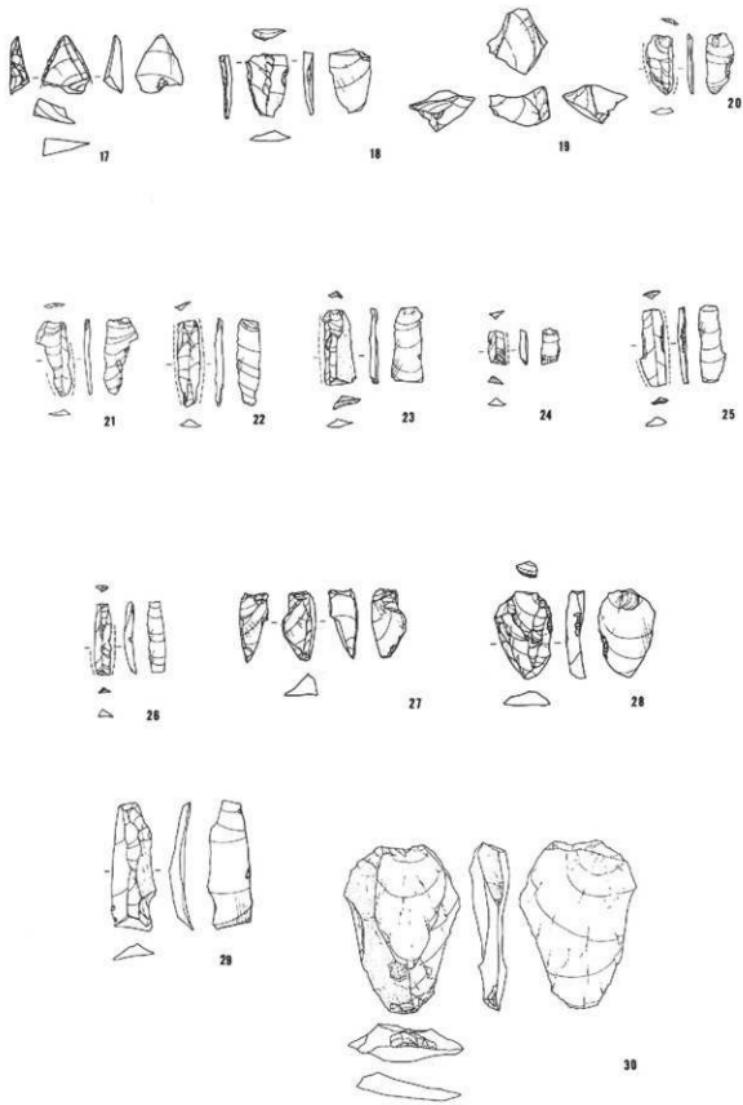
	黒耀石								チャート	貞岩	黒鐵 安山岩	安山岩	褐鐵 鋼	鉄石 英	合計	
	HST 1	HST 2	HST 3	HST	MUG 2	WAD 5	KAS 2	HAT 2								
ナイフ	2	6				1										9
台形様 石器		2								1						3
搔器					1					1						2
抉入削器		1								3						4
楔形石器		1								1						2
石刃状 剥片				1						1						2
石核									1	2	2	1				6
敲石・磨石												2				2
U剥片 跡片	3	26	5		1		1									36
剥片・碎片	8	40	2		1				1	5	2	1	2	1		63
合計	13	76	1	1	3	1	1	2	14	4	2	2	2	1		129



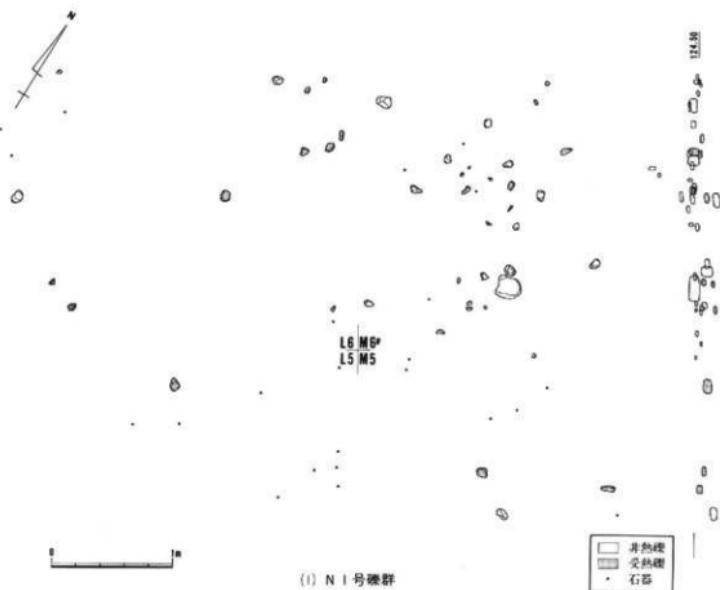
第98図 Nブロック個体別資料分布図 (1/120)



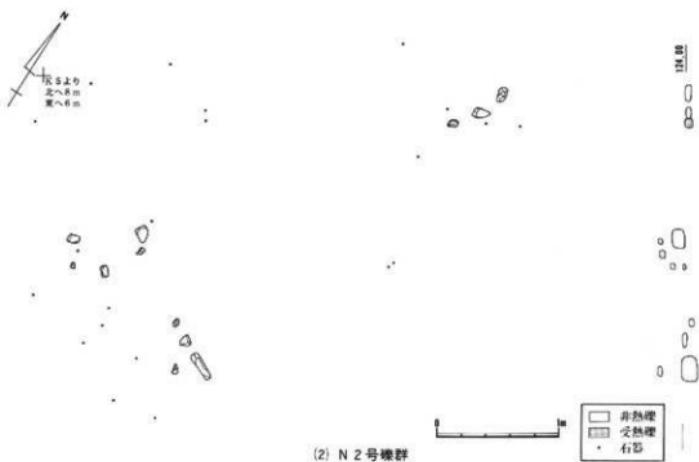
第99図 Nブロック石器種別分布図1 (1/120)



第100図 Nブロック石器器種別分布図2



(1) N 1号砾群



(2) N 2号砾群

第101図 N ブロック砾群平面・垂直分布図 (1/40)

(15) O ブロック (第102・103・104・105図)

J5 グリットに分布の中心があり、石器総数74点で、石材は星ヶ塔産の黒耀石が、全体の約77%を占める。これはHST 1という個体で、唯一接合関係が得られたものである。礫群は存在しない。このブロックの特徴として、Nブロックに見られた小型石刃状剥片が、同じ星ヶ塔産で個体を避けて見られること、そしてブロック内の利田岬産の黒耀石が全てナイフ形石器であることである。全休の約48%が利器である。

表32 O ブロック石器組成表

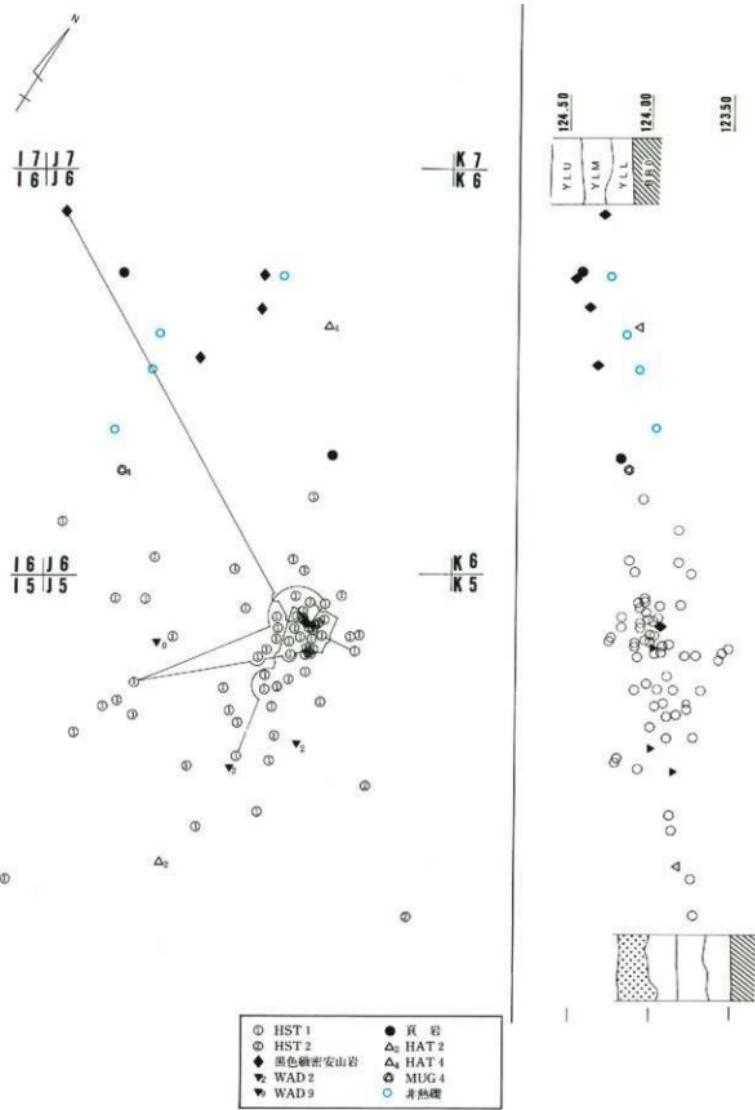
	黒耀石									黒織 安山岩	頁岩	合計
	HST 1	HST 2	HAT 2	HAT 4	WAD 2	WAD 4	WAD 9	MUG 4	測定不 可能品			
ナイフ	3	1			2	1	1			3		11
搔器			1	1								2
U剥片・碎片	16							1				17
剥片・碎片	37								2	2	3	44
合計	56	1	1	1	2	1	1	1	2	5	3	74

(16) P ブロック (第106・107・108図)

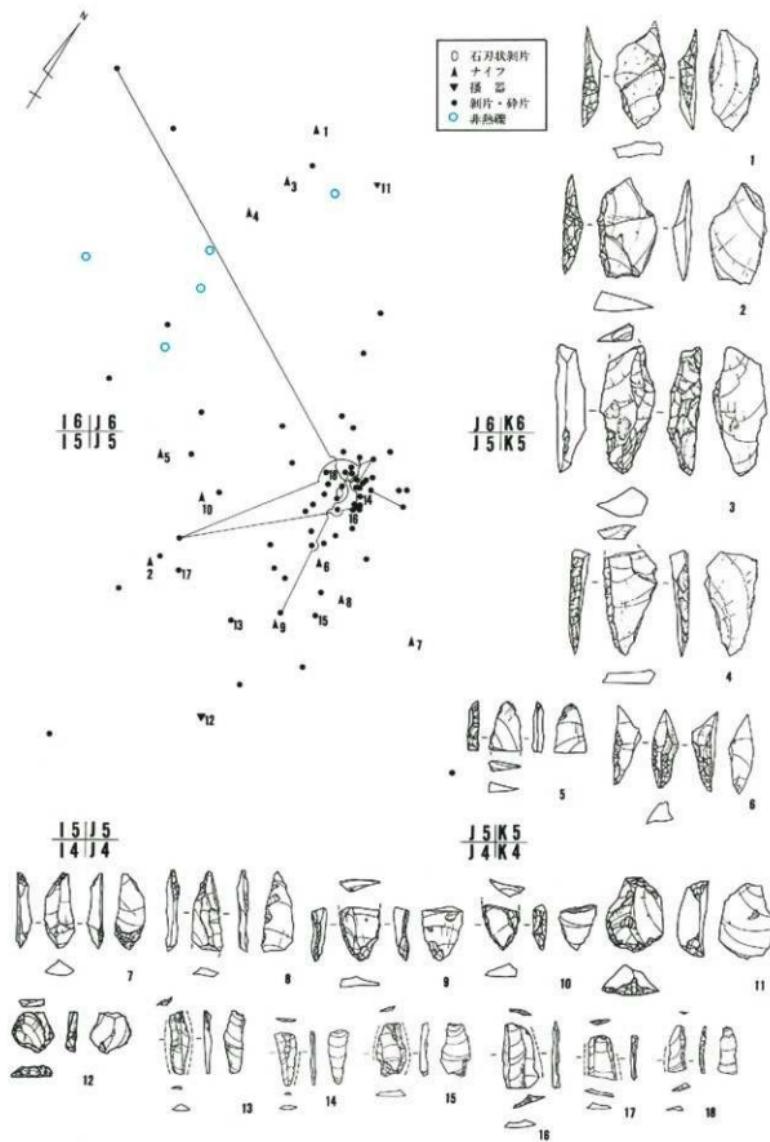
G5 グリットに分布する。石器総点数は23点で、石材は黒耀石の比率が高く、产地は神津島のものを除いて全てがそろう。さらに、頁岩や黑色織密安山岩などの在地系の石材は、石核や原石として存在する一方、黒耀石は、ナイフ形石器や加工具として存在する。全体に対する利器の割合は約48%、石核類の割合は約21%である。剥片や碎片はブロックのはずれに点在するが、剥片剥離した痕跡ではなく、このブロックは他とは異なる性格を持つものと考えられる。

表33 P ブロック石器組成表

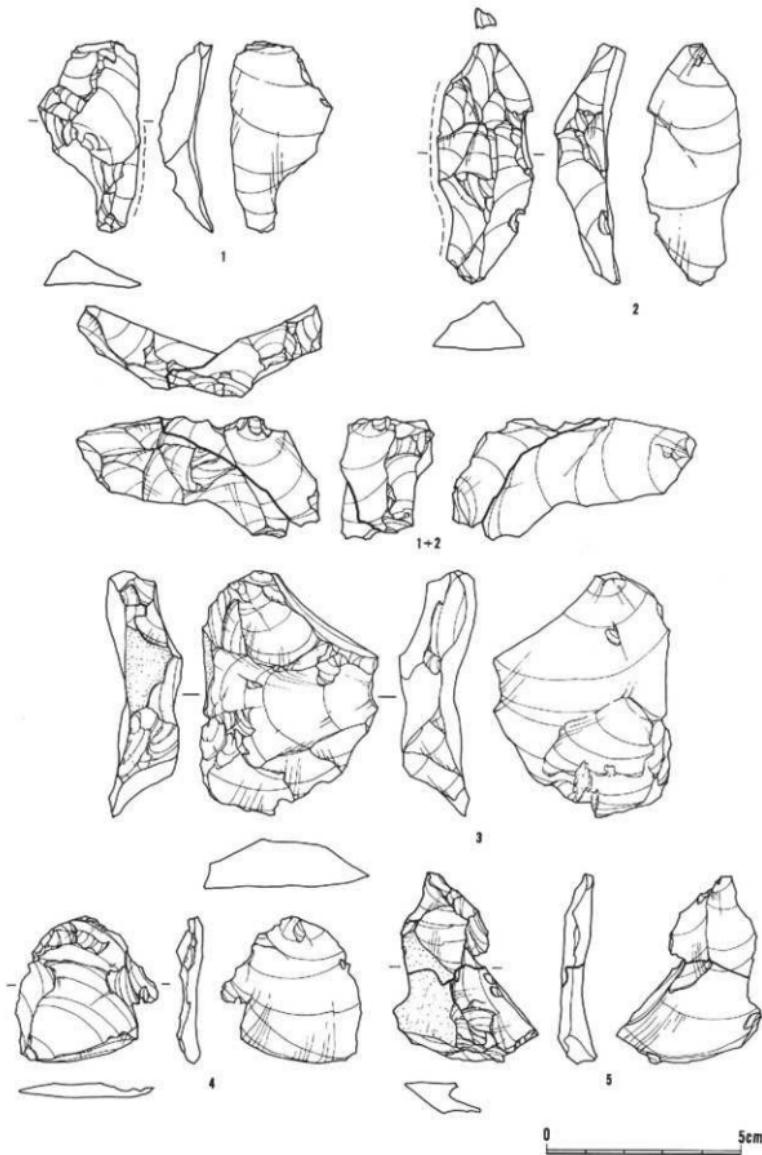
	黒耀石							黒織 安山岩	頁岩	安山岩	チャート	合計
	HST 1	HST 2	MUG 1	MUG 2	HAT 2	WAD 3	KAS 4					
石槍					1							1
ナイフ			3	1								4
削器					1							1
楔形石器	1					1						2
石刃状剥片		1										1
石核							3	1				4
原石							1					1
U剥片・碎片	1		1									2
剥片・碎片		1	2		1				1	1	1	7
合計	1	3	6	1	2	1	1	4	2	1	1	23



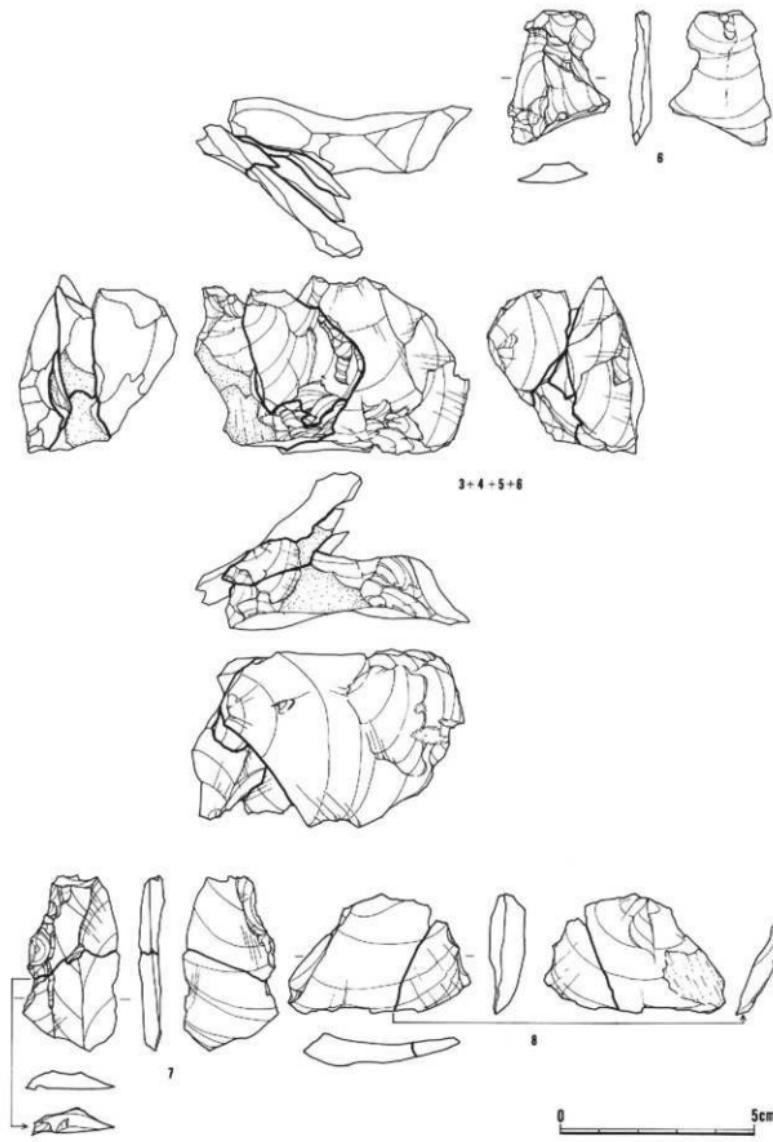
第102図 Oブロック個体別資料分布図 (1/120)



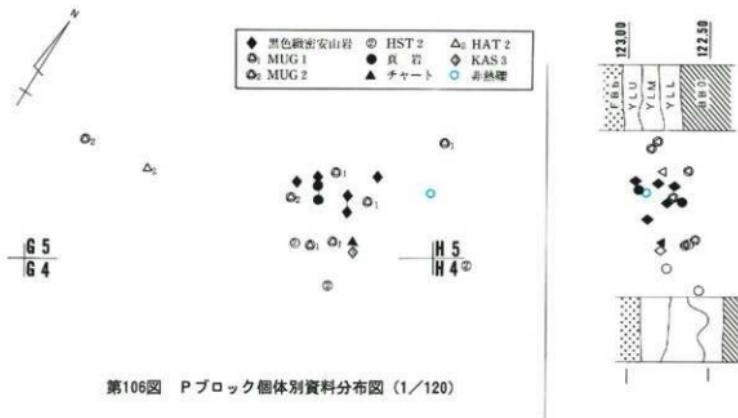
第103図 O ブロック石器種別分布図 (1/120)



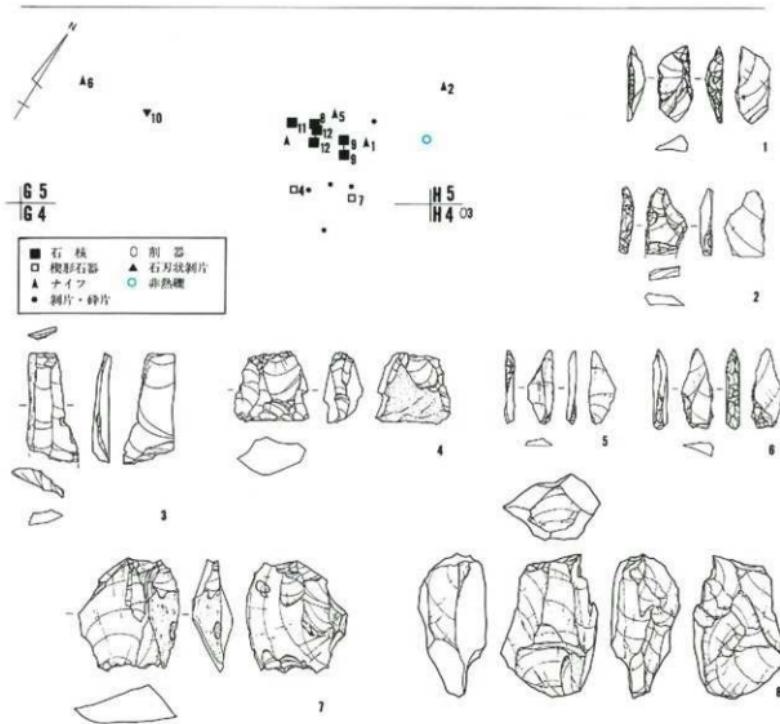
第104図 Oブロック石器接合資料1 (4/5)



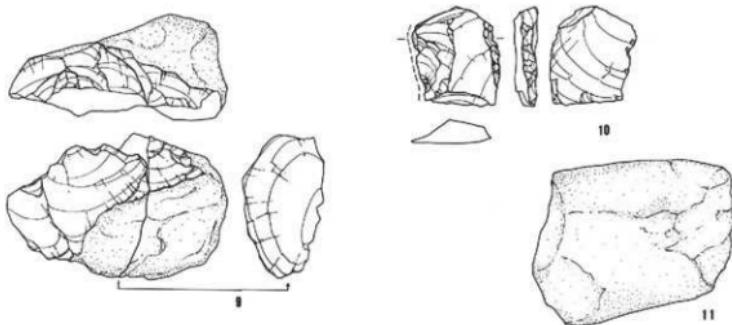
第105図 Oブロック石器接合資料2 (4/5)



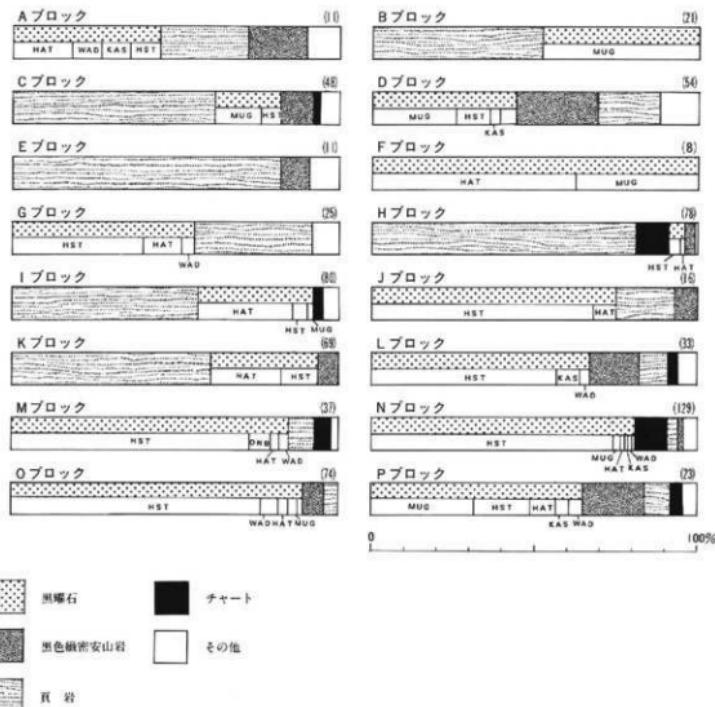
第106図 Pブロック個体別資料分布図 (1/120)



第107図 Pブロック石器種別分布図 1 (1/120)



第108図 P ブロック石器種別分布図 2



第109図 ブロック別石材組成図

各石器ブロックの概要は以下のとおりである。これらは保存する石器石材や、その器種組成によって、全体を4群に大別することができる。

#### I群（A～Dブロック）

調査区の北西に位置する。黒色緻密安山岩と頁岩を主要な石材とし、麦草跡産の黒耀石が剥片・石器として持ち込まれている。

頁岩はブロック内で剥片剥離がおこなわれておらず、特に縞群の周辺で、石刃状剥片・剥片・碎片・石核、岐石の出土が目立つ。黒色緻密安山岩はDブロックに集中するが、楔形石墨1点の他は全て剥片であり、剥片剥離もおこなわれていたと考えられるが、石核の出土はなかった。

黒耀石は、麦草跡産のものが集中するが剥片剥離をおこなった形跡ではなく、剥片、あるいは石器として遺跡に持ち込まれたものと考えられる。またMUG 1とMUG 2のナイフ形石器は、Pブロックでも出土している。星ヶ塔産の黒耀石は、HST 1とHST 2がⅢ群で剥片剥離をおこなった痕跡があることから、Ⅲ群からの搬入品と考えることができる。

#### II群（E～Kブロック）

調査区の北東に位置する。頁岩を主要な石材とし、畠宿産の黒耀石を有し、星ヶ塔産の黒耀石が剥片・石器として搬入されている。DブロックはIIAT 1の石核が出土しており、調査区のはずれにあたるがⅡ群とした。

表34 ブロック別個体別資料一覧表

	H	H	H	H	M	M	M	M	M	O	K	K	K	H	H
A	A	A	A	U	U	U	U	U	U	N	A	A	A	S	S
T	T	T	T	G	G	G	G	G	G	B	S	S	S	T	T
1	2	3	4	1	2	3	4	5	6	7	1	2	4	1	2
A		2											1		
B				2	4	1	3								
C					3		4							1	2
D					1	4		7		1	1		1	3	3
E															
F	5					1		1	1						
G	3												2	3	5
H	1													2	1
I	21	2	1			1							1	3	
J	1												6	4	
K	15												1	6	1
L										1	1			11	8
M		1							1				1	26	
N		2				3					1		13	76	7
O		1		1									56	1	
P	2				6	1						1	1	3	

頁岩はH、I、Kブロック内で剥片剝離がおこなわれており、頁岩製のナイフ形石器4点、石刃状剝片11点、石核9点が出土している。

黒耀石は、HAT 1がI、Kブロックにおいて剥片剝離作業がおこなわれた形跡があり、剝片・碎片の他は、ナイフ形石器が1点、使用痕のある剝片が9点出土しており、石核はFブロックにおいて出土している。星ヶ塔産の黒耀石はHST 1、HST 2、HST 3が出土しており、石器(tool)の割合は約80%である。搬入品と考えられる。II群はこの搬入品と考えられる星ヶ塔産の黒耀石以外は在地系の石材を使用している。

### III群 (L～Oブロック)

調査区の南側に位置する。星ヶ塔産の黒耀石を主要な石材としており、特にHST 1はOブロックで、HST 2はM、Nブロックで剥片剝離作業がおこなわれたと考えられる。石器(tool)の割合はHST 1が約36%、HST 2が約50%である。

### IV群 (Pブロック)

調査区の西南に位置する。Pブロックは23点よりなる。内容は頁岩の石核2点、黒色緻密安産岩の石核1点・原石1点、麦草峠産の黒耀石製のナイフ形石器が4点である。種々の石材が集められていること、ブロックの中心部に石核とナイフ形石器が集中し、全体の70%が石器(tool)であることから、IV群として独立させた。

H S T 4	W A D 1	W A D 2	W A D 3	W A D 4	W A D 5	W A D 6	W A D 7	W A D 8	C h 3	C h 5	C h 6	C h 7	C h 9	C h 10	C h 13	C h 14	C h 15	C h 16
1									1									
																		1
									1									
1																		
									1									
1																		
2		1				1										1	2	10
			1						1									

## 第2節 休場層直下黒色帶の遺構と遺物

### 概要

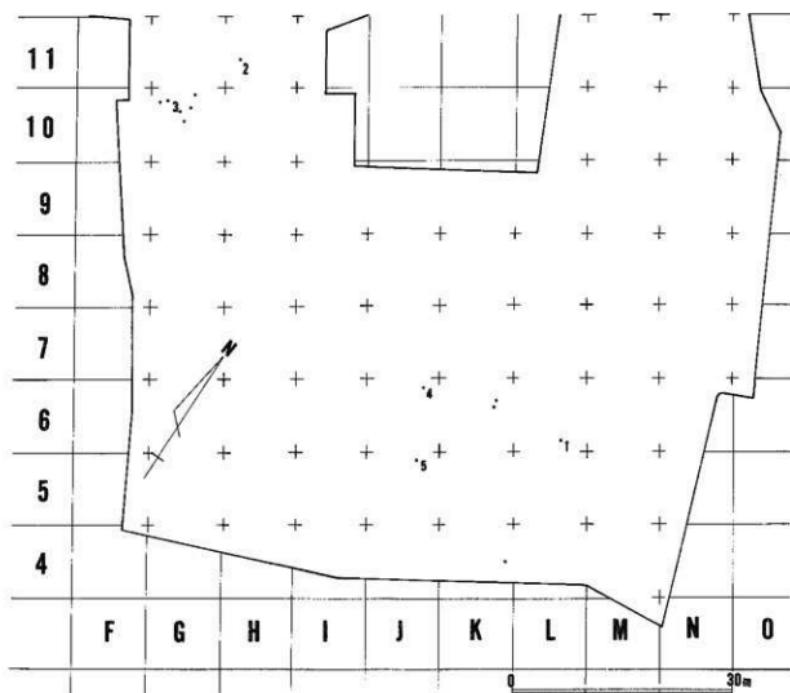
抉入削器1点、尖頭器状石器1点、石核1点、敲石の他に剝片9点が出土している。このうち敲石を含む6点がブロックを形成している。

### 石器

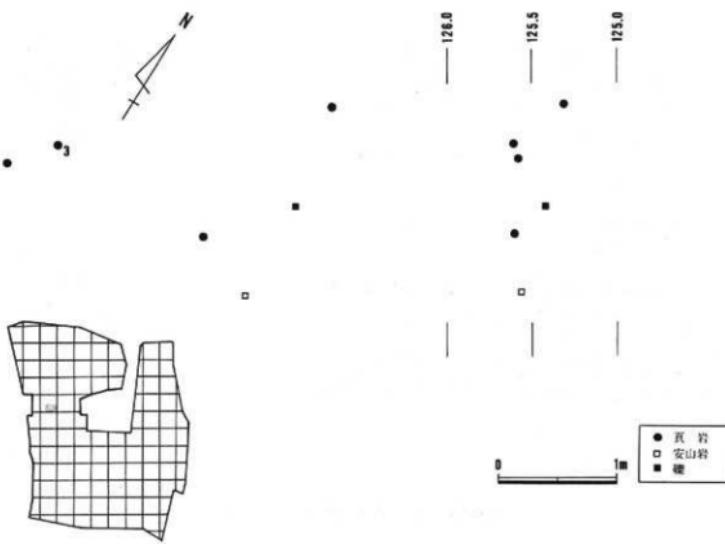
1は玉髓製の抉入削器で、剝片の一側縁に主張剝離面側から加工を施してノッチ部分を削山する。2はホルンフェルス製の尖頭器状の石器である。厚手の横長剝片を素材として、打面を取り去るよう調整を加えることで全体を尖頭状に仕上げたものである。3は黒耀石製の残核である。打面を90度転換させることで剝片剝離をおこなう。4は黒耀石製の使用痕が観察される剝片である。

### ブロック

G11グリットに広がりを持つ。安山岩製の敲石1点、頁岩製の剝片4点、鉄石英の剝片1点から構成される。接合関係はない。

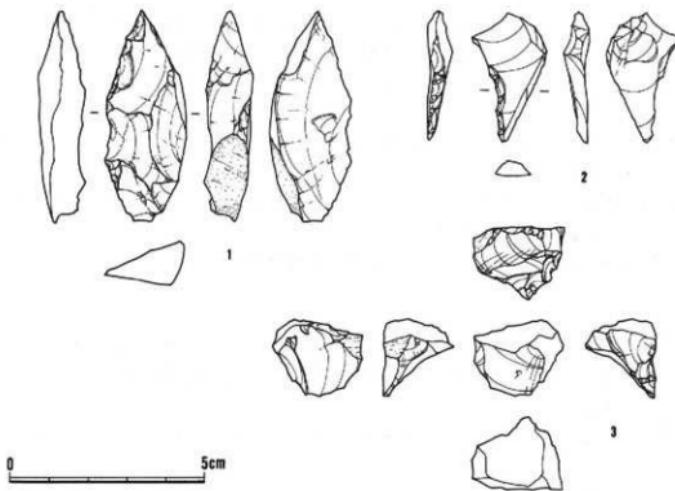


第110図 BB0層全体図

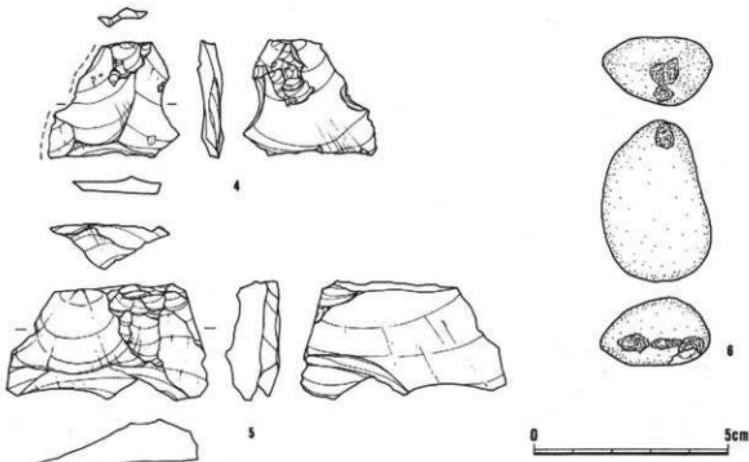


第111図 BB0層石器ブロック平面・垂直分布図 (1/40)

G10  
G11



第112図 BB0層石器実測図1 (4/5)



第113図 BB 0層石器実測図2 (4/5)

### 第3節 第I 黒色帯の遺構と遺物

#### 概要

ナイフ形石器2点、彫器1点、石核1点、磨石1点の他に25点の剥片と19点の碎片、計49点が出土している。これらは3箇所のブロックを形成する。遺物の出土は30cmほどの垂直幅をもって認められたが、出土点数のピークはBB I層中位にある。

#### 石器

1は黒耀石製のナイフ形石器である。縦長の分厚い剥片の一側縁に鋸歯状の急斜な角度のプランディングを加えたものである。

3は黒耀石製の縦長の剥片を素材とした彫器で、バルブを取り除くようにプランディングを施し、それを打面として3条の彫刻刀面を削出する。

4は頁岩製の石核である。上面の打面より縦長の剥片を剝離している。

#### ブロック

##### Aブロック (第115図)

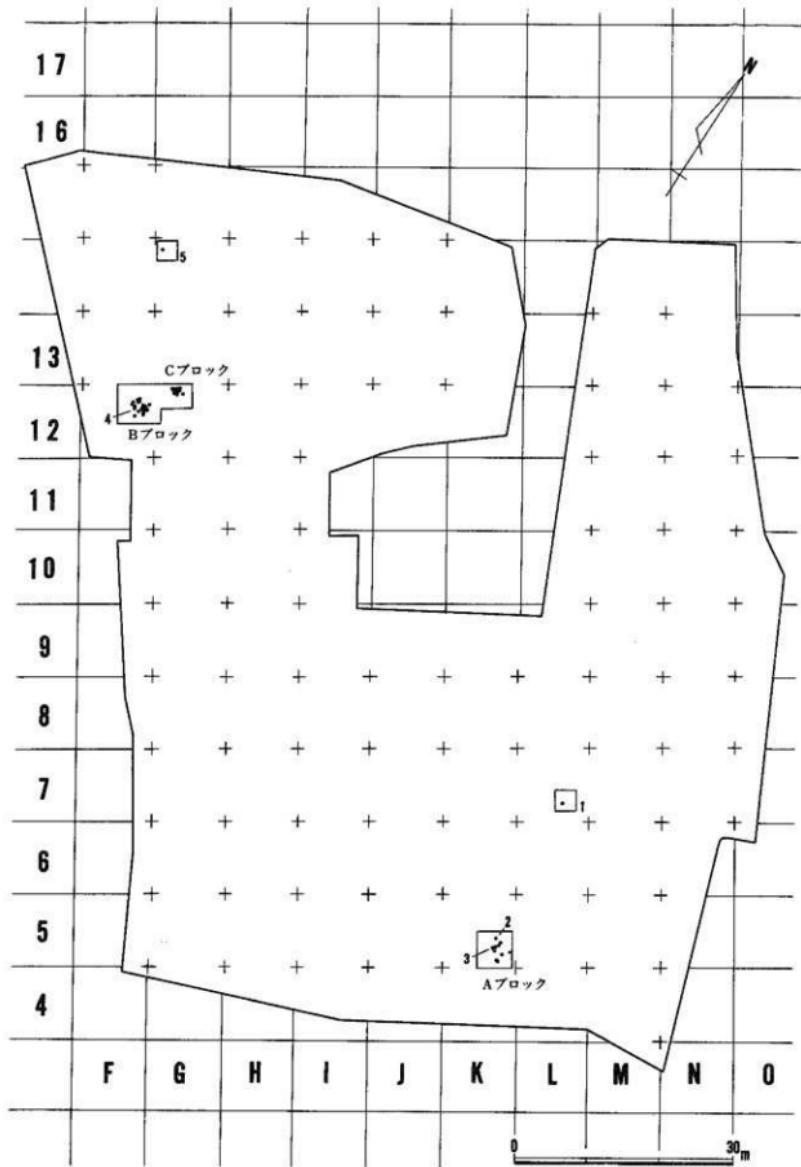
K5グリット付近に広がりをみせる。全体的に散漫な分布を示し、ナイフ形石器、彫器、磨石、剥片、碎片から成る。ナイフ形石器と彫器は星ヶ塔産の黒耀石である。接合関係はない。

##### Bブロック (第116図)

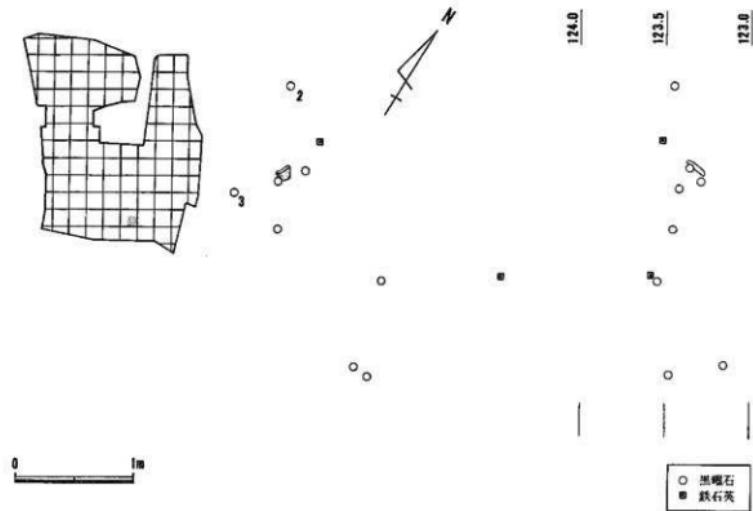
F12グリット付近に広がりをみせる。頁岩製の剥片・碎片と石核1点からなる。接合関係は見られなかった。

##### Cブロック (第117図)

G12グリット付近に広がりをみせる。頁岩製の小型の剥片15点からなる。接合関係は見られなかった。



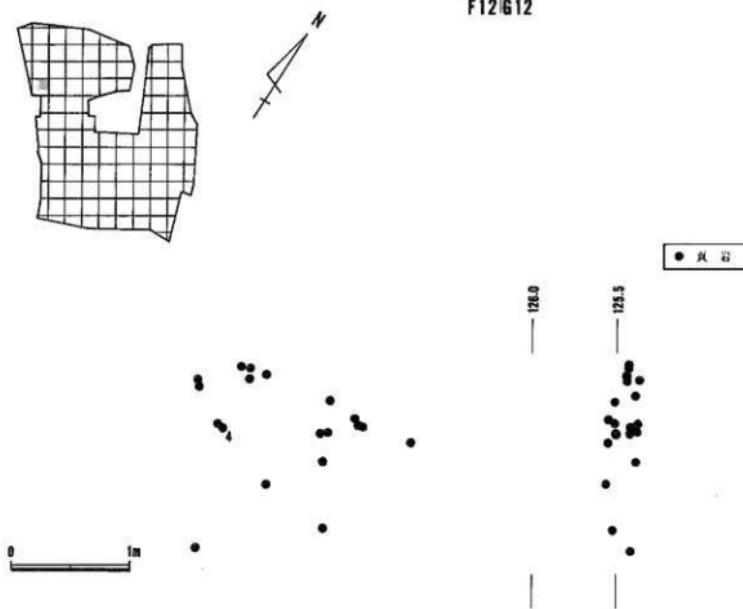
第114図 BB1層全体図



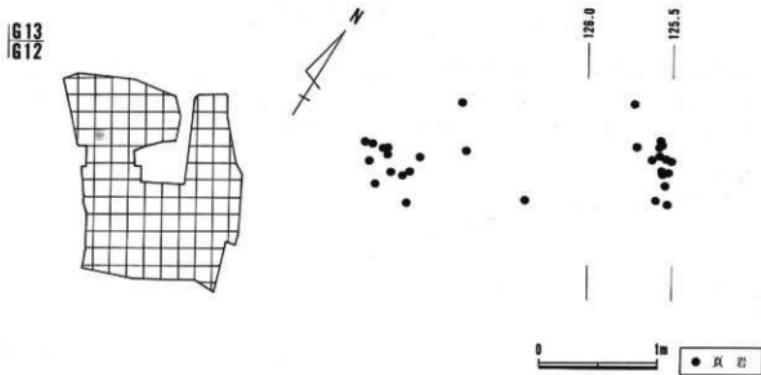
第115図 BBI層Aブロック平面・垂直分布図 (1/40)

F12612

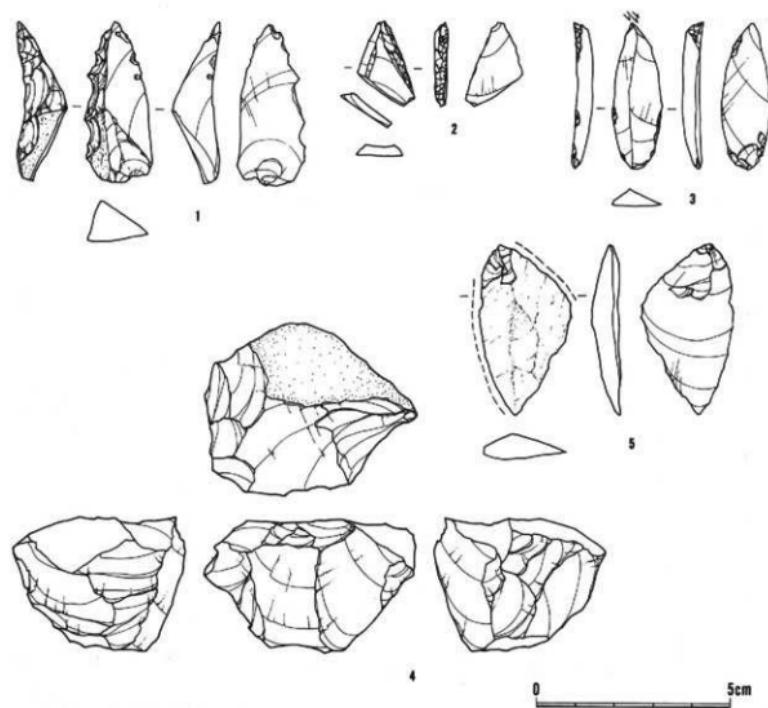
K5 L5



第116図 BBI層Bブロック平面・垂直分布図 (1/40)



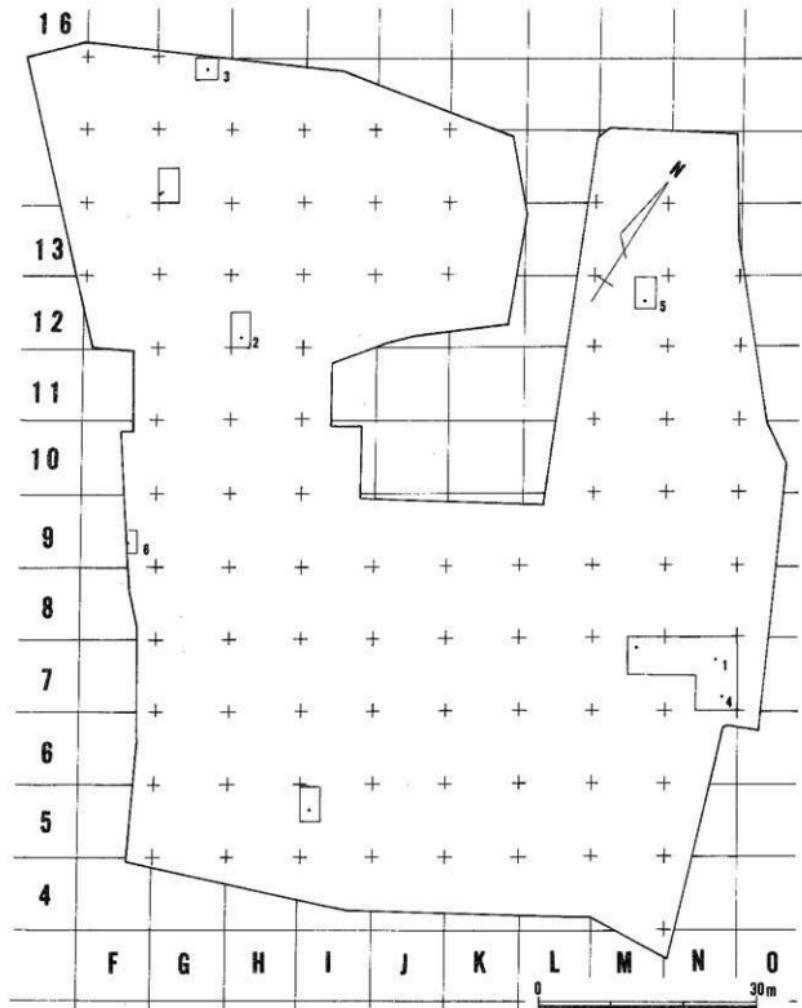
第117図 BB I層C ブロック平面・垂直分布図 (1/40)



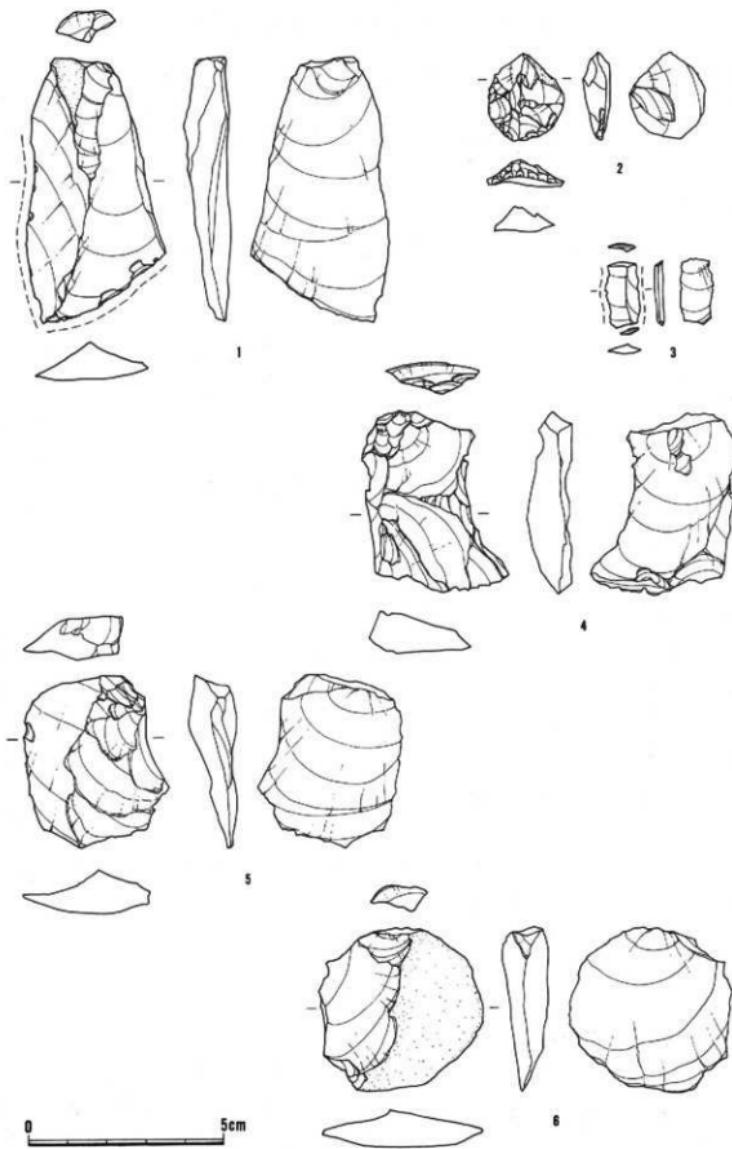
第118図 BB I層石器実測図 (4/5)

#### 第4節 ニセローム層の遺構と遺物

黒燧石製の小型の搔器が1点、珪質頁岩製の石刃状剝片1点の他に剝片が8点出土している。これらはブロックを形成することなく、単独で出土している（第119図）。調査は10m四方の各グリッドに $3 \times 3$ mの4箇所のテストピットを設定し、遺物を検出したところで拡張する方式をとった。



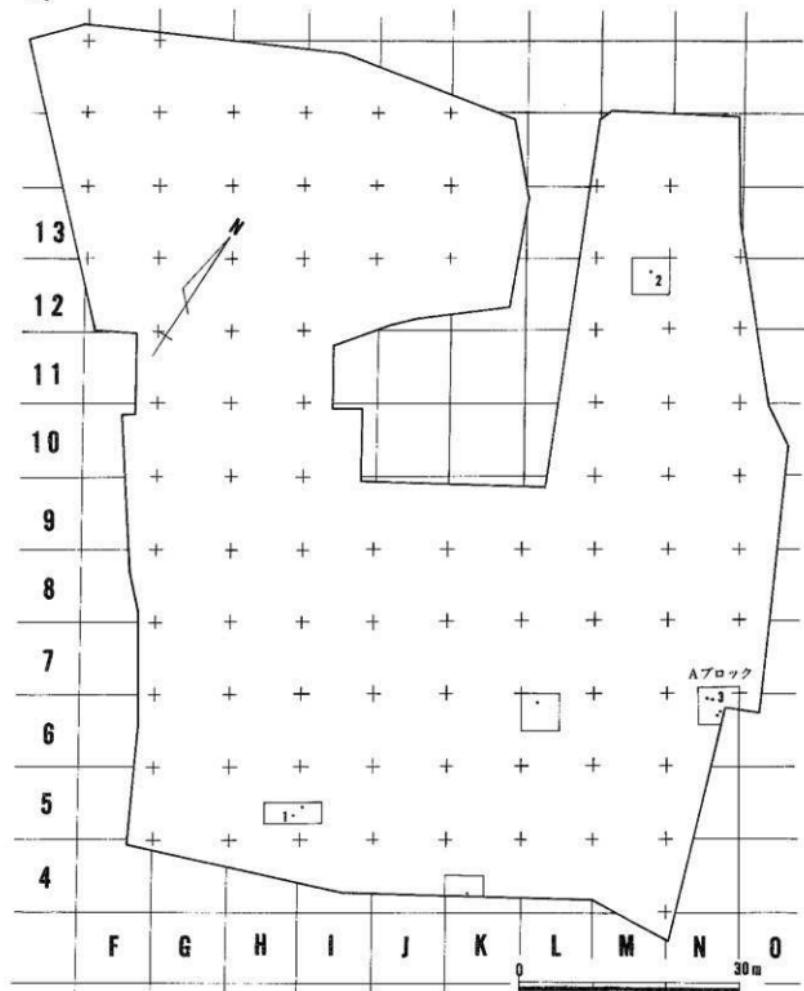
第119図 N L層全体図



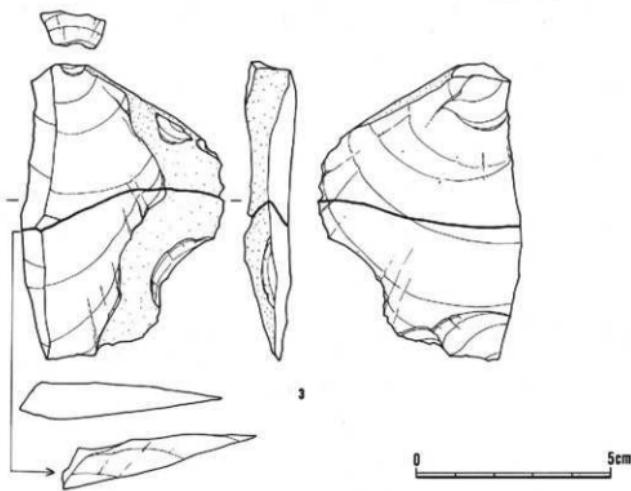
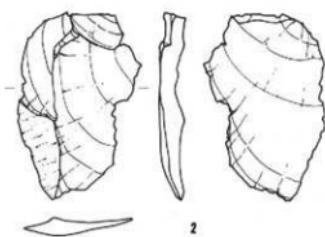
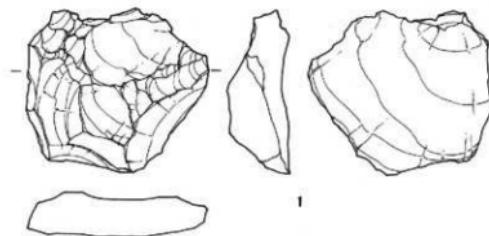
第120図 N L層石器実測図 (4/5)

## 第5節 第II黒色帶の遺構と遺物

黒色緻密安山岩製の石核調整剝片が1点と剝片が11点出土している。N 6グリットに黒色緻密安山岩の剝片3点と頁岩の剝片1点からなるブロックが検出されたが、散漫な分布を示す。調査は10m四方の各グリットに $3 \times 3$ mの4箇所のテストピットを設定し、遺物を検出したところで拡張する方式をとった。



第121図 BB II層全体図



第122図 B B II層石器実測図 (4/5)

表35 BB0層石器計測表

P L - N o.	グリット	遺物番号	石材(産地)	器種	最大縦長(mm)	最大横長(mm)	最大厚(mm)	重量(g)
112-1	L6	39	ホルンフェルス	尖頭器状石器	54	21	11	11.2
112-2	H11	4	玉髓	抉入削器	33	19	6	2
112-3	G10	4	黒耀石	石核	23.4	22.7	17.5	5
113-4	J6	18	黒耀石	剥片	35	30	5.8	5.1
113-5	J5	75	黒鐵安山岩	剥片	52.5	30.5	12.2	16.1
113-6	G11	6	輝石安山岩	敲石	101	68	42.5	39.9

表36 BB1層石器計測表

P L - N o.	グリット	遺物番号	石材(産地)	器種	最大縦長(mm)	最大横長(mm)	最大厚(mm)	重量(g)
118-1	L7	1	黒耀石(HST)	ナイフ形石器	41.0	17.5	10.0	1.3
118-2	K5	114	黒耀石(HST)	ナイフ形石器	(21.5)	(14.0)	(3.5)	(0.7)
118-3	K5	111	黒耀石(HST)	彫器	38.0	13.0	5.5	1.7
118-4	F12	27	頁岩	石核	35.0	55.0	44.0	81.6
118-5	G14	4	黒耀石(HST)	剥片	43.0	23.0	7.3	5.6

表37 NL層石器計測表

P L - 地	グリット	遺物番号	石材(産地)	器種	最大縦長(mm)	最大横長(mm)	最大厚(mm)	重量(g)
120-1	N7	7	珪質頁岩	石刃状剥片	67.0	34.5	9.7	19.3
120-2	H12	37	黒耀石	搔器	25.0	20.0	8.7	3.3
120-3	G15	1	黒耀石	剥片	17.0	8.0	1.5	0.1
120-4	N7	12	黒鐵密安山	剥片	49.0	32.0	9.3	14.6
120-5	M12	9	黒鐵密安山	剥片	27.0	15.0	7.4	2.6
120-6	F9	7	黒鐵密安山	剥片	40.5	41.0	10.9	19.9

表38 BBII層石器計測表

P L - N o.	グリット	遺物番号	石材(産地)	器種	最大縦長(mm)	最大横長(mm)	最大厚(mm)	重量(g)
122-1	H5	7	黒鐵安山岩	剥片	43.0	46.0	14.4	33.5
122-2	M12	10	黒鐵安山岩	剥片	46.5	31.0	4.5	7.3
122-3	N6	13	黒鐵安山岩	剥片	54.0	40.0	11.5	22.2
	N6	15	黒鐵安山岩	剥片	52.0	43.0	11.1	26.7

## 第6節 第Ⅲ黑色帶の遺構と遺物

### 概要

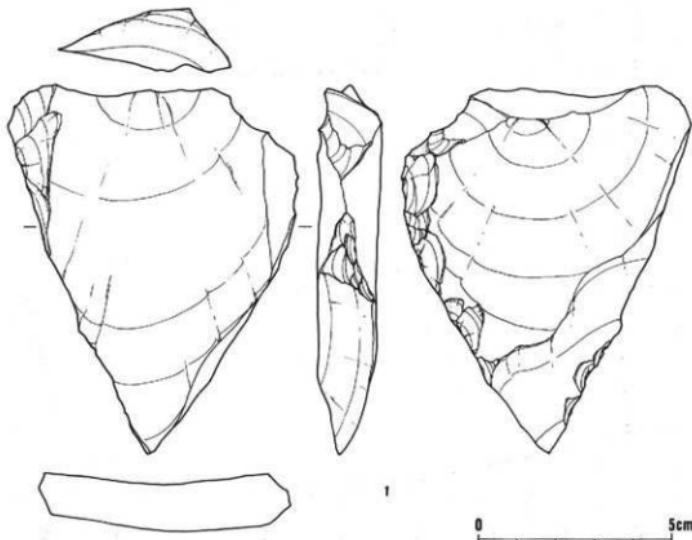
黒色緻密安山岩製の削器が1点単独で出土したほか、石器ブロックが1基検出された。また土坑が尾根を横断するようなかたちで7基検出されている。

### 石器（第123図）

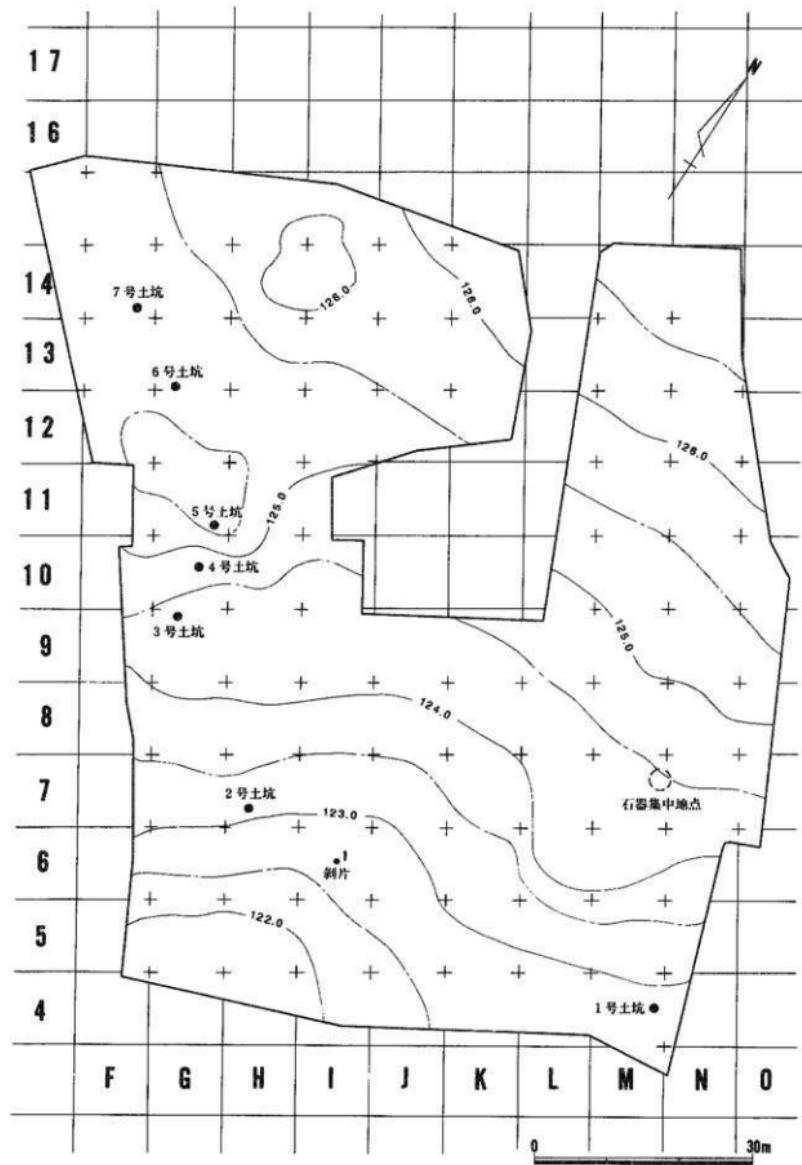
1は黒色緻密安山岩の大型の剥片を素材とした尖頭状の削器である。

### ブロック（第125図）

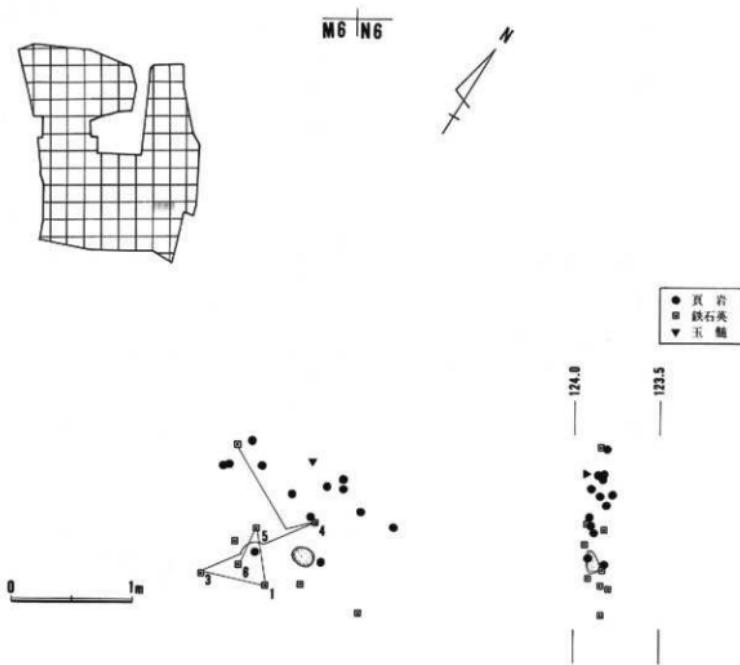
M7グリットに広がりをもち、台石を分布の中心として頁岩製の剥片14点、鉄石英製の剥片9点から構成される。頁岩に関しては接合関係は見られないが、同一母岩と考えられる鉄石英製の剥片9点の内6点が接合した（第126図）。これらは礫面が残されたままであるが、丁寧な打面調整が施された後に石刃状剥片（4）が剥ぎ取られている。この後、打面の再生と数回の剥片剥離作業の後に、打面が約90度転移され2が剥離される。石核は出土していないが原石の大きさは拳大であったと考えられる。4の先端部は折損しており、使用痕は観察されない。



第123図 B B Ⅲ層石器実測図 (4/5)



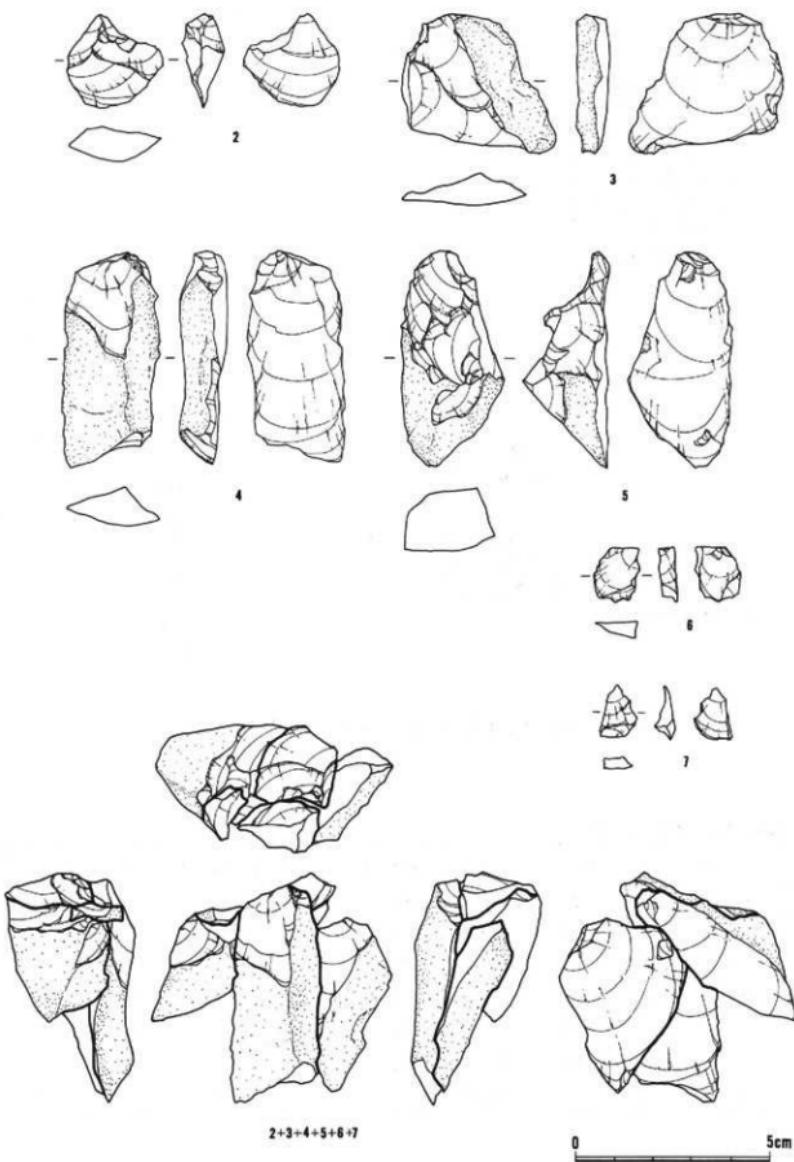
第124図 BB III層全体図



第125図 BBⅢ層石器ブロック平面・垂直分布図 (1/40)

表39 BBⅢ層石器計測表

P L - N	グリット	遺物番号	石材(产地)	器種	最大縦長(mm)	最大横長(mm)	最大厚(mm)	重量(g)
1 2 3 - 1	I 6	2	黒緑安山岩	削器	96.0	69.0	14.4	114.8
1 2 6 - 2	M 6	2 6	鉄石英	剥片	23.5	25.0	11.0	3.7
1 2 6 - 3	M 6	1 9	鉄石英	剥片	32.0	41.0	9.0	9.8
1 2 6 - 4	M 6	3 1	鉄石英	石刃	56.0	24.5	11.0	14.1
1 2 6 - 5	M 6	2 1	鉄石英	剥片	55.0	27.0	21.5	20.4
1 2 6 - 6	M 6	3 0	鉄石英	剥片	14.0	11.5	4.5	0.7
1 2 6 - 7	M 6	2 7	鉄石英	剥片	12.5	9.5	5.0	0.3



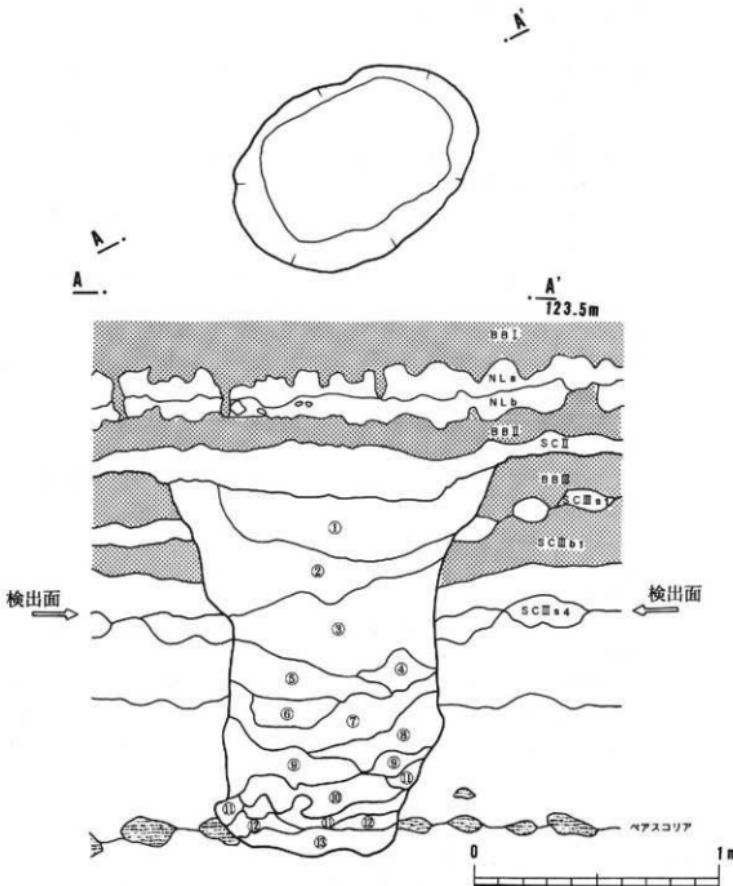
第126図 BB III層石器接合資料 (4/5)

## 遺構

土坑が7基検出されている。これらは、2～7号が遺跡の立地する尾根を横断するように配列しており今回の発掘調査区外へも延びる可能性がある。

2～7号土坑の平面プランの検出面は、SCⅢs4層上面であるが、1号土坑がテストピットの土層壁にかかったために、土坑の縦断面をBBⅠ層下より観察することが可能となった。この結果、SCⅡ層がこの土坑の覆土を被覆していることを確認した。他6基の土坑は平面形、覆土の状況が1号土坑と大変類似しているために、これらの土坑の掘り込み面は、BBⅢ層中にあるととらえている。

これらの土坑検出のために、遺物が期待できる尾根の縁辺部についてはニセローム下よりSCⅢs4層までを人手によって精査し、尾根中央部については同じくSCⅢs4層までを重機によって掘削した。こ



第127図 BB III層 1号土坑図 (1/20)

の結果、BBⅢ層からは前述の削器と石器ブロックが検出されたが、土坑との共伴関係は定かではない。なお、土坑の覆土は全てを振るいにかけた後、水洗をおこなったが遺物の検出は皆無であった。

以下に各土坑について記載する。

#### 1号土坑（第127図）

今回検出した土坑の中で、唯一掘り込み面が確認できたものである。

〈規模・形状〉 長径104cm、短径73cm、深さ162cm。

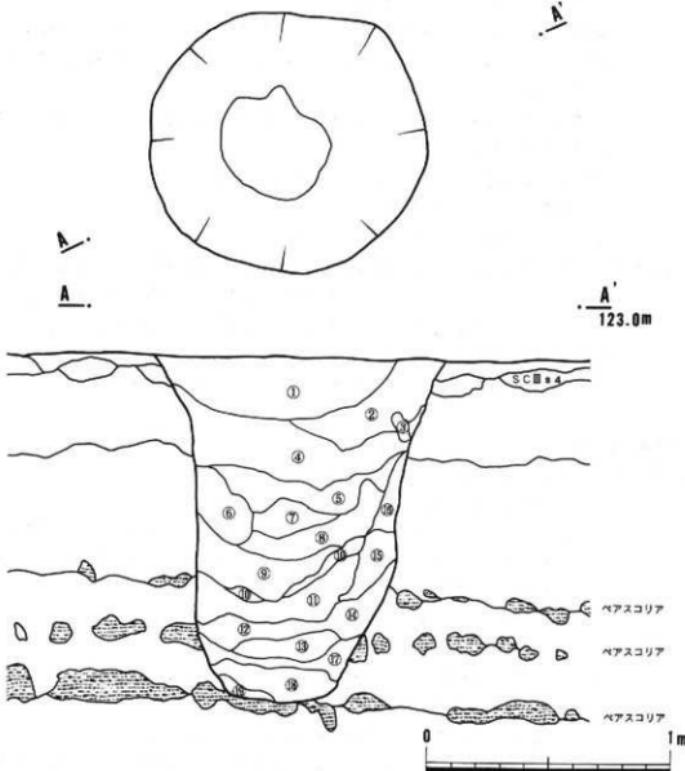
平面形は橢円形を呈し、開口部付近はラッパ状に開く。

- 〈覆土〉
- ① 暗黒褐色スコリア質土 BBⅢ層に類似。黒色の発色が弱い。脆弱でクラックが入る。
  - ② 暗茶褐色スコリア質土 ①に類似。青灰色スコリアを若干含む。脆弱でクラックが入る。
  - ③ 暗黄褐色スコリア質土 ①・②に類似するが、締まりがあり、SCⅢs1相当と考えられるスコリアを含む。
  - ④ 暗黄褐色ローム質土  $\phi 0.3\sim0.5$ cmの黒色スコリア、 $\phi 0.1\sim0.2$ cmの赤色スコリアを含む。黒色スコリアはSCⅢ層中に特徴的に見られるものに類似。
  - ⑤ ④に類似するが、スコリアの含有量が多い。
  - ⑥⑦ 黄茶褐色スコリア質土  $\phi 0.3\sim0.5$ cmの黒色スコリア、 $\phi 0.1\sim0.2$ cmの赤色スコリアを含む。
  - ⑧ 黄褐色ローム質土  $\phi 0.3\sim0.5$ cmの黒色スコリア、 $\phi 0.1\sim0.2$ cmの赤色スコリアを含む。全体的にスコリアの含有量が減り、ローム質となる。
  - ⑨ 茶褐色ローム質土 ⑧と類似するが、色調が暗くなる。
  - ⑩ 黒色粘性土 粘性が強く、赤色スコリアを少量含む。鉄分によるものか、層の輪郭が赤褐色に変色する。
  - ⑪ 茶褐色粘性土 色調は⑩と類似するが、粘性が強い。層全体に黒色～黄褐色への変色（酸化鉄の堆積か）が見られる。
  - ⑫ 黄白色土 ⑩⑪の連続と考えられる層で、粘性は少なく、 $\phi 0.1\sim0.2$ cmの黒色スコリアを少量含む。
  - ⑬ 黄褐色ローム質土 ベースコリアに類似した、 $\phi 0.1\sim0.2$ cmの赤色スコリアを含む。地山（ベースコリア付近のローム層）と類似しているが、底部に黒色のごく薄い層が観察できることから、地山と区別した。
- 〈堆積状況〉 自然堆積と考えられる。堆積過程は、1. 底部付近の地山の崩落⑬、2. 底部に水の作用によるものとも考えられる。粘性土の形成⑨⑩⑪、3. 土坑壁のローム層と開口部壁のスコリア層の崩落土と考えられるローム層とスコリア質土の混土の堆積④⑤⑥⑦⑧、4. 掘り込み面と考えているBBⅢ層の堆積①②③、の4段階に整理できる。またSCⅡ層が土坑上で厚く堆積していることから、同層の堆積時には土坑は完全に埋積していなかったものと考えられる。

#### 2号土坑（第128図）

〈規模・形状〉 長径110cm、短径109cm、深さ145cm。

平面形は正円に近い。検出面がSCⅢs4上面であるため、BBⅢ層を掘り込み面と考えるなら、実際は約50cmほど深かったものと考えられる。



第128図 BB III層 2号土坑図 (1/20)

- 〈覆 土〉 ① 褐色スコリア質土  $\phi 0.1\sim0.3\text{cm}$ の赤色スコリアを多量に含む。SC II層相当か。  
 ② 黒褐色スコリア質土  $\phi 0.1\sim0.2\text{cm}$ の赤色スコリア、 $\phi 0.3\sim0.5\text{cm}$ の黒色スコリアを含む。BB III層に類似する。  
 ③ ローム層ブロック  
 ④ オリーブ褐色スコリア質土 ②と類似。  
 ⑤⑥⑦⑧ 黄褐色スコリア質土  $\phi 0.1\sim0.2\text{cm}$ の赤色スコリア、 $\phi 0.3\sim0.5\text{cm}$ の黒色スコリアを多く含む。SC III b 1層以下の崩落土と考えられる。細分はスコリアの含有量の差による。  
 ⑨ 褐色スコリア質土  $\phi 0.1\sim0.2\text{cm}$ の赤色スコリア、 $\phi 0.3\sim0.5\text{cm}$ の黒色スコリアを多量に含む。前層の連続と考えられる。  
 ⑩ 黒褐色粘性土  $\phi 0.1\text{cm}$ の赤色スコリア、 $\phi 0.3\sim0.5\text{cm}$ の黒色スコリアを若干含むが、

全体的には粘性の強い黒色土。

- ⑪⑫ 混土 ⑩と褐色スコリア質土がマーブル状に混在する。⑩への漸移層か。
- ⑬ 褐色ローム質土  $\phi 0.1\sim0.2\text{cm}$  の赤色スコリアを少量含む。SCⅢ層以下のローム層の流れ込みか。
- ⑭⑮⑯ 褐色ローム質土  $\phi 0.3\sim0.5\text{cm}$  の黒色スコリアを含む。⑯と同様、一連の土坑壁の崩落土と考えられる。
- ⑰ 鈍い黄褐色ローム質土 黒色スコリアのブロックを含む。
- ⑱ 黑褐色粘性土 ⑩と類似。
- ⑲ スコリアブロック SCⅢs 4 層相当。

〈堆積状況〉 自然堆積と考えられる。堆積過程は、1. SCⅢs 4 層の崩落⑩、2. 黒色粘性土の生成⑯、3. SCⅢs 4 層以下の土坑壁ローム層の堆積⑭⑮⑯、3. BBⅢ相当の流れ込みとその黒色粘土化⑬⑭⑯、4. 黄褐色スコリア質土の堆積⑤⑥⑦⑧、5. BBⅢ相当の堆積②④、の 5 段階に整理できる。また⑩形成時と以後の堆積の間には若干の時間的断絶があったと考えられる。これは発掘時に「土がはがれやすい」という現象でも確認している。

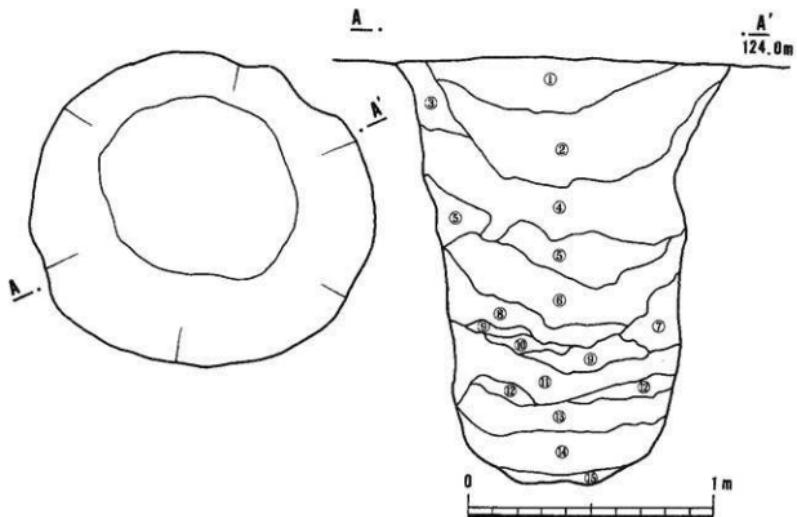
### 3号土坑（第129図）

〈規模・形状〉 長径138cm、短径133cm、深さ173cm。

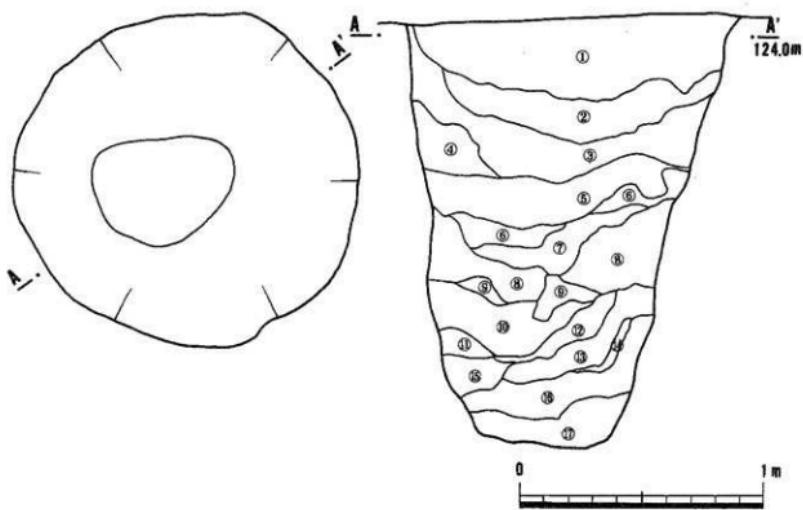
平面形は正円に近い。検出面はBBⅢb 1 層直下。

- 〈覆土〉
- ① 褐色スコリア質土 SCⅡ層相当と考えられるオレンヂ色スコリアを多量に含む。
  - ② 黑褐色スコリア質土  $\phi 0.2\sim0.3\text{cm}$  のオレンヂ色スコリア、 $\phi 0.3\sim0.5\text{cm}$  の黒色スコリアを含む。SCⅡ層とBBⅢ層の混土か。
  - ③④ 褐色スコリア質土  $\phi 0.1\sim0.2\text{cm}$  の赤色スコリア、 $\phi 0.3\sim0.5\text{cm}$  の黒色スコリアを含む。BBⅢ層に類似する。
  - ⑤ 黄褐色スコリア質土 SCⅢ層に特徴的な  $\phi 0.5\sim1.0\text{cm}$  の黒色スコリアを含む。クラックがあり、締まりが悪い。
  - ⑥ 黄褐色スコリア質土 ⑤と類似するが、締まりがある。
  - ⑦ 褐色ローム質土  $\phi 0.1\sim0.2\text{cm}$  の赤色スコリア、黒色スコリアを少量含む。SCⅢ層以下ペースコリア間のローム質土と類似。
  - ⑧ ⑥⑦の混土。
  - ⑨ 黑色粘性土  $\phi 0.1\text{cm}$  の赤色スコリア、 $\phi 0.3\sim0.5\text{cm}$  の黒色スコリアを若干含むが、全体的には粘性の強い黒色土。
  - ⑩⑪ 黄褐色ローム質土 ペースコリアと類似する赤褐色スコリアを少量含む。
  - ⑫ 暗褐色ローム質土  $\phi 0.3\sim0.5\text{cm}$  の赤色スコリアを少量含む、硬質土。
  - ⑬ 黑褐色粘性土 スコリアをほとんど含まない。⑫との層界が赤色に変色する。酸化鉄の影響か。
  - ⑭ 暗黄褐色土 硬質で、層界付近は赤色に変色する。
  - ⑮ 暗黄緑色粘性土

〈堆積状況〉 自然堆積と考えられる。堆積過程は、1. 土坑壁の崩落と考えられるローム層の堆積と、粘性土の互層⑨～⑮、2. 土坑壁の崩落土の堆積⑤⑥⑦⑧、3. 土坑の掘り込み面のBBⅢ層の堆積②③④、4. SCⅡ層の被覆、の 4 段階に整理できる。



第129図 BB III層 3号土坑図 (1/20)



第130図 BB III層 4号土坑図 (1/20)

#### 4号土坑（第130図）

〈規模・形状〉 長径132cm、短径126cm、深さ176cm。

平面形は正円に近い。検出面はSCⅢs 4層上面であるが、BBⅢ層までの深さを考慮すると実際は220cmを超える深さであったものと考えられる。

- 〈覆土〉
- ① 褐色スコリア質土 SCⅡ層相当と考えられるオレンヂ色スコリアを多量に含む。
  - ②③ 黒褐色スコリア質土  $\phi 0.1\sim 0.2\text{cm}$ の赤色スコリア、 $\phi 0.3\sim 0.5\text{cm}$ の黒色スコリアを含み締まりがない。BBⅢ層に類似する。
  - ④⑤ 黄褐色スコリア質土 SCⅢ層に特徴的な $\phi 0.5\sim 1.0\text{cm}$ の黒色スコリアを含む。
  - ⑥ 黄褐色スコリア質土  $\phi 0.1\sim 0.2\text{cm}$ の赤色スコリア、黒色スコリアを若干含む。
  - ⑦ ⑧と⑨の混土。
  - ⑩ にぶい黄褐色ローム質土 ベースコリアに類似する、赤褐色スコリアを少量含む。
  - ⑪ ⑫ に類似する。締まりが非常に悪い。
  - ⑬ 黒褐色ローム質土 ベースコリアに類似する、赤褐色スコリアを少量含む。
  - ⑭ 黑色粘性土  $\phi 0.2\sim 0.3\text{cm}$ の赤色スコリアを少量含む。
  - ⑮ 黑褐色スコリア質土 BBⅢ層類似。
  - ⑯ ⑪に類似。
  - ⑰ 褐色ローム質土 SCⅢs 4層下のローム層と類似。スコリアをほとんど含まない。
  - ⑯ ⑯の混土。
  - ⑲ 暗褐色スコリア質土 BBⅢ層類似。
  - ⑳ 褐色ローム質土  $\phi 0.1\sim 0.2\text{cm}$ の赤色スコリア、 $\phi 0.2\sim 0.4\text{cm}$ の黒色スコリアを少量含む。

〈堆積状況〉 自然堆積と考えられる。堆積過程は、1. 土坑壁のスコリア層とローム層の堆積①⑩⑰、2. 黒色粘性土の堆積①⑯、3. ローム層を中心とした土坑壁の崩落土の堆積⑥～⑯、4. BBⅢ層を中心としたスコリア質土の堆積②③④⑤、5. SCⅡ層の被覆①、の5段階に整理できる。

#### 5号土坑（第131図）

〈規模・形状〉 長径113cm、短径101cm、深さ142cm。

平面形は正円に近い。検出面はSCⅢb 1直下。

- 〈覆土〉
- ①② 暗赤褐色スコリア質土 SCⅡ層相当と考えられるオレンヂ色スコリアを多量に含む。
  - ③ にぶい赤褐色スコリア質土  $\phi 0.1\sim 0.2\text{cm}$ の赤色スコリア、 $\phi 0.3\sim 0.5\text{cm}$ の黒色スコリアを含み締まりがない。BBⅢ層に類似する。
  - ④ 黑褐色スコリア質土 SCⅢ層に特徴的な $\phi 0.5\sim 1.0\text{cm}$ の黒色スコリアを少量含む。
  - ⑤ 暗黒褐色スコリア質土 SCⅢ層に特徴的な $\phi 0.5\sim 1.0\text{cm}$ の黒色スコリアを多量に含む。
  - ⑥ 褐色スコリア質土  $\phi 0.5\sim 1.0\text{cm}$ の黒色スコリア、 $\phi 0.1\sim 0.2\text{cm}$ の赤色スコリアを含む。
  - ⑦ 黄褐色スコリア質土  $\phi 0.5\sim 1.0\text{cm}$ の黒色スコリアを少量含む。
  - ⑧ 黄褐色ローム質土 上層壁の剥離。質的には壁と変わりないが、クラックによって土坑壁から離脱していたために1層とした。
  - ⑨⑩ 暗褐色ローム質土  $\phi 0.1\sim 0.5\text{cm}$ の赤色スコリアを少量含む。SCⅢ層下のローム

層と類似する。

- ⑪⑫ 混土 BBⅢ層相当とローム層の混上。ペアスコリア類似の赤褐色スコリアを含む。
- ⑬ ⑪に類似。赤褐色スコリアの含有量が増える。
- ⑭ にぶい黄褐色ローム質土
- ⑮ 黒色粘性土
- ⑯ ⑭に類似。
- ⑰ オリーブ黄褐色粘性土  $\phi 0.1\text{cm}$  の赤色スコリアを少量含む。グライ化した粘土のよ  
うな色調で、⑮との境界は赤色に変色する。
- ⑱ 明黄褐色ローム質土。ペアスコリア周辺のローム層の剥離。
- ⑲ にぶい褐色スコリア質土 SCⅢs 4 相当の崩落土。
- ⑳ 黒褐色スコリア質土 土坑壁の崩落上と考えられるスコリアの堆積層。

〈堆積状況〉 自然堆積と考えられる。堆積過程は、1. 主にスコリア質の強い土坑壁の崩落⑮⑲⑳、2. 粘性土の形成⑰⑲、3. ローム層を中心とした土坑壁の崩落⑰～⑲、4. BBⅢ層相当の堆積②④⑤⑥、5. SCⅡ層の被覆①、の5段階に整理することができる。

#### 6号土坑（第132図）

〈規模・形状〉 長径145cm、短径138cm、深さ152cm。

平面形は正円に近い。検出面はSCⅢs 4 層直下。

- 〈覆土〉
- ① 暗赤褐色スコリア質土 SCⅡ層相当と考えられるオレンジ色スコリアを多量に含む。
  - ②③ 黒褐色スコリア質土  $\phi 0.1\sim 0.5\text{cm}$  のオレンジ色スコリアを少量含む。BBⅢ層相  
當と考えられる。
  - ④ 暗黒褐色スコリア質土  $\phi 0.1\sim 0.5\text{cm}$  の赤色スコリア、黒色スコリアを含む。SCⅢ  
層とBBⅢ層との混土の様相。
  - ⑤ 黄褐色スコリア質土 SCⅢ層起源と考えられる  $\phi 0.5\sim 1.0\text{cm}$  の黒色スコリア及び  $\phi  
0.1\sim 0.3\text{cm}$  の赤色スコリアを少量含む。
  - ⑥ にぶい黄褐色スコリア質土 SCⅢ層起源と考えられる  $\phi 0.5\sim 1.0\text{cm}$  の黒色スコリア  
を含む。下位になるにしたがって、スコリアの含有量は減少する。
  - ⑦ 褐色ローム質土 SCⅢ層起源と考えられる  $\phi 0.5\sim 1.0\text{cm}$  の黒色スコリアを少量含む。
  - ⑧ 暗褐色ローム質土 SCⅢ層下のローム層の崩落土。
  - ⑨ 黒色粘性土。
  - ⑩ ⑥⑦の混土。
  - ⑪⑫ 褐色ローム質土 土坑壁の崩落と考えられるローム質土。ペアスコリア相当と考え  
られる  $\phi 0.1\sim 0.2\text{cm}$  の赤色スコリアを含む。
  - ⑬⑭ SCⅢ層のブロック。

〈堆積状況〉 自然堆積と考えられる。堆積過程は、1. SCⅢ層下のローム層を中心とした土坑壁崩落  
土の堆積⑦⑪⑫、2. SCⅢ層相当の土坑壁崩落土の堆積⑤⑥、3. BBⅢ層の堆積②③④、4.  
SCⅡ層の被覆①、の4段階に整理することができる。

#### 7号土坑（第133図）

〈規模・形状〉 長径134cm、短径127cm、深さ167cm。

平面形は正円に近い。検出面はSCⅢs 4 層直下。

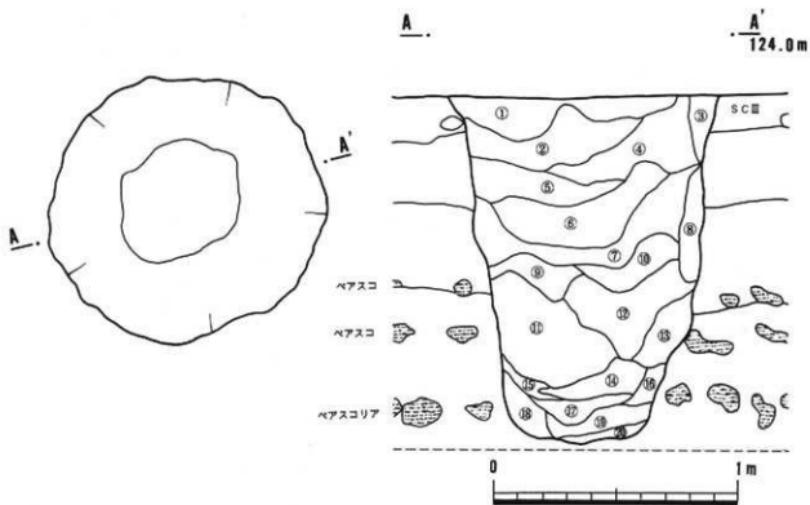
- 〈覆土〉 ①② 暗赤褐色スコリア質土 SC II層相当と考えられるオレンヂ色スコリアを多量に含む。  
③④ 黒褐色スコリア質土  $\phi 0.1\sim0.5\text{cm}$ のオレンヂ色スコリアを少量含む。BB III層相当と考えられる。  
⑤ 根による搅乱土。  
⑥⑦ 土坑壁の剥離。  
⑧⑨ 暗赤褐色スコリア質土  $\phi 0.1\sim0.5\text{cm}$ の赤色スコリア、黒色スコリアを含む。BB III層相当と考えられる。  
⑩⑪ 暗褐色ローム質土  $\phi 0.5\sim1.0\text{cm}$ の黒色スコリアを少量含む。土坑壁のローム層とSC III層起源のスコリアの混土と考えられる。  
⑫ 暗赤褐色ローム質土 ベースコリア相当と考えられる  $\phi 0.1\sim0.2\text{cm}$ の赤色スコリアを少量含む。  
⑬ 黒色粘性土  
⑭⑮ ローム層ブロック  
⑯ ⑰と類似。  
⑯⑲ 黒褐色粘性土 ベースコリア相当と考えられる  $\phi 0.1\sim0.2\text{cm}$ の赤色スコリアを少量含む。  
⑱⑲ 黒褐色粘性土 ラミナ状に黒色から灰色に変色する。

〈堆積状況〉 自然堆積と考えられる。堆積過程は、1.水の作用と考えられる黒色から灰色の粘性土の形成⑯⑰⑲、2.ローム質の土坑壁の崩落土の堆積⑯⑲、3.黒色粘性土の形成⑰、4.ローム質の土坑壁の崩落土の堆積⑯⑰⑲、5.BB III層の堆積⑳㉑㉒㉓、6.SC II層の被覆①②、の6段階に整理できる。

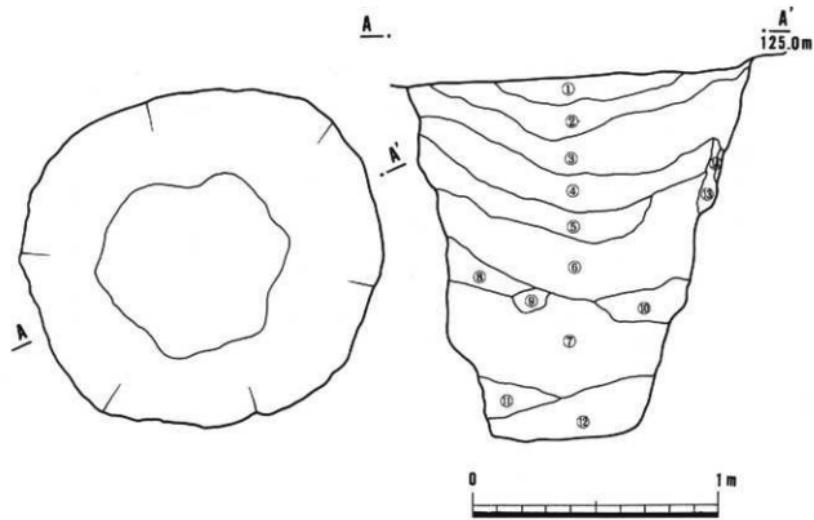
これらの十坑はいずれも平面形が正円あるいは椭円を呈し、断面形は開口部付近がラッパ状に開く。7基の土坑の埋積は、土層断面を見る限りではほぼ同様の過程をたどるようであり、次の4段階にまとめることができる。

- 1段階 SC III層下のローム層を中心とした土坑壁の崩落。
- 2段階 SC III層を中心とした土坑壁の崩落、あるいはローム層との混土の堆積。
- 3段階 BB III層相当の堆積。
- 4段階 SC II層の被覆。

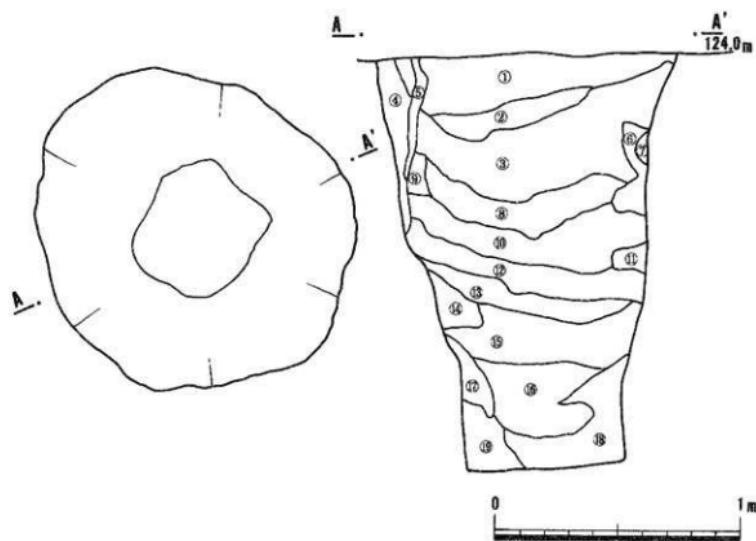
1段階と2段階の間、あるいは土坑底部には、黒色の粘性土が堆積している場合が多い。これには、酸化鉄と考えられる赤色の層も、同時に観察されることから、土坑の埋没が一時的に停止した際、溜水状態にあったことが予想される。土坑内の覆土は、壁の崩落土と考えられるものが底部より約1/2を占める。その重量は膨大であり、構築時の土坑の形状は発掘時よりも壁が垂直におちていたことが推測できる。



第131図 BBⅢ層5号土坑図 (1/20)



第132図 BBⅢ層6号土坑図 (1/20)



第133図 B B III層 7号土坑図 (1/20)

表40 B B III層土坑計測表

土坑番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ	<推定深度> (cm)
1号	104	73	162	
2号	110	109	145	<195>
3号	138	133	173	<213>
4号	132	126	176	<226>
5号	113	101	142	<187>
6号	145	138	152	<202>
7号	134	127	167	<217>

推定深度は、検出面から B B III層までの層厚を土坑の深さにプラスしたものである。

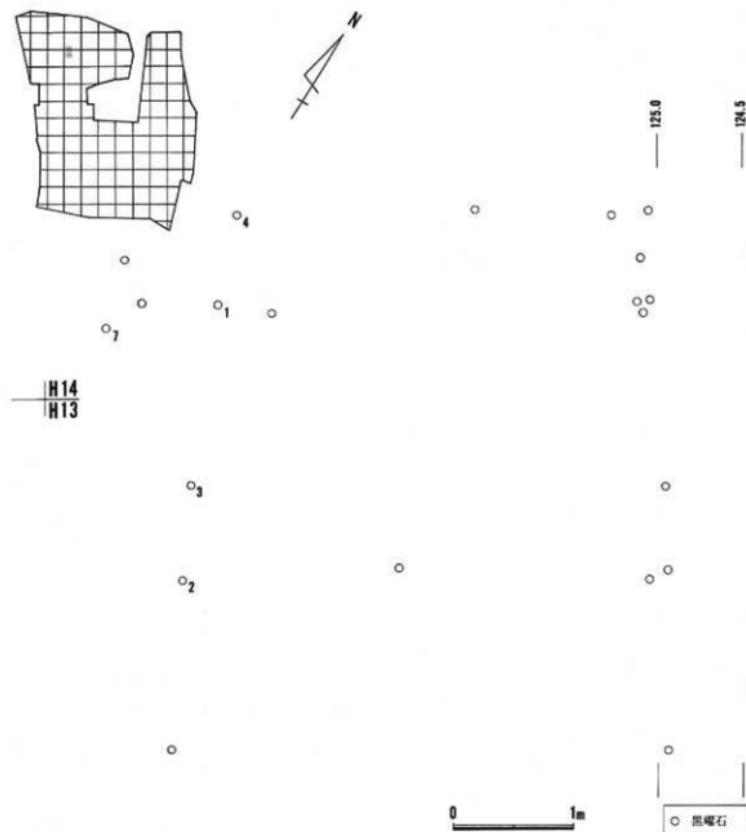
## 第7節 第Ⅲスコリア層の遺構と遺物

### 概要

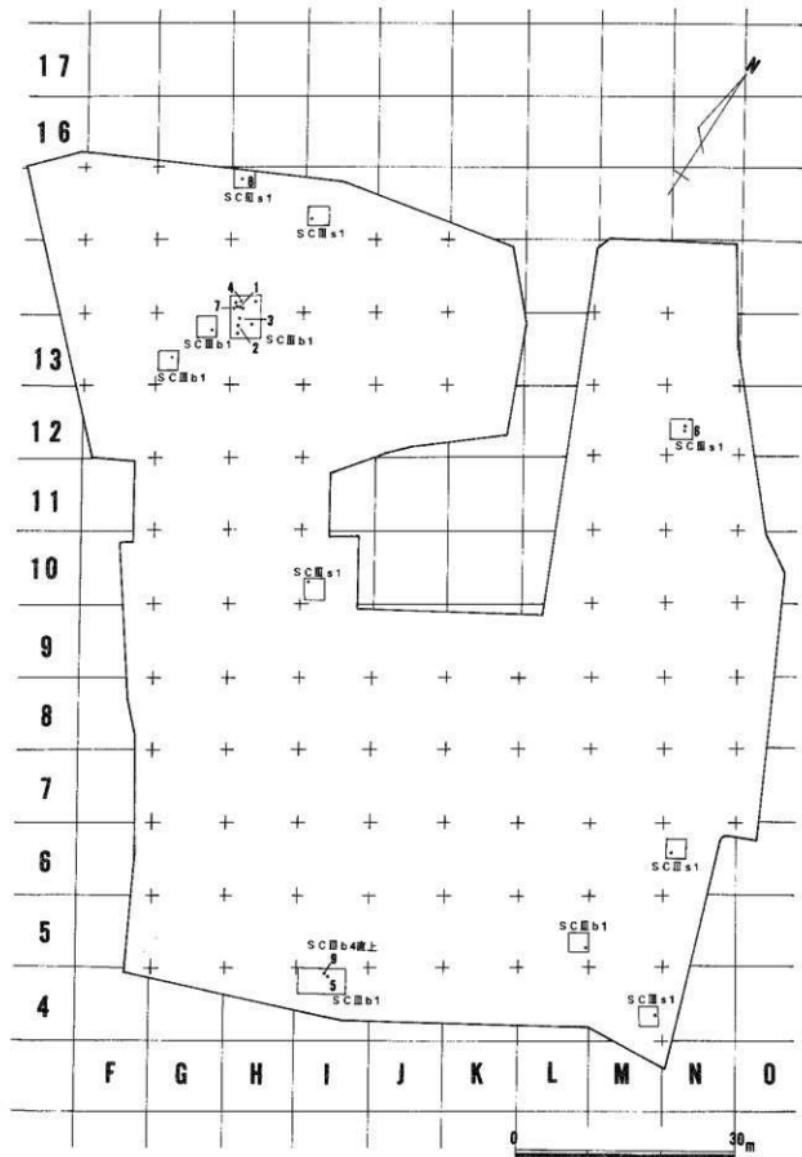
SCⅢb 1層において台形様石器1点、削器1点と剥片14点が出土し、台形様石器と削器を含む黒耀石製の剥片11点がブロックを形成している。また、SCⅢs 1層において剥片が7点、SCⅢs 4層直上において剥片が1点出土しているが、散漫な分布を示す。

### 石器（第136図）

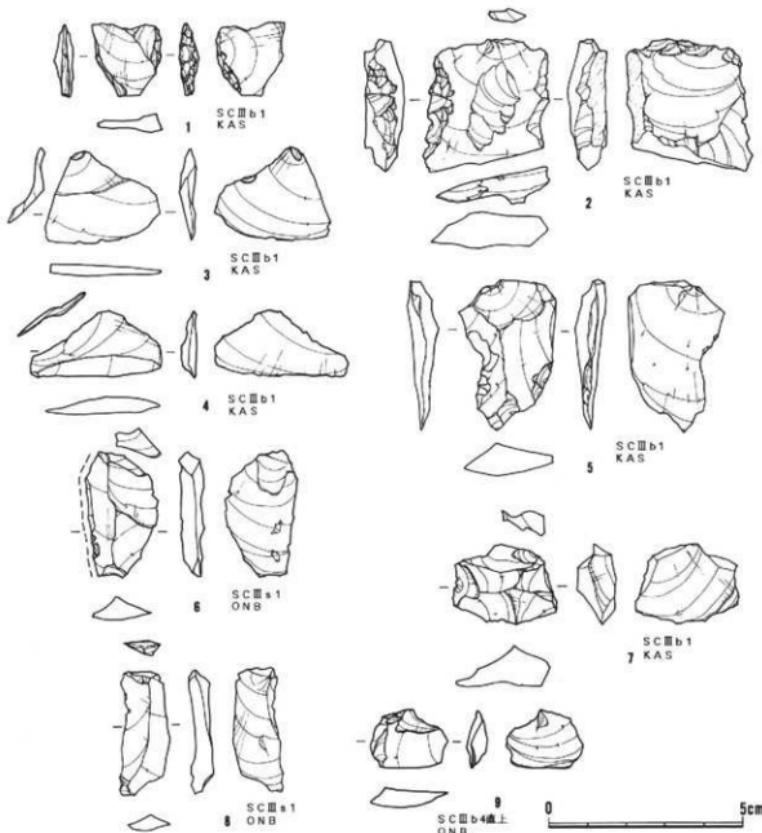
1は黒耀石製の台形様石器で、剥片の打面側に急斜な調整を施し、末端部を折り取って、素材の縁辺部を刃部としている。2は黒耀石製の削器である。



第134図 S C Ⅲ層石器ブロック平面・垂直分布図 (1/40)



第135図 SC III層全体図



第136図 SC III層石器実測図 (4/5)

表41 SC III層石器計測表

PL-Nr	グリット	遺物番号	石材(産地)	器種	最大縦長(mm)	最大横長(mm)	最大厚(mm)	重量(g)
136-1	H14	8	黒曜石	台形様石器	18.0	17.5	3.7	1.1
136-2	H13	6	黒曜石	削器	31.0	35.0	9.3	10.1
136-3	H13	5	黒曜石	剥片	27.0	24.0	3.3	1.8
136-4	H14	4	黒曜石	剥片	14.0	7.0	2.2	0.2
136-5	I4	2	黒曜石	剥片	38.5	20.0	8.0	6.5
136-6	N12	7	黒曜石	剥片	32.0	17.5	5.1	2.8
136-7	H14	2	黒曜石	剥片	27.0	20.0	9.5	3.8
136-8	H15	2	黒曜石	剥片	31.0	12.0	3.2	1.4
136-9	I4	3	黒曜石	剥片	20.0	14.5	3.5	1.0

## 第V章 調査の成果と課題

今回の発掘調査では、縄文時代と旧石器時代の構造・遺物が検出された。以下にその成果をまとめ、今後の課題としたい。

### 1 縄文時代

縄文時代の構造としては、草創期の落とし穴と考えられる土坑が注目される。この土坑の底部には逆茂木の痕跡と考えられる小穴が観察されており、平面形が梢円を呈することからも、縄文時代早期からみられる上坑と類似する。落とし穴の底部に逆茂木の痕跡を有するものは、縄文時代早期以降、関東地方を中心として検出例がある。しかし草創期以前のものは、鹿児島県の「田尾遺跡において新石器が伴って検出されている他は、千葉県の木の根遺跡等、報告例は少ない。旧石器時代から縄文時代への過渡期においての狩猟方法や動物相を考える上で、重要な資料となるであろう。

### 2 旧石器時代

旧石器時代については、YL層、BB0層、BBI層、NL層、BBII層、BBIII層、SCIII層で遺物が出上している。なかでもYL層出土の遺物は、疊群の山十レベルよりYLM層中位から上位に包含されるものと考えられ、数において本遺跡の中心となるものである。この石器群は尖頭器を石器組成に含み、ナイフ形石器の素材は継長の剥片を用いる。すなわち石刃技法によるナイフ形石器が、後退していく時期であり、ナイフ形石器の石材としては信州産の黒耀石が多用される。しかし、遺跡内の信州産の黒耀石は、足ヶ塔庄の2つの個体別資料を除いて、剥片剥離をおこなった痕跡は観察されず、黒耀石製石核の検出も畠宿庄3、柏崎庄1の合計4点であった。一方、在地系の石材である貞岩は、遺跡内で石刃状の大型剥片を多数削出しており、石核は隼人のものが20点出土している。これら石刃状剥片は、石器の素材として用いられていないことから、刃器として牛座・消費されたものと考えている。石材の内訳は、黒耀石55%、貞岩30%、黒色緻密安山岩5.4%であり、黒耀石と貞岩では、上記のとおり石器組成に違いがある。また、石器ブロックは所有している石材によって、在地系と信州系にわけられ、在地系の石材を所有しているブロックには、信州産の黒耀石製の石器が剥片、toolで収入されていたようである。これらの石器ブロックは、石器の接合関係こそないが、あきらかに同一の個体別資料を共有しており、同時期に存在した石器ブロックと考えている。下原遺跡では、上記のように遺跡の構造を理解するための良好な資料を提示することができる。これらの結果をどのように解釈していくかが今後の課題となる。

BBIII層からは、7基の上坑が検出されている。全国的にも、後期旧石器時代の構造は稀少であるのに対して、ここ箱根西麓では初音ヶ原遺跡、焼場遺跡、加茂ノ洞B遺跡と次々に検出されており、その用途や性格、そして構築した集団の営力に対しても注意が払われるところである。つづいて発刊される「下原遺跡II」では、特にこの十坑に焦点をあて、土壤の自然科学分析による当時の環境の復元、上坑と同時期の石器の集成などをとおして、十坑の用途についても掲載する予定である。

# 出土石器一覽表

产地	造石番号	原石	石材	品种	产地	造石番号	原石	石材	品种
F12	4	YLU	直角	有齿锯切面	M4	47	FB	黑曜石	チップ
F15	1	FB	チャット	黑砂岩磨擦心面	M4	48	FB	玄武岩	チップ
G12	6	FB	黒曜石	剥片	M4	49	FB	玄武岩	チップ
H16	3	FB	黑色磨擦安山岩	剥片	M4	50	FB	玄武岩	チップ
H6	8	FB	博古堂山岩	剥片	M4	51	FB	黑曜石	チップ
H12	10	FB	直角	剥片	M4	52	FB	黑曜石	チップ
J6	10	FB	黑色磨擦安山岩	剥片	M4	53	FB	黑曜石	チップ
J12	4	FB	直角	剥片	M4	54	FB	黑曜石	チップ
J12	5	FB	黑曜石	剥片	M4	55	FB	黑曜石	チップ
J14	1	FB	黑曜石	剥片	M4	56	FB	黑曜石	剥片
J14	3	FB	直角	剥片	M4	57	FB	玄武石	剥片
K5	24	FB	黑曜石	剥片	M4	58	FB	玄武石	チップ
K5	45	FB	直角	石路	M4	59	FB	玄武石	チップ
K5	65	FB (上端内)	直角	剥片	M4	60	FB	玄武石	リバ
K5	66	FB (下端内)	直角	剥片	M4	61	FB	玄武石	剥片
L4	3	FB	直角	剥片	M4	62	FB	黑曜石	チップ
L4	4	FB	直角	剥片	M4	63	FB	黑曜石	チップ
L4	5	FB	直角	剥片	M4	64	FB	黑曜石	チップ
L4	7	FB	直角	剥片	M4	65	FB	黑曜石	チップ
L5	6	FB	黑曜石	石路	M4	66	FB	玄武石	チップ
L10	2	FB	直角	剥片	M4	67	FB	黑曜石	チップ
L10	3	FB	直角	剥片	M4	68	FB	黑曜石	チップ
L10	4	FB	直角	剥片	M4	69	FB	玄武石	チップ
L10	5	FB	直角	剥片	M4	70	FB	玄武石	チップ
L11	7	FB	直角	チャット	M4	71	FB	黑曜石	チップ
L11	10	FB	黑曜石	黑色磨擦安山岩	M4	72	FB	黑曜石	チップ
L11	11	FB	黑曜石	石路	M4	73	FB	黑曜石	チップ
L11	12	FB	黑曜石	剥片	M4	74	FB	黑曜石	チップ
M3	1	FB	直角	チャット	M4	75	FB	玄武石	チップ
M3	2	FB	直角	チャット	M4	76	FB	玄武石	チップ
M3	3	FB	直角	チャット	M4	77	FB	玄武石	チップ
M3	4	FB	直角	剥片	M4	78	FB	玄武石	チップ
M3	5	FB	直角	チャット	M4	79	FB	玄武石	チップ
M3	6	FB	直角	チャット	M4	80	FB	玄武石	チップ
M3	7	FB	直角	チャット	M4	81	FB	玄武石	チップ
M3	8	FB	直角	チャット	M4	82	FB	玄武石	チップ
M3	9	FB	直角	チャット	M4	83	FB	玄武石	チップ
M3	10	FB	黑色磨擦安山岩	剥片	M4	84	FB	玄武石	チップ
M3	11	FB	直角	剥片	M4	85	FB	玄武石	チップ
M4	1	FB	直角	チャット	M4	86	FB	玄武石	チップ
M4	2	FB	直角	チャット	M4	87	FB	玄武石	チップ
M4	3	FB	直角	チャット	M4	88	FB	玄武石	チップ
M4	4	FB	直角	チャット	M4	89	FB	玄武石	チップ
M4	5	FB	直角	チャット	M4	90	FB	玄武石	チップ
M4	6	FB	直角	チャット	M4	91	FB	玄武石	チップ
M4	7	FB	直角	チャット	M4	92	FB	玄武石	チップ
M4	8	FB	直角	チャット	M4	93	FB	玄武石	チップ
M4	9	FB	直角	チャット	M4	94	FB	玄武石	チップ
M4	10	FB	直角	チャット	M4	95	FB	玄武石	チップ
M4	11	FB	直角	チャット	M4	96	FB	玄武石	チップ
M4	12	FB	直角	チャット	M4	97	FB	玄武石	剥片
M4	13	FB	直角	チャット	M4	98	FB	玄武石	チップ
M4	14	FB	直角	チャット	M4	99	FB	玄武石	チップ
M4	15	FB	直角	剥片	M4	100	FB	玄武石	チップ
M4	16	FB	直角	チャット	M4	101	FB	玄武石	チップ
M4	17	FB	直角	チャット	M4	102	FB	玄武石	チップ
M4	18	FB	直角	チャット	M4	103	FB	玄武石	チップ
M4	19	FB	直角	チャット	M4	104	FB	玄武石	チップ
M4	20	FB	直角	チャット	M4	105	FB	玄武石	チップ
M4	21	FB	直角	チャット	M4	106	FB	玄武石	チップ
M4	22	FB	直角	チャット	M4	107	FB	玄武石	チップ
M4	23	FB	直角	チャット	M4	108	FB	玄武石	チップ
M4	24	FB	直角	チャット	M4	109	FB	玄武石	チップ
M4	25	FB	直角	チャット	M4	110	FB	玄武石	チップ
M4	26	FB	直角	チャット	M4	111	FB	玄武石	チップ
M4	27	FB	直角	チャット	M4	112	FB	玄武石	チップ
M4	28	FB	直角	チャット	M4	113	FB	玄武石	チップ
M4	29	FB	直角	チャット	M4	114	FB	玄武石	チップ
M4	30	FB	直角	チャット	M4	115	FB	玄武石	チップ
M4	31	FB	直角	チャット	M4	116	FB	玄武石	チップ
M4	32	FB	直角	チャット	M4	117	FB	玄武石	チップ
M4	33	FB	直角	チャット	M4	118	FB	玄武石	チップ
M4	34	FB	直角	チャット	M4	119	FB	玄武石	チップ
M4	35	FB	直角	チャット	M4	120	FB	玄武石	チップ
M4	36	FB	直角	チャット	M4	121	FB	玄武石	チップ
M4	37	FB	直角	チャット	M4	122	FB	玄武石	チップ
M4	38	FB	直角	チャット	M4	123	FB	玄武石	チップ
M4	39	FB	直角	チャット	M4	124	FB	玄武石	チップ
M4	40	FB	直角	チャット	M4	125	FB	玄武石	チップ
M4	41	FB	直角	石路	M4	126	FB	玄武石	チップ
M4	42	FB	直角	剥片	M4	127	FB	玄武石	チップ
M4	43	FB	直角	剥片	M4	128	FB	玄武石	チップ
M4	44	FB	直角	剥片	M4	129	FB	玄武石	チップ
M4	45	FB	直角	剥片	M4	130	FB	玄武石	チップ
M4	46	FB	直角	剥片	M4	131	FB	玄武石	チップ





产地	造物番号	部位	石材	品種	产地	造物番号	部位	石材	品種
M4	476	FB	黒曜石	チップ	M4	FB	FB	玄武岩質角閃石	鶴見・岐石
M4	477	FB	黒曜石	チップ	M4	538	FB	玄武岩質角閃石	鶴見・岐石
M4	478	FB	黒曜石	チップ	M4	537	FB	加瑪石	チップ
M4	479	FB	黒曜石	チップ	M4	538	FB	加瑪石	チップ
M4	480	FB	黒曜石	チップ	M4	539	FB	加瑪石	チップ
M4	481	FB	黒曜石	チップ	M4	540	FB	加瑪石	チップ
M4	482	FB	黒曜石	チップ	M4	541	FB	加瑪石	鶴片
M4	483	FB	黒曜石	チップ	M4	542	FB	加瑪石	石板
M4	484	FB	黒曜石	チップ	M4	543	FB	加瑪石	チップ
M4	485	FB	黒曜石	チップ	M4	544	FB	加瑪石	チップ
M4	486	FB	黒曜石	チップ	M4	545	FB	玄武岩質角閃石	玄武
M4	487	FB	黒曜石	チップ	M4	546	FB	玄武岩	チップ
M4	488	FB	黒曜石	チップ	M4	549	FB	角閃石安山岩	夏石
M4	489	FB	黒曜石	チップ	M4	550	FB	石英斑岩	石板
M4	490	FB	黒曜石	チップ	M4	553	FB	玄武岩質角閃石	赤石
M4	491	FB	黒曜石	チップ	M5	1	FB	田麻石	石板
M4	492	FB	黒曜石	チップ	M5	2	FB	田麻石	石板
M4	493	FB	黒曜石	チップ	M5	5	FB	黑色緻密火山岩	鶴片
M4	494	FB	黒曜石	チップ	M11	1	FB	加瑪石	チップ
M4	495	FB	黒曜石	チップ	M11	2	FB	加瑪石	鶴片
M4	496	FB	黒曜石	チップ	M11	37	FB	加瑪石	鶴片
M4	497	FB	黒曜石	チップ	M11	38	FB	良石	鶴片
M4	498	FB	黒曜石	チップ	M5	1	FB	瓦石	チップ
M4	499	FB	黒曜石	チップ	M4	1	FB	基盤石	鶴片
M4	500	FB	黒曜石	チップ	M4	2	FB	基盤石	鶴片
M4	501	FB	黒曜石	チップ	M5	1	FB	黑麻石	石板
M4	502	FB	黒曜石	チップ	M5	2	FB	黑麻石	石板
M4	503	FB	黒曜石	チップ	M5	3	FB	黑麻石	鶴片
M4	504	FB	黒曜石	チップ	M5	5	YLU	黑色緻密火山岩	吉古大継掛
M4	505	FB	黒曜石	チップ	N10	15	FB	黑麻石	鶴片
M4	506	FB	黒曜石	チップ	N10	12	FB	黑麻石	鶴片
M4	507	FB	黒曜石	チップ	N10	13	FB	瓦石	鶴片
M4	508	FB	黒曜石	チップ	N10	14	FB	黑麻石	チップ
M4	509	FB	黒曜石	チップ	N10	23	FB	黑麻石	石板
M4	510	FB	黒曜石	チップ	N10	24	FB	瓦石	鶴片
M4	511	FB	黒曜石	チップ	N10	25	FB	瓦石	鶴片
M4	512	FB	黒曜石	チップ	N10	27	FB	瓦石	鶴片
M4	513	FB	黒曜石	チップ	N10	28	FB	チャート	鶴片
M4	514	FB	黒曜石	チップ	N10	32	FB	黒麻石	鶴片
M4	515	FB	黒曜石	チップ	N10	36	FB	瓦石	鶴片
M4	516	FB	黒曜石	チップ	N10	44	FB	輝石安山岩	鶴石
M4	517	FB	黒曜石	チップ	N11	1	FB	水晶	鶴片
M4	518	FB	黒曜石	チップ	N11	10	FB	真君	鶴片
M4	519	FB	黒曜石	チップ	N11	11	FB	真君	鶴片
M4	520	FB	黒曜石	チップ	N11	12	FB	真君	鶴片
M4	521	FB	黒曜石	チップ	N11	13	FB	真君	鶴片
M4	522	FB	黒曜石	チップ	N11	30	FB	黒麻石	チップ
M4	523	FB	黒曜石	チップ	N11	31	FB	黒麻石	鶴片
M4	524	FB	黒曜石	チップ	N11	32	FB	黒麻石	チップ
M4	525	FB	黒曜石	チップ	N11	33	FB	基盤石	鶴片
M4	523	FB	黒曜石	チップ	N11	37	FB	黒麻石	鶴片
M4	524	FB	黒曜石	チップ	OS	1	FB	基盤石	鶴片
M4	525	FB	黒曜石	チップ	O9	2	FB	瑪瑙	鶴片
M4	526	FB	黒曜石	チップ	O9	3	FB	真君	鶴片
M4	527	FB	黒曜石	チップ	O9	4	FB	真君	鶴片
M4	528	FB	黒曜石	チップ	O10	4	FB	黒麻石	鶴片
M4	529	FB	黒曜石	チップ	O10	5	FB	真君	鶴片
M4	530	FB	黒曜石	チップ	O10	10	FB	黒麻石	鶴片
M4	531	FB	黒曜石	チップ	O10	11	FB	真君	鶴片
M4	532	FB	黒曜石	チップ					
M4	533	FB	黒曜石	チップ					
M4	534	FB	黒曜石	鶴片					





打番	造石番号	原石	石材	器種	鉱物の種類	使用量	溶剤別	ブロック	最大断面長	最大断面高	最大厚	重量	Y(地盤反応度) X(地盤反応度) H(高さ)
H2	15	YLM	真岩	剥片	片長	C	59	54	14.7	49.2	83.445	112.075	126.4
H2	16	YLM	輝石安山岩	剥石	片長	C	98	74	54	449.3	82.9	111.9	126.31
H2	17	YLM	真岩	剥片	片長	C	31	15	8.2	3.4	82.8	110.176	126.183
H2	18	YLL	真岩	石粉状剥片	剥片	C	45	17	4.3	3.2	83.616	111.063	125.405
H2	19	YLM	黒曜石	剥片	貝殻	C	19	29.5	7.1	2.7	89.774	112.9	126.441
H3	1	YLM	真岩	石粉状剥片	剥片	C	87	27.5	17	12.5	96.875	126.767	126.844
J4	1	YLM	黒曜石	小形石粉状剥片	剥片	HST-2	34.5	12	3.3	1.1	92.82	97.91	123.327
J4	2	YLM	黒曜石	剥片	片長	O	1.6	5.7	1.9	0.1	98.49	35.61	123.389
J4	3	YLM	黒曜石	剥片	片長	O	26	14	2	0.9	91.57	99.03	123.554
J4	4	YLM	黒曜石	剥片	貝殻	O	20	21	4.2	2.1	92.67	34.73	123.184
J5	1	YLM	黒曜石	剥片	貝殻	O	14	17	4.9	2.7	96.85	48.67	124.165
J5	2	YLM	黒曜石	チップ			8.7	5.4	1	0.1	96.82	48.88	124.17
J5	3	YLM	黒曜石	チップ							94.84	47.29	124.066
J5	4	YLM	黒曜石	チップ	貝殻	O	16.5	9.5	1.9	0.3	98.99	41.63	123.74
J5	5	YLM	黒曜石	チップ	貝殻	O	15	14.5	3.8	1	92.71	43.03	123.811
J5	6	YLM	黒曜石	剥片	片長	O	22.6	11	4.6	1.1	95.62	47.33	124.092
J5	7	YLM	黒曜石	剥片	石粉調	O	48	24.5	7.6	7	94.83	45.6	124.193
J5	8	YLM	黒曜石	チップ			13.2	9.5	1.1	0.1	96.16	44.74	123.963
J5	9	YLM	黒曜石	剥片	石粉調	O	38.5	19	6.5	3.2	96.38	49.19	124.161
J5	10	YLM	黒曜石	小形石粉状剥片	剥片	HST-1	19.5	10	2.1	0.5	95.53	45.55	124.53
J5	11	YLM	黒曜石	チップ	剥片	HST-2	29	11.5	6.3	1.2	97.84	44.91	123.972
J5	12	YLM	黒曜石	剥片	片長	HST-1	21	17	5.4	1.6	94.81	48.44	124.005
J5	13	YLM	黒曜石	剥片	片長	HST-1	32	15	7.3	2.2	95.23	48.11	124.079
J5	14	YLM	黒曜石	剥片	片長	O	11	18	7.1	1.2	93.7	43.86	123.871
J5	15	YLM	黒曜石	チップ		HST-1	11	9	1.2	0.1	95.24	44.28	123.871
J5	16	YLM	黒曜石	チップ		HST-1	11	12	2.5	0.3	96.01	47.54	124.022
J5	17	YLM	黒曜石	チップ		HST-1	11	12	2.5	0.3	96.58	48.63	124.086
J5	18	YLM	黒曜石	チップ		HST-1	8.9	4.6	3.3	0.1	95.58	47.89	124.054
J5	19	YLM	黒曜石	石粉状剥片		HST-1			12.4	13.9	96.15	48.6	124.097
J5	20	YLM	黒曜石	チップ	WAD-2	O	30.5	12	4	1.1	96.18	45.94	123.989
J5	21	YLM	黒曜石	チップ	貝殻	O	12	12	3.1	0.3	96.77	46.94	123.956
J5	22	YLM	黒曜石	チップ	貝殻	O	19	8	8.7	0.6	96.88	48.88	124.056
J5	23	YLM	黒曜石	チップ	貝殻	O	4.3	2	5		94.41	48.65	123.983
J5	24	YLM	黒曜石	チップ		HST-1	12	10.5			96.79	48.88	124.052
J5	25	YLM	黒曜石	チップ		HST-1	11	8	1.4	0.1	97.56	48.56	124.041
J5	26	YLM	黒曜石	剥片	片長	HST-1	9.5	19	1.7	0.2	97.73	48.58	124.031
J5	27	YLM	黒曜石	剥片	片長	HST-1	21	12	5.1	0.6	92.43	49.51	124.087
J5	28	YLM	黒曜石	小形石粉状剥片	剥片	HST-1	24	7	2.2	0.3	93.44	45.43	123.873
J5	29	YLM	黒曜石	チップ		WAD-9	(17.5)	(9.5)	(5)	(0.9)	92.75	48.41	123.772
J5	30	YLM	黒曜石	剥片	2次	O	16	22.5	5	1.8	94.77	49.21	124.059
J5	31	YLM	黒曜石	剥片	貝殻	HST-1	15	11	2.9	0.5	96.77	46.65	124.048
J5	32	YLM	黒曜石	チップ		HST-1	12.3	4.8	4.2	0.2	96.51	48.64	124.036
J5	33	YLM	黒曜石	剥片	貝殻	HST-1	18.5	14	2.3	0.4	94.39	47.29	123.954
J5	34	YLM	黒曜石	チップ		HST-1	30	10	9	1.4	95.83	48.84	123.937
J5	35	YLM	黒曜石	剥片	石粉調	O	41	22.5	17	12.4	95.69	46.13	123.897
J5	36	YLM	黒曜石	小形石粉状剥片	剥片	HST-1	17.5	10	1.8	0.3	92.18	46.65	123.891
J5	37	YLM	黒曜石	チップ		WAD-2	20.9	15	1.8	0.1	93.51	45.26	123.85
J5	38	YLM	黒曜石	チップ		HST-1	9.4	4.8	2.8	0.1	84.82	47.02	123.94
J5	39	YLM	黒曜石	剥片	片長	O	23	21	3.9	1.8	93.12	48.54	123.982
J5	40	YLM	黒曜石	チップ		HST-1	83	46	20	46.1	96.5	48.64	123.993
J5	41	YLM	黒曜石	チップ		HST-1	0	0	7.6	1.3	96.73	48.23	123.981
J5	42	YLM	黒曜石	チップ		HST-1	19	13	3.4	0.6	97.31	49.59	124.023
J5	43	YLM	黒曜石	チップ		HST-1	10	9.5	1.2	0.1	97.3	48.84	123.985
J5	44	YLM	黒曜石	チップ		HST-1	26.5	38	6.5	4.6	92.14	47.4	123.858
J5	45	YLM	黒曜石	チップ		HST					96.54	48.06	123.999
J5	46	YLM	黒曜石	チップ		HST-1	15	22.5	3.3	1	96.79	48.7	123.946
J5	47	YLM	黒曜石	剥片	片長	O	26	14.5	4.5	1.2	96.14	49.52	124.025
J5	48	YLM	黒曜石	チップ		HST-1	17	12	3.2	0.5	98.15	48.87	123.981
J5	49	YLM	黒曜石	チップ		HST-1	10	9	1.8	0.2	96.41	49.05	123.946
J5	50	YLM	黒曜石	チップ		HST-1	12.8	9	2	0.3	98.25	49.06	124.01
J5	51	YLM	黒曜石	チップ		HST-1	5.9	5.7	1.2	0.1	98.67	48.93	123.981
J5	52	YLM	黒曜石	チップ		HST-1	12.7	8.9	1.6	0.1	98.86	48.17	123.976
J5	53	YLM	黒曜石	チップ		HST-1	11	15	2.3	0.3	95.46	48.21	123.935
J5	54	YLM	黒曜石	チップ		HST-1	19	13	3.5	0.7	91.87	49.47	123.932
J5	55	YLM	黒曜石	剥片	2次	O	16	20	3.3	1	95.88	48.47	123.936
J5	56	YLM	黒曜石	チップ		HST-1	37	23	7	2.9	91.52	46.86	123.785
J5	57	YLM	黒曜石	剥片	石粉調	O	40	27	7.7	4.3	90.73	46.21	123.745
J5	58	YLM	黒曜石	チップ		HST-1	10.1	2.7	1.4	0	98.13	48.37	123.938
J5	59	YLM	黒曜石	剥片		HST-1	30.9	22.6	6	2.9	96.82	48.2	123.945
J5	60	YLM	黒曜石	小形石粉状剥片	剥片	HST-1	17	6	1.6	2	95.74	49.02	123.931
J5	61	YLM	黒曜石	剥片		HST-1	38	26	8.5	5.4	96.56	49.34	122.924
J5	62	YLM	黒曜石	剥片	片長	O	22	24	5.9	3.2	97.61	49.21	122.924
J5	63	YLM	黒曜石	小形石粉状剥片	剥片	HST-1	19	8	1.2	0.2	96.59	48.45	123.877
J5	64	YLM	黒曜石	剥片		HST-1	0	29	6	2.6	95.38	47.66	123.891
J5	65	YLM	黒曜石	剥片	片長	O	30	13	4.9	1.1	94.83	47.01	123.779
J5	66	YLM	黒曜石	剥片	石粉調	O	6	11.5	1.9	0.2	95.39	47.23	123.839
J5	67	YLM	黒曜石	剥片		HST-1	18.5	12.5	3.2	0.5	96.1	48.41	123.902
J5	68	YLM	黒曜石	チップ		HST-1	17.6	4	1.7	0.2	96.59	48.11	123.915
J5	69	YLM	黒曜石	チップ		HST-1	9.7	4.1	1.5	0.1	94.3	45.87	123.778
J5	70	YLL	黒曜石	小形石粉状剥片		O	25	14	2.1	0.7	98.43	48.09	123.787
J5	71	YLL	黒曜石	剥片		HST-1	34	26	6	3.2	98.87	49.38	123.802
J5	72	YLL	黒曜石	チップ		HST-1	6	11.5	2.9	0.2	95.39	47.23	123.697
J5	73	YLL	黒曜石	チップ		HST-1	9	11.5	2.6	0.2	98.05	48.19	123.721
J5	74	YLL	英州赤安山山	剥片		HST-1	31	35.5	7.4	8.3	96.56	48.93	123.73
J5	76	垂削木板	黒曜石	剥片	片長	O	63	38	12.2	18.6	96.37	47.68	123.279

番号	岩名	位置	石材	岩性	剥片の種類	使用度	母岩別	ブロック	焼成度	火候別	最大厚	実測 Y(地表位置) X(地盤位置) H(深度)		
J8 1	YLM		黒雲石	チップ	HST-1	○	9	11.5	3.3	0.3	92.64	50.45 124.127		
J8 2	YLM		黑色礁岩安山岩	ナイフ		○	38.5	19	7	4.5	95.42	57.47 124.455		
J8 3	YLM		黑色礁岩安山岩	チップ		○	40	21	6	4.6	93.79	55.36 124.368		
J8 4	YLM		真武石	剥片	II長		○	59.5	30	8.8	16.8	91.93	57.52 124.421	
J8 5	YLM		黒雲石	剥片	HST-1	○	17.5	8.5	1.8	0.2	94.66	50.19 124.099		
J8 6	YLM		黒雲石	剥片	2次 ○	MUG-4	○	24	13	6	1.1	91.85	52.65 124.137	
J8 7	YLM		黑色礁岩安山岩	チップ		○	(49)	(20.5)	(12)	(10)	94.79	56.26 124.334		
J8 8	YLM		黑色礁岩安山岩	チップ		○	14	9	5.9	0.5	95.31	56.63 124.838		
J8 11	YLM		真武石	チップ	II長	○	49.5	42	0.1	14.9	97.12	53.13 124.178		
J8 12	YLM		黒雲石	剥片	右横調	HST-1	○	23	22	6.2	2.5	96.84	51.93 124.037	
J8 13	YLM		黒雲石	剥片	HAT-4	○	29	21.5	11	5.2	96.95	56.13 124.061		
J8 14	YLM		黒雲石	剥片	HST-1	○	25	21.8	4	2	90.41	51.34 123.827		
J8 15	YLM		黒雲石	剥片	HST-1	○	15	15	1.8	0.4	98.05	50.4 123.821		
J8 16	YLM		黒雲石	剥片	HST-1	○	17.5	13	2.5	0.6	96.35	50.08 123.736		
J8 17	YLM		真武石	剥片	II長	○	55	29	9.6	12.6	98.57	59.71 124.475		
J7 1	YLM		黒雲石	剥片	HST-2	○	22	21	9.8	3.9	96.26	69.95 125.09		
J7 2	YLM		真武石	剥片		○	23	18	9.5	3.1	95.45	65.03 124.764		
J7 3	YLM		透輝石	剥片	KAS-3	○	30	27	10	6.7	92.73	61.05 124.5		
J8 1	YLM		黒雲石	剥片	WAD-5	○	20	15	5	1.2	93.33	73.94 125.23		
J8 2	YLM		真武石	チップ		○	29	13	6	2.1	94.62	75.86 125.074		
J8 3	YLM		黒雲石	剥片	HST-1	○	20	18	5.3	1.2	93.73	72.01 124.993		
J8 4	YLM		真武石	剥片		○	22	12	7.6	1.8	98.17	80.82 125.525		
J9 2	YLM		真武石	剥片		○	48.5	32	14.8	28.2	98.15	90.76 125.55		
J12 1	YLM		黒雲石	チップ	KAS	D	18	9	4.5	0.7	93.703	116.809 126.952		
J12 2	YLM		黑色礁岩安山岩	剥片		D	26	10	3.5	0.8	96.463	113.507 126.445		
J12 3	YLM		黒雲石	剥片	HST	D	23	16	2.2	0.9	90.86	111.924 126.489		
J12 6	YLM		黒雲石	剥片	MUG-4	D	24	16	5	1.8	97.44	119.61 126.801		
J12 7	YLM		黒雲石	剥片	HST	D	26	19	5.3	3	97.345	119.855 126.754		
J12 8	YLM		黑色礁岩安山岩	剥片		D	56	27	15	16.9	96.275	119.375 126.909		
J12 9	YLM		黒雲石	剥片	HST	○	20	23	4.6	1.8	95.785	119.56 126.801		
J12 10	YLM		真武石安山岩	錐石		D	80	52.5	44	22.14	95.12	119.4 126.75		
J12 11	YLM		真武石	右斜面剥片		D	75	27	12.8	25.3	85.55	119.84 126.941		
J12 12	YLM		黒雲石	剥片	MUG-2	D	23	17	2.6	3.6	94.71	119.74 126.889		
J12 13	YLM		真武石	剥片		D	42	36	11.8	15.8	94.14	119.815 126.917		
J12 14	YLM		黑色礁岩安山岩	剥片		D	17	12.5	2.6	0.6	94.12	119.37 126.749		
J12 15	YLM		黑色礁岩安山岩	剥片		D	18.5	17	2.5	0.7	92.825	119.81 126.798		
J12 17	YLM		黒雲石	剥片	HST-1	D	19.5	12.5	3.3	0.7	91.051	117.044 126.87		
J12 18	YLM		黒雲石	チップ		D	28.5	15.5	4.5	1.1	92.236	116.634 126.857		
J12 19	YLM		黒雲石	チップ	MUG-7	D	26	11	3.5	1.4	94.751	116.598 126.701		
J12 20	YLM		黑色礁岩安山岩	剥片		D	36	34	13.8	12.3	92.689	116.854 126.708		
J12 21	YLM		真武石安山岩	剥片		D	49	40	8.1	9	92.298	116.611 126.834		
J13 1	YLM		鷹取石・羅西石	鷹取石・羅西石	HST-1	D	31.5	11	6	1.1	92.702	121.773 127.022		
J13 2	YLM		角閃石安山岩	剥片		D	29	16	7	3	96.058	121.686 127.025		
J13 3	YLM		黒雲石	剥片	MUG-2	D	30	19	16.4	6.5	92.629	122.856 127.035		
J13 4	YLM		黒雲石	チップ	MUG-4	D	(16)	(12)	(6)	(0.8)	91.278	121.181 126.989		
J13 5	YLM		玄武岩質安山岩	錐石		D	90.5	76.5	38.5	32.64	98.86	120.03 126.789		
J13 6	YLM		真武石	チップ	MUG-4	D	14	11	3.1	0.3	98.82	120.1 126.87		
J13 7	YLM		真武石	剥片		D	42	17	9.3	7.1	98.84	120.178 126.775		
J13 8	YLM		黑色礁岩安山岩	剥片		D	17	15	2.6	0.8	96.46	120.41 126.78		
J13 9	YLM		黑色礁岩安山岩	剥片		D	35	25	11.5	8.9	95.285	120.32 126.924		
J13 10	YLM		鷹取石安山岩	鷹取石		D	51	71	52.5	192.6	98.44	121.82 126.631		
J13 11	YLM		黑色礁岩安山岩	鷹取石		D	96.5	23	10	7.8	98.875	121.735 126.941		
J13 12	YLM		三塙石	チップ	MUG-6	D	15	7	2.4	0.1	95.26	121.29 126.912		
J13 13	YLM		真武石	柱状		D	50	28.5	37	73.2	98.69	121.66 126.849		
J13 14	YLM		真武石	剥片		D	16	8.7	5.6	94.91	120.185 126.789			
J13 15	YLM		黒雲石	チップ	MUG-2	D	17	8.5	3.9	0.5	94.42	120.38 126.724		
J13 16	YLM		黒雲石	チップ	MUG-4	D	8	11	2.7	0.1	94.85	120.255 126.735		
J13 17	YLM		透輝石	剥片	KAS-2	D	20	8	6.8	1.6	94.85	120.135 126.76		
J13 18	YLM		黒雲石	剥片	HST	D	30.5	12	3	0.8	94.355	120.75 126.671		
J13 19	YLM		黒雲石	剥片	KAS-4	D	31	27	13.5	9.7	92.228	122.21 126.711		
J13 20	YLM		透輝石	右横調	MUG-4	D	43	14	9.3	3.6	92.525	121.06 126.887		
J13 21	YLM		透輝石	チップ	HST-1	D	10.5	13	1.1	0.1	92.95	121.665 126.891		
J13 23	YLM		黒雲石	剥片	真武石	○	MUG-4	D	20	27	9.4	3.7	96.601	122.882 126.844
J13 24	YLM		黒雲石	剥片	HST-2	D	14	10	4	0.6	99.02	122.052 126.91		
J13 25	YLM		真武石	剥片		D	32	23	15.2	10.8	91.738	122.179 126.726		
J13 26	YLM		黑色礁岩安山岩	剥片		D	36	20	8.2	6.8	98.737	122.179 126.726		
J13 27	YLM		鷹取石安山岩	鷹取石		D	98	96.5	51	542.9	98.71	123.95 126.847		
J13 28	YLM		鷹取石安山岩	鷹取石		D	46	84.5	28	82	98.55	124.28 126.88		
J14 1	YLM		鷹取石	尖端部	WAD-5	D	36	14	510	2.4	91.172	135.286 126.114		
J14 2	YLM		黒雲石	剥片	HST-2	D	41	24	7.8	9.1	94.386	132.276 126.249		
J15 1	YLM		真武石	剥片		D	51	20	9.6	8.1	91.005	143.39 126.322		
J15 2	YLM		真武石	剥片		D	25	21	4.9	3	93.823	143.095 126.395		
J15 3	YLM		真武石	チップ	HST-1	D	19	11.5	3.6	0.7	92.591	141.309 126.322		
K4 1	YLM		チャート	GKS	CH-16	N	15	23	2	5.7	103.05	35.6 123.393		
K4 2	YLM		黒雲石	剥片	MUG-2	N	18.5	15	4.4	0.9	104.45	38.34 123.466		
K4 3	YLM		黒雲石	剥片	HST-2	N	21	16	2.6	1.1	104.76	34.95 123.486		
K4 4	YLM		黒雲石	チップ		N	14.1	6.4	2.6	0.2	105	39.4 123.72		
K4 5	YLM		黒雲石	チップ		N	10	9.3	1.1	0.1	108.12	38.91 123.791		
K4 6	YLM		黒雲石	剥片	HST-1	N	23	17	5.4	2	106.85	39.18 123.715		
K4 7	YLM		黒雲石	剥片	真武石	○	KAS-2	N	30.5	16	5.7	2.3 124.83		
K4 8	YLM		黒雲石	小形右斜快剥片	HST-2	N	28	11	3.5	0.9	105.3	37.8 123.507		
K5 1	YLM		黒雲石	チップ		N	11	7	3	0.3	108.91	40.41 123.945		
K5 2	YLM		黒雲石	剥片	2次 ○	HST-2	N	21	23	2.4	1.2	105.52	40.58 123.875	
K5 3	YLM		黒雲石	チップ		N	9	5.7	0.8	0	104.03	41.49 123.831		





行番	地図番号	層位	石材	岩相	剥離の種類	使用面	肉厚別	ブロック	最大横幅	最大長さ	底火厚	瓦数	Y (底面高さ) X (底面横幅) Z (高さ)		
L5	35	YLM	瓦岩	剥片	升長	○	CH-16	42	33	11.2	14.4		124.282		
L5	36	YLM	チャート	剥片	升長	○		21.5	21	3	1.6		124.171		
L5	37	YLM	滑板岩	剥片		N		20	13	6.4	1.2	112.19	48.15		
L5	38	YLM	黒雲母	剥片	HST-3	32		20	4.3	2	111.39		124.328		
L5	39	YLM	黒雲母	剥片	升長	○	HST-2	N	15	11	4.5	0.5	114.34	45.1	
L5	40	YLM	黒雲母	剥片	升長	○	HST-2	N	9.5	10	1.5	0.1	111.78	45.1	
L5	41	YLM	黒雲母	剥片		HST-2	N	31.5	16	8.3	2.6	112.28	45.89		
L5	42	YLM	黒雲母	剥片		2次	○	HST-2	N	24	21	5.6	2.6	112.7	44.62
L5	43	YLM	黒雲母	剥片		右板調	○	HST-2	N	31	22	12.7	4.9	119.26	43.85
L5	45	YLM	黒雲母	剥片		2次	○	HST-2		36	29	8.8	7.1	110.12	45.9
L5	46	YLM	黒雲母	剥片			HST		23	19	7.6	2.3	110.37	44.06	
L5	47	YLM	滑板岩	剥片		N		19	13	2.6	0.4	110.97	48.29		
L5	48	YLM	黒雲母	剥片	升長	○	HST-2	N	36	21	5.2	3.8	111.94	45.28	
L5	49	東側上部	黒雲母	チャップ					6	24	0.1	113.83	49.174		
L5	50	YLU(上部B)	瓦岩	有孔取器				37.5	20.5	7.5	6.1	113.54	44.66		
L5	51	YLU	黒雲母	チャップ			HST-2		11	10	1.6	0.1	110.17	47.38	
L5	53	YLU	瓦岩	右板		N						111.55	49.7		
L5	54	YLU	瓦岩	右板		N						111.32	49.5		
L6	1	YLM	黒雲母	升長	升長	○	HST-2	M	42.5	17	19.5	5.8	116.55	58.43	
L6	2	YLM	黒雲母	升長	升長	○	HST-2	M	10	7	1.3	0.1	114.86	57.78	
L6	3	YLM	黒雲母	升長	升長	○	HST-2	M	20	15	2.2	0.5	112.07	58.87	
L6	4	YLM	黒雲母	升長	升長	○	HST-2	M	22	14	4.1	0.8	116.28	52.7	
L6	5	YLM	黒雲母	升長	升長	○	HST-2	M	67.5	16	18.5	7.1	110.9	56.37	
L6	6	YLM	黒雲母	ナイフ		HST-2	M	32	14.5	7	1.9	113.8	54.43		
L6	7	YLM	黒雲母	チャップ		HST-2	M	11	12	2.7	0.3	111.99	55.21		
L6	8	YLM	黒雲母	ナイフ		HST-2	M	26.5	12	4.5	0.9	112.56	55.84		
L6	9	YLM	黒雲母	チャップ		HST-2	M	14	10	1.7	0.1	112.66	57.29		
L6	10	YLM	黒雲母	ナイフ		HST-2	M	25	13	2.6	0.7	115.85	56.35		
L6	11	YLM	黒雲母	ナイフ		HST-2	N	23	13	5	1	111.6	50.48		
L6	12	YLM	黒雲母	小切口刃状剥片		HST-2	N	31	21	7.6	2.8	112.05	50.48		
L6	13	YLM	黒雲母	ナイフ		HST-2	M	26	13	7	1.7	112.39	54.98		
L6	14	YLU	チャート	剥片	升長	○	CH-10	M	60.5	19	5.5	5.4	116.82	52.25	
L6	15	YLU	黒雲母	剥片	只破	○	HST-3	N	21.5	16	3.2	0.9	110.85	51.71	
L6	16	YLU	黒雲母	チャップ				5	3	0.7		110.36	51.47		
L6	17	YLU	黒雲母	ナイフ		HST-1	N	22	16	7	1.6	110.95	51.3		
L6	18	YLU	黒雲母	小切口刃状剥片		HST-2	N	28	10	2.5	0.6	110.59	50.41		
L6	19	YLU	黒雲母	升長	升長	○	HST-2	N	20	9	2.1	0.4	110.79	50.06	
L6	20	YLM	黒雲母	升長	升長	○	HST-2	N	42	19	15	8.6	115.93	53.59	
L6	21	YLM	チャート	剥片	升長	○	CH-16	N	16	3	0.8	110.97	50.86		
L6	22	YLM	黒雲母	剥片	升長	○	HST-2	N	24	11	5.3	1.2	111.3	50.65	
L6	23	YLM	黒雲母	剥片	升長	○	HST-2	N	34	18	4.7	1.5	113.63	51.32	
L6	24	YLM	黒雲母	剥片	升長	○	HST-2	M	30	18	8.8	3.1	114.57	52.88	
L6	25	YLM	黒雲母	剥片	升長	○	HST-2	M	13.5	7	1.9	0.1	115.98	52.95	
L6	26	YLM	黒雲母	剥片	升長	○	HST-2	M	42	19	15	8.6	115.93	52.601	
L6	27	YLM	真岩	剥片	升長	○	HST-2	M	51	40.5	12.7	23.9	116.59	53.49	
L6	28	YLM	チャート	剥片	升長	○	CH-16	M	30	22	6	3	116.77	51.93	
L6	29	YLM	黒雲母	右板調	○	HST-2	M	19.5	26.5	10.7	3.9	119.11	50.06		
L6	30	YLM	黒雲母	剥片	升長	○	HST-2	M	21	12	3.8	0.8	111.83	53.79	
L6	31	YLM	黒雲母	剥片	升長	○	HST-2	M	22	10	6.5	0.7	112.06	54.43	
L6	32	YLM	黒雲母	剥片	升長	○	HST-2	M	28.5	22	3.1	1.8	112.24	54.39	
L6	33	YLM	黒雲母	剥片	升長	○	HST-2	M	28	19	7.5	3.5	112.25	54.89	
L6	34	YLM	黒雲母	ナイフ		HST-2	M	22	9	4	0.6	112.41	56.45		
L6	35	YLM	黒雲母	右板調	升長	○	HST-2	M	12	10	2.4	0.3	112.67	56.73	
L6	37	YLM	黒雲母	剥片	升長	○	HST-2	M	39	18	10.9	5.9	113.8	59.67	
L6	40	YLM	黒雲母	剥片		HST-2	M	28	10	3.4	0.4	110.49	56.83		
L6	42	YLU	真岩	右板		H	65.2	40.1	329.2	117.73	53.36	124.725			
L6	1	YLM	真岩	ナイフ				36	11.5	6	2.2	111.38	76.89		
L6	2	YLU	真岩	チャップ		H	31.5	13.5	6.3	2.7	118.75	87.03			
L6	3	YLU	真岩	升長		H	14.5	9	4	0.6	118.43	85.81			
L6	4	YLU	真岩	升長		H	20.5	16	4.2	1.5	116.18	89.88			
L6	5	YLU	真岩	升長		H	63	32	9.4	16.7	111.49	87.09			
L6	6	YLU	真岩	剥片		H	22.5	15	4.2	1.7	110.89	84.85			
L6	7	YLU	真岩	剥片		H	28.5	16	5.8	2.6	117.38	89.39			
L6	8	YLM	真岩	右板調	升長	H	53.5	14	6.3	4.5	116.39	87.22			
L6	9	YLU	チャート	剥片	升長	○	CH-7	H	36	22	10.7	7.2	117.85	89.18	
L6	10	YLM	輝石安山岩	剥片	升長	H	91.5	66.5	26.5	218.1	115.82	88.6			
L10	1	YLU	真岩	剥片		H	25.5	10.6	5.5	1.3	119.59	91.93			
L10	6	YLU	真岩	剥片	升長	H	24	10	4.4	1.1	116.47	90.27			
L10	7	YLU	真岩	剥片	升長	H	19.5	15.5	9.1	2.9	118.03	93.42			
L10	8	YLU	真岩	剥片	升長	H	27	12	3.8	1.2	117.53	91.74			
L10	9	YLU	真岩	剥片	升長	H	49.5	28	8.2	1.3	118.04	93.48			
L10	10	YLM	黒雲母	ナイフ		HST-3	G	(21)	(20)	(4.5)	(1.3)	118.3	98.85		
L10	11	YLM	黒雲母	ナイフ		HST-2	G	(10.5)	(9)	(0.3)	(0.1)	118.49	98.45		
L10	12	YLM	真岩	剥片	升長	H	24	17	5	2.4	117.5	90.4			
L10	13	YLM	チャート	剥片	只破	CH-7	H	18	10.5	26	0.5	119.85	93.3		
L10	14	YLM	真岩	右板調	升長	H	63.5	26	18	11.2	117.6	90.15			
L10	15	YLM	真岩	剥片	升長	H	38	23	7.7	4.4	117.36	90.41			
L10	16	YLM	真岩	右板調	只破	H	28	7	2	118.53	95.15				
L10	17	YLM	真岩	剥片		H	20.5	18	10.3	3.3	117.02	94.07			
L10	18	YLM	真岩	剥片		H	24.5	14	6.3	2.6	119.57	92.82			
L10	19	YLM	真岩	右板調	剥片	H	86	40	18	33.4	118.87	96.64			
L10	20	YLM	真岩	剥片		H	36	25	8.3	8.3	118.41	93.68			
L10	21	YLM	真岩	剥片		H	22	14	4.4	1.4	118.36	93.43			
L10	22	YLM	真岩	剥片		H	38	19	6.6	4.7	119.19	95.5			







形態	遺伝子番号	層位	石材	基準	剖面の移動	使用痕	母岩跡	ブロック	最大大綫径	最大高径	底大厚	重さ	Y (地盤透水性) X (地盤透水性) H (標高)	
N11	24	YLM	チャット	剥片	井戸	CH-7	○	31	11	4.6	1.8	131.8	101.68	126.683
N11	25	YLM	直面	剥片	井戸	CH-7	○	34	19.5	4.9	3.2	135.6	103.93	126.704
N11	26	YLM	直面	剥片	井戸	CH-7	○	31	26	4.8	4.1	135.6	101.65	126.733
N11	27	YLL	直面	剥片	井戸	CH-7	○	38	21	7.4	6.3	130.24	101.23	126.629
N11	28	YLM	直面	剥片	井戸	CH-7	○	51	7.5	16	19.19	101.12	126.706	
N11	29	YLM	岩山型	剥片	井戸	CH-7	○	51	4.9	1.3	1.3	134.81	100.55	126.578
N11	34	YLM	チャット	剥片	井戸	CH-7	○	21.5	6.5	3.5	0.6	137.85	108.91	127.181
N11	25	YLM	黒耀石	剥片	井戸	HST-2	J	40	28	11.8	8.9	135.98	107.75	127.303
N11	35	YLM	黒耀石	剥片	井戸	HST-2	J	22.5	16	1.8	0.9	138.8	108.66	127.126
N11	38	YLM	直面	剥片	井戸	HST-2	J	31	11	4.1	1.3	134.15	107.94	127.283
N11	39	YLM	黒耀石	小形石灰岩剥片	井戸	HST-1	J	28	9	1.6	0.4	139.74	104.89	126.706
N11	40	YLM	黒耀石	剥片	井戸	HST-2	J	30	10	3.5	0.6	138.83	103.82	126.919
N11	41	YLM	黒耀石	剥片	井戸	HST-1	J	23	12.5	6.1	1.3	139.6	103.92	126.955
N11	42	YLM	黒耀石	剥片	井戸	HST-1	J	15	12.5	3.1	0.8	136.78	104.82	126.877
N12	1	YLM	チャット	直面	CH-11	○	14.5	9	3	0.4	135.85	110.95	127.171	
N12	2	YLM	黒耀石	剥片	井戸	HST-1	J	41.5	18.5	8	4.2	132.68	111.49	127.131
N12	3	YLM	墨色微細安山岩	剥片	井戸	HST-1	J	45	69	33.5	135.6	130.823	114.517	127.192
N12	4	YLM	直面	剥片	井戸	HST-1	J	83.5	36	18.5	49.2	136.46	110.51	127.113
N12	5	YLM上	夏目	剥片	井戸	HST-1	J	25.5	13	3.9	1.4	134.45	110.32	127.221
N14	1	YLM	唐石・斑石	剥片	井戸	○	89	70	36	293.8	131.5	122.42	127.853	
O6	1	YLM	黒耀石	剥片	井戸	HST	○	25	13	6.2	1.3	141.19	54.85	126.146
O6	2	YLM	黒耀石	剥片	井戸	HST-2	○	55	18.5	16.8	7.1	142.07	54.85	125.271
O6	3	YLM	直面	剥片	井戸	L	47	21.5	5.6	5.8	143.42	54.65	125.232	
O6	4	YLM	直面	剥片	井戸	L	50.5	38	13	19.7	142.57	53.1	126.284	
O6	5	YLM	黒耀石	直面	井戸	HAT-1	L	46	22.5	10.2	7.2	142.46	54.24	125.382
O6	6	YLM	直面	剥片	井戸	L	39	28	6.8	7.2	142.3	55.42	124.926	
O6	7	YLM	黒耀石	剥片	井戸	L	44	20.5	8.8	8.3	140.12	54.16	125.589	
O7	2	YLM	黒耀石	剥片	井戸	HST-2	○	30	7.5	2.8	0.7	144.31	63.84	125.611
O8	1	YLM	黒耀石	ナイフ	井戸	KAS-3	(1.8)	(5.3)	(5)	(0.5)	144.331	71.708	126.827	
O8	1	YLM	黒耀石	剥片	井戸	HST-2	K	26	27	4.8	2.6	145.83	89.52	126.956
O8	5	YLM上	直面	剥片	井戸	K	29.5	19	9.1	3.7	144.93	87.73	126.828	
O8	6	YLM	直面	剥片	井戸	K	23	15	8.2	1.9	145.26	84.62	126.599	
O8	7	YLM	直面	剥片	井戸	K	34	19	11.7	8.4	145.73	89.21	126.718	
O8	8	YLM	直面	剥片	井戸	K	31.5	14	6.6	4.3	145.72	89.24	126.742	
O8	9	YLM	直面	剥片	井戸	K	13	11	3.7	0.6	144.07	85.45	126.613	
O8	10	YLM	直面	剥片	井戸	K	24	9	4.2	1	146.82	89.96	126.804	
O8	11	YLM	直面	剥片	井戸	K	30.5	19	7.2	3.4	143.89	84.41	126.434	
O8	12	YLM	直面	剥片	井戸	K	25.5	14	4.4	1.6	146.34	88.89	126.734	
O9	13	YLM	直面	剥片	井戸	HST-2	K	19.5	10.5	4.4	0.7	143.98	82.16	127.714
O10	1	YLM上	黒耀石	ナイフ	井戸	HST-2	K	28.5	12.5	5	1.3	144.79	92.06	127.114
O10	2	YLM	直面	剥片	井戸	K	16.5	9.5	5	0.8	140.52	95.65	126.778	
O10	3	YLM	直面	右刃歯剥片	井戸	K	67	36	11.5	21.7	140.74	95.12	126.736	
O10	6	YLM	黒耀石	チャップ	井戸	HAT-1	K	14	8.5	3	0.2	140.16	93.49	126.763
O10	7	YLM	直面	剥片	井戸	K	17.5	8	2.5	0.6	146.71	90.24	126.837	
O10	8	YLM	黒耀石	ナイフ	井戸	HST-3	K	26.5	19	3	0.9	142.01	90.52	126.895
O10	9	YLM	貞菅	剥片	井戸	K	32	22.8	6.8	4.2	141.01	94.99	126.762	
O10	12	YLM	貞菅	剥片	井戸	K	60	52.5	52	193.1	140.34	92.61	126.737	
O10	13	YLM	貞菅	剥片	井戸	K	29	21.5	8.8	3.5	146.84	90.29	126.759	
O10	14	YLM	貞菅	剥片	井戸	K	33	16	5.3	3.9	146.01	91.71	126.646	
O10	16	YLM	貞菅	ツバサ	井戸	K	51	27	12	18.8	146.15	90.15	126.602	
O10	18	YLM	貞菅	剥片	井戸	K	40	29	12.5	10.3	146.47	90.76	126.711	
O10	17	YLM	貞菅	剥片	井戸	K	51.5	49	6.5	17	146.49	91.51	126.733	
O10	18	YLM	貞菅	剥片	井戸	K	31.5	27.5	10	5.8	149.92	91.09	126.697	
O10	19	YLM	貞菅	剥片	井戸	K	54	37	23.1	47.7	146.48	90.12	126.691	
O10	20	YLM	貞菅	剥片	井戸	K	73.5	53.5	24.8	95.4	141.31	93.68	126.731	
O10	21	YLL	貞菅	側面石器	井戸	K	36	27	9	9.2	146.03	90.2	126.503	
O10	22	YLM	黑色微細安山岩	剥片	井戸	K	37	40	4	7.9	141.73	96.69	126.663	
O10	23	YLM	貞菅	剥片	井戸	K	40	28.5	7.8	6.8	141.19	95.72	126.711	
O10	24	YLM	貞菅	剥片	井戸	K	21	24	6	3.3	146.54	90.28	126.719	
O11	1	YLM上	黒耀石	剥片	井戸	HAT-1	J	19	13.5	5	1	140.07	106.19	127.206
O11	2	YLM	黒耀石	剥片	井戸	HST-4	J	28	19	3.5	1.1	140.68	108.79	127.206
O11	3	YLM上	黒耀石	剥片	井戸	HST-1	J	15	10	1.8	0.3	141.18	103	127.022
O11	4	YLM	黒耀石	剥片	井戸	HST-2	J	24	18	5.9	5.2	140.42	101.77	126.874
O11	5	YLM	黒耀石	剥片	井戸	HST-1	J	23.5	25	4.1	1.6	141.08	104.26	126.939
O11	6	YLM	黒耀石	剥片	井戸	HST-2	J	24	12	6.9	1.7	141.12	106.68	127.018
O11	7	YLM	黒耀石	剥片	井戸	HST-2	J	35	11	4.1	1.4	141.42	106.98	127.002

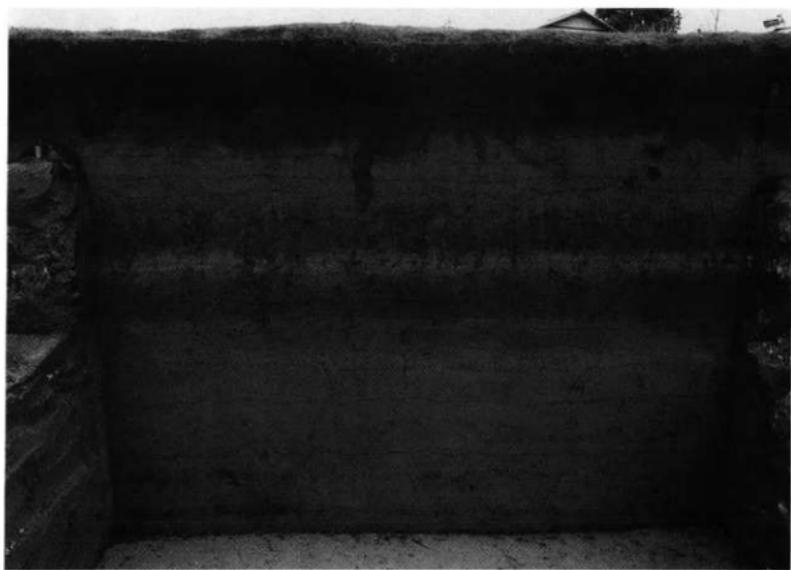


番号	造岩名	部位	石材	岩種	産地	ブロック	最大粒径	最大直径	最大厚	重さ	Y(地元充填) X(地元充填) H(地元)	
H5	7	BBE	安山岩	剥片		43	46	14.4	33.5	79.48	43.27	122.24
I5	15	BBE	黑色板状安山岩	剥片		38	15	5	2.8	80.29	44.43	122.156
I6	2	BBE	黑色板状安山岩	剥片						84.36	54.95	122.51
K4	10	BBE	頁岩			35.5	28.5	17.7	21.6	102.26	31.79	122.392
L6	41	BBE	黑耀石	剥片	HST	15.5	9	3.4	0.4	112.37	57.5	123.86
M12	10	BBE	黑色板状安山岩	剥片		46.5	31	4.5	7.3	127.5	117.87	126.16
N6	13	BBE	黑色板状安山岩	剥片	A	54	40	11.6	22.2	135.19	59.34	124.427
N6	14	BBE	頁状安山岩	剥片	A	131	154	67	1.41	135.16	58.68	124.378
N6	15	BBE	黑色板状安山岩	剥片	A	52	43	11.1	26.7	136.16	59	124.448
N6	17	BBE	頁岩	剥片	A	25	14	6.1	2.1	136.96	57.37	124.383
N6	18	BBE	黑色板状安山岩	剥片	A	26	21	3.1	1.7	137.3	57.67	124.463

番号	造岩名	部位	石材	岩種	産地	ブロック	最大粒径	最大直径	最大厚	重さ	Y(地元充填) X(地元充填) H(地元)	
I6	2	BBE	黑色板状安山岩	剥片		98	69	14.4	114.8	84.36	54.95	122.51
M6	12	BBE	頁岩	剥片	A	42.5	30.5	9.4	8.5	129.92	56.21	123.904
M6	13	BBE	頁岩	剥片	A					129.93	56.16	123.892
M6	14	BBE	頁岩	剥片	A	36	36	9.4	9.8	129.79	56.15	123.878
M6	15	BBE	頁岩	剥片	A	22	18	5.2	1.6	129.55	56.34	123.931
M6	16	BBE	頁岩	剥片	A	23	18	5	1.5	129.49	56.09	123.881
M6	17	BBE	頁岩	剥片	A	43	35	7.4	11.5	129.24	94.3	123.822
M6	18	BBE	頁岩	剥片	A	33	23	9.3	5.1	129.17	56.52	123.824
M6	19	BBE	鈍石英	剥片	A	32	41	9	9.8	129.04	56.49	123.859
M6	20	BBE	頁岩	剥片	A	34.5	22	9	6.1	128.96	56.32	123.86
M6	21	BBE	鈍石英	剥片	A	58	27	21.5	20.4	128.7	55.87	123.921
M6	22	BBE	頁岩	剥片	A	58	30	11	19.1	129.67	55.9	123.912
M6	23	BBE	鈍石英の岩	鈍石	A					129.58	55.58	123.883
M6	24	BBE	頁岩	剥片	A	12	10	3	0.3	129.74	55.54	123.821
M6	25	BBE	鈍石英	剥片	A	14.5	13	7.4	1.8	129.56	55.39	123.843
M6	26	BBE	鈍石英	剥片	A	23.5	26	11	3.7	129.28	55.34	123.791
M6	27	BBE	鈍石英	剥片	A	12.5	9.5	5	0.3	129.09	55.55	123.892
M6	28	BBE	頁岩	剥片	A	13	9.5	2.8	0.4	129.17	55.54	123.914
M6	29	BBE	鈍石英	剥片	A	13	20	4.2	1	129.02	55.7	123.914
M6	30	BBE	鈍石英	剥片	A	14	11.8	4.8	0.7	129.19	55.52	123.821
M6	31	BBE	鈍石英	石炭灰岩片	A	56	24.5	11	4.1	128.75	55.44	123.917
M6	32	BBE	頁岩	剥片	A	34	30	18.5	10.4	128.94	56.32	123.912
N6	9	BBE	黑色板状安山岩	剥片	A	38	22.5	10.9	8	130.06	55.98	123.866
N6	10	BBE	黑色板状安山岩	剥片	A	30	25	6.1	4.9	130.34	55.82	123.846
N6	11	BBE	鈍石英	剥片	A	15.5	11.5	3	0.6	130.04	55.12	123.846

番号	造岩名	部位	石材	岩種	産地	ブロック	最大粒径	最大直径	最大厚	重さ	Y(地元充填) X(地元充填) H(地元)	
G13	2	SCB b1	黑耀石		KAS	22	13	8	1.3	62.25	123.74	124.767
G13	3	SCB b1	黑耀石		KAS	16	15	5	0.8	68.13	127.73	125.245
H13	3	SCB b1	黑耀石			45	34	6.6	10	72.91	128.61	124.947
H13	4	SCB b1	黑耀石		KAS	13	5.9	0.6	71.02	127.13	124.924	
H13	5	SCB b1	黑耀石		KAS	27	24	3.3	1.8	71.19	129.29	124.903
H13	6	SCB b1	黑耀石		KAS	31	35	9.3	10.1	71.13	128.5	125.078
H14	2	SCB b1	黑耀石		KAS	27	26	9.5	3.8	70.49	130.56	125.037
H14	3	SCB b1	黑耀石		KAS	14	7	3.3	0.3	71.89	130.69	125.249
H14	4	SCB b1	黑耀石		KAS	34	15.5	4.2	1.7	71.57	131.47	125.273
H14	5	SCB b1	黑耀石		KAS	14	7	2.2	0.2	70.65	131.11	125.101
H14	6	SCB b1	黑耀石		KAS	20	14	2.7	0.6	70.79	130.76	125.04
H14	7	SCB b1	黑耀石		KAS	16.5	10	5.4	0.7	73.52	131.52	125.066
H14	8	SCB b1	黑耀石	ナイフ	KAS	18	17.5	3.7	1.1	71.42	130.73	125.295
H15	2	SCB b1	黑耀石		KAS	31	12	9.2	1.4	71.484	148.498	125.612
H	2	SCB b1	黑耀石		ONB	38.5	20	8	6.6	85.06	38.4	121.759
H	3	SCB b1	黑耀石		ONB	20	14.5	9.5	1	84.35	39.24	121.586
H10	1	SCB b1	安山岩			76	30	16.5	29.8	80.9	95	129.031
H15	1	SCB b1	頁岩			48	30	9.3	12.5	80.77	142.88	125.457
L5	52	SCB b1	頁岩			22	17	6.1	2.2	119.96	43.02	122.739
M4	552	SCB b1	黑耀石		ONB	28	11.5	7.6	1.8	129.86	33.23	122.333
N8	12	SCB b1	頁岩			40	34	13.9	17.9	130.8	56.06	123.765
N12	6	SCB b1	黑耀石		ONB	22	13	5.8	1.1	131.81	112.89	125.542
N12	7	SCB b1	黑耀石		ONB	32	17.5	5.1	2.6	131.79	112.37	125.537

# 写 真 図 版

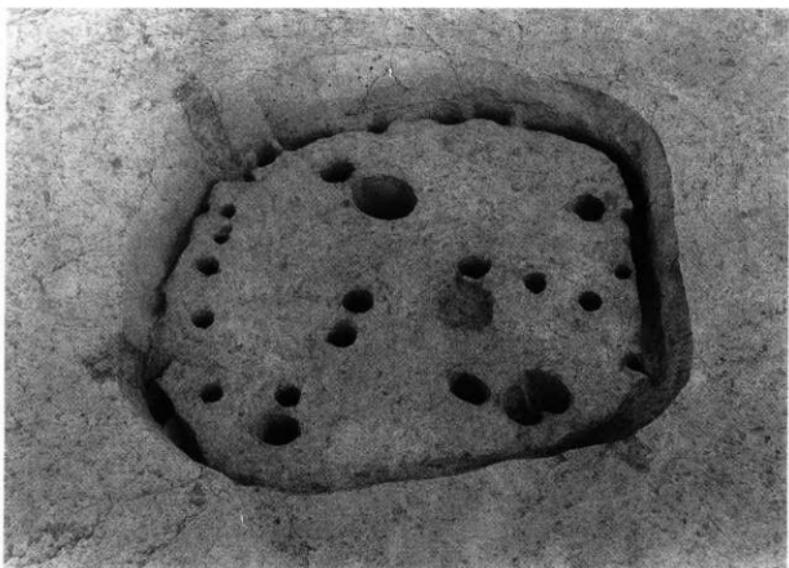


(1) 基本土層



(2) 1区東側完掘状況

図版 2



(1) 1号住居跡



(2) 1号住居跡セクション

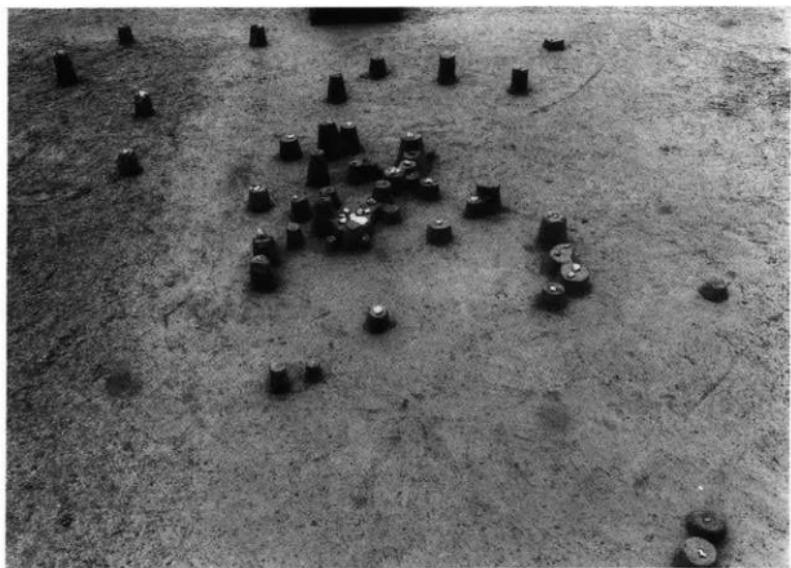


(1)YL層Pブロック

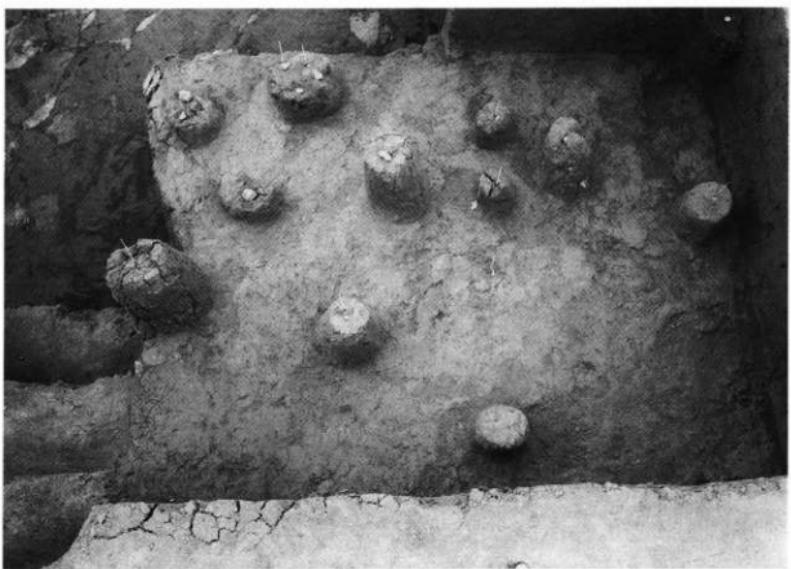


(2)YL層Eブロック

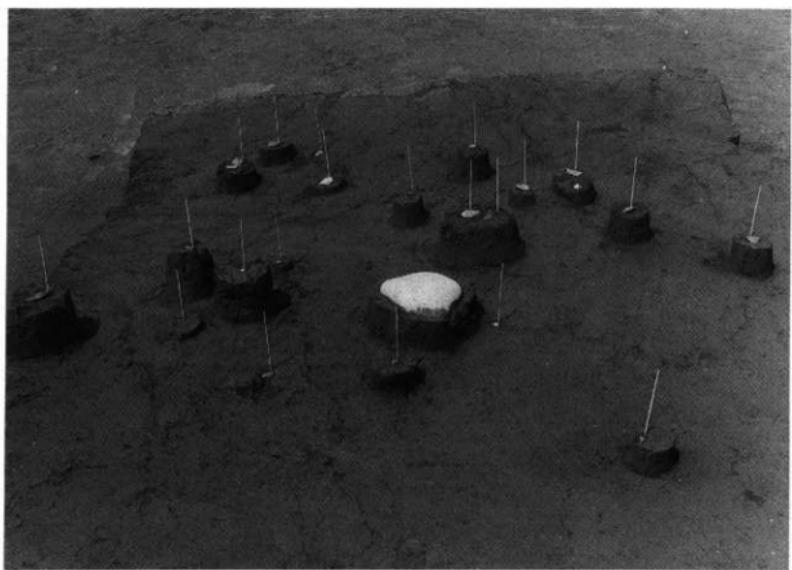
図版 4



(1) Y L層D ブロック



(2) B B I層B ブロック



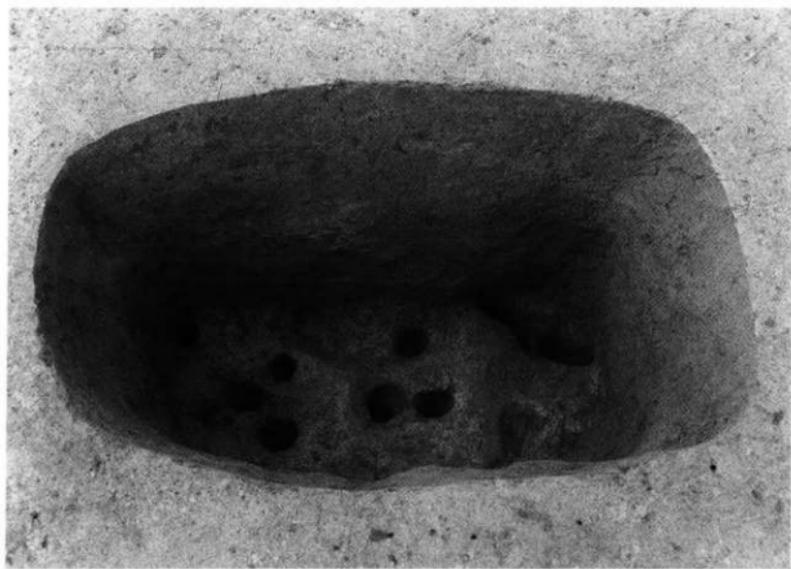
(1) BB III層石器ブロック



(2) Y L層 1号土坑土層断面



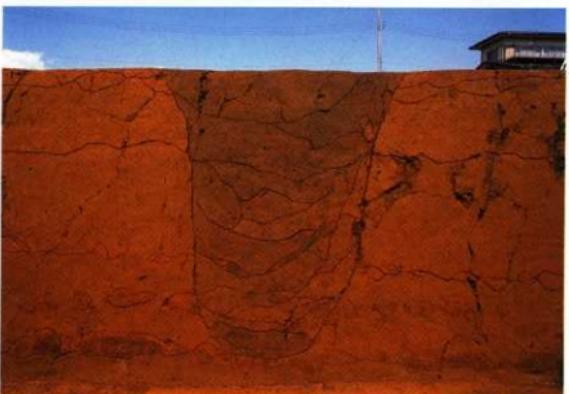
(1)YL層2号土坑



(2)YL層4号土坑



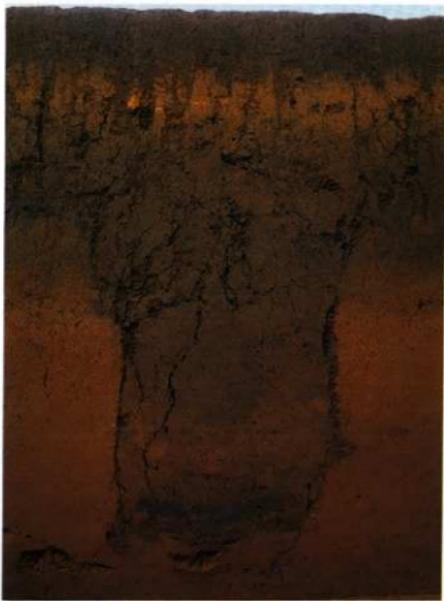
(1) BB III層 2号土坑  
検出状況



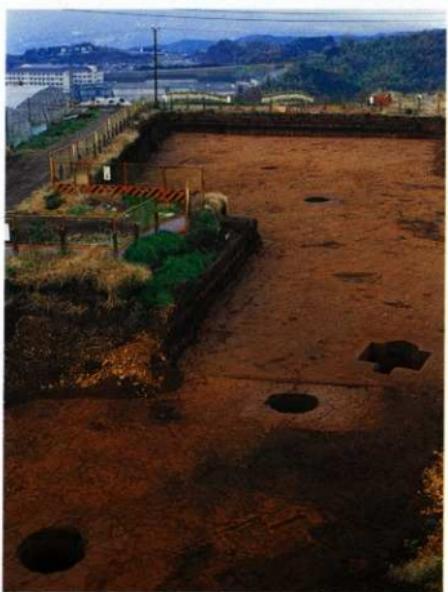
(2) BB III層 2号土坑  
土層断面



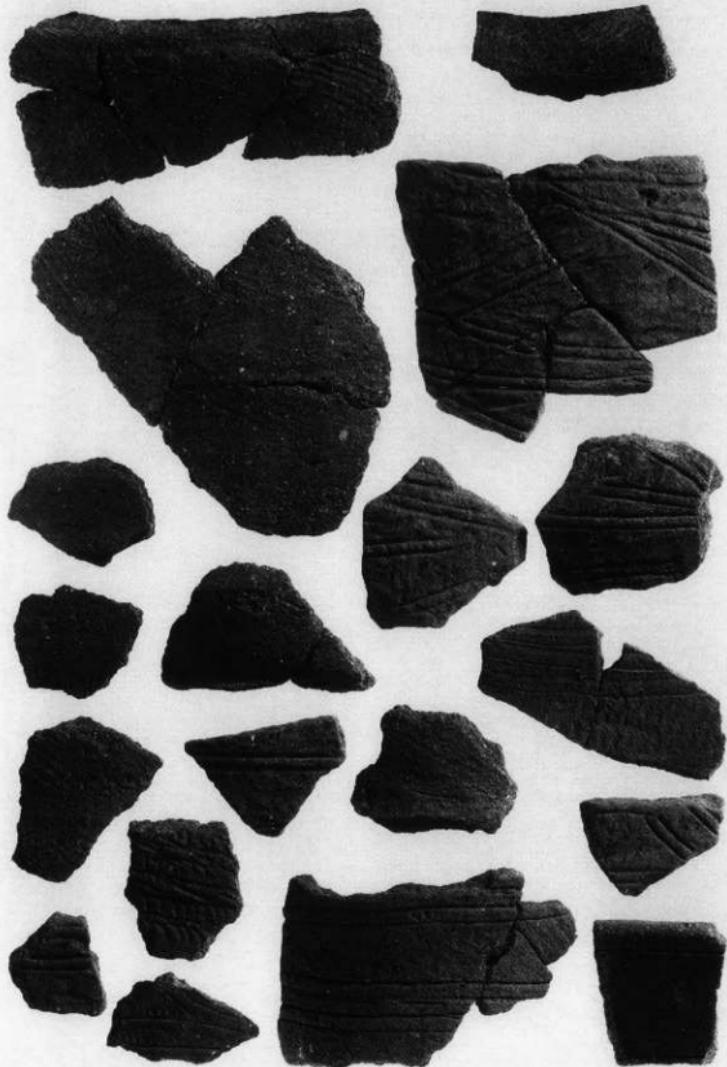
(3) BB III層 4号土坑  
完掘状況



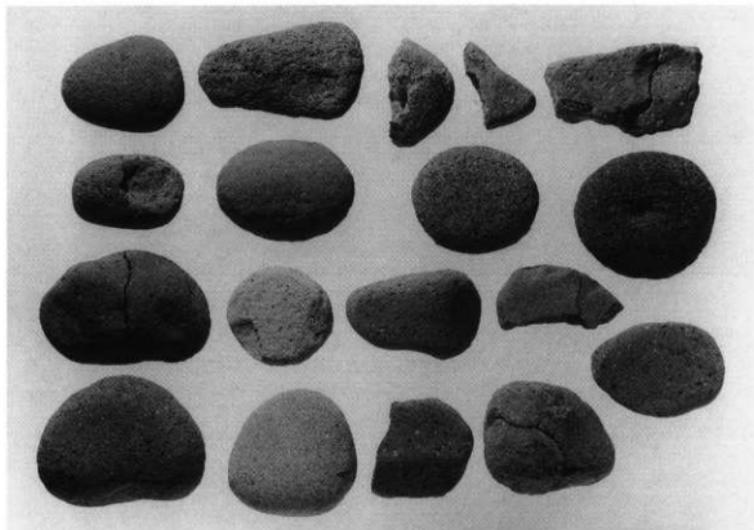
(1) B-B III層 1号土坑土層断面



(2) B-B III層土坑遠景



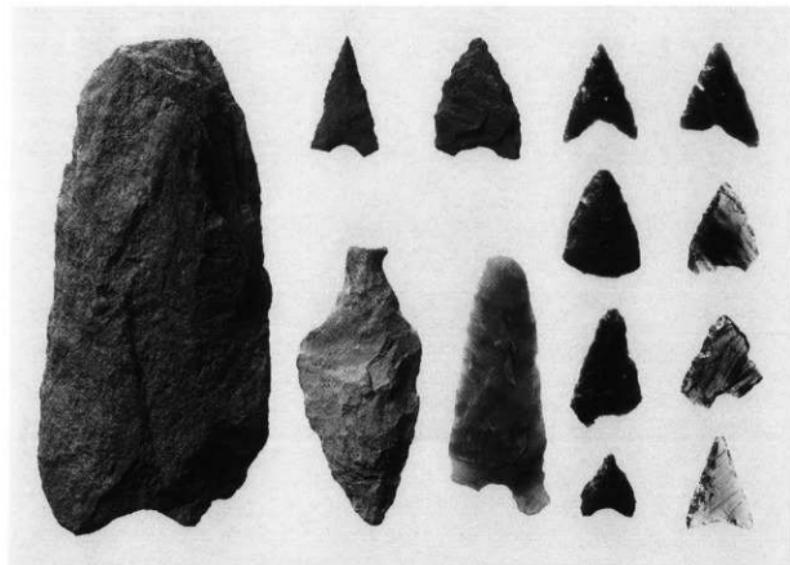
(1)縄文式土器



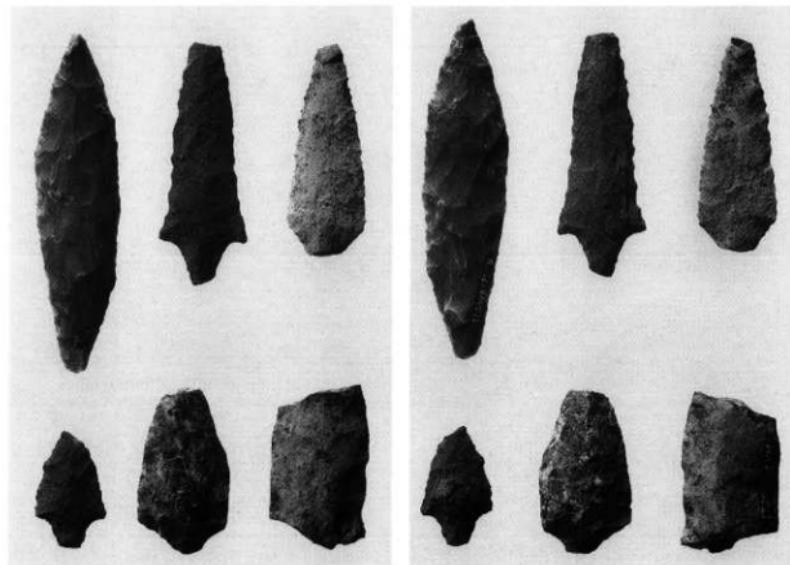
(1) 蔵石・磨石・凹石



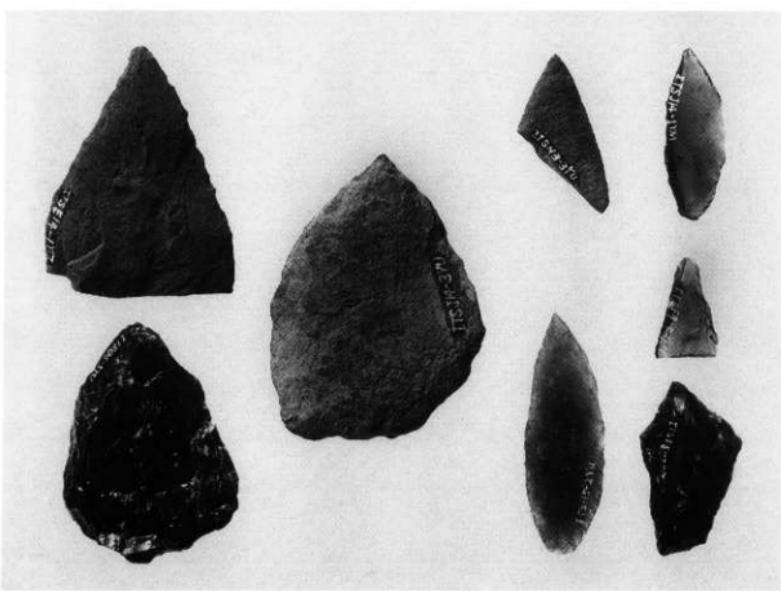
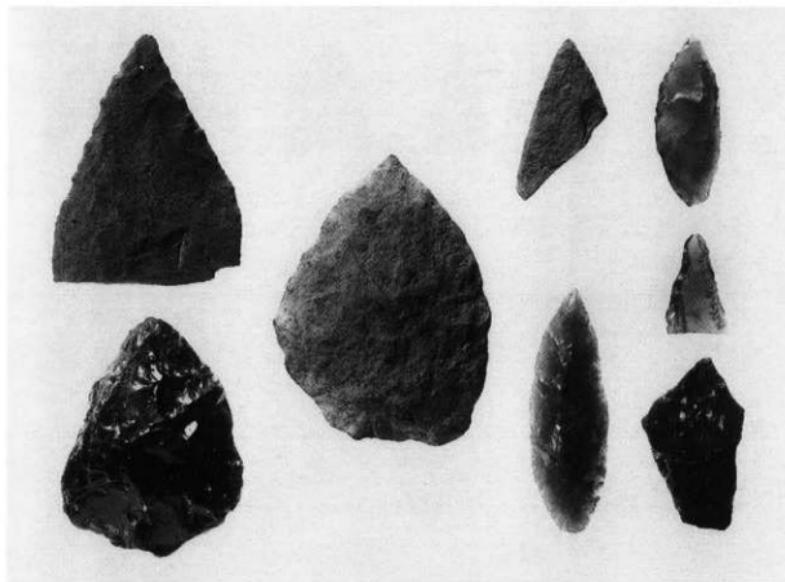
(2) 石皿



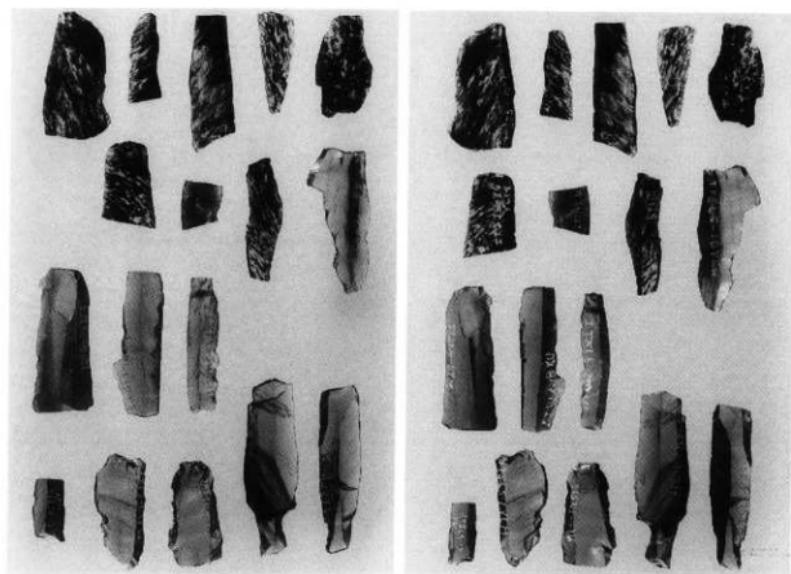
(1)縄文時代の石器



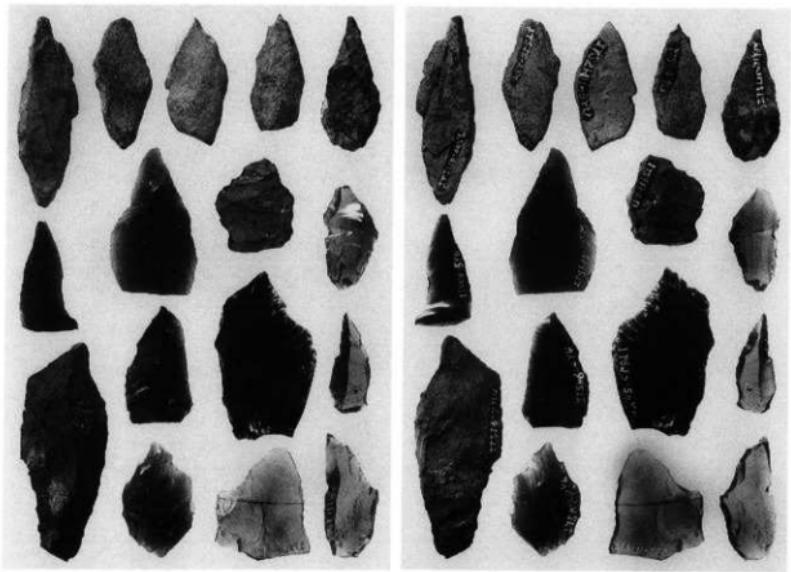
(2)槍・有舌尖頭器



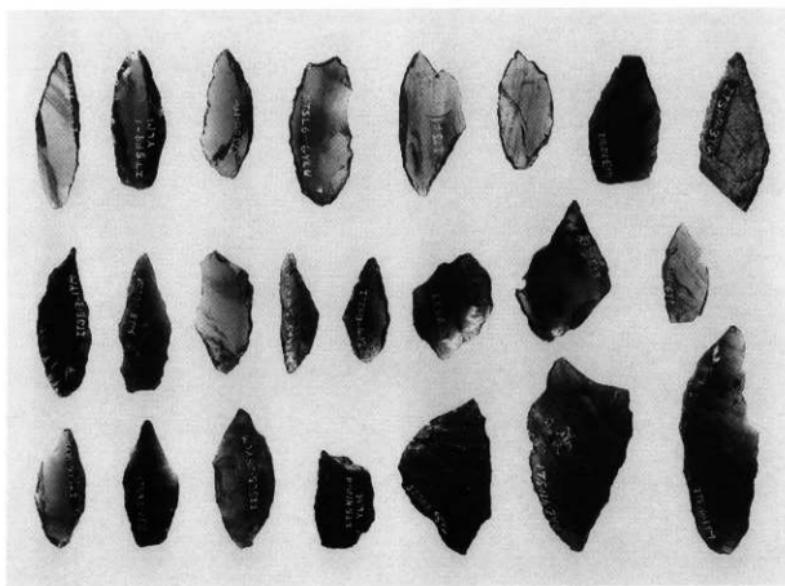
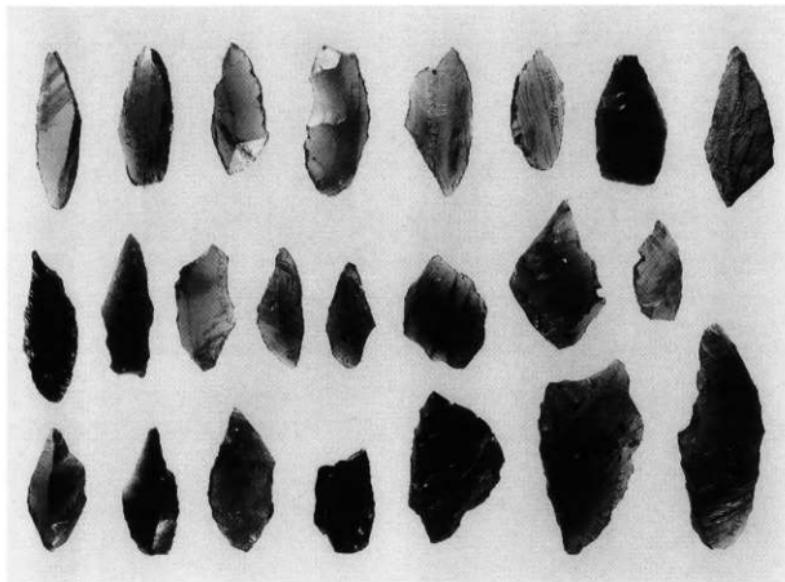
(1) Y L層石槍



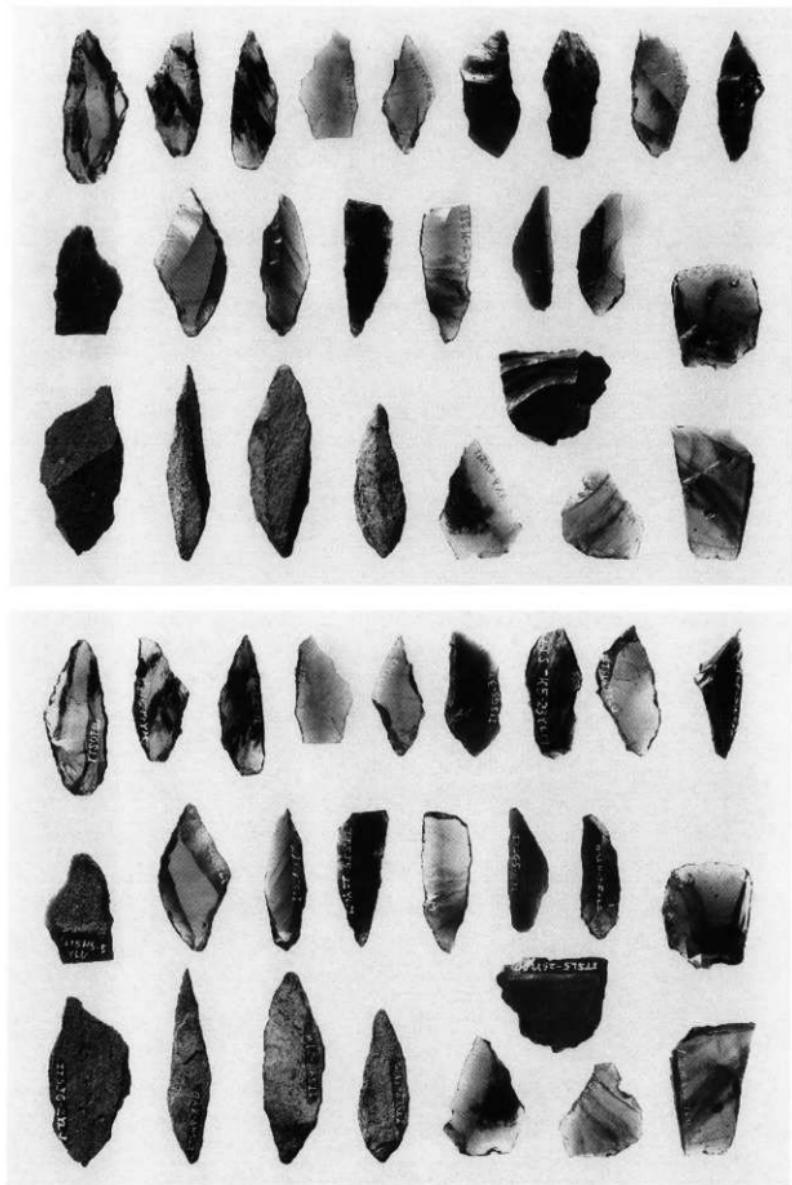
(1)YL層小型石刃状剥片



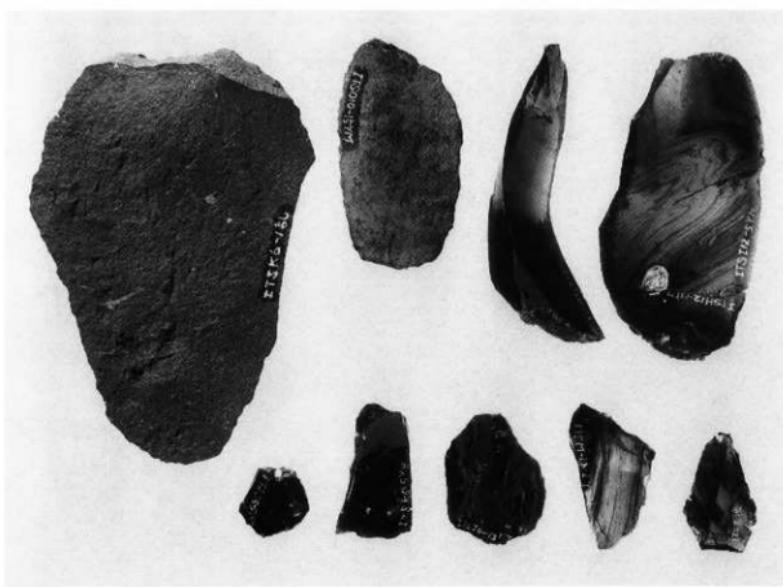
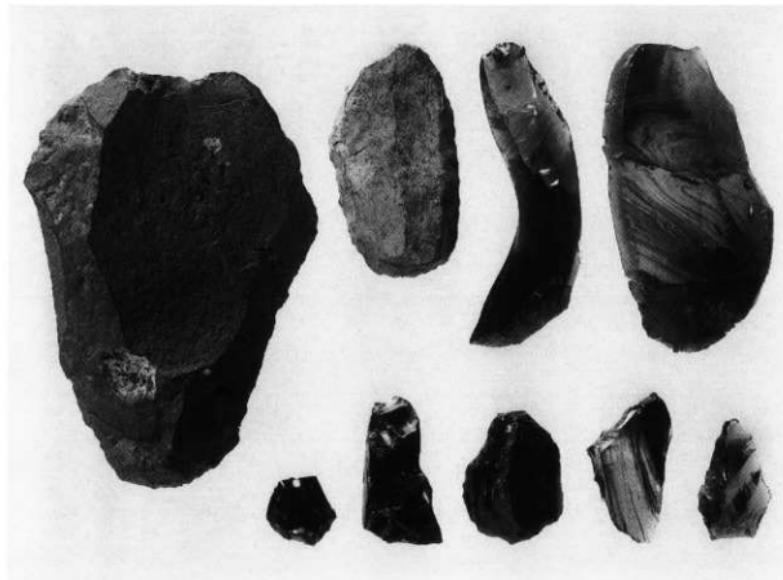
(2)YL層ナイフ形石器 1



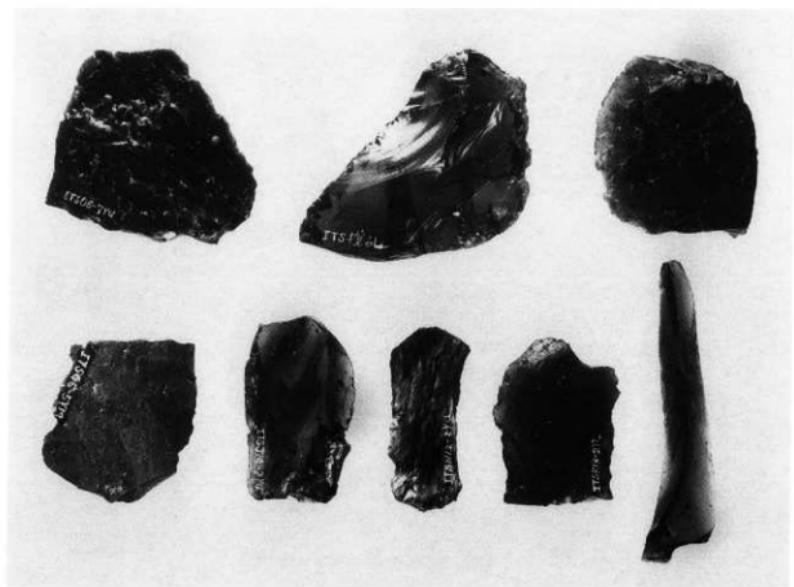
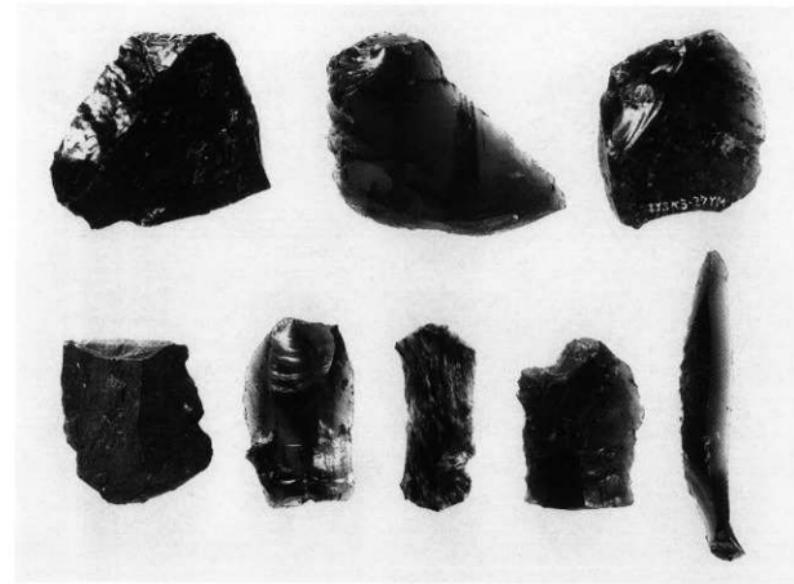
(1) Y L層ナイフ形石器 2



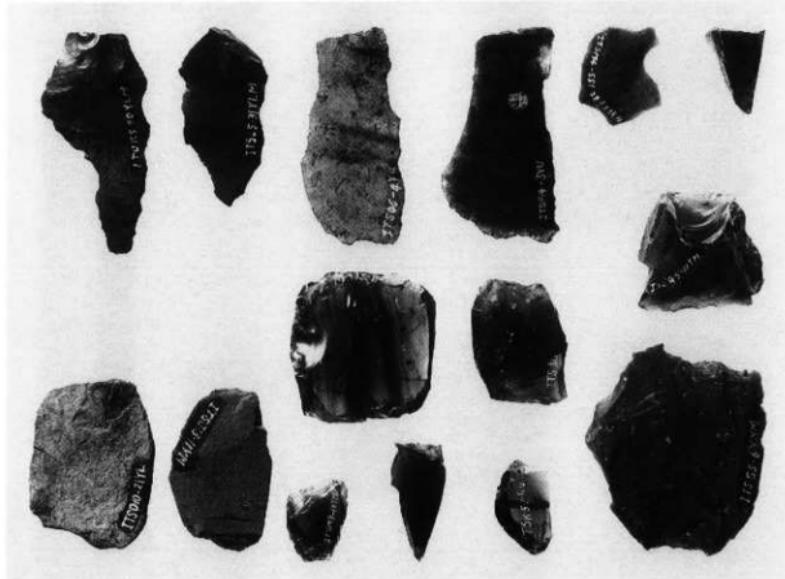
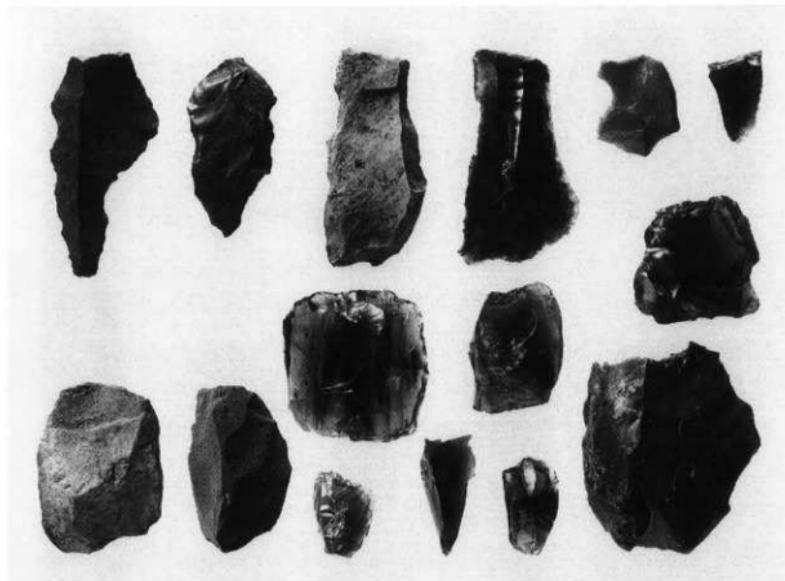
(1) Y L層ナイフ形石器 3



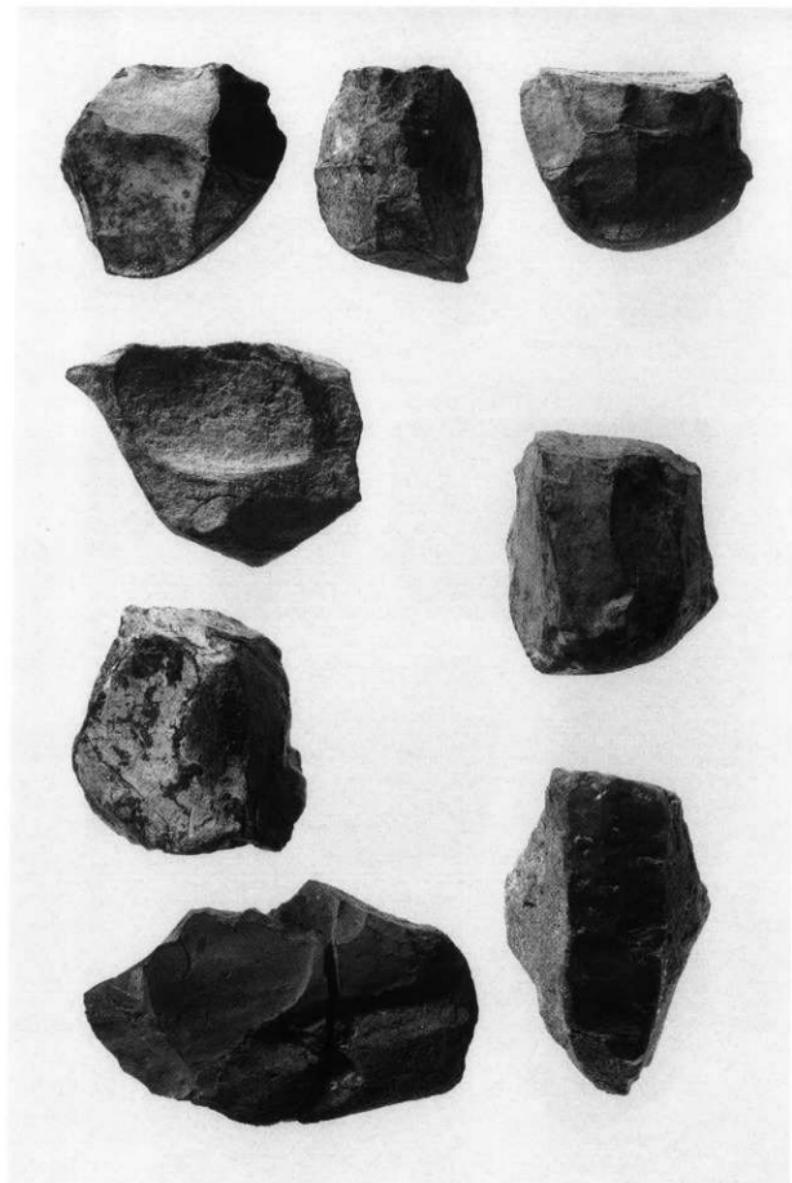
(1)YL層撮器・彫器



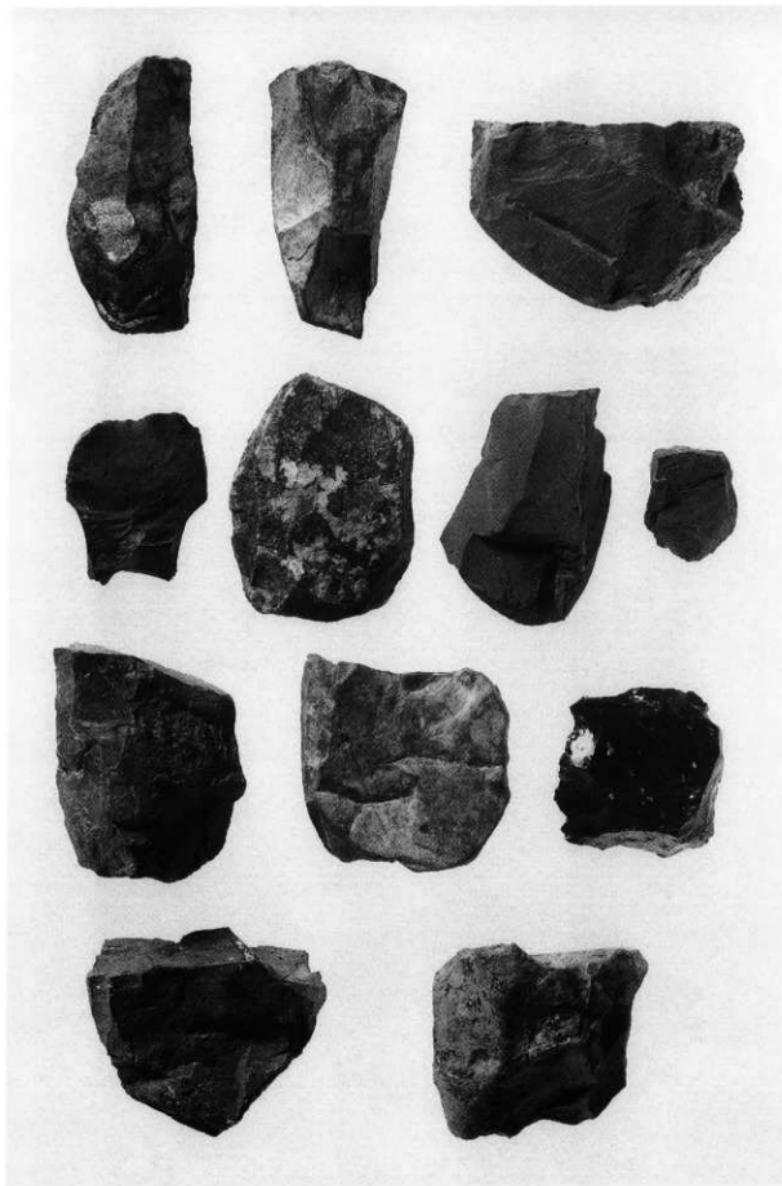
(1) Y L 層刮削器



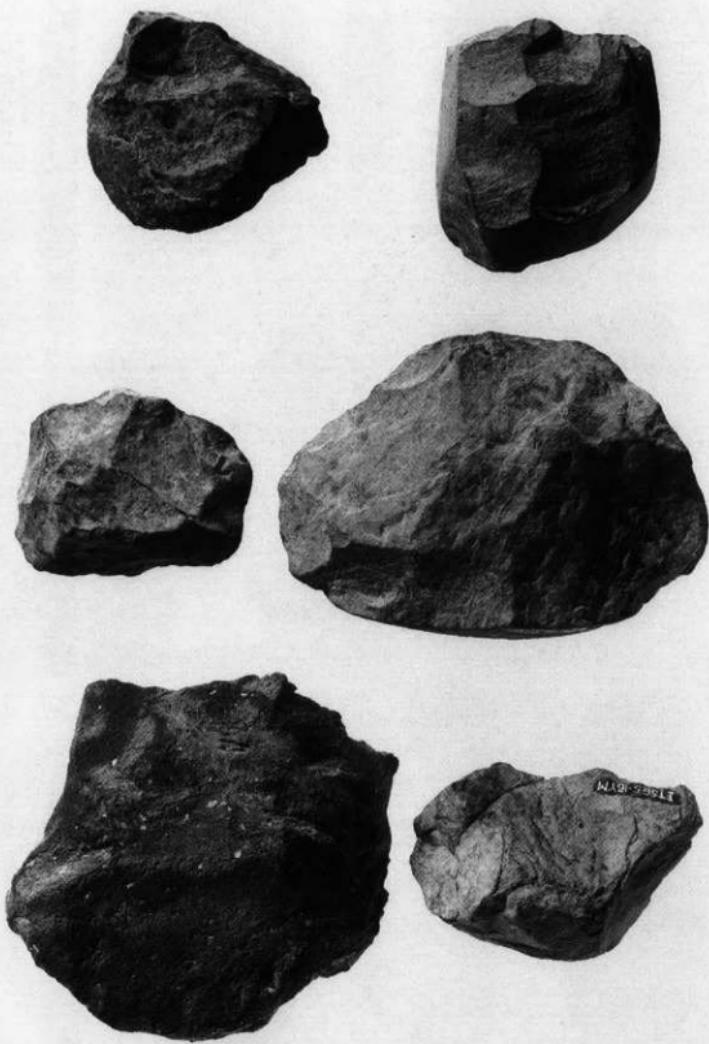
(1) Y L 層挿入削器・楔形石器



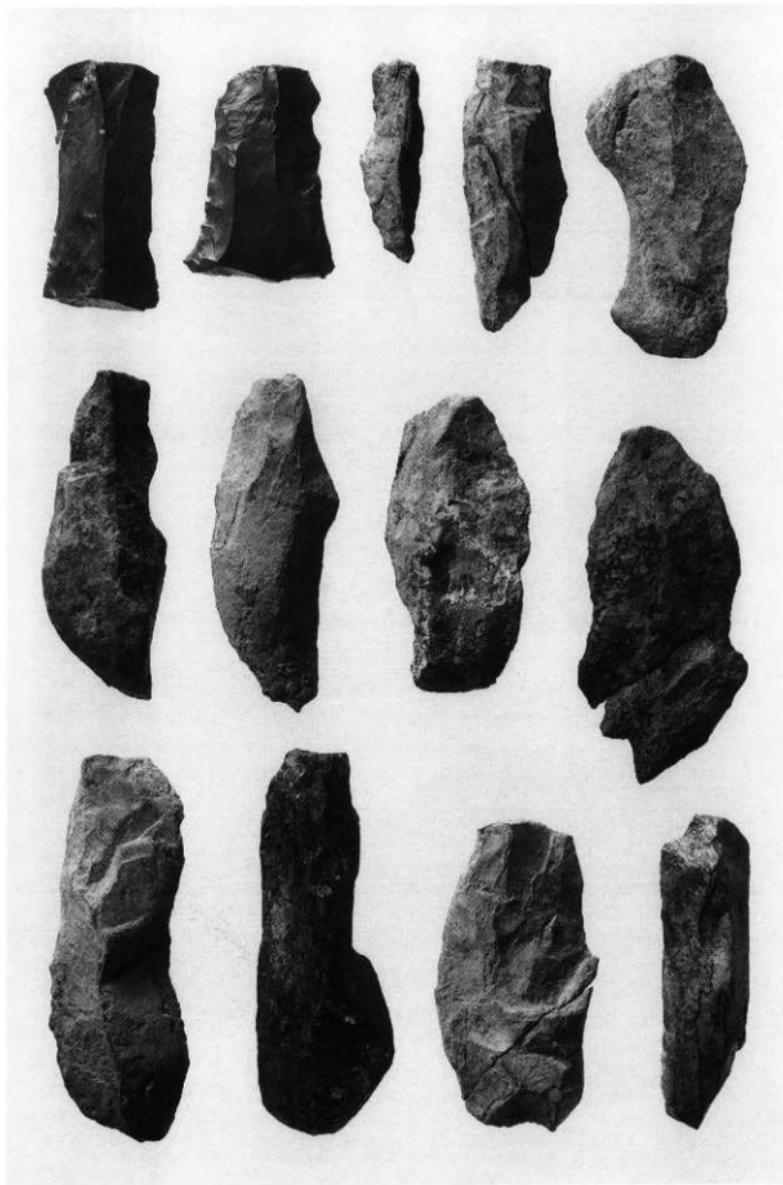
(1)YL層石核1



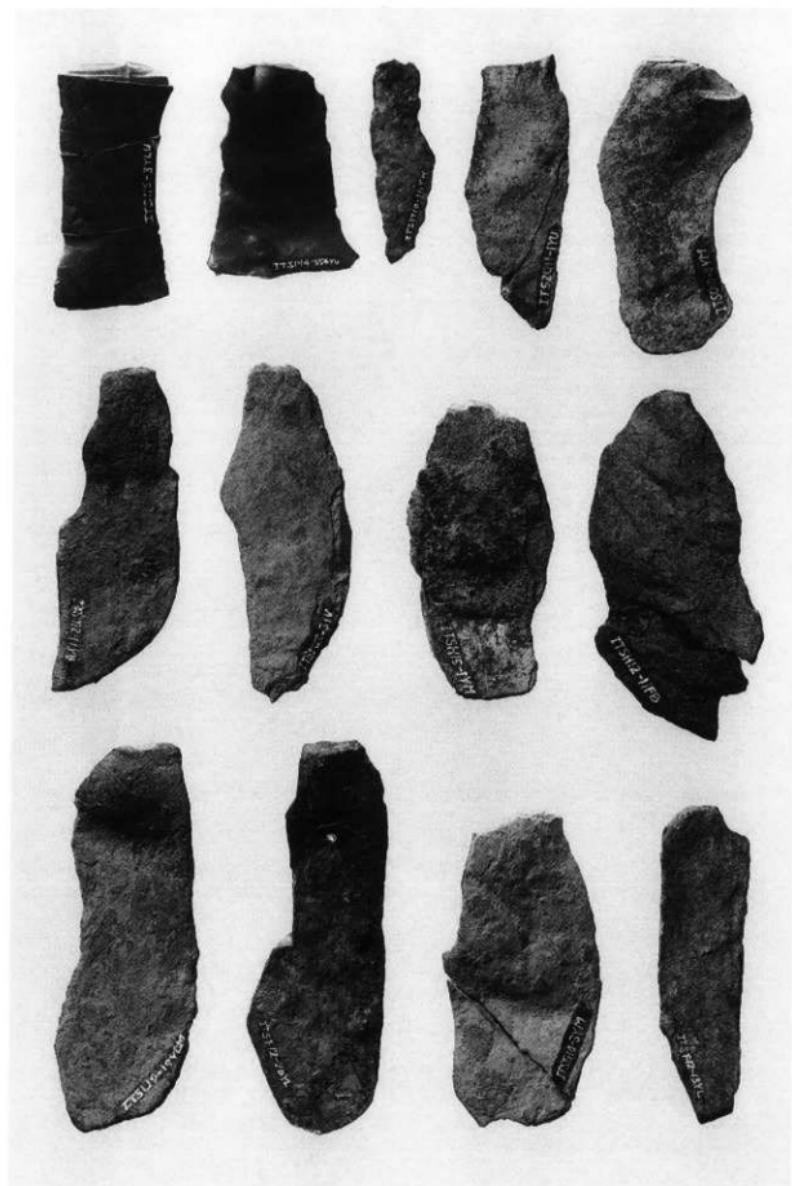
(1)YL層石核2



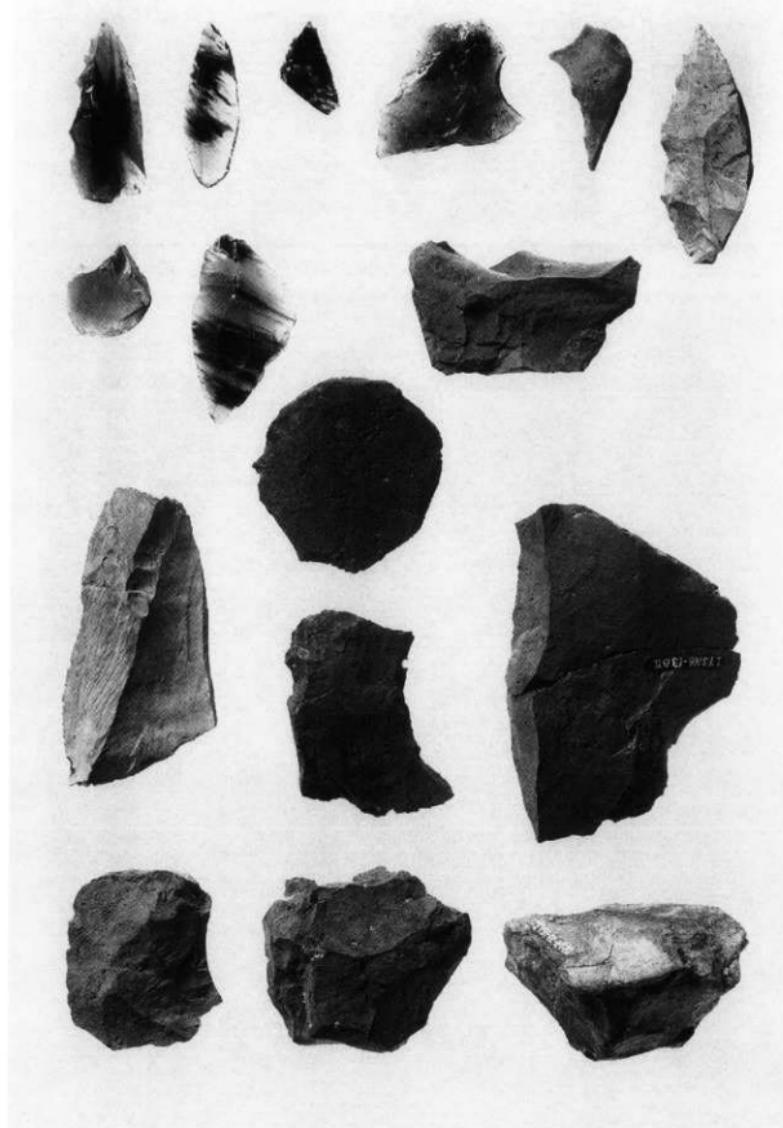
(1) Y L 層石核 3



(1) Y L 層石刃状剥片（オモテ）



(1) Y L層石刃状剥片 (ウラ)



(1) BB0・BBI・NL・BBIIの石器（オモテ）



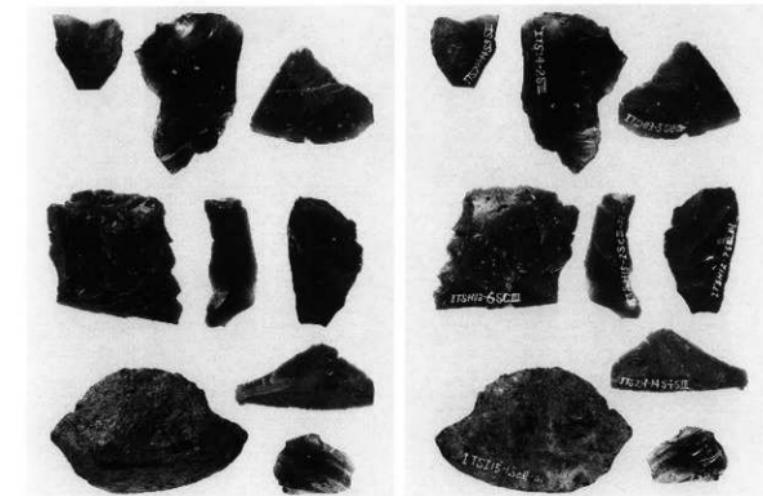
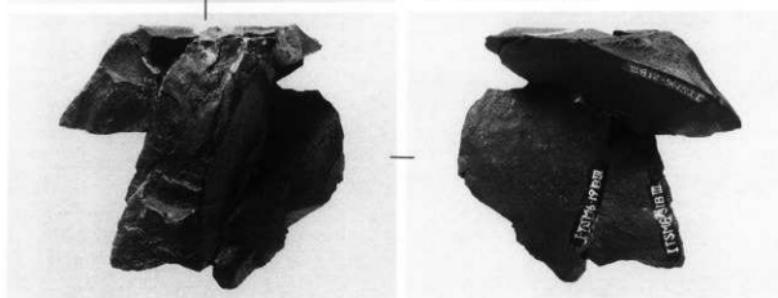
(1) BB0・BB1・NL・BBIIの石器（ウラ）



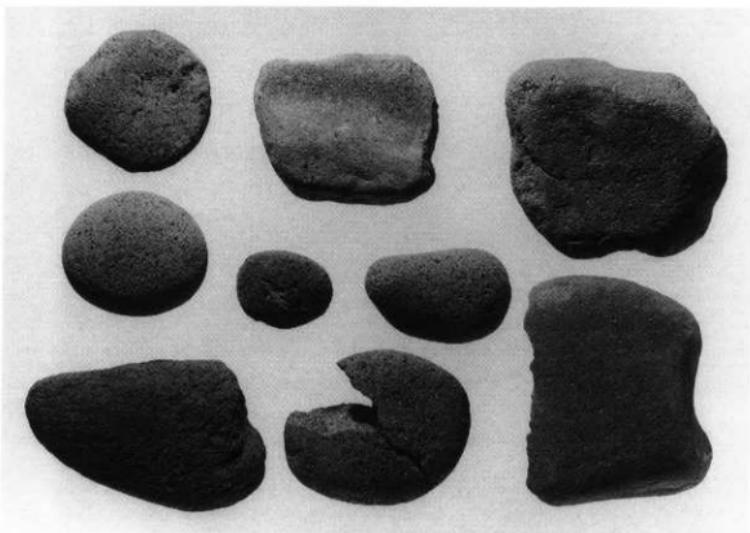
▲ (1) Y L 層接合資料



▼ (2) B B III 層接合資料



(3) S C III 層の石器



(1)BB I・NL・BB II敲石・磨石



(1) 作業風景

### 発掘調査参加者

遠藤 誠治	上杉 俊夫	江田 潤	大川 静男	大嶽 憲一	落合善太郎
笠間 林	加藤 一郎	久保田親則	栗原萬次郎	桜井 富夫	笹原 芳郎
島村 栄一	下山 貢	鈴木 秋夫	鈴木 祥司	鈴木 孝雄	鈴木 武
鈴木 八郎	鈴木富士夫	高原 恒男	高梨 孝	武士 晴信	上屋 俊一
土屋 正	土屋 義春	富田 昌之	西島 茂	広瀬 孝	福島 孝
前田 義和	町田彦三郎	松岡 武男	湊 嘉秀	宮沢 範雄	村上 政治
森嶋富十夫	山口 尚	山本 邦夫	渡辺 秋夫	渡辺 勝藤	渡辺 美行
青木いと子	秋本 慧子	阿部 晴美	石井 明良	石井 美香	バベルデ・ホセ
石渡 陽子	榎本喜代美	遠藤 消子	小川 たき	小川とし江	落合 徳江
落合まつ子	落合 ミツ	小野 ナツ	鬼沢 幸江	木村美恵子	後藤 俊江
佐々木美枝子	佐野美佐子	佐野ヤヲエ	柴田美佐子	鈴木富士江	千賀いく子
高橋 敏子	田口あや子	椿 孝江	中村 秋江	二村 初子	埜瀬うた子
姫妙 洋子	東 しづ子	深沢 光子	福島とき子	福地 幸子	瀬上 恵子
舟山八代江	木間まり子	牧野 富子	松下千鶴子	皆口口出子	山田あい子
山本 伴子	吉川 和枝	米山 芳枝	渡辺 カン	渡辺 智子	

### 整理作業参加者

池田千賀子	菅野みと子	白井なみ子	鈴木 里江	鈴木 輝美	鈴木 洋子
高田みゆき	高橋 元子	高橋 裕子	田村みどり	水上 緑子	村川 裕子
山下 洋子					

# 報告書抄録

ふりがな	しも はら い せき I						
書名	下原遺跡 I						
調書名	平成5・6年度東駿河湾環状道路工事に伴う埋蔵文化財調査報告書						
シリーズ名	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告						
シリーズ番号	第64集						
編著者名	小野千賀子						
編集機関	静岡県埋蔵文化財調査研究所						
所在地	〒424 静岡県清水市江尻台町18-5 TEL.0543-67-1171						
発行年月日	西暦1995年 3月31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯/東経	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
		市町村	遺跡番号				
しもはら 下原	みしましづかはらしんでん 三島市塚原新田 あざしもはら 字下原	22206	237	35° 07' 12'' / 138° 56' 44''	1993年7月 1994年11月	28500m <sup>2</sup>	道路建設 に伴う事 前調査
所収遺跡名	種別	主な年代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
下原	集落跡	旧石器時代   縄文時代	石器集中地点 礫群 土坑  住居跡 土坑	石槍、ナイフ形石器、 搔器、削器、楔形石器、 石刃、石核、剥片  有舌尖頭器、土器、 打製石斧、石鏃、 局部磨製石器	後期旧石器時代 初めの土坑7基	縄文時代草創期 の逆茂木付きの 陥し穴	

## 下原遺跡Ⅰ

平成5・6年度東駿河湾環状道路に伴う  
埋蔵文化財調査報告書

平成7年3月31日

編集発行 財團法人  
静岡県埋蔵文化財調査研究所

印刷所 みどり美術印刷株式会社  
沼津市沼北町2丁目16番19号  
TEL (0559)21-1839